

ネットワークカメラ Sシリーズ

ユーザーマニュアル

【使用前にご注意ください】
下記NVRにSシリーズカメラを
PoE接続する際は(NVRの)初期
IPアドレスを変更して下さい。

該当機種・ソフトウェアバージョン

- IPN-S1104P (73.9.121.19)
- IPN-S5208P (75.9.121.18-r11)
- IPN-S5216P (78.9.121.18-r11)

※NVRの初期IPアドレスを変更せず使用すると、
接続するカメラが検出されない場合があります。

目次

第1章	序章	
1.1	安全にお使いいただくために	3
第2章	ネットワーク接続	
2.1	LAN 経由でのカメラ設定	4
2.2	動的 IP 接続	4
第3章	ネットワークカメラへのアクセス	
3.1	IP アドレスの固定	5
3.2	Web からのアクセス	10
3.3	NVR、ソフトウェアからのアクセス	10
第4章	ライブビュー	
4.1	ライブビュー	12
4.2	顔検出モード	15
4.3	PTZ モード ※PTZ カメラのみ対応	16
4.4	LPR 車番認識モード ※LPR 車番認識カメラのみ対応	25
第5章	再生	29
第6章	設定	
6.1	メディア	33
6.2	ネットワーク	49
6.3	ストレージ	69
6.4	イベント	73
6.5	PTZ ※PTZ カメラのみ対応	119
6.6	LPR(オプション) ※LPR 車番認識カメラのみ対応	128
6.7	IoT(オプション)	152
6.8	システム	163

改訂履歴

日付	バージョン	説明
2023/09/29	23.09.W.00	初期バージョン
2023/10/04	23.09.Y.02	文字校正

第1章 序章

1.1 安全にお使いいただくために

これらの指示は、危険や財産の損失を回避してユーザーが製品を正しく使用できるようにするものです。注意事項は、「警告」と「注意」に分けられます。

警告：これらの警告のいずれかを無視した場合、重傷または死亡に至る可能性があります。

- 設置は有資格のサービス担当者が行い、現地の電気安全規制に厳密に準拠する必要があります。
- 火災や感電の危険を防止するため、設置する前に製品を雨や湿気から遠ざけてください。
- ヒートシンク、電源レギュレータ、プロセッサなど、高温になる可能性がある部品には触れないでください。
- 電源：DC 12VまたはPoE を使用してください。
- プラグがコンセントにしっかりと差し込まれていることを確認してください。
- 本製品を壁や天井に取り付ける場合は、装置をしっかりと固定してください。
- 製品が正しく動作しない場合は、販売店にご連絡ください。絶対に自分でカメラを分解しようとししないでください。

注意：これらの注意のいずれかを無視した場合、怪我や機器の損傷が発生する可能性があります。

- カメラを使用する前に、電源電圧が正しいことを確認してください。
- 極端に高温または低温の場所、ほこりの多い場所、または湿気の多い場所で装置を保管または設置したり、強い電磁波にさらしたりしないでください。
- メーカーが推奨する 機器 および部品のみを使用してください。
- カメラを落としたりカメラに衝撃を与えたりしないでください。
- 熱の蓄積を防止するため、カメラ周辺の空気の循環を妨げないでください。
- レーザービームがイメージセンサーを損傷する可能性があります。イメージセンサーの表面をレーザービーム装置が使用されている場所に暴露しないでください。
- ブロワーを使ってレンズカバーのほこりを取り除いてください。
- 柔らかい乾いた布でカメラの表面を拭いてください。頑固な汚れは、少量の洗剤溶液を含ませた柔らかい布で拭き取ることができます。その後、乾拭きしてください。
- アルコール、ベンゼン、シンナーなどの揮発性のものは表面の仕上げを傷めるので使用しないでください。
- 将来輸送する際に輸送用コンテナーとして利用できるように、パッケージを保管してください。

第2章 ネットワーク接続

2.1 LAN経由でのカメラの設定

カメラをスイッチまたはルーターに接続するのが最も一般的な接続方法です。カメラには、LANと互換性のあるIPアドレスを割り当てる必要があります。

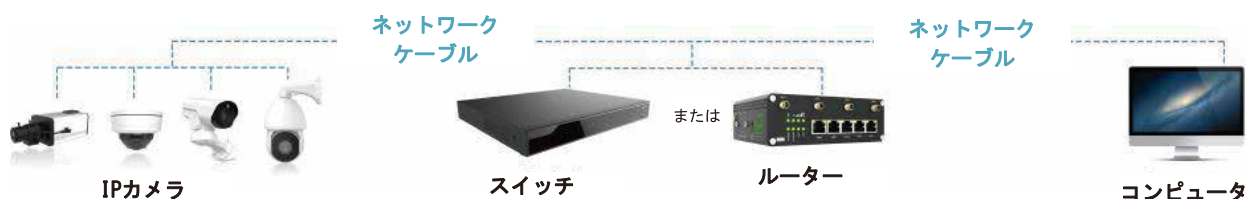
2.1.1 カメラをPCに直接接続する

この方法では、カメラに接続されているコンピューターのみがカメラを表示できます。カメラには、互換性のあるIPアドレスをコンピューターに割り当てる必要があります。詳細を下図に示します。



2.1.2 スイッチまたはルーターを介して接続する

次の図を参照して、スイッチまたはルーターを介してLAN経由でネットワークカメラを設定します。



2.2 動的IP接続

- ステップ1: ネットワークカメラをルーターに接続します。
- ステップ2: カメラで、LAN IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイを割り当てます。
- ステップ3: ルーターで、ポート転送を設定して下さい（例えば80、8000および554ポート）。ポート転送の手順はルーターによって異なりますので、ポート転送の方法については、ルーターのユーザーマニュアルを参照してください。
- ステップ4: ドメイン名のプロバイダーから提供されたドメイン名を使用してください。
- ステップ5: ルーターの設定インターフェースでDDNS設定を行います。
- ステップ6: ドメイン名でカメラにアクセスしてください。



第3章 ネットワークカメラへのアクセス

3.1 IPアドレスの固定

ネットワークカメラにアクセスするには、IPアドレスを固定する必要があります。ネットワークカメラのデフォルトのIPアドレスは192.168.1.108です。

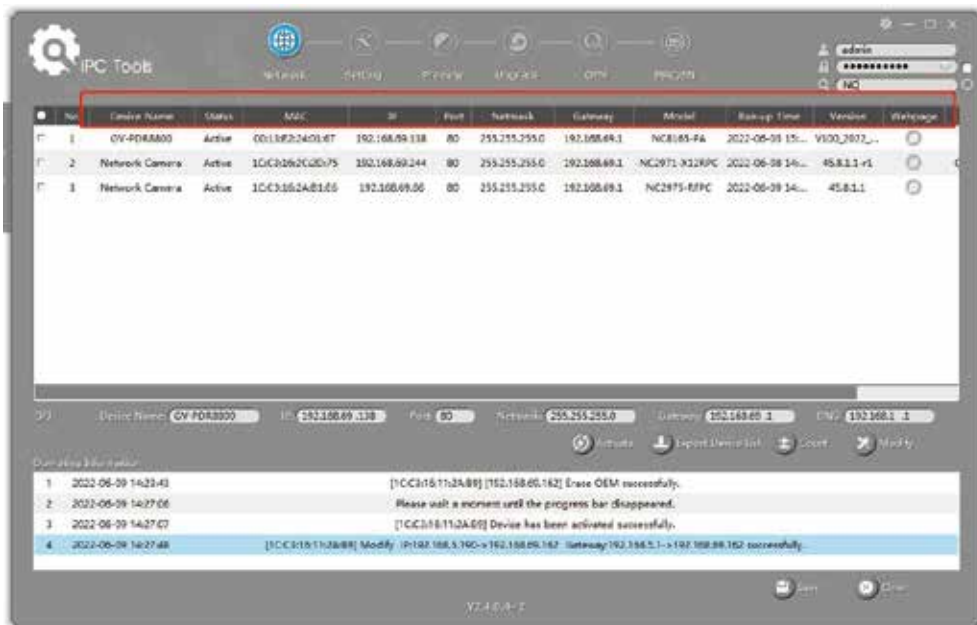
スマートツールまたはブラウザを使用して、カメラのIPアドレスを変更できます。お使いのパソコンと同じLANにカメラを接続してください。

3.1.1 スマートツールを使用したIPアドレスの設定

スマートツールは、LAN内の複数のオンラインネットワークカメラを自動的に検出し、IPアドレスを設定し、ファームウェアのアップグレードを管理できるソフトウェアツールです。複数のカメラにIPアドレスを割り当てる場合に使用することをお勧めします。

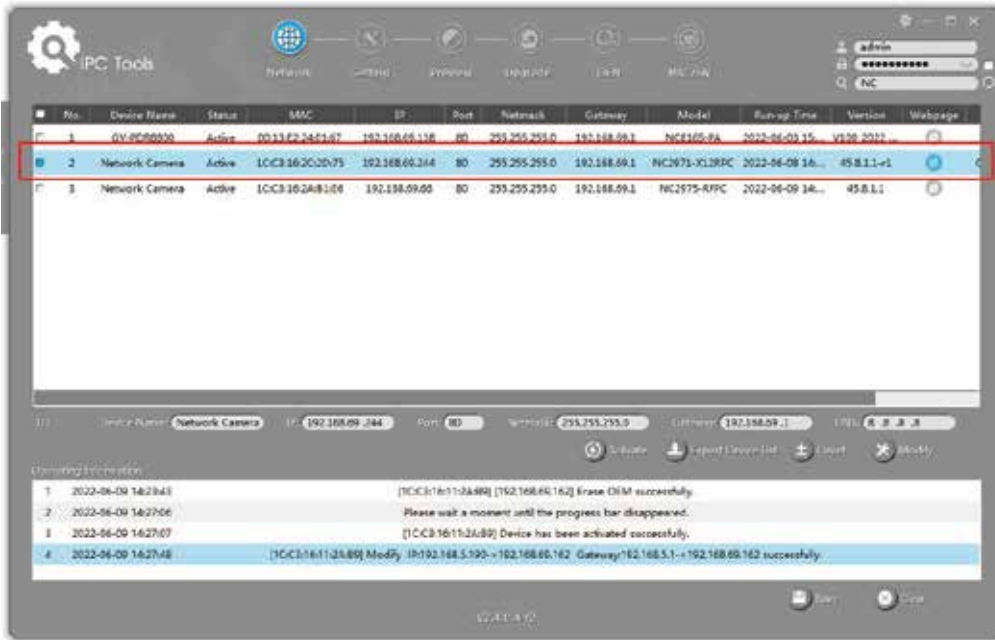
ステップ1: スマートツールをインストールします（ソフトウェアは弊社のWebサイトからダウンロードできます）。

ステップ2: スマートツールを起動し、[IPCツール] ページをボタンをクリックして、IPアドレス、MACアドレス、ステータス、ポート番号、ネットマスク、ゲートウェイなどのデバイス情報を入力すると、同じネットワーク内の関連するすべてのネットワークカメラが表示されます。詳細は下図のようになります。

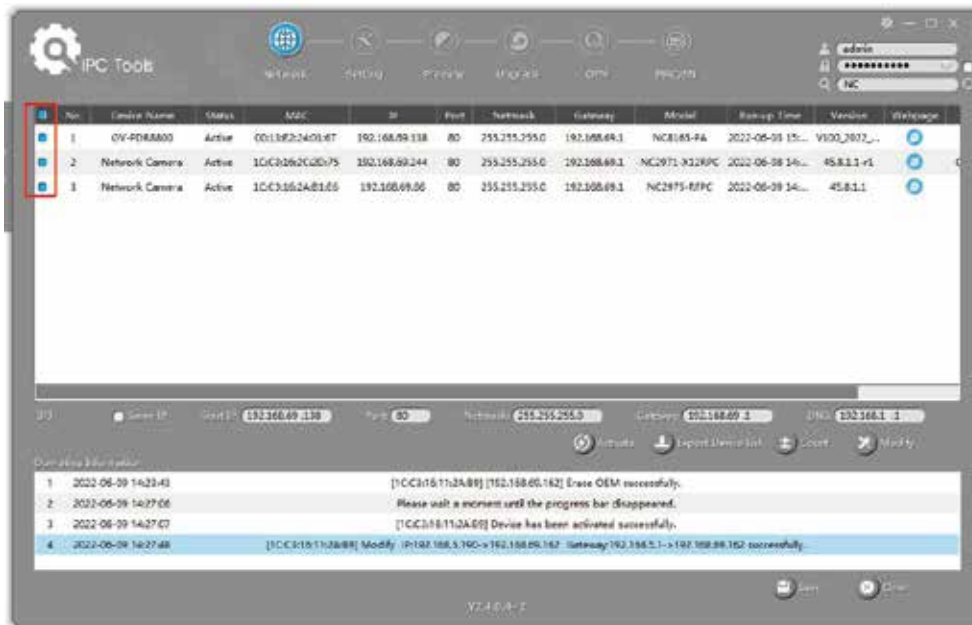


ステップ3 : MACアドレスに従って1台または複数のカメラを選択します。

単一のカメラを選択:



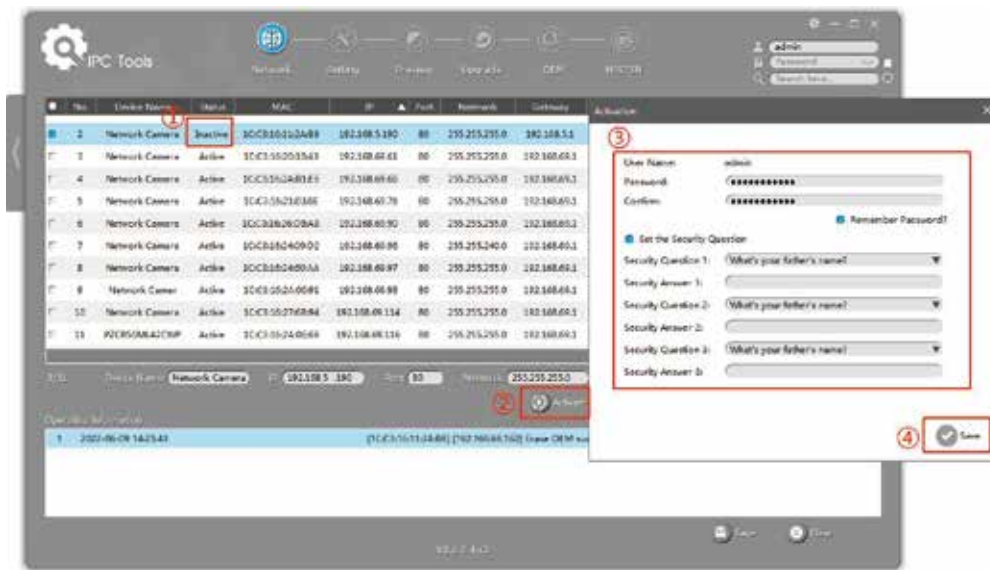
複数のカメラを選択:



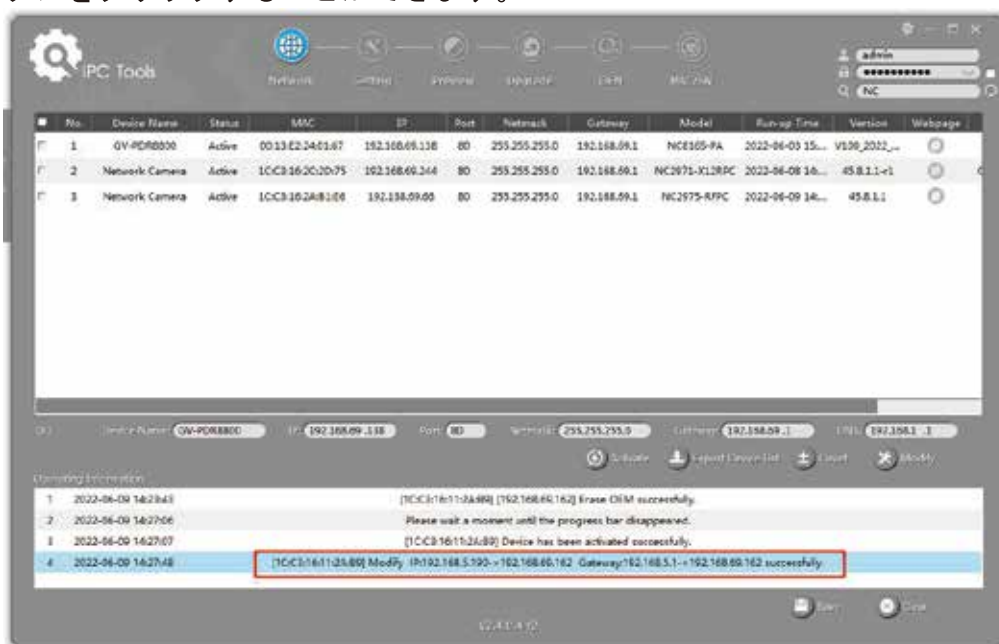
ステップ4: 選択したカメラのステータスバーに「非アクティブ」と表示されている場合は、「アクティブ化」をボタンをクリックして、初めて使用するときにパスワードを設定します。パスワードを忘れた場合に備えて、カメラをアクティブ化するときセキュリティの質問を設定することもできます（3つのセキュリティの質問に正しく答えることでパスワードをリセットできます）。[保存]をクリックすると、アクティベーションが成功したことが示されます。

注意:

- パスワードは8~32文字で、少なくとも1つの数字と1つの文字が含まれている必要があります。
- カメラをアクティブにするには、スマートツールのバージョンをV2.4.0.1以降にアップグレードする必要があります。



ステップ5: アクティベーション後、IPアドレスやその他のネットワーク値を変更し、「変更」ボタンをクリックすることができます。



ステップ6：選択したカメラまたは目的のカメラのブラウザをダブルクリックすると、Webブラウザから直接カメラにアクセスできます。Internet Explorerウィンドウがポップアップ表示されます。



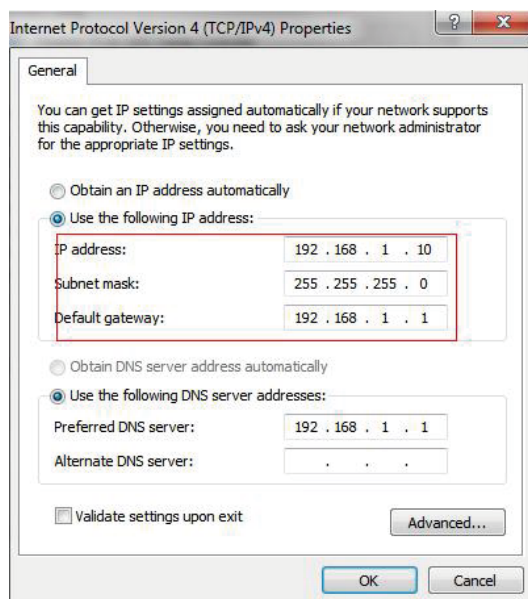
スマートツールのその他の使用方法については、スマートツールのユーザーマニュアルを参照してください。

3.1.2 ブラウザを使用してIPアドレスを固定

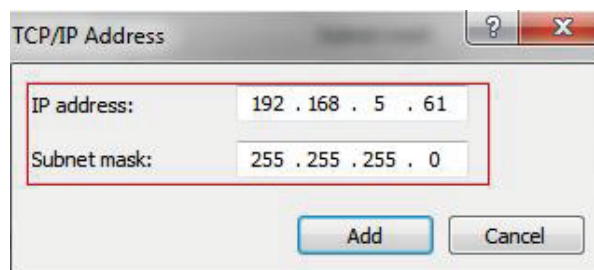
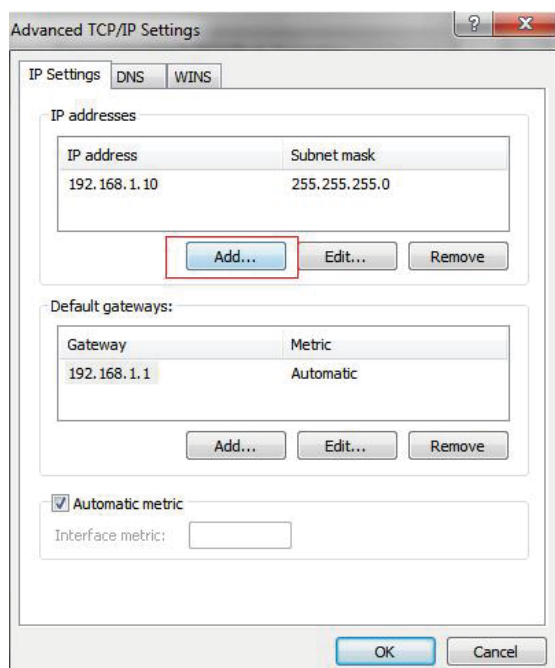
コンピュータのネットワークセグメントとカメラのネットワークセグメントが異なる場合は、次の手順に従ってIPアドレスを変更してください。

ステップ1：コンピュータのIPアドレスを192.168.1.0セグメントに変更します。以下の2つの方法があります。

a. [スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をダブルクリックします。



「詳細」をクリックし、「IP 設定」 > 「IP アドレス」 > 「追加」をクリックします。ポップアップウィンドウで、ネットワークカメラと同じセグメントにある IP アドレスを入力します。（例：192.168.1.2 ただし、この IP アドレスは既存のネットワークの IP アドレスと競合しないことに注意してください）。Windows11 の設定方法は、簡易説明書をご覧ください。



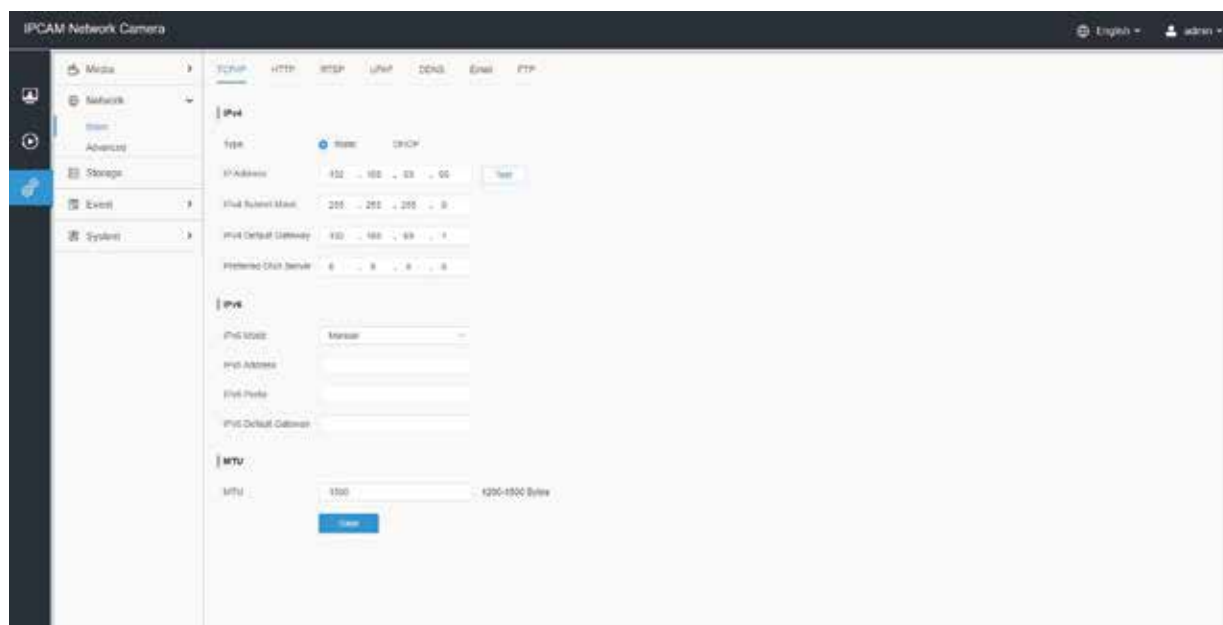
ステップ2 : ブラウザを起動します。アドレスバーに、カメラのデフォルトのIPアドレスを入力します。<http://192.168.1.108> ;

ステップ3 : 初めて使用する場合は、最初にパスワードを設定する必要があります。また、アクティベーション後にデバイスに3つのセキュリティの質問を設定することもできます。次に、ユーザー名 (admin) とカスタムパスワードを使用してカメラにログインできます。

注意 :

- パスワードは8~32文字で、少なくとも1つの数字と1つの文字が含まれている必要があります。
- 事前にセキュリティ保護用の質問を設定しておけば、ログインページの「パスワードを忘れた場合」をボタンをクリックして、パスワードを忘れたときに3つのセキュリティ保護用の質問に答えることでパスワードをリセットできます。

ステップ4 : ログイン後、「設定」→「ネットワーク」→「基本」→「TCP/IP」を選択してください。[ネットワーク設定]ページが表示されます（下の図を参照）。



ステップ5 : IPアドレスまたはその他のネットワーク値を変更します。次に、「保存」ボタンをクリックします。

ステップ6 : デフォルトIPアドレスの変更が完了しました。

3.2 Webからのアクセス

プラグインフリーモードでは、プラグインなしでブラウザでビデオからプレビューできます。現在、プラグインフリーモードは、Windowsシステム、MACシステム、iOSシステム、AndroidシステムのFirefox、Google Chrome、Safari、Edgeブラウザでサポートされています。

H. 265とH. 264の両方のビデオコーデックは、カメラのプラグインフリーモードでサポートされており、デフォルトでセカンダリストリームを再生します。

注意 :

- V4x. 7. 0. 74より前のファームウェアの場合は、ネットワークカメラをV4x. 7. 0. 74以降にアップグレードしてください（ブラウザを最新バージョンにアップグレードしてください）。
- V4x. 7. 0. 74以降では、ブラウザを設定しなくてもプラグインフリーモードを利用できます（ブラウザを最新バージョンにアップグレードしてください）。

3.3 NVR、ソフトウェアからのアクセス

3.3.1 NVR(ネットワークビデオレコーダー)からのアクセス

NVRを使用してネットワークカメラにアクセスすることができます。NVRでは録画データの管理、再生保存をします。複数のカメラを制御コントロールする事ができ、かつ直観的な操作が可能なUIとなっています。

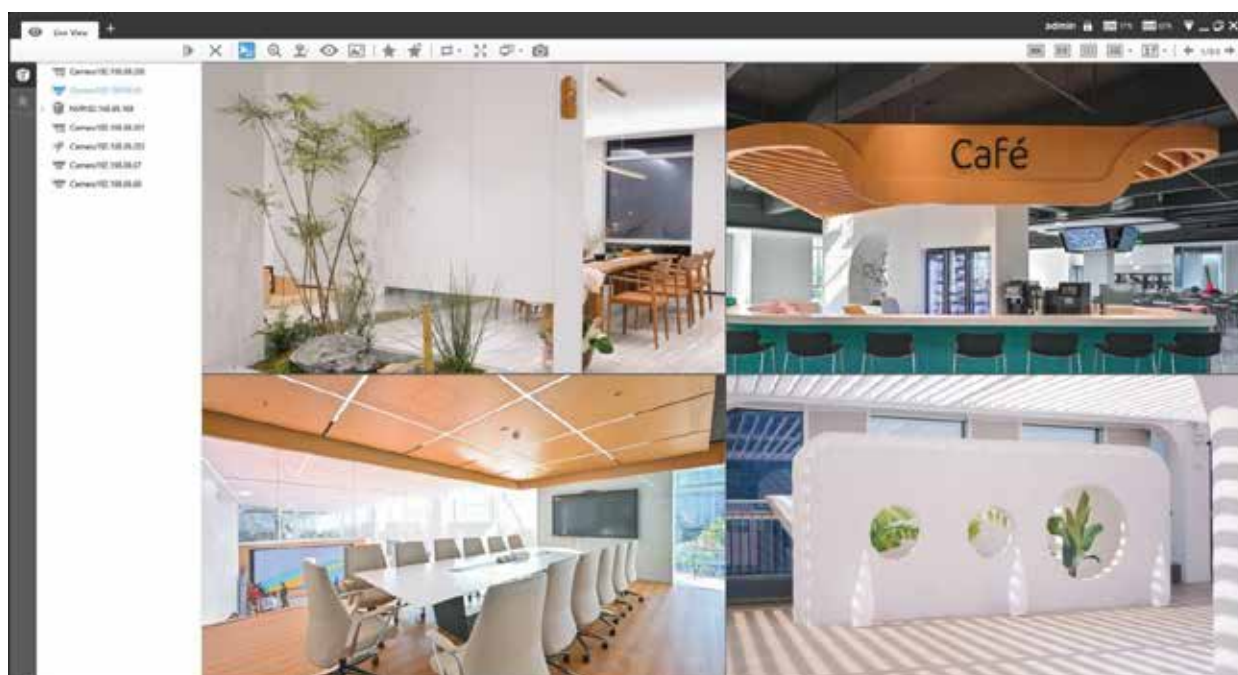
NVRシリーズの使用方法的詳細については、NVRユーザーマニュアルを参照してください。



3.3.2 CMS(専用ソフトウェア)からのアクセス

CMSは、ネットワークカメラとNVRのための専用ソフトウェアです。最大256台のデバイスを制御し、より便利にライブ映像と再生を行うための監視ソリューションです。高い効率的な管理性能により、フレンドリーなUIデザインで、インテリジェント、全てのレベルのユーザーが簡単にソリューションを設定し、展開することができます。さらに、E-map機能は、デバイスの配置図を表示するための最適な方法をユーザーに提供します。

CMSをインストールし、プログラムを起動し、カメラをチャンネルリストに追加してください。詳しい使い方はCMSユーザーマニュアルをご覧ください。



第4章 ライブビュー











4.1 ライブビュー




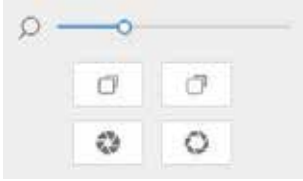

ネットワークカメラのWeb GUIに正常にログインすると、ユーザーは次のようにライブビデオを表示できます。

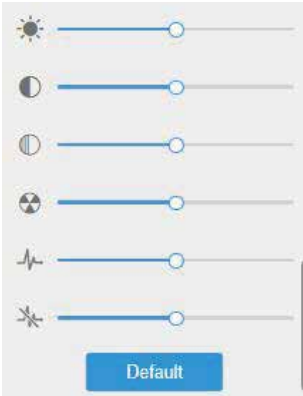


表 1. 表 2. ボタンの説明

No.	パラメータ	説明
1	 ライブ映像	ボタンをクリックしてライブ映像 ページにアクセスします。
2	 再生	ボタンをクリックして再生ページにアクセスします。
3	 設定	ボタンをクリックして設定ページにアクセスします。
4		ボタンをクリックしてシステム言語を選択します。
5		ユーザー名を表示し、ボタンをクリックしてログアウトします。
6	メインストリーム	現在のビデオウィンドウに表示するストリーム（メインストリーム / サブストリーム）を選択します。


7	<p>検出領域を隠す</p>	<p>オプション（検出領域を隠す / エリア侵入検知 / エリア離脱検知 / 高度なモーション / 境界線No./ 徘徊検知 / 人数カウント / 置き去り / 持ち去り検知 / リージョナル人数カウント）を選択して、現在のビデオウィンドウで検知エリアを非表示 / 表示します。</p>  <p>注意：人数カウント / リージョナル人数カウントは、一部機種は非対応です。</p>
8	 録画	録画中の場合、アイコンが表示されます。
9	 アラーム	VCAイベントのアラームが 発報 される場合、アイコンが表示されます。
10	 アラーム	人数カウントのアラームが 発報 される場合、アイコンが表示されます。
11	 アラーム	モーション検知のアラームが 発報 される場合、アイコンが表示されます。
12	 アラーム	上記の3種類のアラームを除き、他のアラームが 発報 されるとアイコンが表示されます。
13	 停止/再生	ライブビューを停止/再生します。
14	 スナップショット	ボタンをクリックして現在の画像をキャプチャし、設定されたパスに保存します。デフォルトのパスは、C:\VMS\+-1\ IMAGE-MANUAL.です。
15	 録画の開始/停止	ボタンをクリックしてビデオの録画を開始し、設定されたパスに保存します。もう一度ボタンをクリックして録画を停止します。
16	 デジタルズーム	有効にすると、マウスホイールを使用してビデオ画像の特定のエリアを拡大できます。

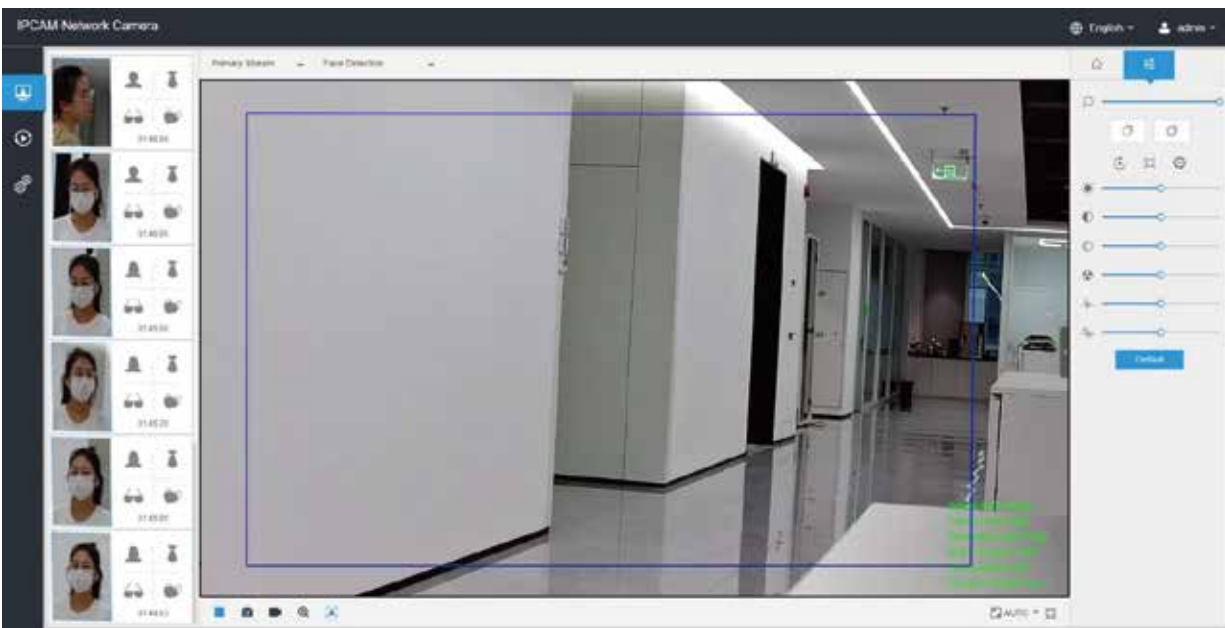
17	 手動出力	カメラアラーム出力を手動で 発報 します。
18	 ウィンドウサイズ	クリックすると、画像がウィンドウサイズで表示されます。
19	 全画面表示	クリックすると、画像が全画面で表示されます。
20	 顔検出	ボタンをクリックして顔検出モードを有効にします。 注意：顔検出対応カメラのみ表示されます。
	 壁/天井	設置場所に応じて変更します。
		ズーム ：レンズのズーム長を調整します。 注意：カメラに電動レンズが装備されている場合にのみ機能します。
		フォーカス/フォーカス+ ：レンズの焦点を調整します。 注意：カメラに電動レンズが装備されている場合にのみ機能します。
		アイリス/アイリス+ ：レンズのアイリスを調整します。 注意：カメラに電動レンズが装備されている場合にのみ機能します。
		フォーカススピード ：フォーカスの速度を調整します。 注意：カメラにオートフォーカスレンズが装備されている場合にのみ機能します。
		ズーム-/ズーム+ ：ボタンをクリックしてズームインおよびズームアウトします。 注意：カメラにオートフォーカスレンズが装備されている場合にのみ機能します。
		フォーカス-/フォーカス+ ：ボタンをクリックして、レンズの近くまたは遠くに焦点を合わせます。 注意：カメラにオートフォーカスレンズが装備されている場合にのみ機能します。
		レンズの初期化、補助フォーカス、オートアイリス。 注意： <ul style="list-style-type: none"> カメラにオートフォーカスレンズが装備されている場合、オートアイリスはデフォルトでオンになっています。 オートアイリスサポートは、カメラにP-アイリスが装備されている場合にオン/オフを切り替えます。


	輝度 ：シーンの明るさを調整します。
	対比 ：色と光のコントラストを調整します。
	飽和 ：画像の彩度を調整します。
	シャープネス ：画像のシャープネスを調整します。
	2D DNR/3D DNR ：ノイズリダクションレベルを調整します。
	デフォルト ：明るさ、コントラスト、彩度をデフォルト設定に戻します。


4.2 顔検出モード

顔検出機能は、映像の中で人間の顔を検出し、スナップショットをキャプチャします。これにより、監視の効率が大幅に向上します。

 **注意**：顔検出対応カメラであることを確認してください。

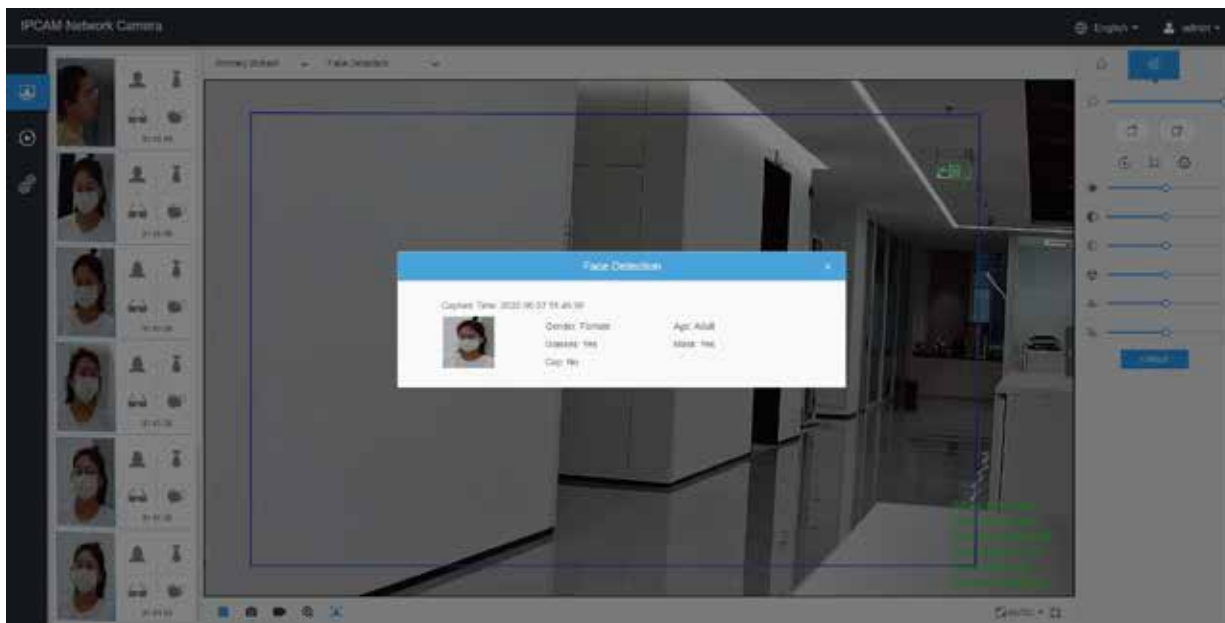


ステップ1： をクリックして顔検出モードを有効にします。また、カメラは、設定したエリアと条件に従って、ライブビューで顔を検出します。

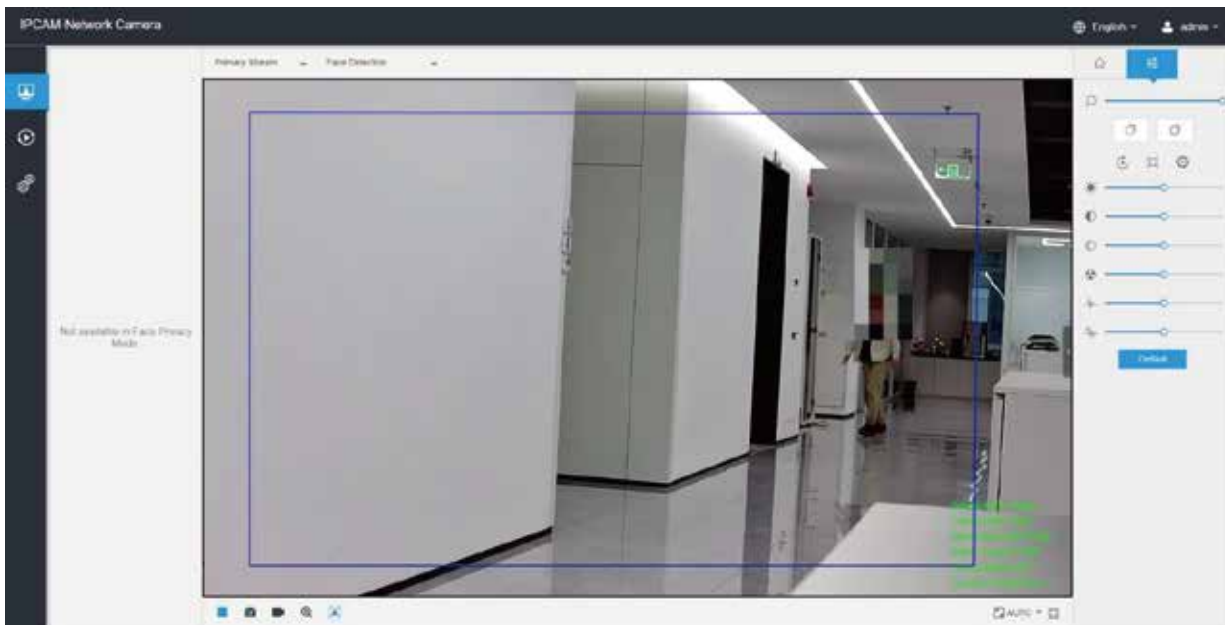
 **注意**：顔検出モードを有効にする前に、顔検出機能が有効になって設定されていることを確認してください。顔検出の設定方法の詳細については、[顔検出](#)を参照してください。



ステップ2：属性認識を有効にすると、検出された顔の属性がライブビューの左側に表示されます。



ステップ3：顔のプライバシー設定を有効にすると、顔検出エリアで検出された顔が自動的にモザイクになります。モザイクのサイズは検出された顔のサイズに関連しており、ユーザーは必要に応じて検出された顔のサイズをカスタマイズできます。フェイスプライバシー機能は、人々のプライバシー保護に役立ちます。



注意：顔キャプチャ/顔検出メッセージポスト/属性認識という機能は、顔プライバシーモードでは使用できません。

4.3 PTZモード ※ PTZカメラのみ対応 ※


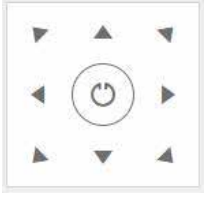








PTZネットワークカメラのWeb GUIに正常にログインすると、ユーザーは次のようにライブビデオを表示できます。



4.3.1 ライブビューページでの操作 ※ PTZカメラのみ対応 ※

 注意：その他のボタンの説明については、表2 ボタンの説明 を参照してください。


表3. ボタンの説明

No.	パラメータ	説明	
	 PTZコントロール	ナビゲーションキーは方向を制御するために使用されます。回転キーは自動回転に使用されます。	
	 PTZスピード	パン/チルトの動きの速度を1から10に調整します。	
	 ズーム-/ズーム+	ボタンをクリックしてズームインおよびズームアウトします。	
	 フォーカス-/フォーカス+	ボタンをクリックして、レンズの近くまたは遠くに焦点を合わせます。	
	 レンズの初期化、補助フォーカス、オートアイリス 注意： オートアイリスはデフォルトでオンになっています。		
		30秒の照明： ボタンをクリックして、30秒の照明用のホワイトLEDを開閉します。 注意： PTZバレットのみ。	
		3Dポジショニング： ボタンをクリックして3Dポジショニングを有効/無効にします。	
		ワンタッチパトロール： ボタンをクリックしてパトロールを実行します。	
		オートホーム： ボタンをクリックしてオートホームを有効にします。	
		手動追尾： ボタンをクリックして、移動するオブジェクトを追尾します。	
除湿： ボタンをクリックしてファンの動作モードを有効にします。			
	リージョナルのビューチャンネルごとに300個のプリセット位置を設定できます。		
	リージョナルのビューチャンネルごとに8つのパトロールパスを設定できます。		
	パターンを表示します。		

4.3.2 3Dポジショニング ※ PTZカメラのみ対応 ※

3Dポジショニングを使用すると、ユーザーはマウスのクリックとドラッグを使用してPTZを制御できます。

ステップ：

1.  をクリックしてライブビューインターフェイスのツールバーにあります。
2. 3Dポジショニング機能を行います。
 - ライブビューの位置を左クリックすると、対応する位置がライブビューの中央に移動します。
 - マウスの左ボタンを押したまま、ライブビューの右下または右上にマウスをドラッグすると、青い長方形が表示されます。対応する位置がライブビューの中央に移動し、ズームインします。
 - マウスの左ボタンを押したまま、ライブビューの左下または左上にマウスをドラッグすると、青い長方形が表示されます。対応する位置がライブビューの中央に移動し、ズームアウトします。
 - 長方形が大きいほど、ズームイン/ズームアウトが小さくなります。

4.3.3 プリセットの設定/呼び出し/パトロール/パターン ※ PTZカメラのみ対応 ※

プリセットは、事前定義された画像位置です。プリセットリストからコールボタンをクリックすると、目的の画像位置にすばやく移動できます。

プリセットの設定：

ステップ1： PTZコントロールパネルで、プリセットリストからプリセット番号を選択します。また、画面に表示されるプリセット名をカスタマイズすることもできます。以下のようにプリセット名をカスタマイズしてパトロールを設定すると、画面に表示されるパトロール名もカスタマイズされます。

- 001 road
- 002 Preset 2
- 003 Preset 3
- 004 Preset 4
- 005 Preset 5
- 006 Preset 6
- 007 Preset 7
- 008 Preset 8
- 009 Preset 9
- 010 Preset 10
- 011 Preset 11
- 012 Preset 12
- 013 Preset 13
- 014 Preset 14
- 015 Preset 15
- 016 Preset 16
- 017 Preset 17



Path 1 + X ↑ ↓

	Preset	Speed	Time
01	1	30	15
02	2	30	15
03	3	30	15


Save Cancel




ステップ2 : PTZコントロールボタンを使用して、レンズを目的の位置に移動します。

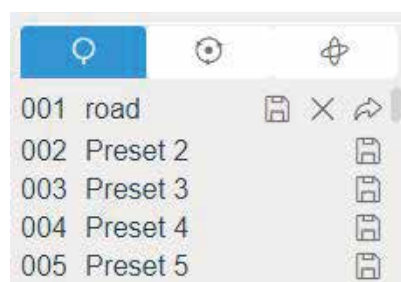
ステップ3 :  をクリックして現在のプリセットの設定を保存します。

ステップ4 :  をクリックして選択したプリセットを削除します。

 **注意** : 最大300個のプリセットを設定できます（18個のプリセットは変更できません）。最大300個のプリセットを設定できます（リージョン別のビューチャンネルごとに）。

プリセットの呼び出し :

プリセットリストから定義済みのプリセットを選択し、 をクリックしてプリセットを呼び出します。




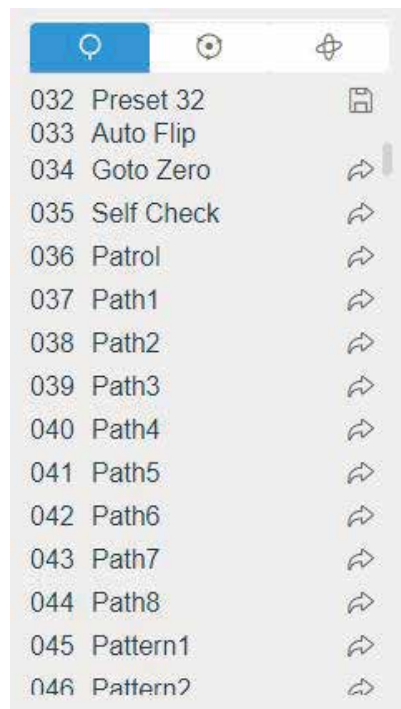
 **注意** : 次のプリセットは、特別なコマンドで事前定義されています。それらを呼び出すことはできますが、設定することはできません。たとえば、プリセット037は「セルフチェック」です。プリセット番号037を呼び出すと、PTZカメラはすぐにセルフチェック機能を開始します。

表4. 特別なプリセット

特別なプリセット	パラメータ	特別なプリセット	パラメータ


33	オートフリップ（スピードドームのみ）	42	パス6
34	ゼロに行く	43	パス7
35	セルフチェック	44	パス8
36	パトロール	45	パターン1
37	パス1	46	パターン2
38	パス2	47	パターン3
39	パス3	48	パターン4
40	パス4	49	スキャンを停止します
41	パス5	50	自動スキャン



設定/パトロールの呼び出し：

パトロールは、記憶された一連のプリセット機能です。パトロール設定リストで設定して呼び出すことができます。最大8つのパトロールをカスタマイズでき、48個のプリセットで設定できます。パトロールを設定する前に、パトロールに追加するプリセットが定義されていることを確認する必要があります。

パトロールの設定：

ステップ1： PTZコントロールパネルで、 をクリックしてパトロール設定インターフェースに入ります。

ステップ2： パトロール番号を選択すると、設定アイコン  が表示されます。ボタンをクリックします。

ステップ3 : +をクリックして、図に示すように、このパトロールにプリセットを追加します。

	Preset	Speed	Time
01	1	30	15
02	2	30	15
03	3	30	15

ステップ4 : プリセット数、パトロール速度、パトロール時間を設定します。

表5. パトロール設定の説明


名前	説明
パトロール速度	あるプリセットから別のプリセットに移動する速度
パトロール時間	1つのパトロールポイントに滞在する期間 PTZカメラは、設定されたパトロール時間後に別のパトロールポイントに移動します。

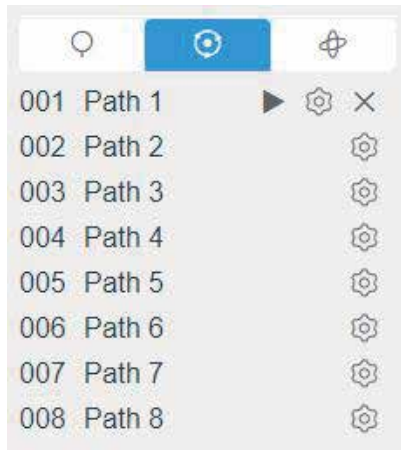
ステップ5 :  をクリックして、パトロール設定を保存します。

 注意 :

- パトロール速度はパトロールモードでのみ機能します。
- パトロール時間は、PTZバレットの場合は15～120秒、スピードドームの場合は0～120秒にする必要があります。

パトロールの呼び出し :

PTZコントロールパネルで、パトロールリストから定義済みのパトロールを選択し、 をクリックして、パトロールを以下に示すように呼び出すことができます。




注意：パトロールリストの後ろにある3つのボタンは、再生、設定、削除を意味します。

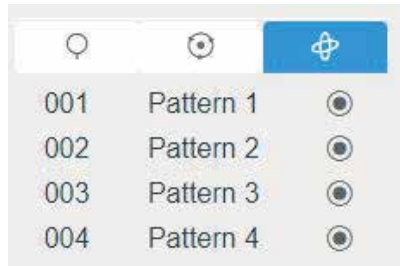
パターンの設定/呼び出し


パターンは、記憶された一連のパン、チルト、ズーム、およびプリセット機能です。パターン設定インターフェースで呼び出すことができます。最大4つのパターンを設定できます。

パターンの設定：

ステップ1：PTZコントロールパネルで、をクリックし、パターン設定インターフェイスに入ります。

ステップ2：次の図に示すように、パターンリストからパターン番号を選択します。




ステップ3：をクリックして、パン、チルト、ズームのアクションの録画をアクティブにします。

ステップ4：PTZコントローラーボタンを使用して、レンズを目的の位置に移動します。

ステップ5：をクリックして、すべてのパターン設定を保存します。

注意：OSDの数字のパーセンテージは、パターンの残りのスペースです。100%から始めて、0%を使い果たします。

パターンの呼び出し：

PTZコントロールパネルで、パターンリストから定義済みのパターンを選択し、をクリックして、パトロールを以下に示すように呼び出すことができます。



注意：

パターンリストの後ろにある3つのボタンは、再生、録画、削除を意味します。

パターンを設定する場合、パンとチルトは有効ですが、制限が停止し、自動フリップは無効になります。また、3Dポジショニング操作はサポートされていません。

4.4 LPR車番認識モード ※ LPR車番認識カメラのみ対応 ※

LPR車番認識カメラはプロ仕様のLPR車番認識ライブビューインターフェースをサポートしており、リアルタイムのナンバープレート認識結果を表示し、検出されたナンバープレートのスナップショットを表示できます。これにより、スタンドアロンのLPR車番認識ソリューションが実現します。

LPRネットワークカメラのWeb GUIに正常にログインした後、ユーザーはボタンをクリックしてLPRモードページにアクセスできます。このページは次のように表示されます。

No.	License Plate	Snapshot	Plate Type	Plate Color	Vehicle Type	Vehicle Color	Speed	Detector	Detection Region	Time	Operation
1	DOTP4		White	White	Car	White	-	Awes	1	2022-03-22 20:30:04	
2	DDCG		White	White	Car	White	-	Awes	1	2022-03-22 20:29:45	
3	FE80		White	White	Car	Dark	-	Awes	1	2022-03-22 20:29:41	
4	SOAR		White	White	Car	Light	-	Awes	1	2022-03-22 20:29:42	
5	DOH1		White	White	Truck	Red	-	Awes	1	2022-03-22 20:29:26	
6	DOH2		White	White	Car	Dark	-	Awes	1	2022-03-22 20:29:26	

左パネル：LPRカメラのライブビューインターフェイス。

右パネル：リアルタイム車両のスナップショットとスナップショットに従って車両の情報を表示します。

下部パネル：最近検出された車両の情報を表示します。

注意：速度は、レーダーLPRネットワークカメラでのみ検出できます。

※ LPR車番認識カメラのみ対応 ※



表6. ボタンの説明

	パラメータ	説明
1	 ライブビデオ	ボタンをクリックしてライブビューページにアクセスします。
2	 再生	ボタンをクリックして再生ページにアクセスします。
3	 設定	ボタンをクリックして設定ページにアクセスします。
4	 LPRモード	ボタンをクリックしてLPRモードページにアクセスします。
5	 English ▾	ボタンをクリックしてシステム言語を選択します。
6	 admin ▾	ユーザー名を表示し、ボタンをクリックしてログアウトします。
7	Primary Stream ▾	現在のビデオウィンドウに表示するストリーム（プライマリ/セカンダリ/ターシャリ）を選択します。


※ LPR車番認識カメラのみ対応 ※

	パラメータ	説明
8	Hide Detection Region	<p>オプション（検知エリアを非表示/LPR車番認識）を選択して、現在のビデオウィンドウで検出エリアを非表示/表示します。</p> 
9	 停止/再生	ライブビューを 停止/再生 します。
10	 アラーム	ブラックリストのナンバープレートが通り過ぎると、アイコンが表示されます。
11	 アラーム	ホワイトリストのナンバープレートが通過すると、アイコンが表示されます。
12	 アラーム	ビジターナンバープレートが通り過ぎると、アイコンが表示されます。
13	 スナップショット	ボタンをクリックして現在の画像をキャプチャし、設定されたパスに保存します。デフォルトのパスは、C:\VMS\+-1\ IMAGE-MANUALです。
14	 録画の開始/停止	ボタンをクリックしてビデオの録画を開始し、設定されたパスに保存します。もう一度クリックすると、録画が停止します。
15	 デジタルズーム	有効にすると、マウスホイールを使用してビデオ画像の特定のエリアを拡大できます。
16	 手動出力	カメラアラーム出力を手動でトリガーします。

※ LPR車番認識カメラのみ対応 ※

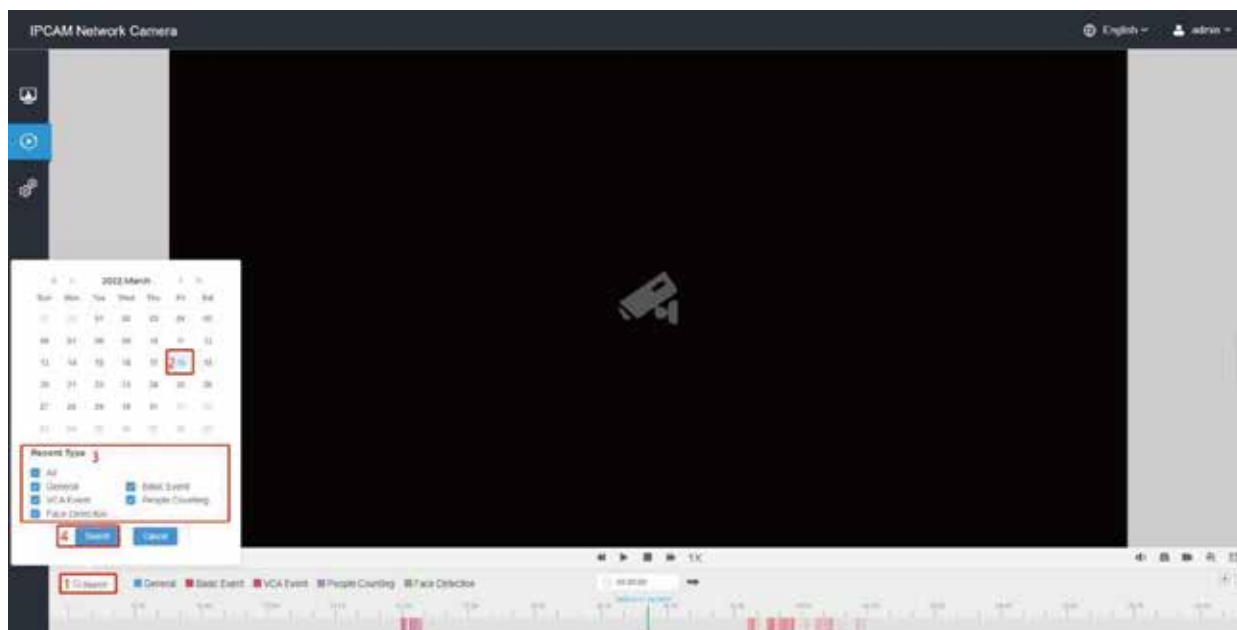
17	 ウィンドウサイズ	クリックすると、画像がウィンドウサイズで表示されます。
18	 全画面表示	クリックすると、画像が全画面で表示されます。
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px; text-align: center;">Operation</div>		クリックすると、選択したナンバープレートが大きな画像で表示されます。
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px; text-align: center;">Operation</div>		ボタンをクリックして、選択したナンバープレートをホワイト/ブラックリストに追加します。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  </div>

第5章 再生

 をクリックして、再生インターフェイスに入ります。この部分では、SDカードまたはNASに保存されている録画ビデオファイルを検索して再生できます。再生インターフェイスは次のとおりです。

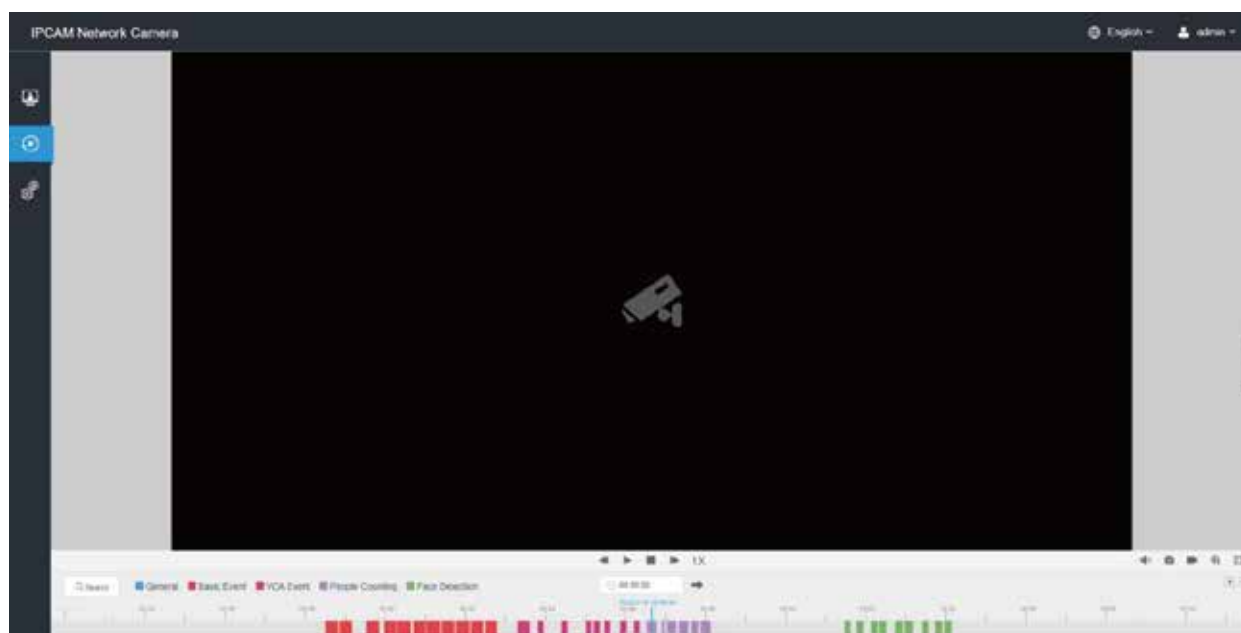


ステップ1: 「検索」ボタンをクリックし、ウィンドウがポップアップしたときにデータと録画の種類を選択します。



ステップ2: タイムラインにはその日の録画データが表示され、選択した録画の種類に応じてさまざまな色が表示されます。必要に応じて、録画バーをマウスでドラッグして、正確な再生ポイントを見つけます。

注意: 再生ポイントを見つけるために、フィールド内 に、時間を入力して、 をクリックすることもできます。また、 をクリックして、録画バーをズームアウト/ズームインすることもできます。



ステップ3: ▶をクリックして、検索された録画データを再生します。再生インターフェイスのボタンのツールバーを使用して、再生の進行状況を制御できます。



表7. ボタンの説明

No.	パラメータ	説明
<p>Search</p>		<p>録画したビデオを検索する日付を選択します。</p> <p>録画されたビデオを録画タイプ（すべて/一般/基本イベント/VCAイベント/人のカウント/顔検出）で検索します。タイムラインは、以下のように、選択した録画タイプに応じて異なる色で表示されます。</p>  <p>注意：顔検出対応カメラのみ表示されます。</p> <p>LPRカメラの場合、録画タイプには全部/一般 / 基本イベント/LPR車番認識が含まれます。タイムラインは、以下のように、選択したレコードタイプに応じて異なる色で表示されず。</p> 












No.	パラメータ	説明
1	 スピードダウン/スピードアップ	ビデオ再生の速度を調整します。 スピードダウン ：再生用の0.5Xと0.25Xが含まれています。 スピードアップ ：再生用の2Xと4Xが含まれています。
2	 再生/一時停止	ビデオを再生/一時停止します。
3	 止まる	ビデオを停止します。
4	 検索時間	検索したい時間を選択します。
5	 ジャンプ	に移動します。

表8. ボタンの説明

No.	パラメータ	説明
1	 ミュート	ボタンをクリックしてオーディオを有効にします。
2	 スナップショット	ボタンをクリックしてスナップショットを撮ります。
3	 録画の開始/停止	ボタンをクリックして録画を開始/停止します。
4	 デジタルズーム	ボタンをクリックしてズームオン/オフします。
5	 全画面表示	全画面で表示します。
6	 時間の拡大/縮小	時間の拡大/縮小します。

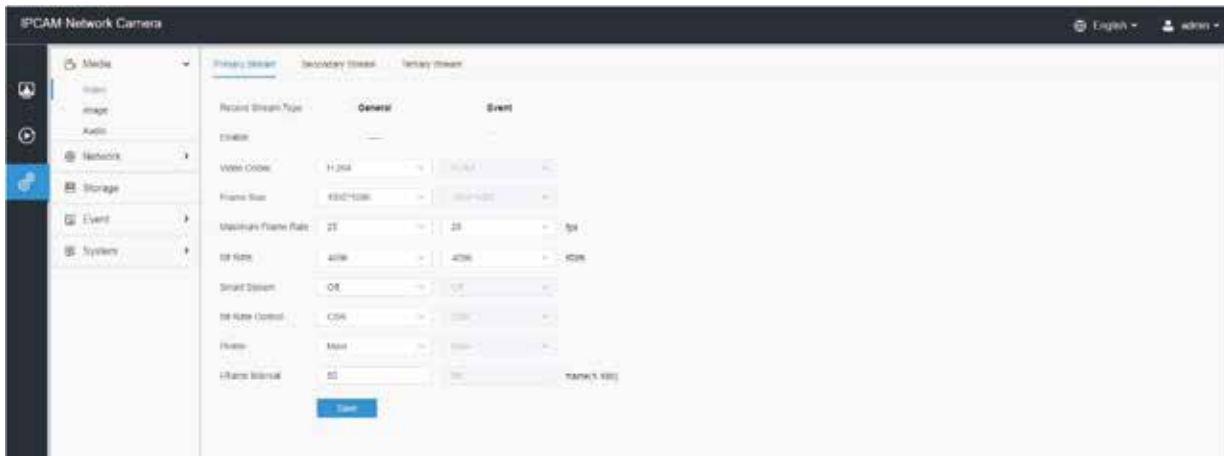
第6章 設定

6.1 メディア

6.1.1 ビデオ

ネットワーク環境や要求に合わせてストリームパラメータを設定できます。

メインストリーム設定



サブストリーム設定



サードストリーム設定



表9. ボタンの説明

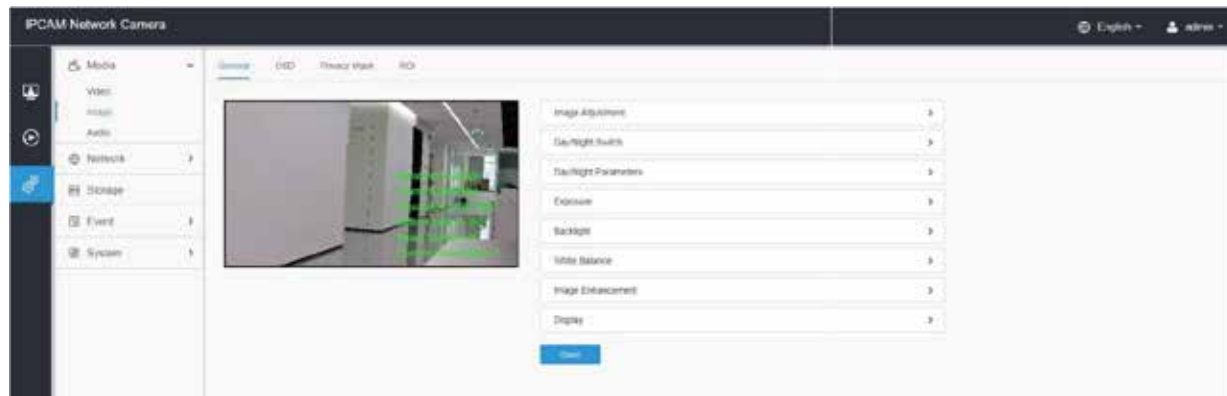
パラメータ	機能紹介
録画ストリームタイプ	<p>一般的&イベントはメインストリームでのみ利用できます。一般は連続録画、イベントは、モーション、例外、LPR 車番認識などのアラーム発報イベントが含まれます。</p> <p>この項目は、異なるレコーディングストリームタイプに対して異なるビットレートとフレームレートを個別に設定できます。ユーザーが[イベント]を選択すると、イベントが発生したときにビデオストリームタイプの設定に従ってビデオが録画されるため、録画ストレージスペースが大幅に削減されます。</p>
イベントストリームを有効にする	イベントを選択した場合の オプションです。
ビデオコーデック	H. 265/H. 264/MJPEGが利用可能です。
解像度	<p>オプションには、8M (3840×2160)、6M (3072×2048)、5M (2592×1944)、5M (2560×1920)、5M (2560×1440)、4M (2592* 1520)、3M (2304×1296) が含まれます。、3M (2048×1536)、1080P (1920×1080)、2M (1600×1200)、1.3M (1280×960)、720P (1280×720)、D1 (704×576)。</p> <p>セカンダリストリームの場合、704×576、640×480、640×360、352×288、320×240、320×192、320*176が含まれます。</p> <p>ターシャリストリームの場合、1920×1080、1280×720、704×576、640×480、640×360、352×288、320×240、320×192、320*176が含まれます。</p> <p>注意： フレームサイズのオプションは、モデルによって異なります。</p>
フレームレート	1秒あたりの最大 フレームレートであり、モードによって異なります。
ビットレート	<p>1秒あたりのデータ送信ビット数。この項目は、H. 265/H. 264を選択した場合にのみオプションです。</p> <p>ビットレートを32~16384Kbpsに設定します。値が高いほどビデオ品質が高くなり、必要な帯域幅も高くなります。</p>
Smart ストリーム	<p>スマートストリームモードをオン/オフにするオプション。スマートストリームモードは、高品質の画像を確保しながら、ネットワークカメラの帯域幅とデータストレージ要件を大幅に削減します。これは、10レベルの調整可能なコーデックです。</p> <p>レベル： レベル1~10は必要に応じて利用できます。</p>
ビットレート制御	<p>CBR： 固定ビットレート。CBR出力のレートは一定です。</p> <p>VBR： 可変ビットレート。VBRファイルは、タイムセグメントごとの出力データの量を変化させます。</p>
画質	低/中/高が利用可能です。この項目は、VBRを選択した場合の オプションです。
プロフィール	オプションはH. 264用で、必要に応じてメイン/ 高 / ベースラインを選択できます。
Iフレーム間隔	Iフレーム間隔を1~120、デフォルトでは50に設定します。この項目は、H. 265/H. 264を選択した場合にのみオプションです。数はフレーム数の倍数でなければなりません。

6.1.2 画像

この部分では、画像調整、昼/夜設定、画像強化などの画像の一般設定を行うことができます。OSD（オンスクリーンディスプレイ）コンテンツ、プライバシーマスク、ビデオ時間を表示して、画像情報を充実させることができます。

6.1.2.1 一般

この設定では、画像調整、昼/夜スイッチ、昼/夜パラメータ、露出、逆光、ホワイトバランス、画像強化、表示などの画像の一般設定を設定できます。



[画像調整]

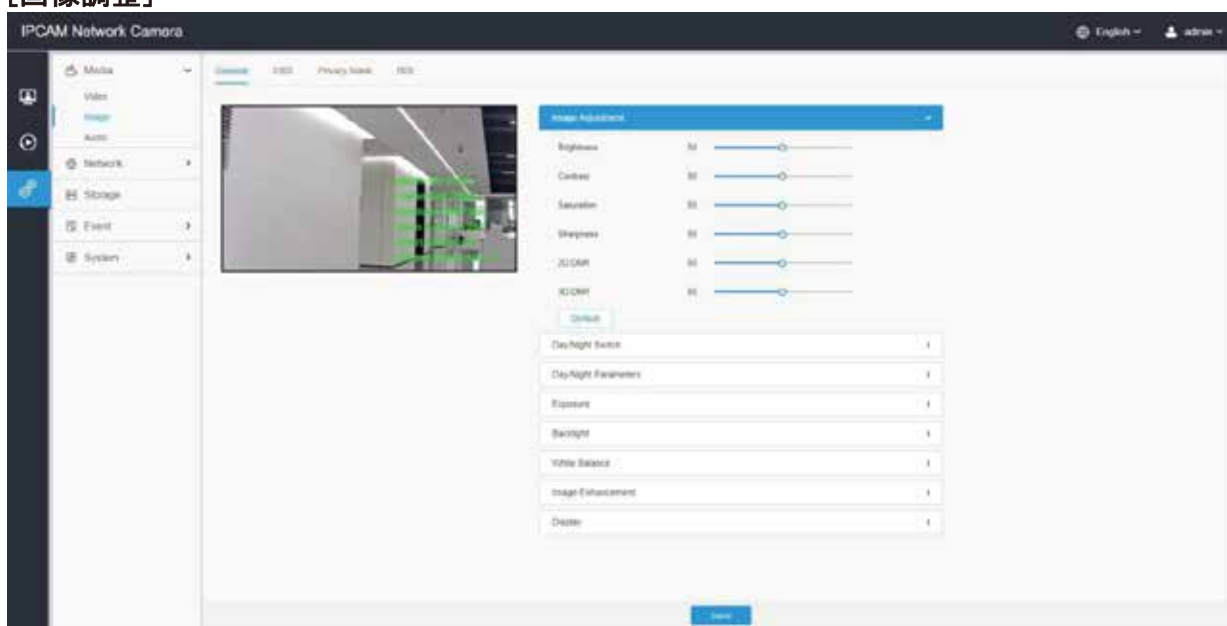


表10. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
明るさ	シーンの明るさを調整します。
コントラスト	色と光のコントラストを調整します。
彩度	画像の彩度を調整します。
シャープ	画像のシャープを調整します。シャープネスを高くすると、ピクセル境界がシャープになり、画像が「鮮明」に見えます。
2D DNR	2Dノイズリダクションレベルを調整します。
3D DNR	3Dノイズリダクションレベルを調整します。
デフォルト設定	明るさ、コントラスト、彩度、シャープ、2D DNR、3D DNRをデフォルト設定に戻します。

[デイ/ナイトスイッチ]

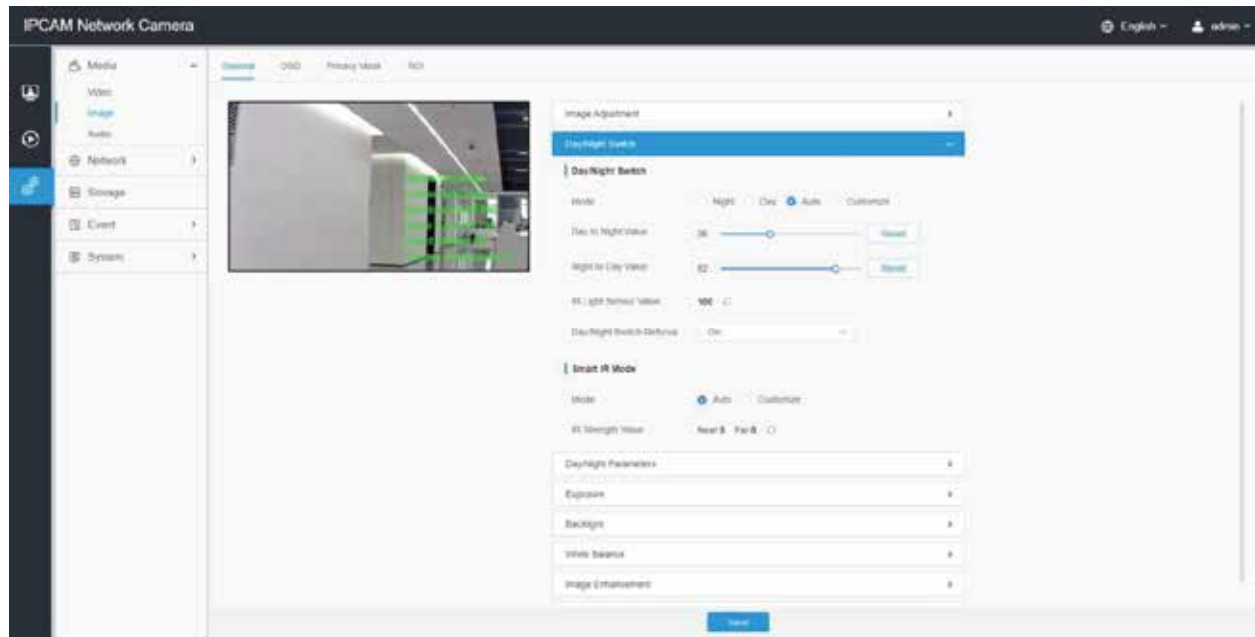





表11. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
デイ/ナイトスイッチ	<p>ナイトモード：ナイトモード設定に基づいてライブビューで表示されます。</p> <p>デイモード：デイモード設定に基づいてライブビューで表示されます。</p> <p>自動モード：環境に基づいてライブビューで表示され、デイモードをナイトモードに、またはナイトモードをデイモードに切り替える感度を設定します。</p> <p>カスタマイズ：ナイトモードを開始 / 終了するための独自の時間設定に基づいてライブビューで表示されます。</p> <p>注意：モードに関連する露出レベル、最大露出時間、IR カット間隔などいくつかのパラメータがあります。</p>
デイ/ナイトスイッチリフォーカス	<p>デイ / ナイトスイッチリフォーカス：このオプションを有効にすると、デイモードとナイトモードを切り替える時にカメラが再フォーカスします。</p>
デイ/ナイトスイッチ	<p>D→N 感度：デイモードからナイトモードに切り替える感度を設定できます。IR ライトセンサーの現在の値がこの値よりも低い場合、デイモードからナイトモードに切り替わります。</p> <p> をクリックして、値を 36 にリセットできます。</p> <p>N→D 感度：これはナイトモードをデイモードに切り替える感度を設定できます。IR ライトセンサーの現在の値がこの値よりも高い場合、ナイトモードからデイモードに切り替わります。</p> <p> をクリックして、値を 82 にリセットできます。</p> <p>IR センサー値：IR 光センサーの現在の値。</p> <p>注意：3つのボタンは、自動モードを選択した場合のみのオプションです。</p>
デイ/ナイトスイッチ	<p>Night モード開始時間：ナイトモードを開始する時間を設定できます。</p> <p>Night モード終了時間：デイモードを開始する時間を設定できます。</p> <p>注意：夜の開始 / 終了時間は、カスタマイズモードを選択した場合のオプションです。</p>
スマートIRモード	<p>暗視効果を最大化するため、IR の強度を自動モード、またはカスタマイズ設定することができます。</p> <p>ハイビームとロービームの組み合わせにより物体距離に関係なく、より優れた画像の鮮明度と品質が提供されます。また、ロービームとハイビームの明るさは、ズーム比に基づいて手動または自動で調整できます。また、IR 反射防止パネルにより、赤外光の透過率が大幅に向上します。</p> <p>近距離 IR レベル：ロービーム LED の光レベルの光強度を 0 ~ 100 に調整します。</p> <p>遠距離 IR レベル：ハイビーム LED の光レベルの光強度を 0 ~ 100 に調整します。</p> <p>注意：近距離 / 遠距離 IR レベルは、一部のカメラのみ使用できます。</p> <p>近距離 / 遠距離 IR レベルは、SmartIR のカスタマイズモードを選択した場合のオプションです。</p> <p> をクリックして、光の強さを 50 にリセットできます。</p> <p>IR 強度値：ロービーム LED とハイビーム LED のライト値の現在の値。</p>

[デイナイトパラメータ]

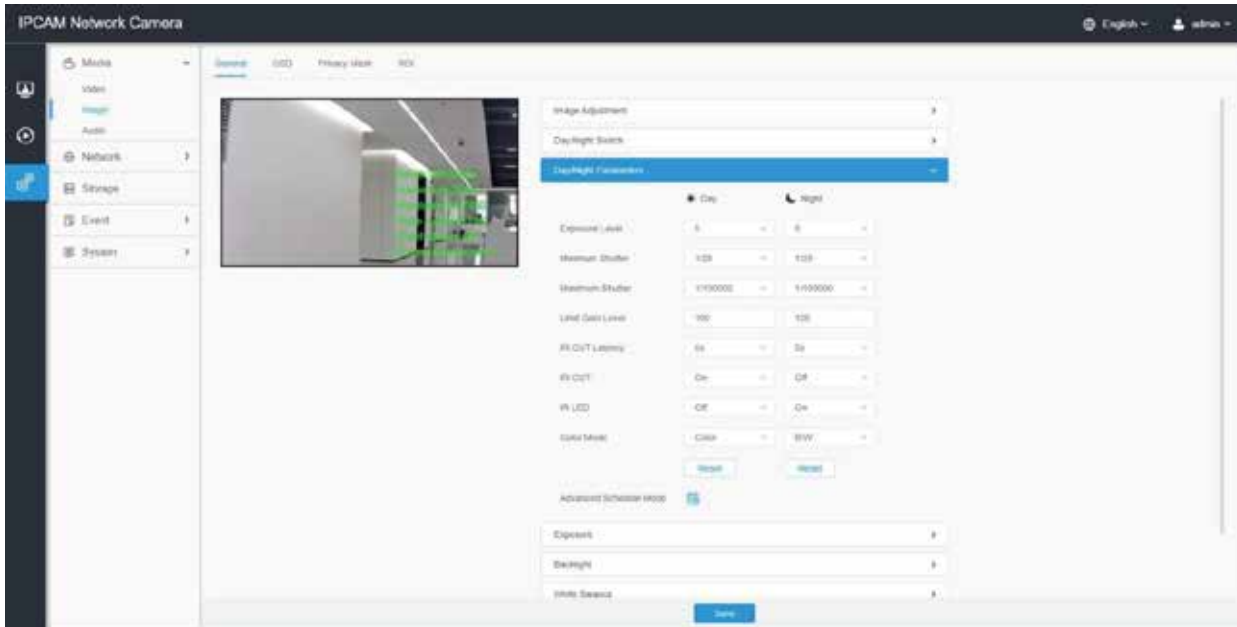

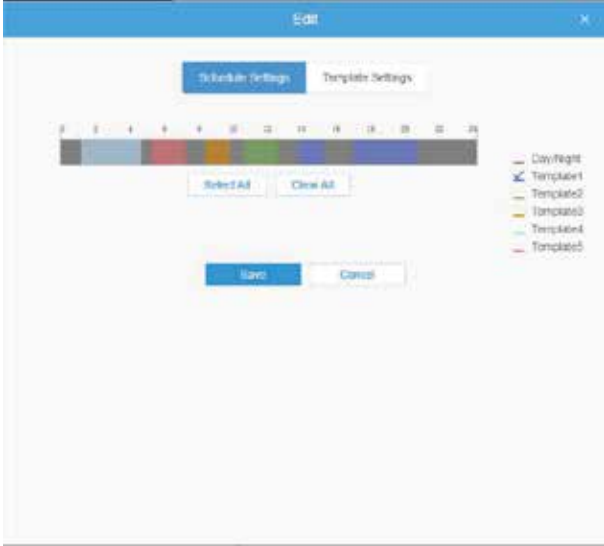


表12. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
露出レベル	露出レベルを0～10で設定します。
シャッター速度（最小）	最小シャッターは最大露出時間と同じです。最小シャッターを1～1/100000秒に設定します。
高速シャッター	最大シャッターは最小露光時間と同じです。最大シャッターを1～1/100000秒に設定します。
IR-CUT 間隔	別のモードに切り替える間隔時間。
ゲインレベル制限	ゲインレベル制限を1～100に設定します。
IR-CUT	IR カットのオン/オフを切り替えます。
IR LED 点灯	IR-LEDのオン/オフを切り替えます。
カラーモード	モノクロ、またはカラーモードを選択します。
 高度なスケジュールモード	ここでは、さまざまな時間に合わせて特別な要求をカスタマイズできます。その後、設定に応じてデイモードとナイトモードが自動的に切り替わります。 

[露出]

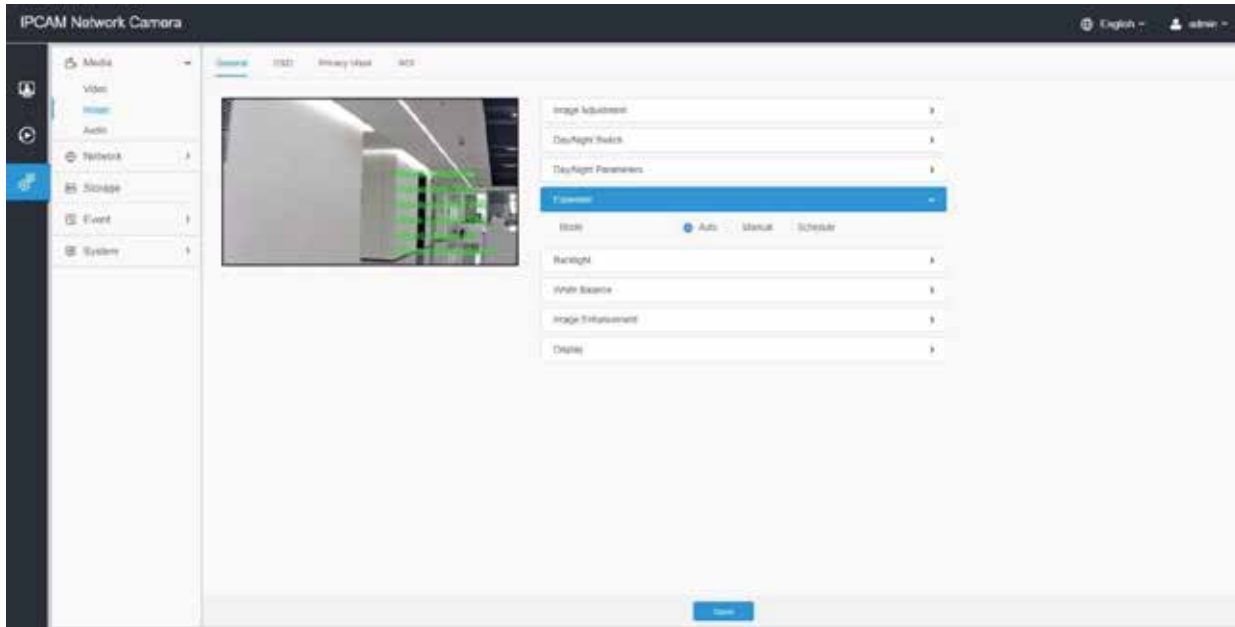
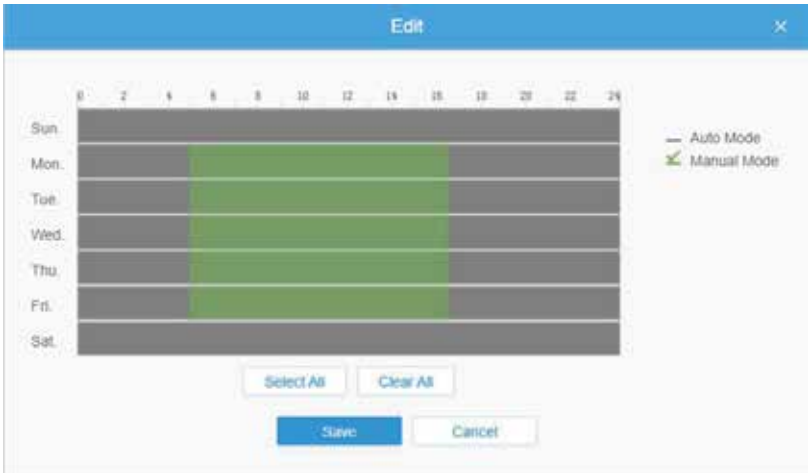


表13. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
露出モード	<p>AUTO、マニュアル、スケジュールが選択できます。</p> <p>AUTO: 環境に応じて明るさを自動的に調整します。</p> <p>マニュアル: 設定した値に応じて明るさを調整します。 露光時間は1~1/100000秒の範囲で設定できます。 値が大きいほど、画像は明るくなります。</p> <p>スケジュール: スケジュールをカスタマイズして、自動モードと手動モードを有効/無効にすることができます。</p> 

[バックライト]

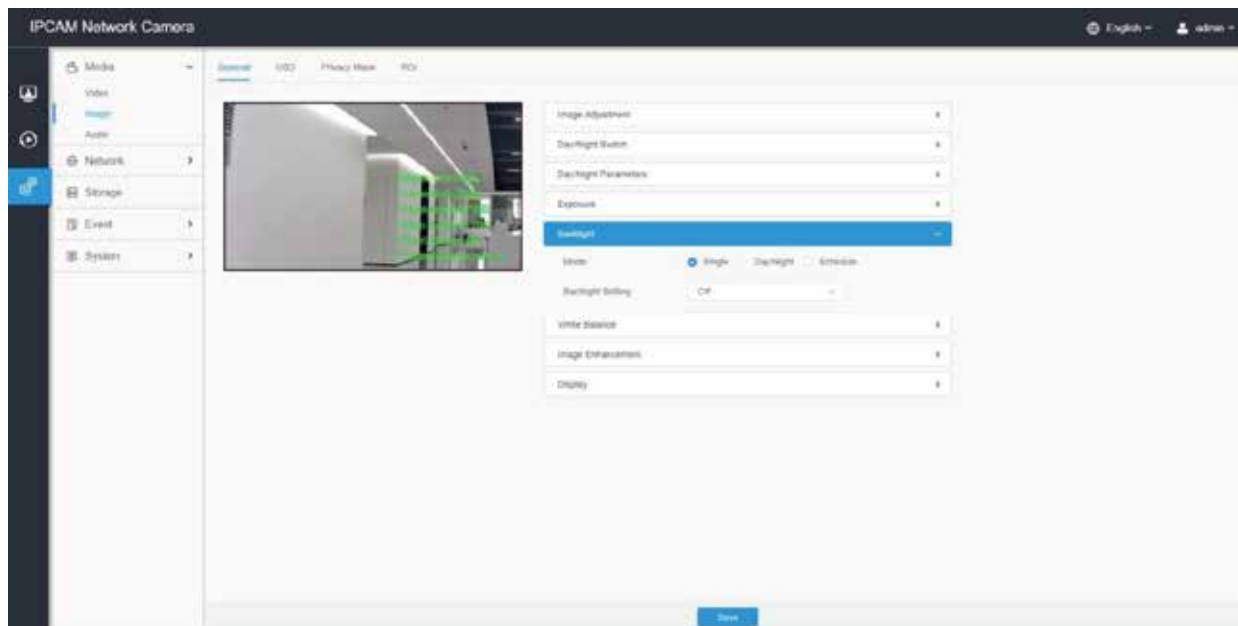
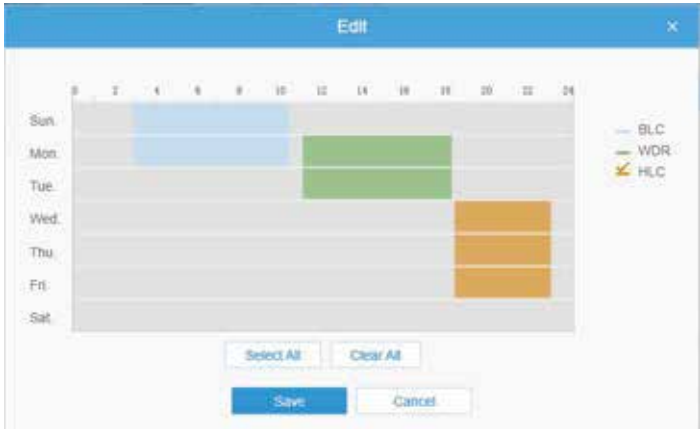


表14. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
モード	<p>シングル : BLC/WDR/HLCのシングルモードを設定します。</p> <p>注意 : 高フレームレートが有効になっている間は、WDRおよび一般的なHLCが利用できません。</p> <p>Day/Night モード : Day モード、Night モードで BLC/WDR/HLCを個別にサポートします。</p> <p>スケジュールモード : BLC/WDR/HLCのスケジュールを設定します。スケジュールをカスタマイズして、BLC/WDR/HLCモードを有効/無効にすることができます。</p> 

[ホワイトバランス]

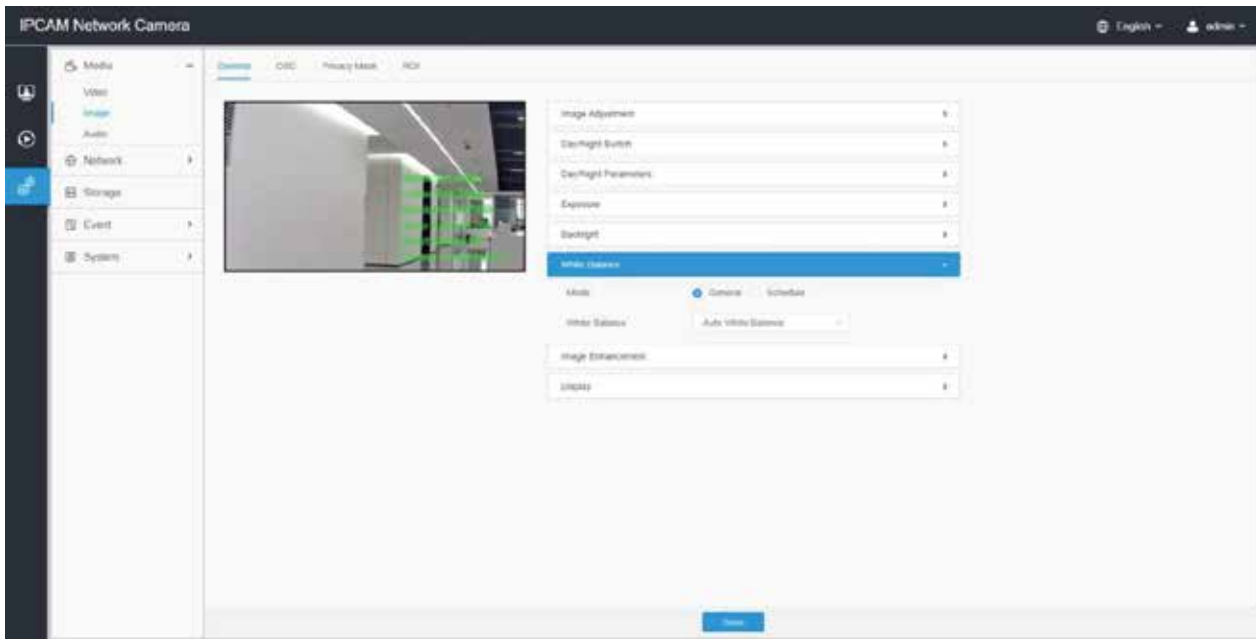



表15. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
ホワイトバランス	<p>白いオブジェクトを復元するには、環境の光によって引き起こされる色の歪みを取り除きます。</p> <p>オートホワイトバランス：このオプションは、ホワイトバランス機能を自動的に有効にします。</p> <p>マニュアルホワイトバランス：レッドゲインレベルとブルーゲインレベルを手動で設定します。</p> <p>白熱電球：光が白熱灯と似ている場合は、このオプションを選択します。</p> <p>ハロゲン灯：光がハロゲン灯と類似している場合は、このオプションを選択します。</p> <p>自然光：自然光以外に光がない場合は、このオプションを選択します。</p> <p>蛍光灯：光が蛍光灯と似ている場合は、このオプションを選択します。</p> <p>スケジュールモード：上記のモードを有効/無効にするようにスケジュールをカスタマイズできるこのオプションを選択します。</p> 

[画像改善]

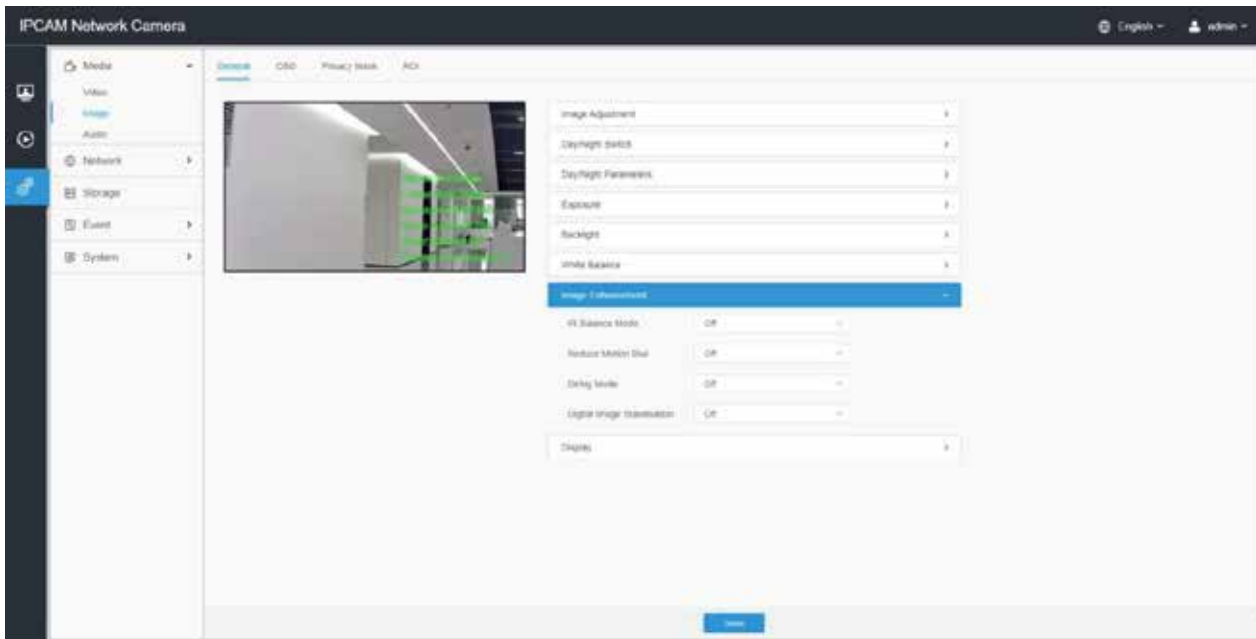


表16. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
IRバランスモード	IRLEDをオン/オフするオプションがあります。 IRバランスモードは、露出オーバーや暗闇の問題を回避し、IRLEDは実際の照明に応じて変化します。
動体ブレの軽減	この機能を有効にすると、動体ブレを効果的に減らすことができます。デブラーレベルは1から100まで調整できます。
曇り止めモード	霧深い天候でのより良い画像効果。 注意： 一部カメラではサポートされていません。
デジタル画像の安定化	画像のにじみや揺れを軽減します。 注意： 一部カメラではサポートされていません。

[表示]

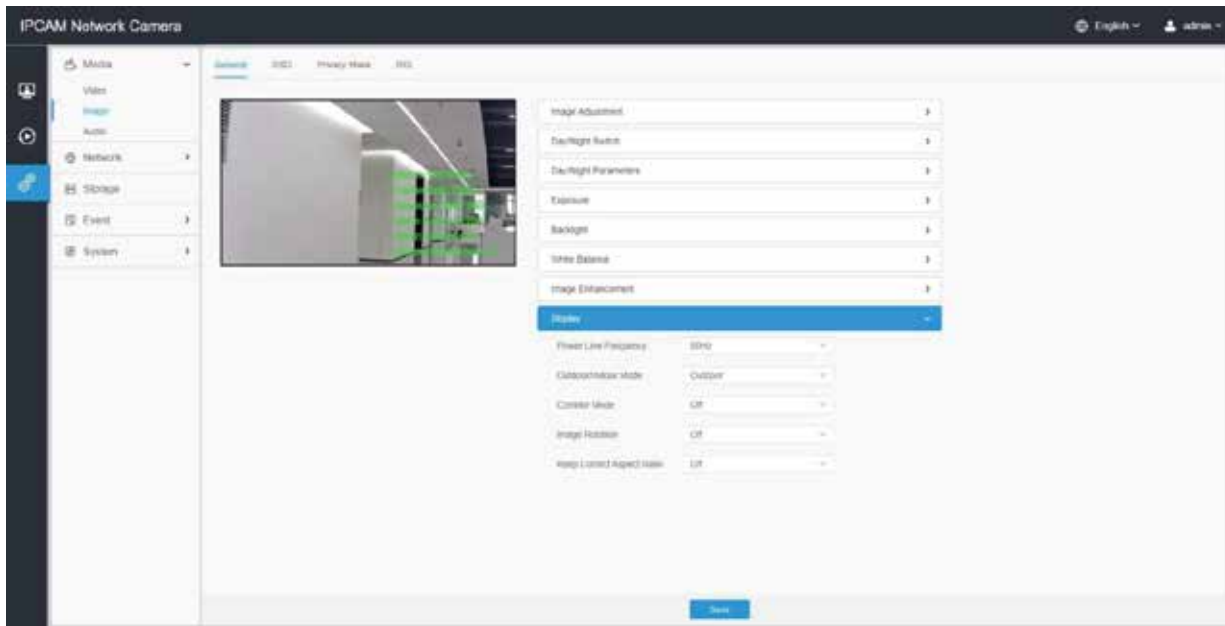


表17. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
フリッカーレス	60Hzと50Hzが利用可能です。
屋外/屋内モード	環境に合わせて屋内モードまたは屋外モードを選択してください。
コリドーモード	利用可能なオプションは3つあり、環境に合わせて1つを選択できます。 オフ ：画像を通常方向で表示します。 時計回りに90度 ：画像を時計回りに90度回転させます。 反時計回り90度 ：画像を反時計回りに90度回転させます。
画像の回転	利用可能なオプションは4つあり、環境に合わせて1つを選択できます。 オフ ：画像を法線方向に保ちます。 180度回転 ：画像を上下逆にします。 水平方向に反転 ：画像を水平方向に反転します。 垂直方向に反転 ：画像を垂直方向に反転します。
正しいアスペクト比を維持する	このオプションを有効にすると、解像度比が変更されたときにカメラが画像の歪みを防ぎます。
ズーム制限	ズーム制限を設定します。 注意 ：20倍以上の光学ズームを備えたPTZネットワークカメラの場合のみ。
ホワイトLEDレベル	ホワイトLEDレベルを1~100に設定します。 注意 ：PTZバレットのみ。
スモークドームカバー	この機能はプロドーム専用です。プロドームにスモークドームカバーが装備されている場合は、この機能を有効にして通常の画像を表示します。 注意 ：プロドームのみ。

一部カメラは、サポートされていません。

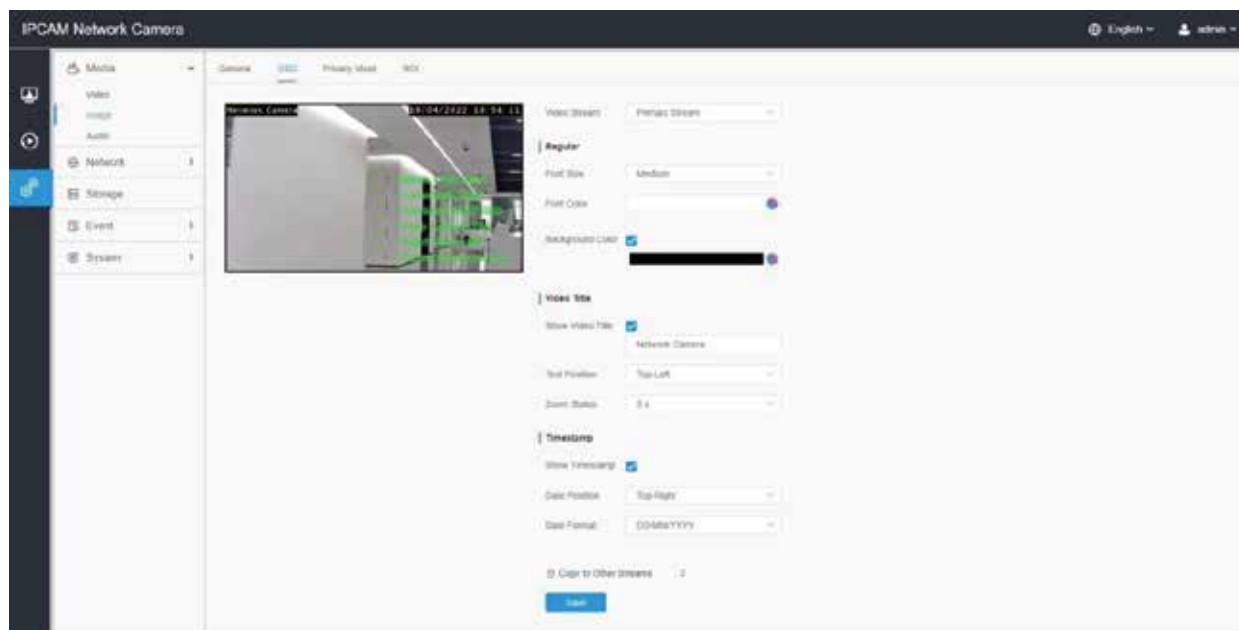


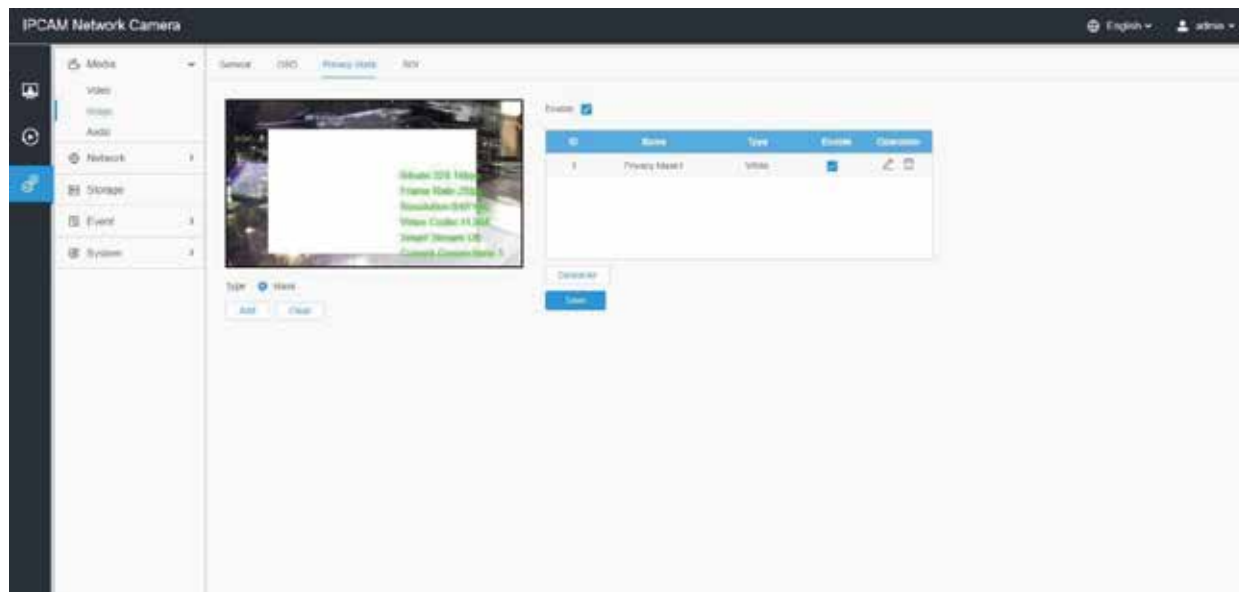
表18 ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
ビデオストリーム	メインストリームとサブストリームの OSD を設定できるようにします。
フォントサイズ	小さい / 標準 / 中 / 大きい / 最大 / AUTO は、タイトルと日付で利用できます。
文字の色	タイトルと日付に異なる色を設定できるようにします。
背景色	<p>画面に情報の背景を表示するために異なる色を設定できるようにします。</p> <p>画像のフォントと背景に異なる色を設定すると、画像のOSDは次のように表示されます。</p> 
ビデオタイトルを表示する	チェックボックスをオンにすると、ビデオタイトルが表示されます。
ビデオタイトル表示位置	OSDコンテンツをカスタマイズします。
テキストの位置	画像上のOSD表示位置
日付を表示する	チェックボックスをオンにすると、画像に日付が表示されます。
日付位置	画像上の日付表示位置
日付形式	日付の形式
他のストリームにコピー	設定を他のストリームにコピーします

6.1.2.3 プライバシーマスク

プライバシーマスクを使用すると、ライブ映像 の特定のエリアをカバーして、監視エリアの特定の場所が表示および録画されないようにすることができます。

[プライバシーマスク]



ライブ映像 の特定のエリアをカバーするために使用する色を選択できます。

表19. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	チェックボックスをオンにして、プライバシーマスク機能を有効にします。
タイプ	プライバシーエリアに使用する色を選択してください。白、黒、青、黄、緑、茶、赤、紫の8色を使用できます。
追加	必要に応じて、ライブビデオにプライバシーエリアを描画しました。
クリア	ライブビデオで描いたエリアをクリアします。
すべて削除	以前に描いたすべてのエリアをクリアします。

【モザイクタイプのプライバシーマスク】

ライブビデオの特定のエリアをカバーするために使用するカラータイプとモザイクタイプを選択できます。モザイクタイプは、画像の連続性を維持し、視覚効果を向上させることができます。24個のマスクエリアと4個のモザイクエリアを含む、最大28個のマスクエリアがサポートされます。

 注意：カメラモデルが対応していることを確認してください。

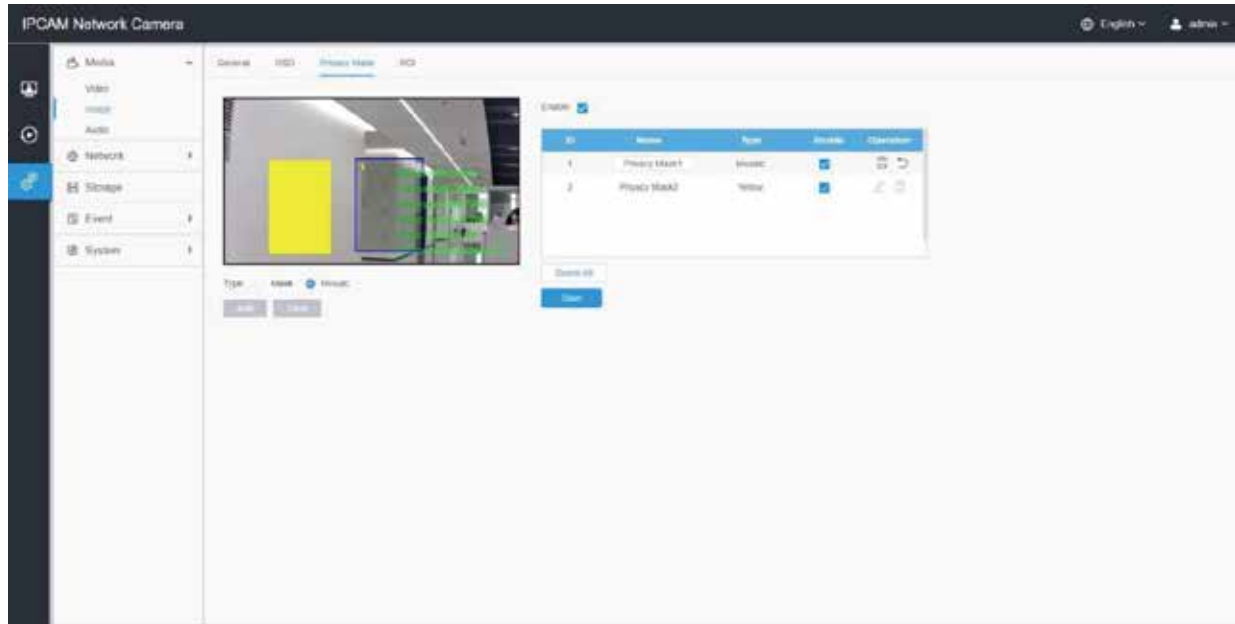





表20. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介	
有効	チェックボックスをオンにして、プライバシーマスク機能を有効にします。	
タイプ	プライバシーエリアに使用するタイプを選択します。マスクとモザイクの2つのタイプを使用できます。	
追加	必要に応じて、ライブビデオにプライバシーエリアを描画しました。	
クリア	ライブビデオで描いたエリアをクリアします。	
操作		選択したROIエリアを有効/無効にします。
		マスクエリアの色を変更してください。白、黒、青、黄、緑、茶、赤、紫の8色があります。
		プライバシーマスクエリアを削除する

6.1.2.4 ROI

ROI は、特定の目的のために識別されたデータセット内のサンプルの選択されたサブセットです。ユーザーは、シーンの最大8つの主要なエリアを選択して、ターゲットを絞ったプレビューと録画のために別々のストリームを介して送信できます。

ROIテクノロジーを使用することで、ビットレートを50%以上節約できるため、必要な帯域幅が少なくなり、ストレージの使用量が削減されます。したがって、これに従って、高解像度の小さなビットレートを設定できます。

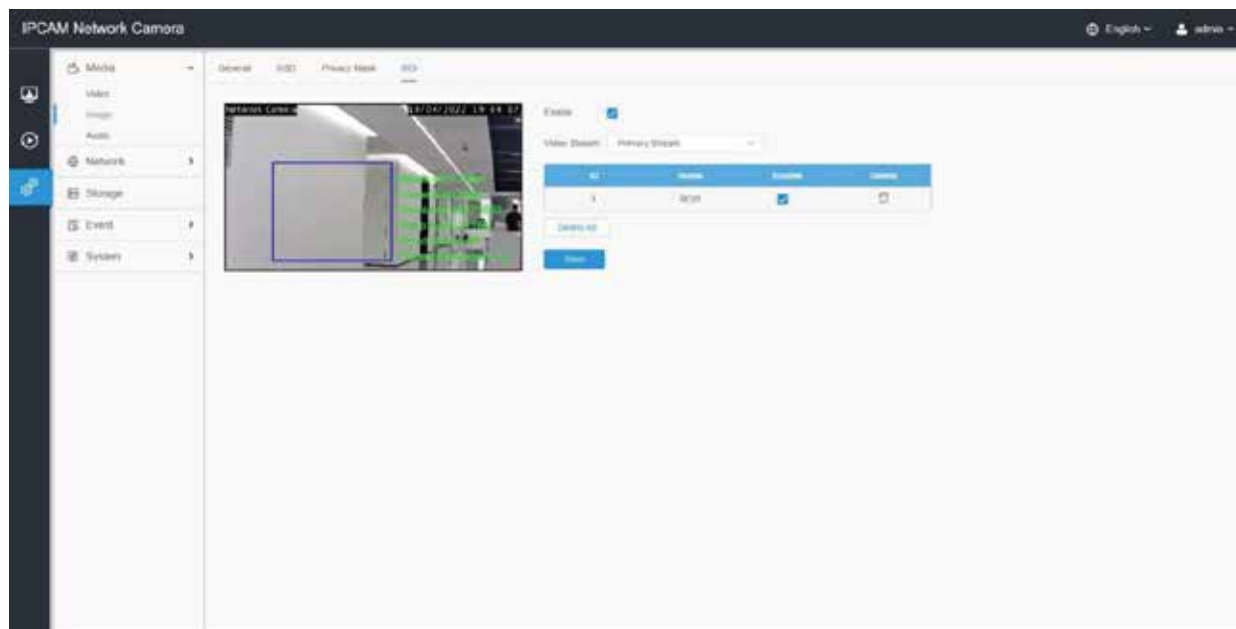



表21. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介	
有効	チェックボックスをオンにして、ROI機能を有効にします。	
ビデオストリーム	ビデオストリームを選択します。	
ROI	<input type="checkbox"/> / <input checked="" type="checkbox"/>	選択したROIエリアを有効/無効にします。
		選択したROIエリアを削除します。
すべて削除	以前に描いたすべてのエリアをクリアします。	

注意：

• 低ビットレートを設定できます。たとえば、ビットレートを512Kbpsに設定し、解像度を1080Pに設定すると、ROIの画質が他のエリアよりも明確で流暢であることがわかります。

6.1.3 音声

6.1.3.1 オーディオ

このオーディオ機能を使用すると、カメラから音を聞いたり、カメラ側に音を送信したりできます。双方向通信も可能です。音声入力が設定した特定のアラームレベルを超えたときにアラームを検知し、アラームが発生したときに設定済みの音声を再生できます。

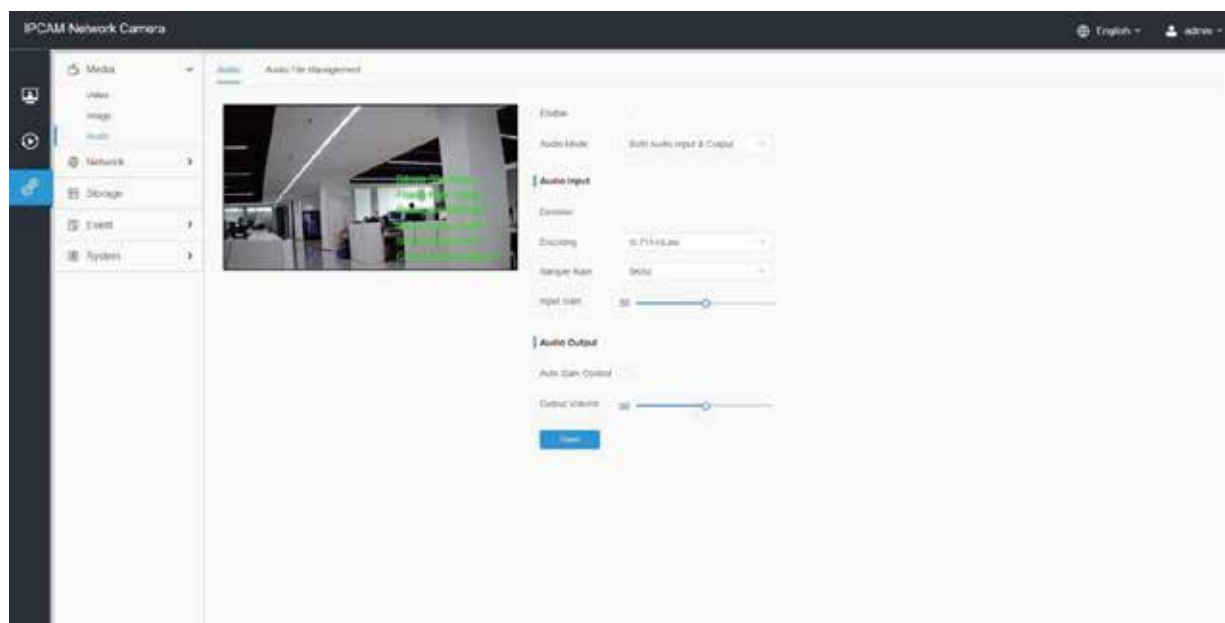
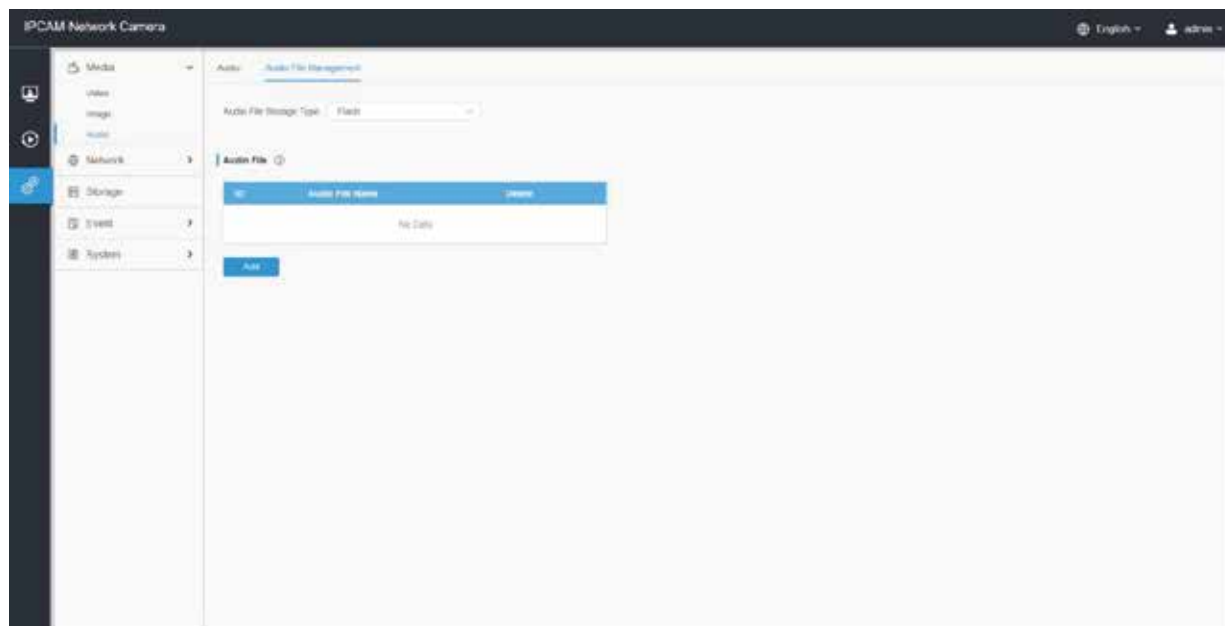


表22. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	チェックボックスをオンにして、オーディオ機能を有効にします。
オーディオモード	音声入力 / 音声出力 / 音声入力&出力の両方オプションです。
音声入力	<p>ノイズ除去：オン/オフに設定します。この機能をオンにすると、検出されたノイズをフィルタリングできます。</p> <p>エンコード形式：G.711-ULaw、G.711-ALaw、AAC LC、G.722、G.726が利用可能です</p> <p>オーディオビットレート：この機能はAAC LCでのみ使用可能で、最大256kbpsをサポートします。</p> <p>サンプルレート：8KHz、16KHz、32KHz、48KHzが 利用可能です。</p> <p>入力ゲイン：入力オーディオゲインレベル、0~100。</p> <p>アラームレベル：音声アラームが有効で、入力獲得音量がアラームレベルの1~100より大きい場合、アラームがトリガーされます。</p>
音声出力	<p>自動利得制御：この機能はH.265シリーズ専用で、音声品質を向上させます</p> <p>出力音量：出力の音量を調整します</p>

6.1.3.2 自動ファイル管理

最大5つのオーディオファイルをオーディオWebページのFlashまたはSDカードに手動でアップロードできます。また、アップロード時にオーディオファイルの名前を編集することもできます。



注意：

- オーディオモードとオーディオ出力は、特定のモジュール専用です。
- コーデックタイプがPCM/PCMU/PCMA、64kbpsまたは128kbps、500k以下の「.wav」オーディオファイルのみをサポートします。

 注意：コーデックタイプがPCM/PCMU/PCMA、ビットレートが64kbpsまたは128kbps、500k以下の「.wav」オーディオファイルのみをサポートします。

6.2 ネットワーク

6.2.1 基本

6.2.1.1 TCP/IP

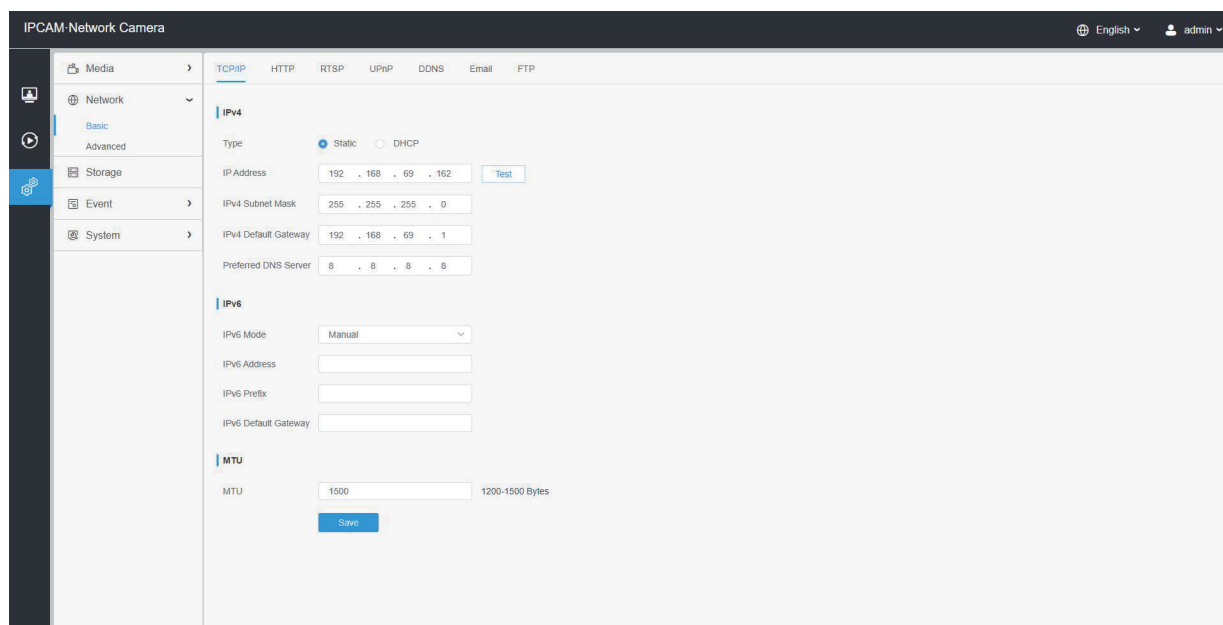


表23. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
IPv4	<p>タイプ : 固定 IP アドレスとDHCPは、ユーザーがIPv4アドレスを自動的に取得したり、固定IPアドレスを使用したりするためのオプションです。</p> <p>IPv4アドレス : ネットワーク上のネットワークカメラを識別するために使用されたアドレス。</p> <p>注意 : [テスト]ボタンは、IPが競合しているかどうかをテストするために使用されます。</p> <p>IPv4サブネットマスク : これは、ネットワークカメラが配置されているサブネットを識別するために使用されます。</p> <p>IPv4デフォルトゲートウェイ : デフォルトルーターアドレス。</p> <p>プライマリ DNS : DNSサーバーはドメイン名をIPアドレスに変換します。</p>
IPv6	<p>IPv6モード : IPv6のさまざまなモードを選択します : マニュアル /IPv6RA ルーター広告 ント/DHCPv6</p> <p>IPv6アドレス : ネットワーク上のネットワークカメラを識別するために使用される IPv6アドレス</p> <p>IPv6プレフィックス : IPv6アドレスのプレフィックス長を定義します</p> <p>IPv6デフォルトゲートウェイ : デフォルトのルーターIPv6アドレス</p>
MTU	最大伝送ユニット。デフォルト値は1500です。必要に応じて値を1200から1500まで カスタマイズできます。
保存	設定を保存します。

6.2.1.2 HTTP

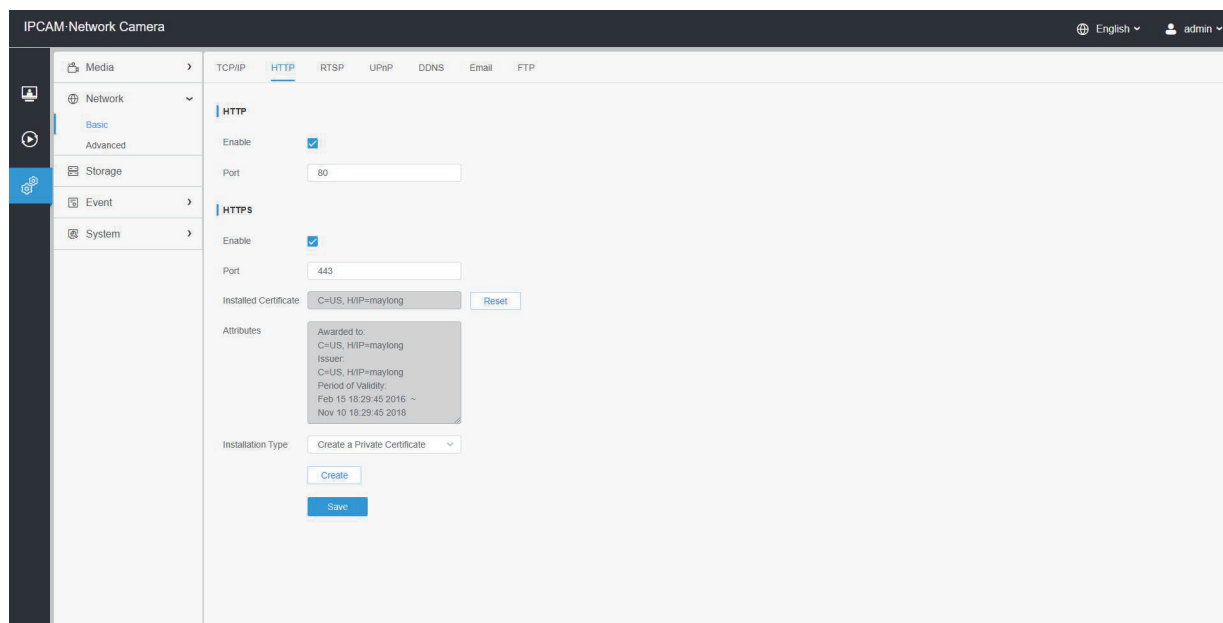


表24. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
HTTP	有効：HTTPの使用を開始または停止します。 ポート：Web GUIログインポート。デフォルトは80で、ONVIFポートと同じです。
HTTPS	有効：HTTPSの使用を開始または停止します。 ポート：HTTPS経由のWeb GUIログインポート。デフォルトは443です。
インストール済証明書	SSL証明書をアップロードして設定します。
属性	
インストールタイプ	
保存	設定を保存します。

表25. HTTP URLは次のとおりです。

ストリーム	URL
メインストリーム	http://username:password@IP:port/ipcam/mjpeg.cgi
セカンダリストリーム	http://username:password@IP:port/ipcam/mjpegcif.cgi
ストリーム	URL
ターシャリストリーム	http://username:password@IP:port/ipcam/mjpegthird.cgi

6.2.1.3 RTSP

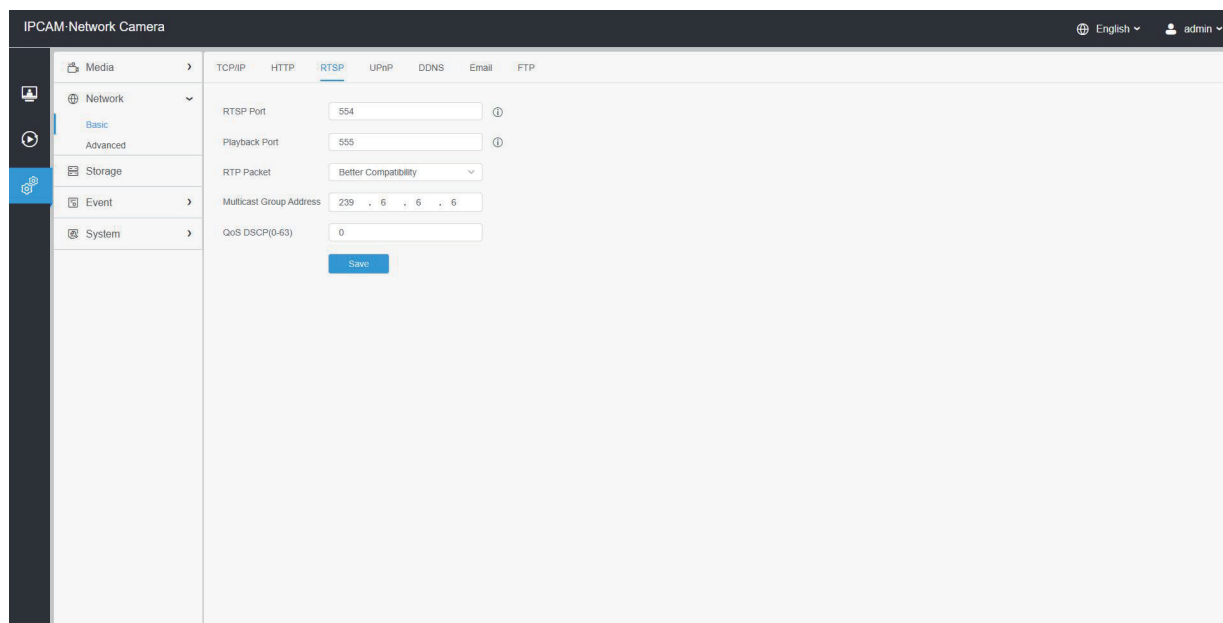


表26. ボタンの説明


パラメータ	機能紹介
RTSPポート	RTSPのポート。デフォルトは554です。
再生ポート	再生ポート再生ポート。デフォルトは555です。  注意： ポート0は、再生機能を閉じることを意味します。
RTPパケット	互換性重視とパフォーマンス重視の向上の2つのオプションがあります。カメラの画像が乱れる場合は、このオプションを切り替えてください。
マルチキャストグループアドレス	マルチキャスト機能をサポートします。
QoS DSCP	DSCPの有効な値の範囲は0～63です。
保存	設定を保存します。

表27. RTSP URLは次のとおりです。

ストリーム	URL
プライマリストリーム	rtsp://IP:RTSP Port/main
セカンダリストリーム	rtsp://IP:RTSP Port/sub
ターシャリストリーム	rtsp://IP:RTSP Port/third

 **注意：**

- DSCPは、Differentiated Service Code Pointを指します。DSCP値は、データの優先度を示すためにIPヘッダーで使用されます。
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。

6.2.1.4 UPnP

UPnP (Universal Plug and Play) は、ネットワーク機器、ソフトウェア、その他のハードウェアデバイス間で互換性を提供するネットワークアーキテクチャです。UPnPプロトコルにより、デバイスはシームレスに接続され、家庭や企業環境におけるネットワークの実装を簡素化することができます。この機能を有効にすると、各ポートのポートマッピングを設定する必要がなくなり、カメラはルーターを経由してワイドエリアネットワークに接続されます。

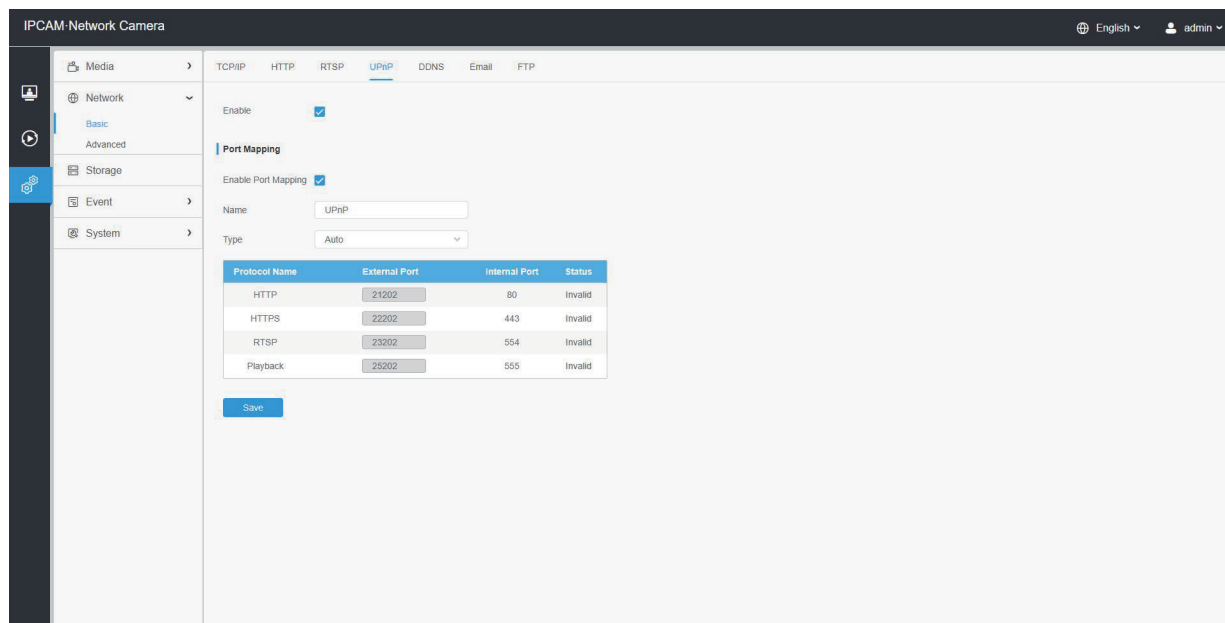


表28. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	チェックボックスをオンにして、UPnP機能を有効にします。
UPnP 有効	チェックボックスをオンにして、ポートマッピングを有効にします
名	オンラインで検出されたデバイスの名前を編集できます
タイプ	自動 ：設定なしで、対応するHTTPおよびRTSPポートを自動的に取得します マニュアル ：適切なHTTPポートとRTSPポートを手動で設定する必要があります。手動を選択すると、ポート番号の値を自分でカスタマイズできます
保存	設定を保存します。

6.2.1.5 DDNS

DDNSを使用すると、IPアドレスの代わりにドメイン名を介してカメラにアクセスできます。IPアドレスを変更し、ドメイン情報を動的に更新することができます。プロバイダーからアカウントを登録する必要があります。

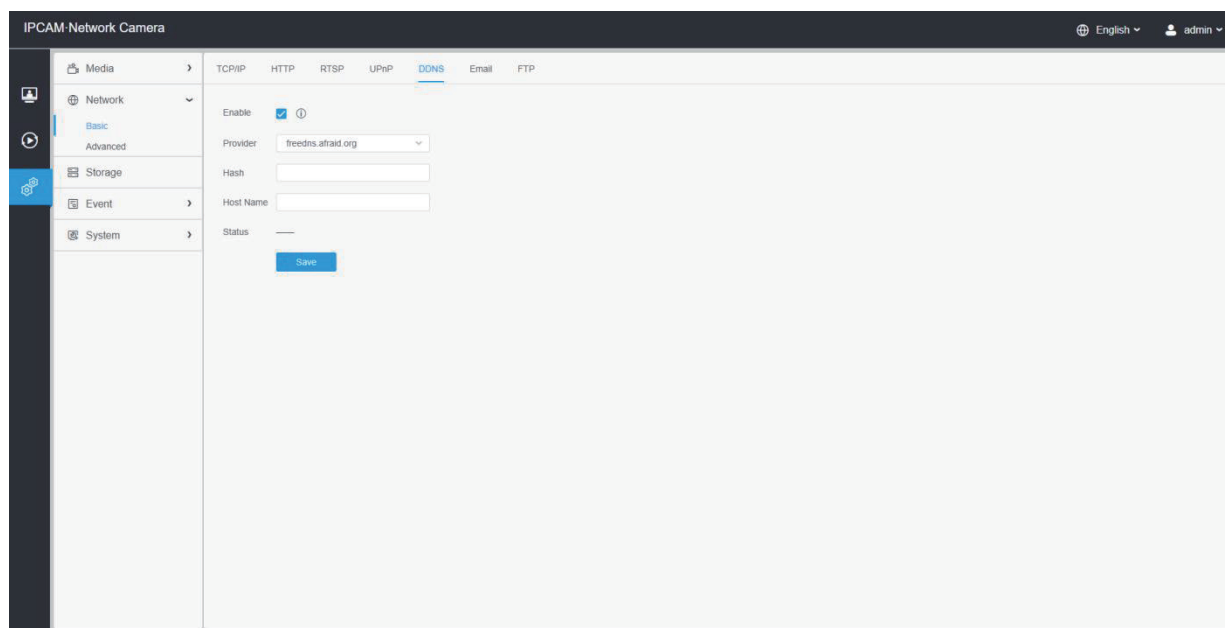



表29. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	チェックボックスをオンにして、DDNSサービスを有効にします。  注意 ：DDNSで直接使用できるUPnPポートを有効にして設定することをお勧めします。
プロバイダ	DDNSプロバイダーからサポートを受ける：reedns.afraid.org, dyndns.org, www.no-ip.com, www.zoneedit.com。 DDNSのプロバイダーをカスタマイズすることもできます。
ハッシュ	「freedns.afraid.org」のみの検証に使用される文字列。
ユーザー名	DDNSプロバイダーからのアカウント名。「freedns.afraid.org」では使用できません。
パスワード	アカウントのパスワード。「freedns.afraid.org」では使用できません。
ホスト名	アカウントで有効になっているDDNS名。
ステータス	DDNSの実行ステータスを表示します。
保存	設定を保存します。

注意：

- DDNSを使用する前に、HTTPポートとRTSPポートのポートフォワーディングを実行してください。
- RTSPの内部ポート番号と外部ポート番号が同じであることを確認してください。

6.2.1.6 Eメール

アラーム映像ファイルは、SMTPサーバーを介して特定のメールアドレスに送信できません。使用する前に、電子メール設定を正しく設定する必要があります。

The screenshot shows the 'Email' configuration page in the IPCAM Network Camera web interface. The 'Enable' checkbox is checked. The 'User Name' field contains 'hdipnc', 'Sender Email Address' contains 'hdipnc@sina.com', and 'Email Server' contains 'smtp.sina.com'. The 'Email Port' is set to '25'. There are two 'Recipient Email Address' fields, both empty. The 'Encryption' section has 'None' selected. Under 'Snapshot Settings', both 'Alarm Snapshot File Name' and 'Timing Snapshot File Name' are set to 'YYYY-MM-DD'. 'Save' and 'Test' buttons are at the bottom.

表30. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	メール機能を有効にするには、チェックボックスをオンにします。
ユーザー名	送信者の名前。通常、アカウント名と同じです。
送信元メールアドレス	映像ファイルに添付された電子メールを送信するための電子メールアドレスです。
パスワード	メールサーバー（送信者）のパスワードです。
送信メールサーバー（SMTP）	メールサーバーのIPアドレスまたはホスト名（例：smtp.gmail.com）。
SMTP ポート	SMTPのデフォルトのTCP/IPポートは25（保護されていません）です。SSL / TLSポートの場合、使用するメールによって異なります。
送信先（受信者）メールアドレス 1	映像ファイルを受信するための電子メールアドレス
送信先（受信者）メールアドレス 2	映像ファイルを受信するための電子メールアドレス
暗号化	SMTPサーバーでSSLまたはTLSが必要な場合は、チェックボックスをオンにしてSSLまたはTLSを有効にします。
スナップショット設定	アラームスナップショットファイル名 ：デフォルト（YYYY-MM-DD） / MM-DD-YYYY / DD-MM-YYYY / プレフィックス 追加 / カスタマイズが可能です。 タイミングスナップショットファイル名 ：デフォルト（YYYY-MM-DD） / MM-DD-YYYY / DD-MM-YYYY / プレフィックスの追加 / ベースファイル名による上書き / カスタマイズが可能です。
保存	設定を保存します。
テスト	設定が成功したかどうかをテストします。

注意：次のファイル名のヒントを参照して、ファイル名をカスタマイズできます。

File Name Tip / &Device-Device Name / &Y-Year / &M-Month / &D-Day / &h-hour
/ &m-minute &s-second / &ms-millisecond / &&-&

6.2.1.7 FTP

アラームビデオファイルは、特定のFTPサーバーに送信できます。FTP設定を使用する前に、正しく設定する必要があります。

表31. ボタンの説明

パラメータ		機能紹介
FTPサーバー設定	有効	FTP 機能を有効にするにはチェックボックスをオンにします。
	FTPタイプ	FTPとSFTPはオプションです。
	サーバーアドレス	FTP/SFTPサーバーアドレス。
	Server Port	FTPサーバーのポート。通常は21です。SFTPサーバーのポート。一般的には22です。
	ユーザー名	FTP/SFTPサーバーへのログインに使用されるユーザー名。
	パスワード	利用者パスワード。
FTPストレージ設定	ストレージパス	映像 と画像がFTPサーバーにアップロードされるストレージパス。ルートディレクトリ、親ディレクトリ、子ディレクトリ、カスタマイズなど、4つのFTPストレージパスタイプを使用できます。
	親ディレクトリ	親ディレクトリのフォルダ名としてIPアドレス/デバイス名/日付を選択するか、フォルダ名をカスタマイズします。
	子ディレクトリ	子ディレクトリのフォルダ名としてIPアドレス/デバイス名/日付を選択するか、フォルダ名をカスタマイズします。
FTPストレージ設定	複数レベルのフォルダ名	ストレージパスが3レベルを超える場合は、ここにマルチレベルFTPストレージパスを手動で入力します。
	アラーム動作ファイル名	デフォルト (YYYY-MM-DD) を選択するか、アラームアクションファイル名をカスタマイズします。

表31. ボタンの説明

FTPストレージ設定	ビデオファイル名	アラームアクションファイル名をカスタマイズする場合は、YYYY-MM-DD / MM-DD-YYYY / DD-MM-YYYY/プレフィックスの追加が可能です。
	イメージファイル名	アラームアクションファイル名をカスタマイズする場合は、YYYY-MM-DD/MM-DD-YYYY/DD-MM-YYYY/プレフィックスの追加 / カスタマイズが可能です。
	タイミングスナップショットファイル名	デフォルト (YYYY-MM-DD) / MM-DD-YYYY / DD-MM-YYYY/プレフィックスの追加/ カスタマイズ による上書きが可能です。
	事前録画	アラーム前の録画時間、0~10秒を予約します。
	Record	Format/
保存		設定を保存します。0から10はオプションです。
テスト		設定が成功したかどうかをテストします。

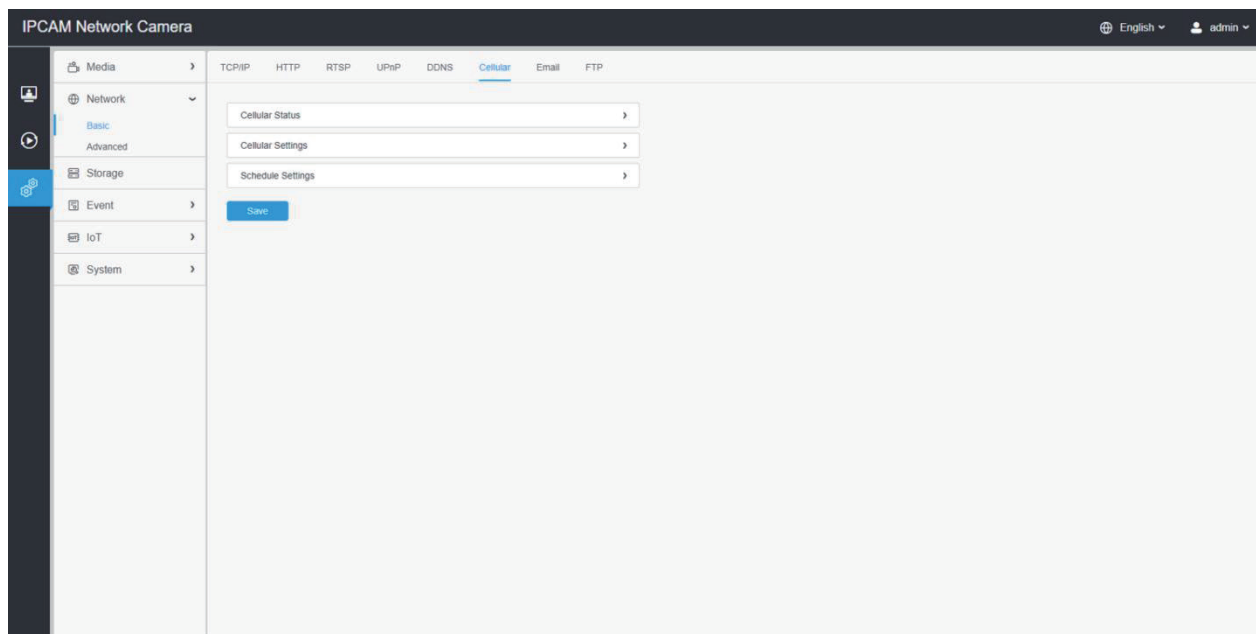
注意：・親ディレクトリはルートディレクトリの下にあり、子ディレクトリは親ディレクトリの下にあります。

・次のファイル名のヒントを参照して、ファイル名をカスタマイズできます。

6.2.1.8 セルラー（オプション）

5G AIoTプロバレットプラスネットワークカメラは、ネットワーク配線が不便なくつかのシナリオに、UHD画質、低遅延、高速伝送の新鮮な体験を提供します。

以下に示すように、5Gカメラを使用する場合は、ここでセルラーステータスを確認してセルラー設定を設定できます。



注意：

- 5Gカメラを初めて使用する場合は、基本設定のためにカメラのWebページにアクセスするために、ネットワークポートを介してカメラを接続する必要があります。
- 5Gネットワークを使用する前に、カメラの下部にあるSIMカードスロットにSIMカードを挿入してください。SIMカードスロット用のNano SIMをサポートしています。

[セルラー設定]

ステップ1：インターネットサービスプロバイダー（ISP）から提供された情報をセルラー設定インターフェイスに入力し、[保存]をボタンをクリックしてネットワークに正常にアクセスします。

The screenshot shows the 'Cellular Settings' page in the IPCAM Network Camera web interface. The page is titled 'Cellular' and includes a sidebar with navigation options like Media, Network, Storage, Event, IoT, and System. The main content area contains the following settings:

- Cellular Status: A dropdown menu.
- Cellular Settings: A dropdown menu.
- Enable: A checked checkbox.
- APN: An empty text input field.
- User Name: A text input field containing 'admin'.
- Password: A password input field with masked characters.
- PIN Code: An empty text input field.
- Access Number: An empty text input field.
- Authentication: A dropdown menu set to 'Auto'.
- Network Type: A dropdown menu set to 'Auto'.
- Re-dial Interval: A text input field containing '30' with a unit 's (0-3600s)'.
- Billing Day: A dropdown menu set to 'Day 1' with a unit 'Of The Month'.
- Schedule Settings: A dropdown menu.
- Save: A blue button at the bottom.

表32. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	5Gネットワークを有効にするには、このオプションをオンにします。
APN	ローカルISPが提供するセルラーダイヤルアップ接続のアクセスポイント名を入力します。
ユーザー名	ローカルISPが提供するセルラーダイヤルアップ接続のユーザー名を入力します。
パスワード	ローカルISPが提供するセルラーダイヤルアップ接続のパスワードを入力します。
ピンコード	SIMのロックを解除するには、4~8文字のPINコードを入力します。
アクセス番号	ダイヤルアップセンター番号を入力します。ローカルISPが提供するセルラーダイヤルアップ接続用。
認証タイプ	認証タイプを選択します。さまざまなインターネットサービスに対応するために、自動、PAP、CHAP、MS-CHAP、MS-CHAPv2を含む5つのオプションがあります プロバイダー。デフォルトのオプションはAutoで、これはインターネットサー

	ビスプロバイダーと自動的に一致します。
ネットワーク型	<p>セルラーネットワークのネットワークタイプを選択します。自動、5G、4G、3G、2Gを含む5つのオプションがあります。</p> <p>自動：最強の信号で自動的にネットワークに接続します。</p>
再ダイヤル間隔	<p>リダイヤル間隔時間を入力します。5Gネットワークがオフラインの場合、設定した間隔に従って再ダイヤルします。リダイヤル間隔は次の間にある必要があります 0~3600秒。</p>
請求日	<p>毎月データを消去する日付を選択します。ユーザーは1日から31日まで選択でき、システムは毎月設定した日付のデータをクリアします。</p>

注意：一部のインターネットサービスプロバイダーでは、ユーザーはSIMカードを直接挿入するだけで、追加の設定なしに5Gネットワークにアクセスすることができます。

[セルラーステータス]

ステップ2：ネットワークに正常に接続すると、以下に示すように、セルラーステータスインターフェイスでセルラーステータス情報を確認できます。

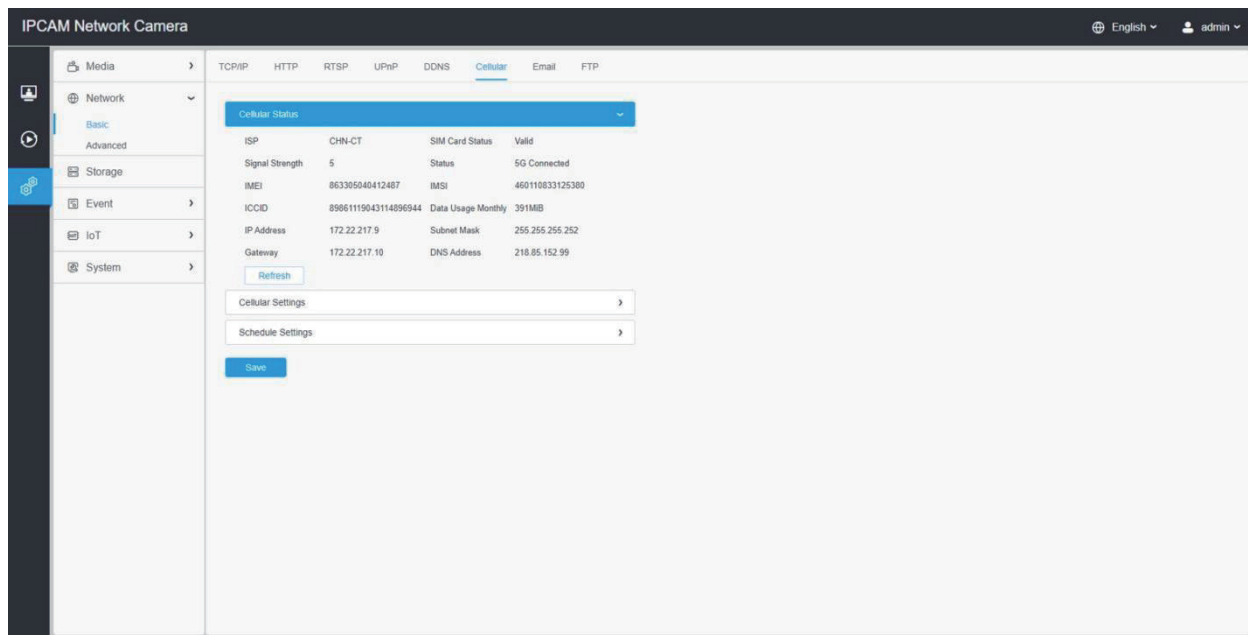
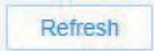


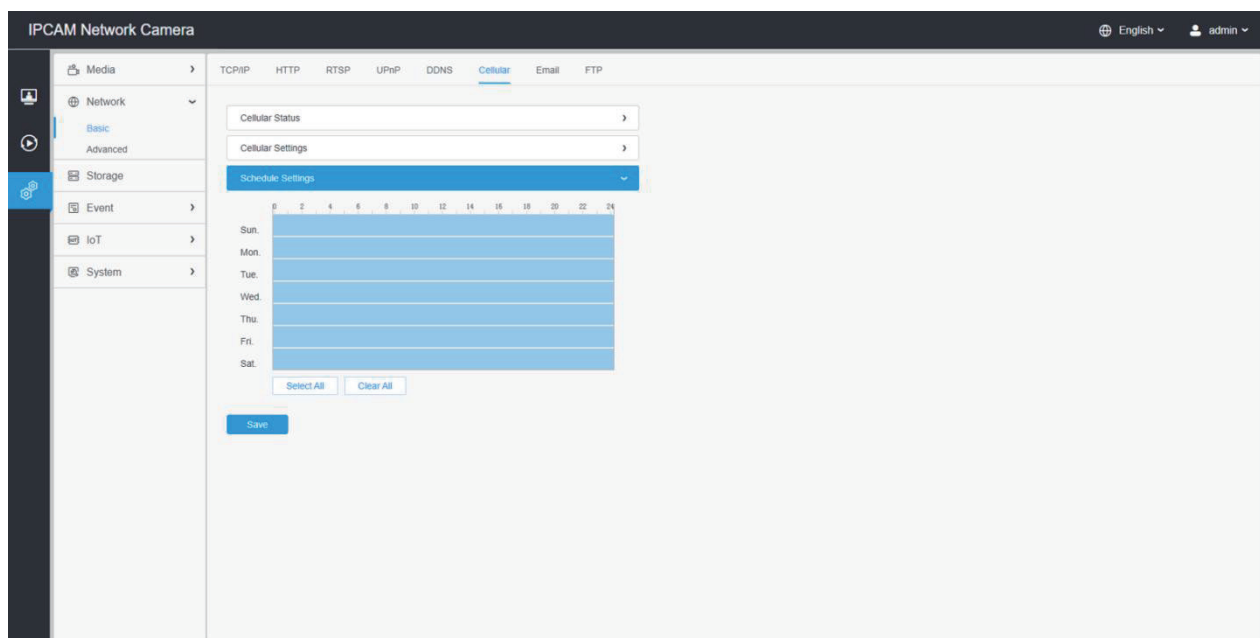
表33. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
ISP	<p>SIMカードが登録されているネットワークプロバイダーを表示します。</p> <p>注意：SIMカードが挿入されていないか認識されていない場合は「-」が表示されます。</p>

SIMカードのステータス	SIMカードの接続状態を表示します。 SIMカードなし ：SIMカードが挿入されていません。 無効 ：SIMカードが挿入されましたが、ネットワークに接続できませんでした。 有効 ：SIMカードが挿入され、ネットワークに正常に接続されました。
シグナル強度	ネットワークの現在の信号強度を表示します。
状態	「接続」や「切断」など、ネットワークの接続状態を表示します。
IMEI	モジュールのIMEIを表示します。
IMSI	SIMカードのIMSIを表示します。
ICCID	SIMカードのICCIDを表示します。
毎月のデータ使用量	現在の月間使用データを表示します。
IPアドレス	現在のネットワークのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレスを表示します。SIMカードが挿入されていないか認識されていない場合は、0.0.0.0と表示されます。
サブネットマスク	
ゲートウェイ	現在のネットワークのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレスを表示します。SIMカードが挿入されていないか認識されていない場合は、0.0.0.0と表示されます。
DNSアドレス	
	上記のステータスを手動で更新するには、このボタンをクリックします。

【スケジュール設定】

ステップ3：スケジュールを設定すると、5Gネットワークは設定したスケジュールに従って有効になります。

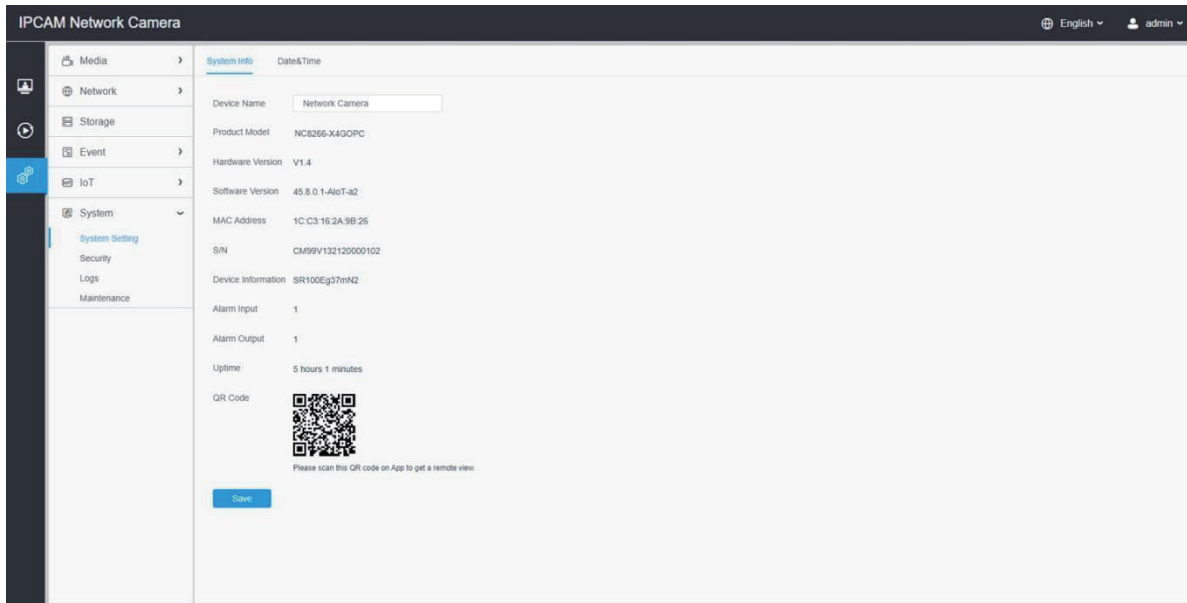


ステップ4：セルラー設定を設定した後、必要に応じて、イベントや録画など、カメラの他の基本設定も完了する必要があります。

ステップ5：カメラの基本設定が完了したら、ネットワークケーブルを接続せずに5Gネットワークを使用してカメラにアクセスできます。

注意：

- P2Pを介して5GカメラをCMSに接続および設定できます。
- 5Gネットワークを使用して、5GカメラをP2P経由でVMS Enterprise、CMS、およびi-Sight APPに接続できます。
- 5Gカメラの場合、以下に示すように、P2P機能がデフォルトでアクティブになります。

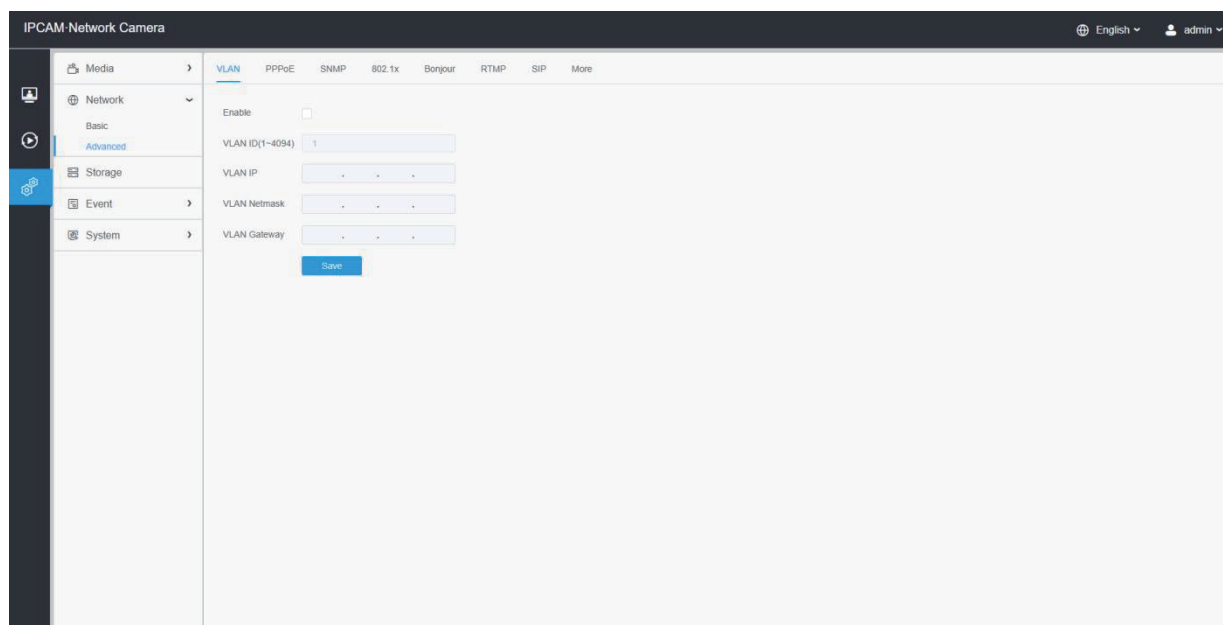


- 5Gネットワークを使用する必要がない場合は、ネットワークケーブルを介してカメラに接続して使用できます。

6.2.2 高度

6.2.2.1 VLAN

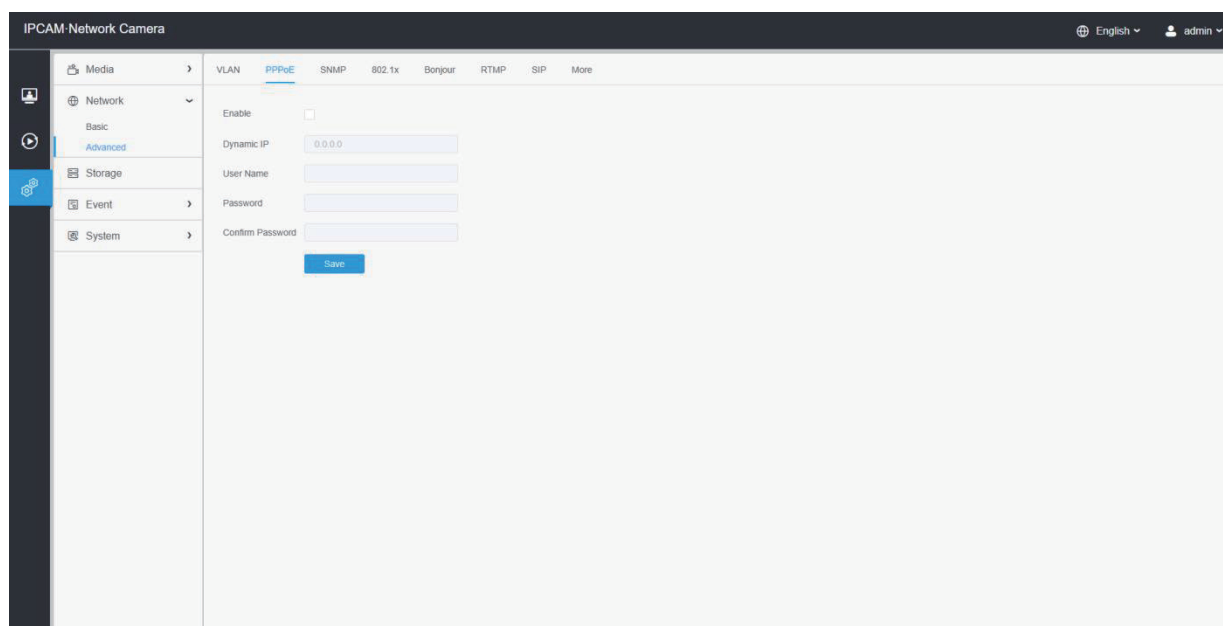
VLANは、データリンク層（OSI層2）でコンピューターネットワークに分割および分離されたブロードキャストドメインです。LANは、ローカルエリアネットワークの略語です。VLANを使用すると、ホストが同じネットワークスイッチ上にない場合でも、ネットワーク管理者はホストをグループ化できます。これにより、VLANメンバーシップをソフトウェアで設定できるため、ネットワークの設計と展開を大幅に簡素化できます。VLANがない場合、リソースのニーズに応じてホストをグループ化するには、ノードを再配置したり、データリンクを再配線したりする必要があります。



注意：スイッチにVLANを設定する方法については、スイッチのユーザーマニュアルを参照してください。

6.2.2.2 PPPoE

このカメラはPPPoE自動ダイヤルアップ機能をサポートしています。カメラがモデムに接続された後、カメラはADSLダイヤルアップによってパブリックIPアドレスを取得します。ネットワークカメラのPPPoEパラメータを設定する必要があります。



注意：

- 取得したIPアドレスはPPPoEを介して動的に割り当てられるため、カメラを再起動するとIPアドレスは常に変更されます。ダイナミックIPの不便さを解決するには、DDNSプロバイダー（DynDns.comなど）からドメイン名を取得する必要があります。
- ユーザー名とパスワードは、プロバイダーから割り当てする必要があります。

6.2.2.3 SNMP

SNMP機能を設定して、カメラのステータス、パラメータ、アラーム関連情報を取得し、ネットワークに接続されているときにカメラをリモートで管理できます。

SNMPを設定する前に、SNMPソフトウェアをダウンロードし、SNMPポートを介してカメラ情報を受信できるようにしてください。トラップアドレスを設定することにより、カメラはアラームイベントと例外メッセージを監視センターに送信できます。

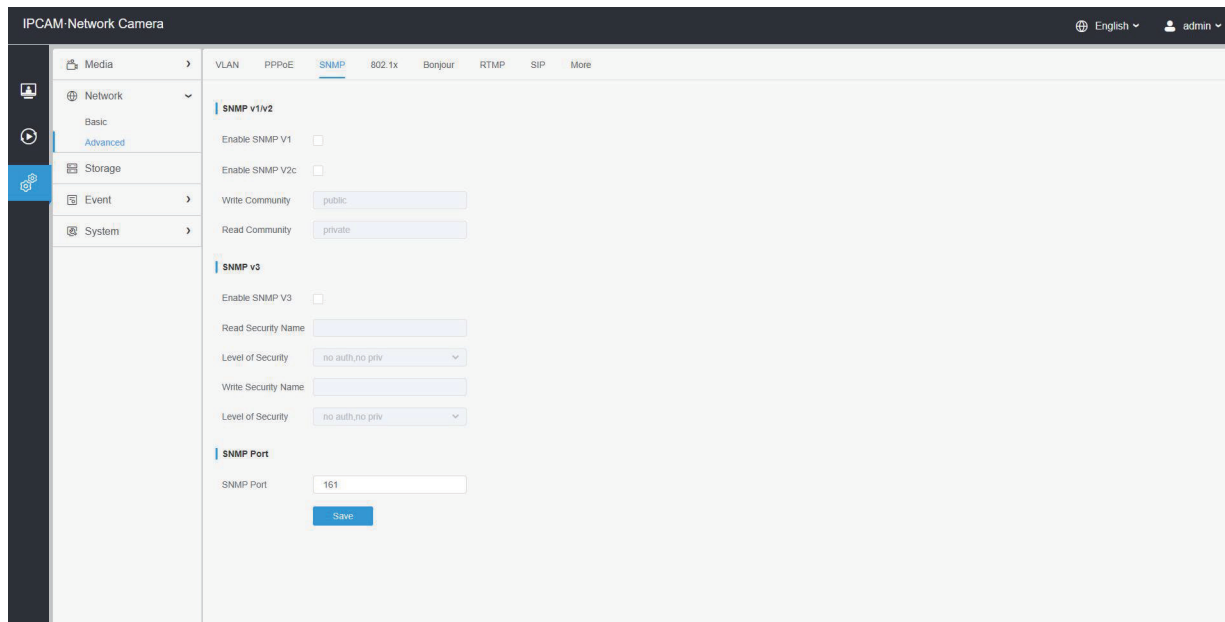


表34. ボタンの説明

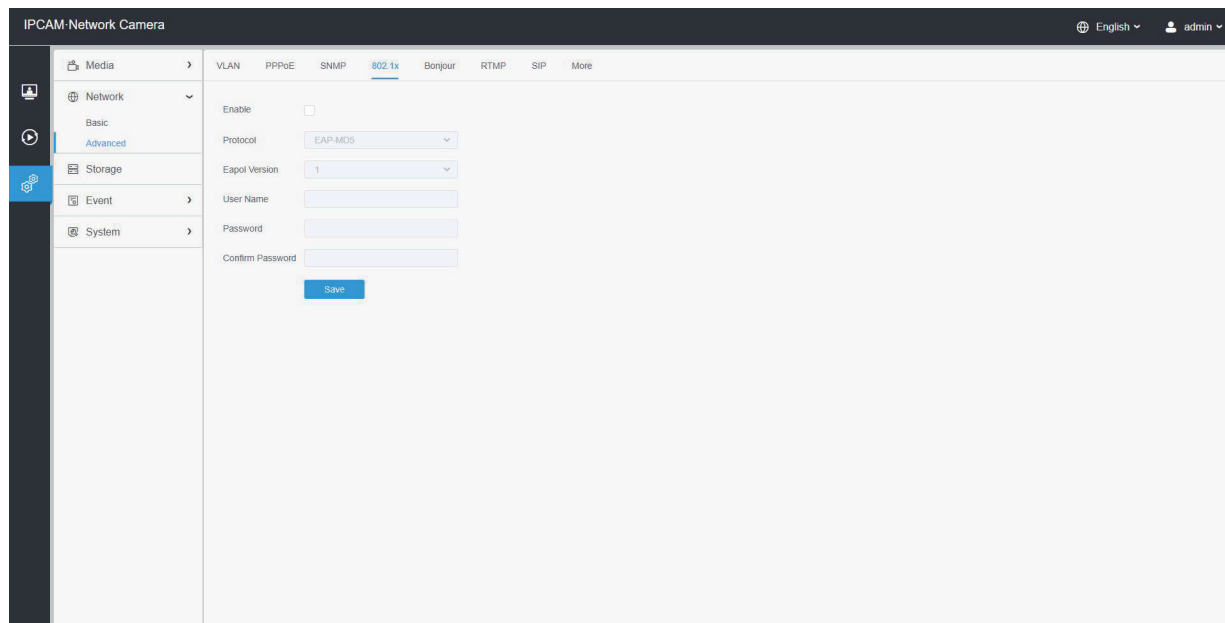
パラメータ	機能紹介
SNMP v1 / v2	SNMPのバージョン。SNMPソフトウェアのバージョンを選択してください。 SNMP v1を有効にします ：セキュリティを提供しません。 SNMPv2を有効にします 。アクセスにはパスワードが必要です。 コミュニティを書く ：書き込みコミュニティの名前を入力します。 コミュニティを読む ：コミュニティの読み取りの名前を入力します
SNMP v3	SNMPv3を有効にします 。暗号化を提供し、HTTPSプロトコルを有効にする必要があります。 セキュリティ名を読む ：ReadSecurityCommunityの名前を入力します。 セキュリティレベル ：使用可能なレベルは、(auth、priv)、(auth、nopriv) および (no auth、no priv) の3つです。 セキュリティ名 ：WriteSecurityCommunityの名前を入力します。 セキュリティレベル ：使用可能なレベルは、(auth、priv)、(auth、nopriv) および (no auth、no priv) の3つです。
SNMPポート	SNMPのポート。デフォルトは161です。
保存	設定を保存します。

注意：

- SNMPソフトウェアの設定は、ここで設定する設定と同じである必要があります。
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。

6.2.2.4 802.1x

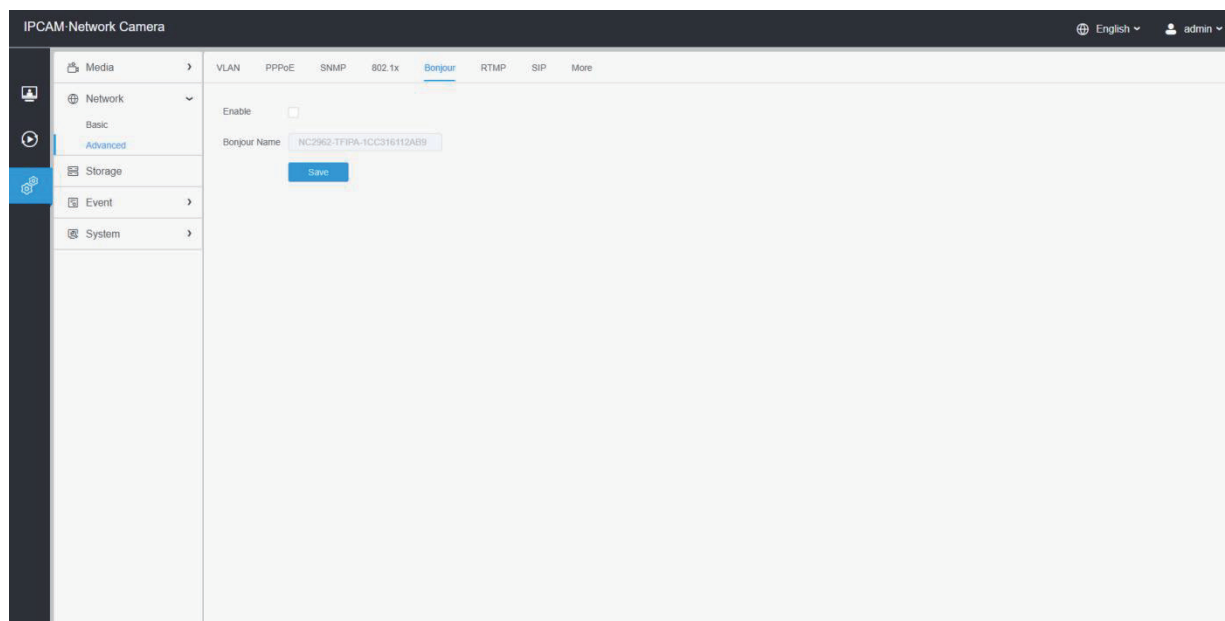
IEEE 802.1X標準はネットワークカメラでサポートされており、この機能を有効にすると、カメラデータが保護され、IEEE802.1Xで保護されているネットワークにカメラを接続するときにユーザー認証が必要になります。



6.2.2.5 ボンジュール (Bonjour)

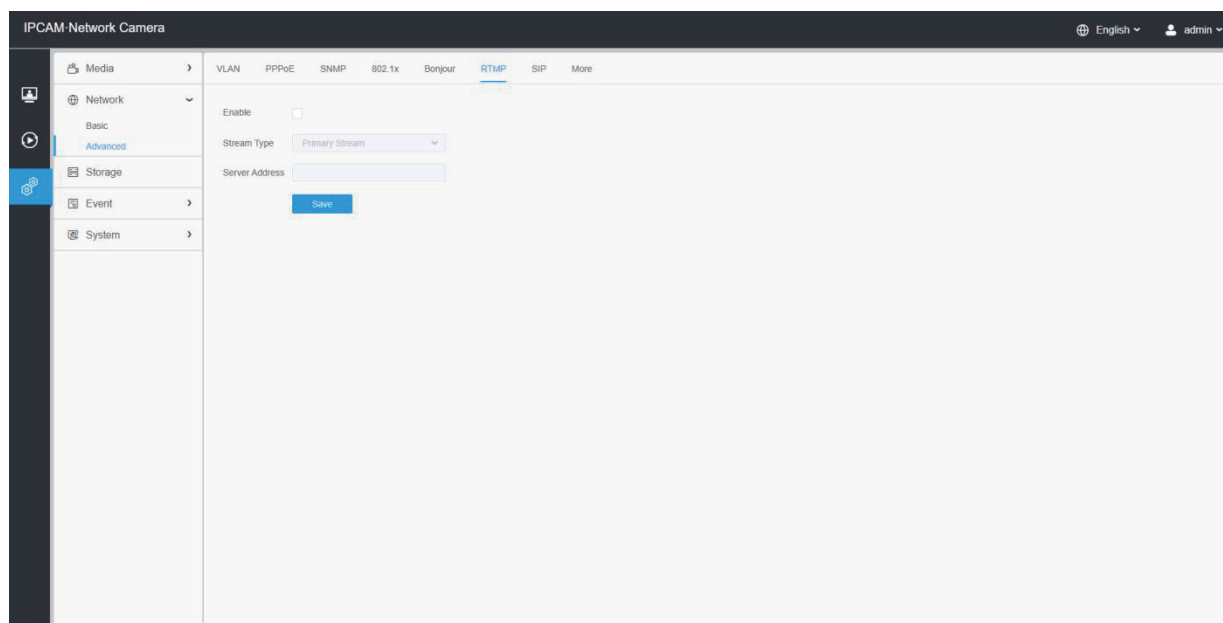
Bonjourは、AppleのマルチキャストDNSサービスに基づいています。Bonjourデバイスは、サービス情報を自動的にブロードキャストし、他のデバイスのサービス情報を聞くことができます。

カメラ情報がわからない場合は、同じLAN上のBonjourサービスを使用して、ネットワークカメラデバイスを検索し、デバイスにアクセスできます。



6.2.2.6 RTMP

リアルタイムメッセージングプロトコル（RTMP）は、当初、Flashプレーヤーとサーバー間で、インターネットを介してオーディオ、ビデオ、およびデータをストリーミングするための独自のプロトコルでした。RTMPはTCPベースのプロトコルであり、永続的な接続を維持し、低遅延の通信を可能にします。ライブ放送の機能を実現し、ネットワークがあればどこからでもカメラにログインできます。

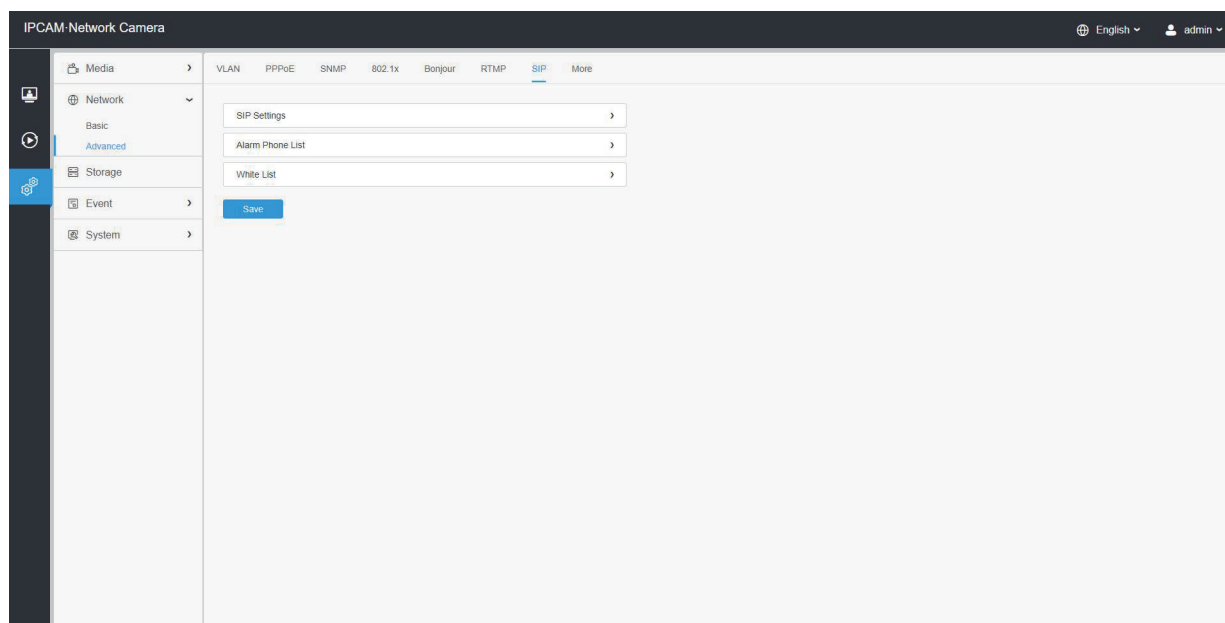


注意：

- YouTubeライブ放送の場合、新しく作成したアカウントを使用してライブ放送を行う場合、ライブ機能を使用するためのアカウントをアクティブ化するには、24時間待つ必要があります。
- RTMPの場合、G. 711はYouTubeで利用できないため、YouTubeではH. 264ビデオコーディングとAACオーディオコーディングを使用してネットワークカメラからのビデオのみを再生できます。
- ネットワークカメラRTMPインターフェースのサーバーアドレスは、`rtmp://<サーバーURL>/<ストリームキー>`の形式で入力する必要があります。<サーバーURL>と<ストリームキー>を接続するには、「/」が必要です。

6.2.2.7 SIP

セッション開始プロトコル（SIP）は、インターネットプロトコル（IP）ネットワークを介した音声通話やビデオ通話などのマルチメディア通信セッションを制御するために広く使用されているシグナリング通信プロトコルです。このページでは、ユーザーがSIP関連のパラメータを設定できます。ネットワークカメラは、アラームがトリガーされたときに呼び出すSIPエンドポイントとして設定できます。または、ビデオIP電話が使用されている場合は、許可された番号に電話をかけて映像を確認できるようにします。



この機能を使用するには、SIPページの設定が正しく設定されている必要があります。SIPを介してビデオを取得する方法は2つあります。1つはIPアドレスを直接ダイヤルする方法で、もう1つはアカウント登録モードです。詳細は以下のとおりです。

方法1：IPダイレクトモード

ビデオを見ることができるよう、SIP電話を介してカメラのIPアドレスを直接ダイヤルします。

注意： SIP電話とカメラは同じネットワークセグメントにある必要があります。

方法2：アカウント登録モード

- SIPを使用する前に、SIPサーバーからカメラのアカウントを登録する必要があります。
- 同じSIPサーバーからSIPデバイスの別のユーザーアカウントを登録します。
- SIPデバイスからカメラのユーザーIDを呼び出すと、SIPデバイスで映像が取得されます。

[SIP設定]

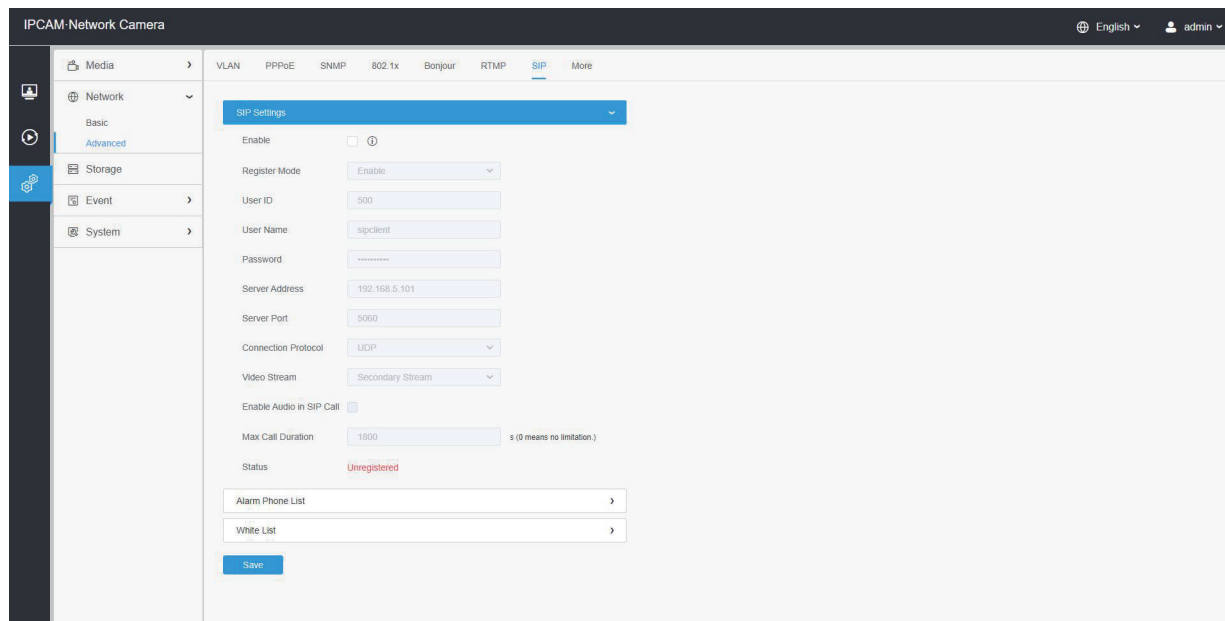



表35. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	SIPの使用を開始または停止します。  注意 : SIPはダイレクトIPコールをサポートしています。
登録モード	有効モードまたは無効モードのどちらを使用するかを選択します。有効モードとは、登録アカウントでSIPを使用することを意味します。無効モードとは、登録アカウントなしでSIPを使用することを指し、IPアドレスを使用して呼び出すだけです。
ユーザーID	SIP ID
ユーザー名	SIPアカウント名
パスワード	SIPアカウントのパスワード
サーバーアドレス	サーバのIPアドレス
server port	サーバポート
接続プロトコル	UDP/TCP
ビデオストリーム	ビデオストリームを選択します。Xストリーム / サブストリーム
コールする音声	SIP通話の音声を有効/無効にします。
最大通話時間	SIPを使用する場合の最大通話時間
ステータス	SIP登録ステータス。「未登録」または「登録済み」を表示します。

[アラーム電話番号リスト]

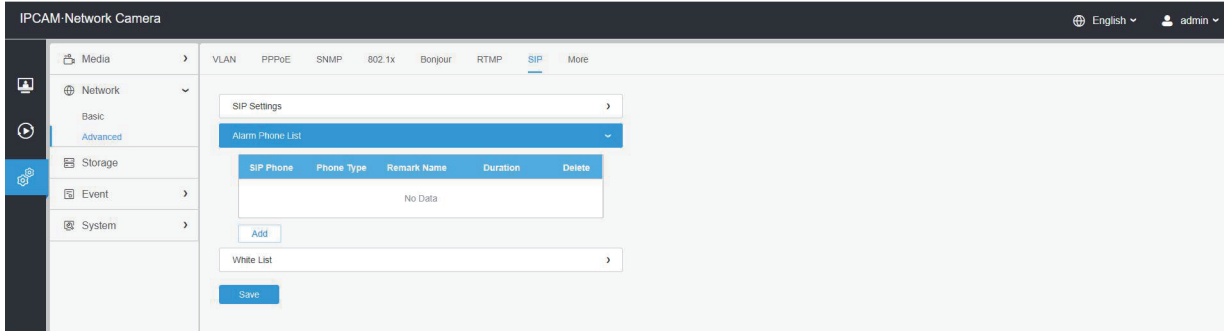




表36. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
追加	<p>カメラにアラーム電話を追加します。</p> <p>電話タイプ: 電話番号（電話番号による通話）とダイレクト IP コール（ピアツーピア IP 通話を受け入れるかどうかを確認してください）。</p> <p>電話番号/IPアドレスへ: 電話番号または IP アドレスでお電話ください。</p> <p>ポート: 初期値 5060 です。</p> <p>備考名称: 表示名。</p> <p>時間設定: SIP を使用するためのタイムスケジュール。</p>
	<p>選択したアラーム電話を削除します。</p>
	<p>追加されたすべてのアラーム電話を削除します。</p>

[ホワイトリスト]

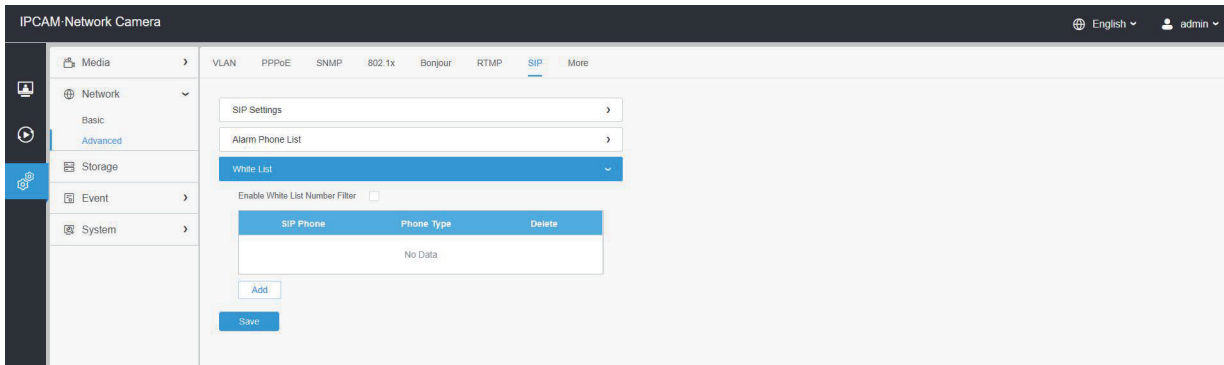


表37. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
ホワイトリスト番号フィルターを有効にする	<p>有効にすると、指定された電話番号または IP アドレスのみがアクセスできます</p>
追加	<p>電話の種類: 電話番号（電話番号による通話） & とダイレクト IP コール</p> <p>電話番号/IPアドレス: ホワイトリストに電話番号または IP アドレスを含めます。</p>

6.2.2.8 その他

ここでは、プッシュメッセージ設定やONVIF設定などのその他の機能を設定できます。

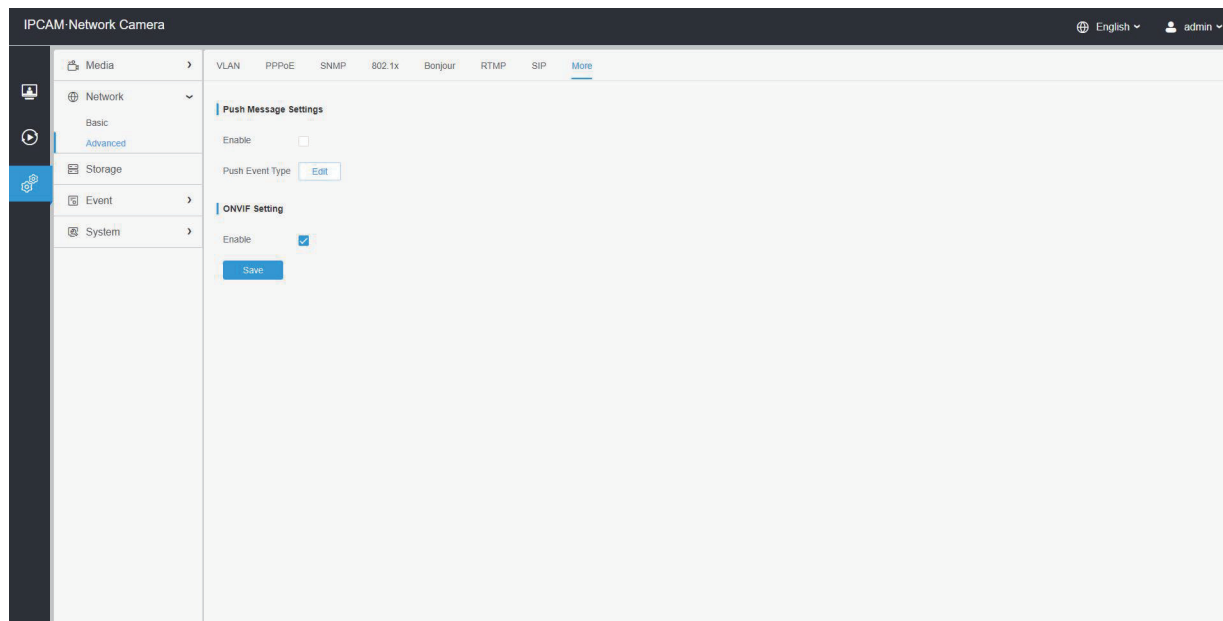


表38. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
<p>プッシュメッセージ設定</p>	<p>有効：プッシュメッセージ機能の有効化/無効化</p> <p>プッシュイベントタイプ： をクリックして、イベントのメッセージのタイプを選択することができます。i-Sightアプリにプッシュされる「イベントの種類」を以下のように示します。</p> 
<p>ONVIF設定</p>	<p>ここでは、カメラのONVIF機能を有効にするか無効にするかを選択できます。カメラのONVIF機能が有効になっている場合は、ONVIFプロトコルを介してサードパーティのソフトウェアで検索、追加、接続できます。通常、ONVIF機能のデフォルトステータスは有効になっています。</p>

6.3 ストレージ

6.3.1 ビデオ

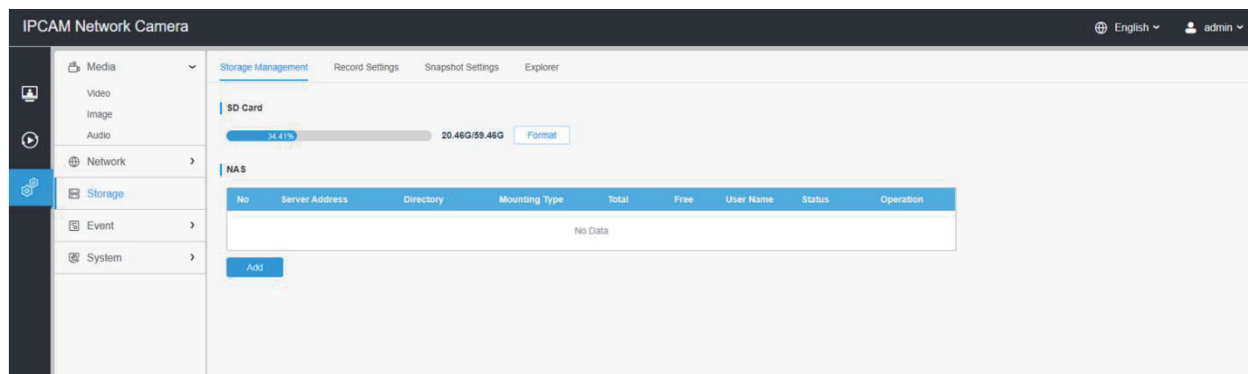


表39. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
SDカード	<p>フォーマット : SDカードをフォーマットすると、SDカード内のファイルが削除されます。</p>
NAS	<p>ネットワークディスクはネットワーク内で利用可能であり、録画されたファイルなどを保存するように適切に設定されている必要があります。</p> <p>NAS (Network-Attached Storage) は、ストレージデバイスを既存のネットワークに接続し、データおよびファイルサービスを提供します。</p> <div data-bbox="496 1050 1294 1442" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;">Add ×</p> <p>Server Address* <input style="width: 80%;" type="text"/></p> <p>Directory* <input style="width: 80%;" type="text"/></p> <p>Mounting Type NFS ▼</p> <p style="text-align: center;"> <input style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px 15px;" type="button" value="Save"/> <input style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px 15px; margin-left: 20px;" type="button" value="Cancel"/> </p> </div> <p>サーバーアドレス : NASサーバーのIPアドレス。</p> <p>ファイルパス : NASディレクトリを入力します (例 : 「\path」) 。</p> <p>マウントタイプ: NFSとSMB/CIFSが利用可能です。また、SMB/CIFSが選択されている場合は、セキュリティを保证するためにユーザー名とパスワードを設定できます。</p> <p> 注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大5台のNASディスクをカメラに接続できます。

6.3.2 録画設定

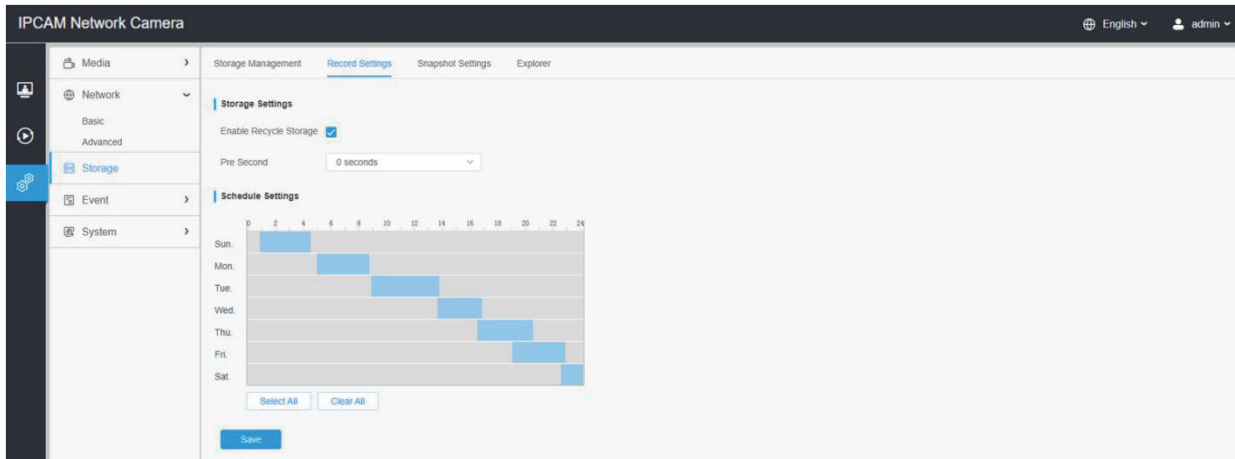
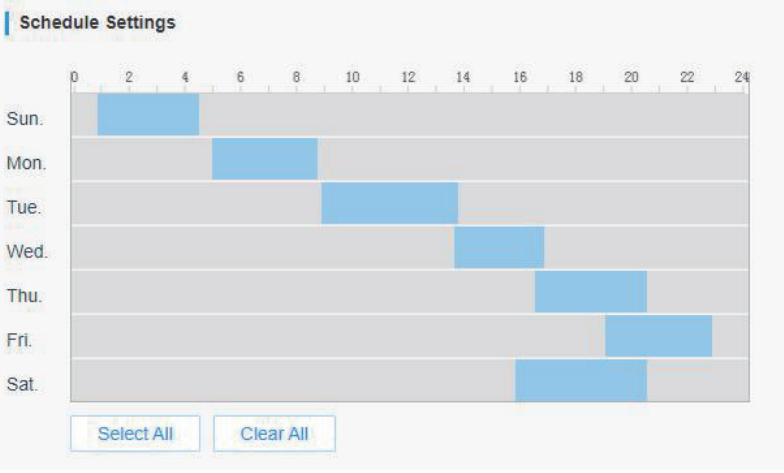
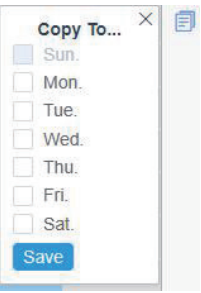
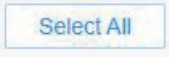




表40. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
上書き録画	リサイクルストレージを有効/無効にします。このオプションを有効にすると、空きディスク容量が特定の値に達したときにファイルが削除されます。
事前録画	アラーム前の録画時間、0～10秒を予約します。
スケジュール設定	<p>必要に応じてレコードスケジュールを編集します。タイムバーを直接描画することによる直感的なスケジューリングが行えます。</p> 
	 <p>スケジュールエリアを別の日付にコピーします。</p>
	 <p>すべてのスケジュールを選択します。</p>
	 <p>すべてのスケジュールをクリアします。</p>
保存	設定を保存します。

 **注意**：SDカードまたはNASが利用可能です。

6.3.3 スナップショット設定

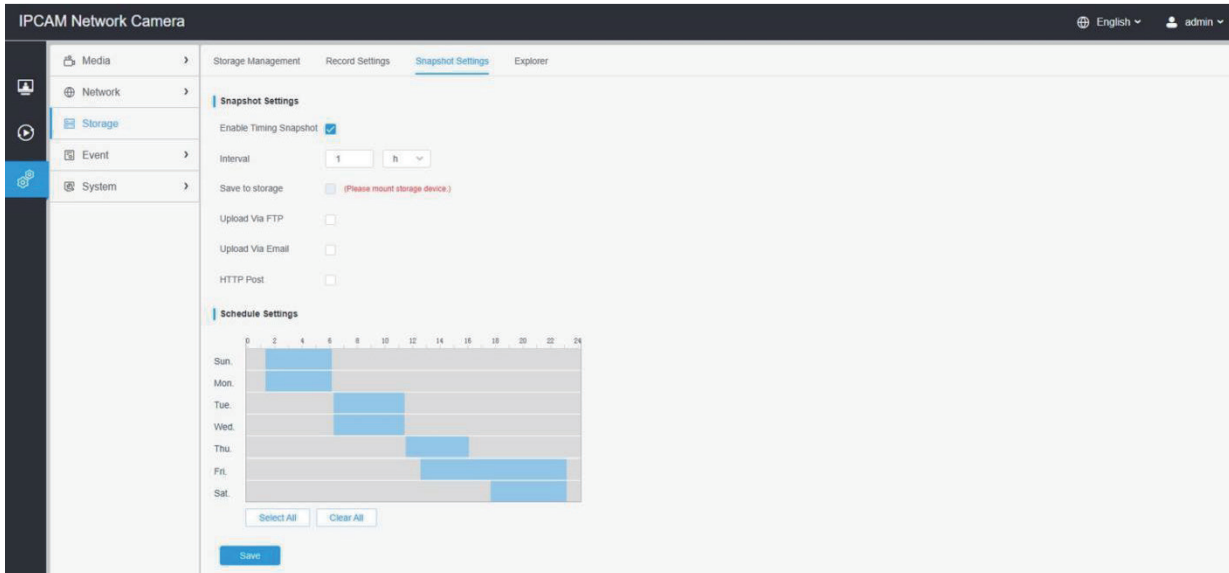


表41. ボタンの説明

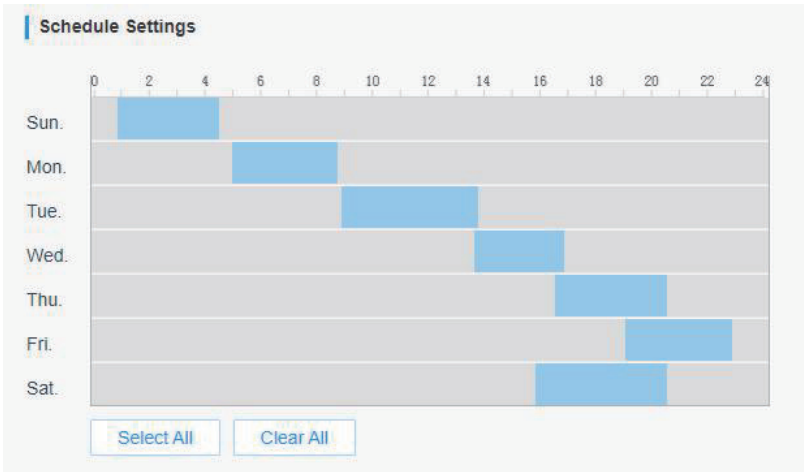
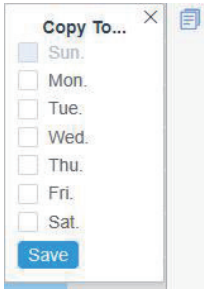

パラメータ	機能紹介
<p>タイミング スナップショット 有効</p>	<p>タイミングスナップショットを有効にする：チェックボックスをオンにして、タイミングスナップショット機能を有効にします</p> <p>間隔：スナップショットの間隔を設定し、数値を入力して、単位（ミリ秒、秒、分、時間、日）を選択します。</p> <p>ストレージに保存：スナップショットをSDカードまたはNASに保存し、ファイル名を選択して時間サフィックスを追加するか、ベースファイル名を上書きします。</p> <p>FTP経由アップロード：FTP経由でスナップショットをアップロードします。</p> <p>メールアップロード：メールでスナップショットをアップロードします。</p> <p>注意：時間サフィックスを追加することを選択した場合、すべてのスナップショット画像が保存されますが、ベースファイル名を上書きすることを選択した場合、最新の画像が1つだけ保存されます。ベースファイル名をSDカードまたはNASに追加上書きを選択すると、スナップショットを配置するための「スナップショット」という名前のファイルが作成されます。</p> <p>HTTPポスト：HTTP Postを介してスナップショットをアップロードします。指定されたHTTPURLへのスナップショットのアップロードをサポートします。</p>
<p>スケジュール設定</p>	<p>必要に応じてレコードスケジュールを編集します。タイムバーを直接描画することによる直感的なスケジューリングが行えます。</p> 

表41. ボタンの説明

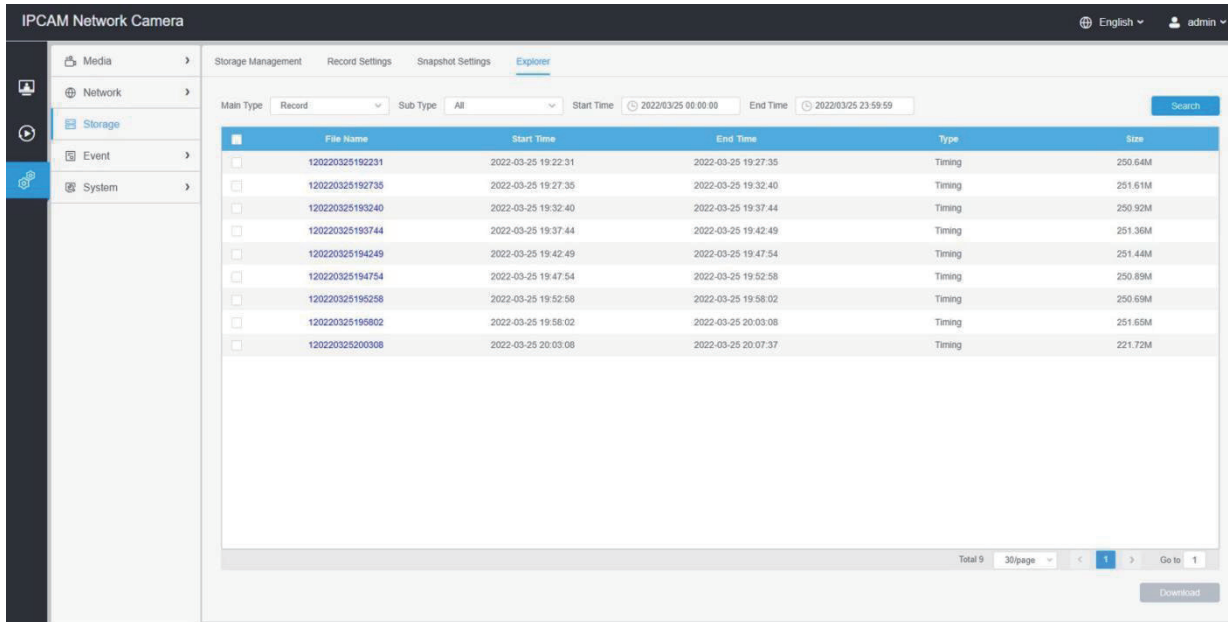
パラメータ		機能紹介
スケジュール設定		スケジュールエリアを別の日付にコピーします。
		すべてのスケジュールを選択します。
		すべてのスケジュールを消去します。
保存	設定を保存します。	

6.3.4 検索

SDカードやNASに保存するように設定すると、このページにファイルが表示されます。毎日録画する時間帯を設定し、動画ファイルを任意の場所に保存することができます。

 **注意：**ファイルはSDカードが挿入されると表示されます。電源投入時にSDカードを抜き差ししないでください。

映像ファイルを日付順に並べることができます。ファイルの種類と開始・終了時刻を設定して、ファイルを検索します。毎日、対応する日付の下にファイルが表示され、ここからファイルのコピーや削除などを行うことができます。SDカード内のファイルは、例えば ftp://username:password@192.168.5.190 (ユーザー名とパスワードはカメラのアカウントと同じで、IPはお使いの端末のIPです)。



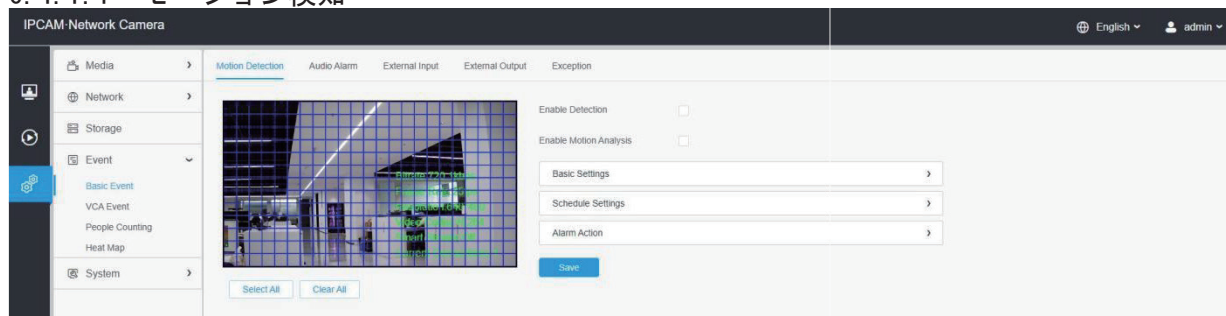
The screenshot shows the 'Explorer' tab in the IPCAM Network Camera interface. It displays a table of recorded files with the following columns: File Name, Start Time, End Time, Type, and Size. The table contains 9 rows of data, all of which are 'Timing' type files recorded on 2022-03-25. The file names are 12-digit hexadecimal strings. The start and end times are in HH:MM:SS format. The sizes range from 221.72M to 251.61M.

File Name	Start Time	End Time	Type	Size
120220325192231	2022-03-25 19:22:31	2022-03-25 19:27:35	Timing	250.64M
120220325192735	2022-03-25 19:27:35	2022-03-25 19:32:40	Timing	251.61M
120220325193240	2022-03-25 19:32:40	2022-03-25 19:37:44	Timing	250.92M
120220325193744	2022-03-25 19:37:44	2022-03-25 19:42:49	Timing	251.36M
120220325194249	2022-03-25 19:42:49	2022-03-25 19:47:54	Timing	251.44M
120220325194754	2022-03-25 19:47:54	2022-03-25 19:52:58	Timing	250.89M
120220325195258	2022-03-25 19:52:58	2022-03-25 19:58:02	Timing	250.69M
120220325195802	2022-03-25 19:58:02	2022-03-25 20:03:08	Timing	251.65M
120220325200308	2022-03-25 20:03:08	2022-03-25 20:07:37	Timing	221.72M

6.4 イベント

6.4.1 基本イベント

6.4.1.1 モーション検知



設定手順を以下に示します。


ステップ1：チェックボックスをオンにすると、モーション検知機能が有効になります。

ステップ2：モーション解析を行う場合は、チェックボックスにチェックを入れます。

ステップ3：検出モードを選択します。

ステップ4：モーションエリアを設定する。

表 42. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
E モーション検知使用	チェックボックスをオンにして、モーション検知機能を有効にします。
モーション分析使用	<p>モーション解析を有効にすると、動いているエリアが黄色く表示され、どこに動きがあったかを正確に把握することができます。</p> <p>注意：ライブビューでHTTPを選択した場合のみ対応。</p> 
すべて選択	ボタンをクリックすると、そのエリアの動きが検出されます。
すべて消去	ボタンをクリックすると、それまで描かれていたエリアが削除されます。
保存	設定を保存します。

[基本設定]

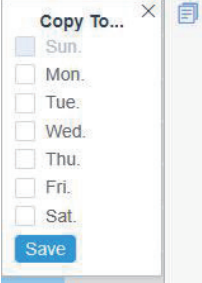


表43. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
モード	オプションで一般モードと高度モードが選択可能です。高度モードを選択した場合、ユーザーは最大4つの検出エリアと各検出エリアに対する感度を設定することができます。
感度	感度レベル、1~10
Onvif Motion 動作領域設定	オプションには、標準と適合があります。サードパーティ製ソフトウェアの動作エリアの設定が当社と異なる場合は、このオプションをCompatibleに設定してください。

[スケジュール設定]

ステップ5: モーション検知のスケジュールを設定する。

表44. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
	<p>スケジュールエリアを別の日付にコピーする。</p>
	<p>すべてのスケジュールを選択します。</p>
	<p>すべてのスケジュールを消去します。</p>

[アラーム時の動作]

ステップ6 : アラーム時の動作を設定します。

Enable Detection

Enable Motion Analysis

Basic Settings >

Schedule Settings >

Alarm Action ^

Record >

Snapshot >

External Output >

Play Audio (Please enable the Audio Speaker.)

Alarm to SIP Phone (Please open the SIP.)

HTTP Notification >

Save

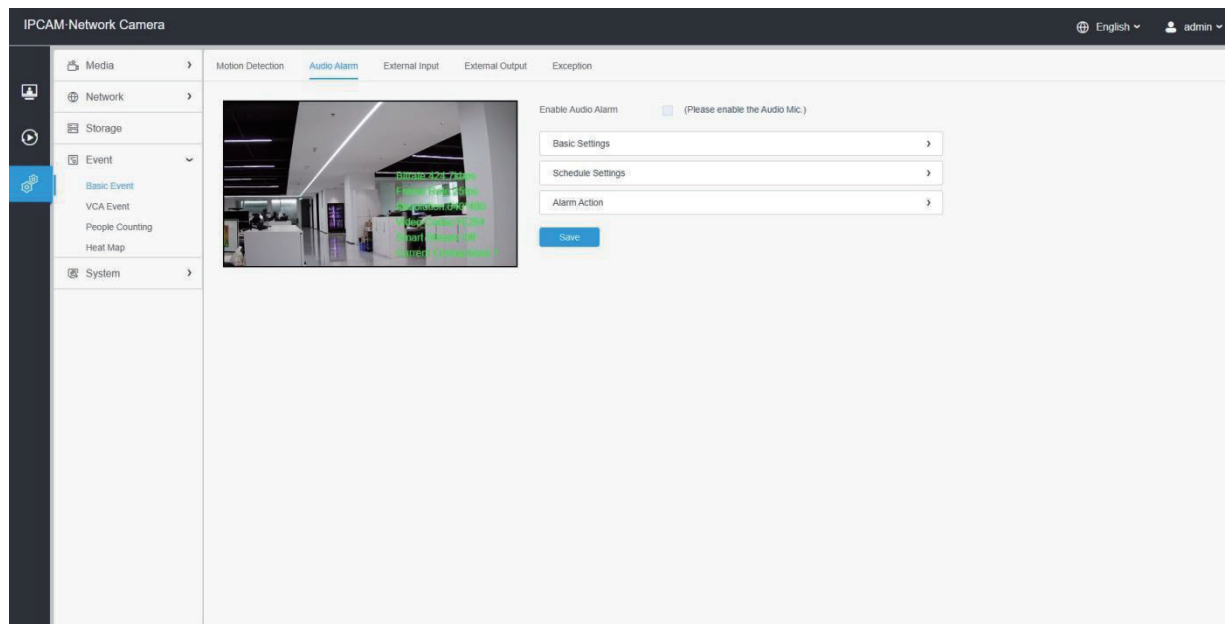
表45. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
録画	<p>継続時間: アラームの継続時間を選択しました。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が選択可能です。</p> <p>リング: アラーム録画ファイルをSDカードやNASに保存したり、FTPで録画ファイルをアップロードすることができます。</p>
スナップショット	<p>Number: スナップショットの数、1~5が利用可能です。</p> <p>間隔: Snapshot 2 以上の場合、編集することができます。</p> <p>リング: SDカードやNASにアラーム録画ファイルを保存し、FTPで録画ファイルをアップロードし、アラームメールを送信します。</p>
外部出力	<p>カメラに外部出力が装備されている場合、トリガ期間を設定した後にアクションを有効にすることができます。</p>
オーディオを再生する	<p>AUTO/10秒/30秒/1min./5min./10min. が選択可能です。</p> <p>注意: オーディオスピーカを有効にしてください。</p>
SIPフォンへのアラーム	<p>SIP機能を有効にした後、SIP電話を呼び出すことをサポートします。</p>
HTTP通知	<p>指定したHTTP URLにアラームニュースをポップアップする機能をサポート。</p> <p>注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じイベントには最大で3つのHTTP通知を追加することができます。 ・HTTP NotificationはBasic認証とDigest認証に対応しています。
ホワイトLED	<p>アラームが作動すると、ホワイトLEDが点灯し、検出された物体に警告を発します。</p> <p>注意: PTZバレットのみ。</p>
PTZモーション	<p>モーションアラームが作動すると、PTZ Motionにより、カメラはレンズをモーショントリガーされた位置に移動し、ズームインすることができます。</p> <p>注意: PTZバレットのみ。</p>
コールプリセット/コールパトロール/コールパターン (外部入力のみ)	<p>モーションアラームがトリガーされると、指定されたプリセット/パトロール/パターンを呼び出すことができます。</p> <p>注意: PTZバレットのみ。</p>

6.4.1.2 音声アラーム

音声アラーム機能を有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れます。

注意 : 音声アラーム機能を使用する前に、オーディオマイクを有効にしてください。



[基本設定]

表 46. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
音声アラーム有効	チェックボックスをオンにして音声アラーム機能を有効にします。
アラーム閾値	音声アラームは、0~100のしきい値に達したときに発生します。
音声サンプル値	オーディオサンプルの現在値。

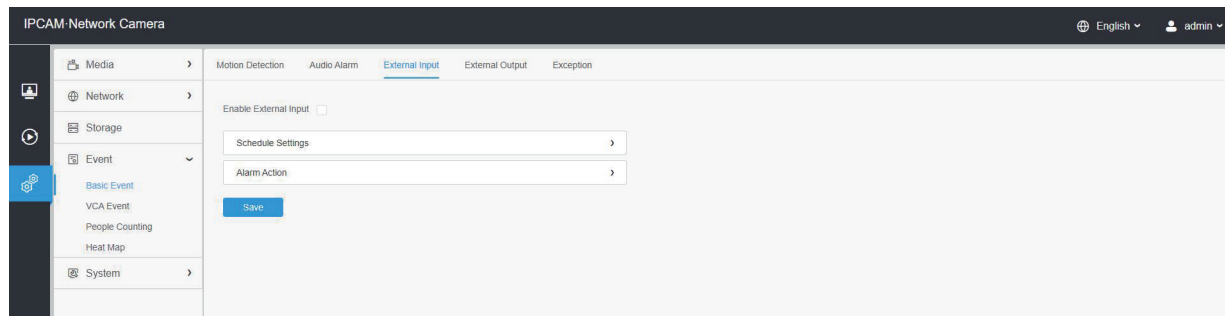
[スケジュール設定]

項目の意味については、表3 をご参照ください。

[アラーム時の動作]

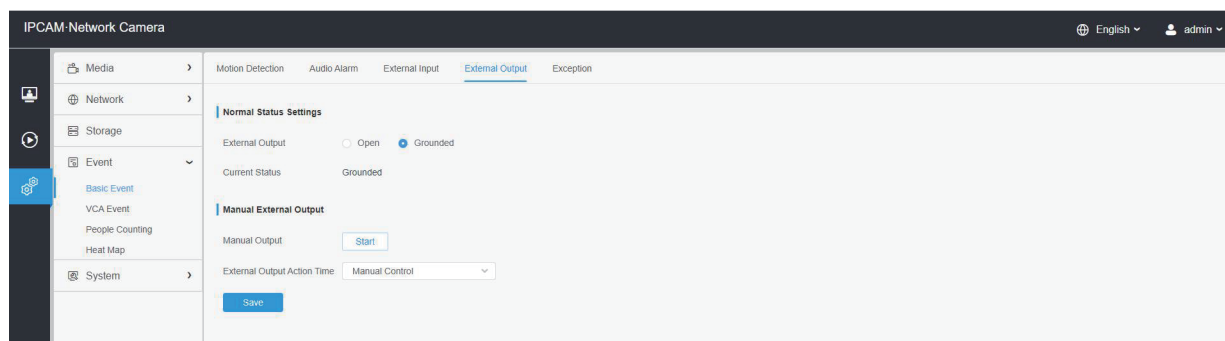
項目の意味については、表4 をご参照ください。

6.4.1.3 外部入力



項目の意味については、表3 をご参照ください。

6.4.1.4 外部出力



[通常状態の設定]

現在の状態が正常な状態と異なる場合、アラームが発生します。

[手動外部出力]

手動外部出力を設定することができます。

表 47. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
手動出力	クリックすると、手動外部出力の開始/停止ができます。
外部出力動作時間	手動制御 / カスタマイズ / 10 秒 / 1min. / 5min. / 10min. も可能です。

6.4.1.5 アラームその他

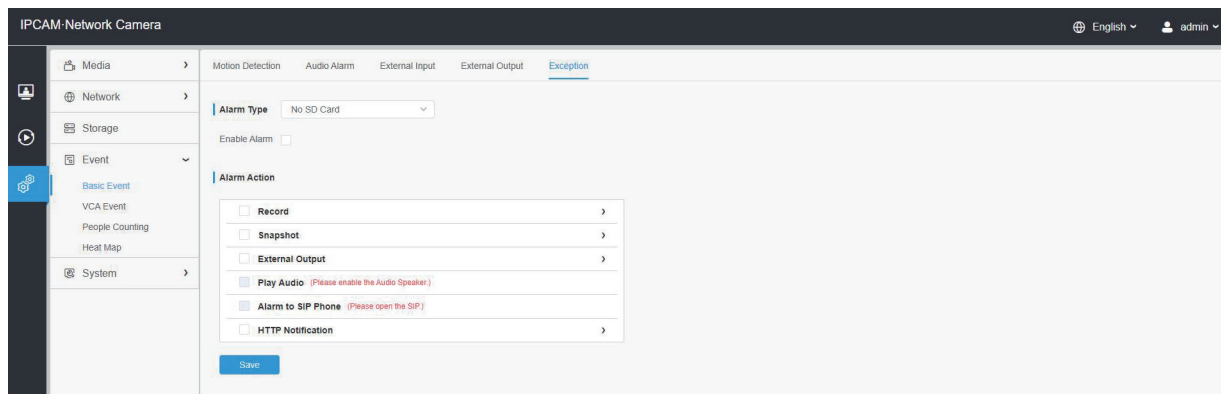


表 48. ボタンの説明

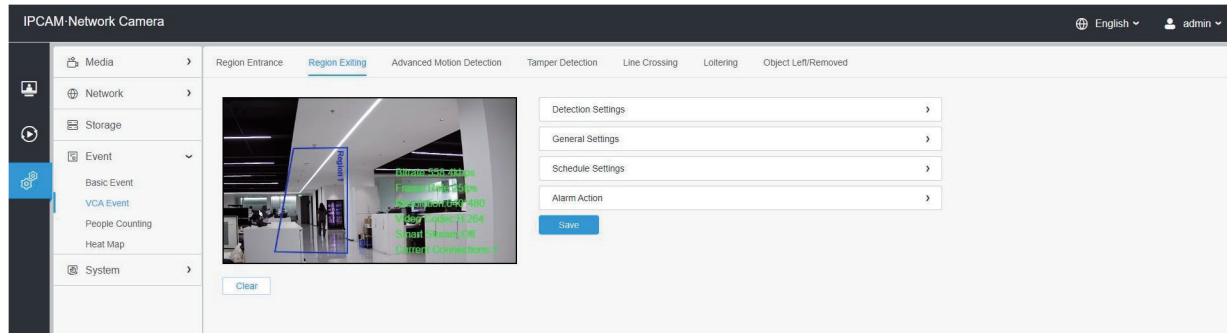
パラメータ	機能紹介
アラームタイプ	<p>ネットワーク切断、IPアドレス競合、録画失敗、SDカード満杯、SDカード未初期化、SDカードエラー、SDカードなしが利用可能です。</p> <p>選択したアラームの種類を有効にするチェックボックスをオンにする</p>
アラーム時の動作	<p>項目の意味については、表3（105ページ）をご参照ください。</p>

6.4.2 VCAイベント

Smart Eventは、ネットワークカメラに高度で正確なスマートビデオ解析を提供するVCA (Video Content Analysis) 技術を使用しています。AIチップを搭載した新世代のビデオ解析は、人間、車両、物体パターン認識モデルの膨大な属性を認識することが可能です。車両や人に関連するイベントは、セキュリティ監視において非常に重要であるため、フィルタリングをサポートし、より効率的に最適化します。

6.4.2.1 エリア侵入検知

侵入検知は、不審者や物体の侵入による潜在的な脅威から特定のエリアを保護するのに役立ちます。侵入検知を有効にすると、選択したエリアに物体が侵入した際にアラームが作動します。



設定手順を以下に示します。

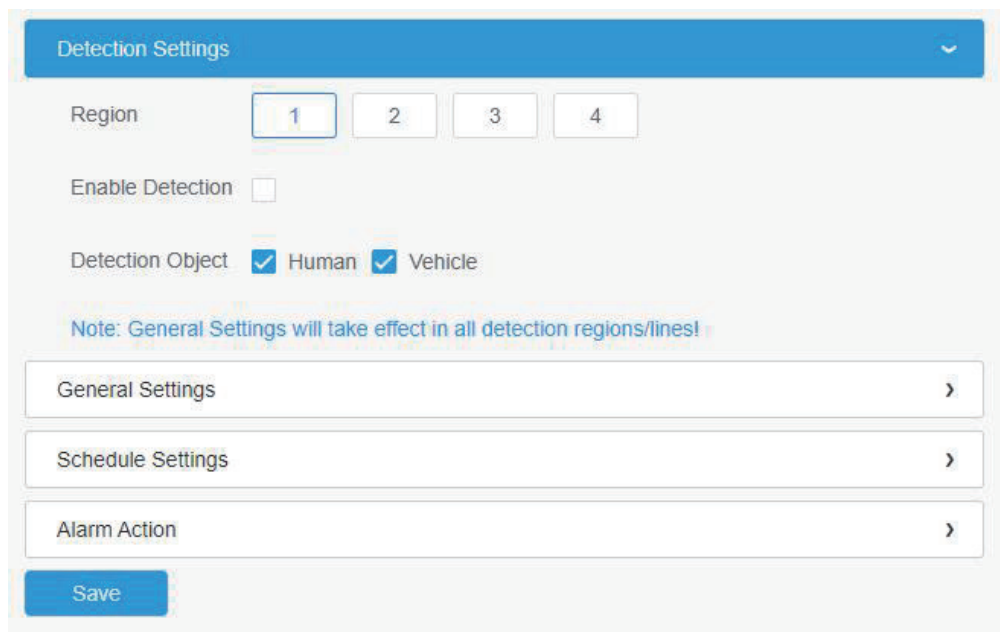
[検出設定]

注意：一般設定は、すべての検出エリア/ラインに適用されます

ステップ1： 検出エリアを選択し、侵入検知を有効にします。

注意：通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出エリアを設定することをサポートします。Advanced Mode (PTZシリーズのみ) を選択した場合、異なるPTZプリセット (今のところプリセット1~4のみサポート) の検出エリアの設定をサポートします。そして、オブジェクトのサイズ制限を設定します。

ステップ2： 検出オブジェクトを選択します。人または車両属性をチェックすると、カメラは人または車両を検出するとアラームを発し、関連イベントをトリガーします。



[一般設定]

ステップ3：検出感度と対象物のサイズ制限を設定します。

Detection Settings

General Settings

Sensitivity 5

Object Size Limits

Edit

Min. Size 3 * 3 Pixels (1*1~320*240)

Max. Size 320 * 240 Pixels (1*1~320*240)

Note: General Settings will take effect in all detection regions/lines!

Schedule Settings

Alarm Action

Save

表 49. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。 数値が高いほど感度が高くなります。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ4：検出スケジュールを設定する。

Detection Settings

General Settings

Schedule Settings

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24

Sun.

Mon.

Tue.

Wed.

Thu.

Fri.

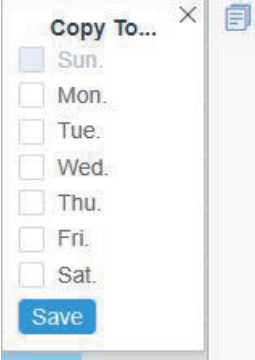
Sat.

Select All Clear All

Alarm Action

Save

表50 ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
	<p>スケジュールエリアを別の日付にコピーする。</p>
<p>すべて選択</p>	<p>すべてのスケジュールを選択します。</p>
<p>すべて消去</p>	<p>すべてのスケジュールを消去します。</p>

[アラーム時の動作]

ステップ5 : アラームの動作を設定します。

Detection Settings >

General Settings >

Schedule Settings >

Alarm Action

- Record** >
- Snapshot** >
- External Output** >
- Play Audio** (Please enable the Audio Speaker.)
- Alarm to SIP Phone** (Please open the SIP.)
- HTTP Notification** >
- White LED** >
- PTZ Auto Tracking** (Please Enable the Auto Tracking)

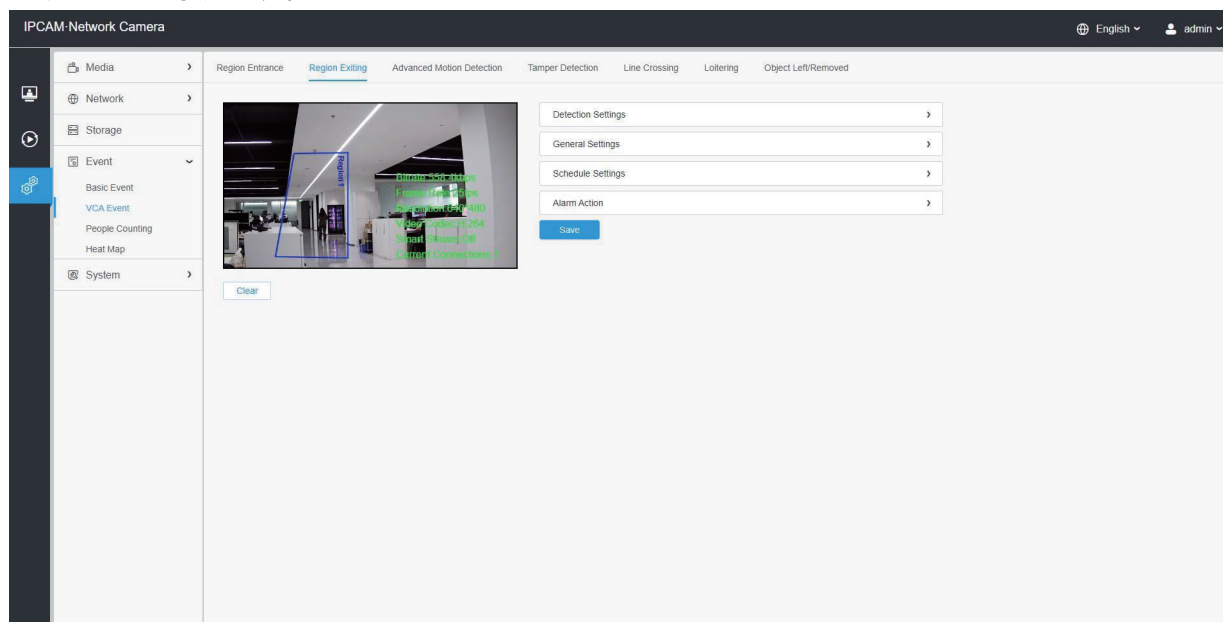
Save

表 51. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
録画	<p>継続時間: アラームの継続時間を選択しました。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が選択可能です。</p> <p>リング: アラーム録画ファイルをSDカードやNASに保存したり、FTPで録画ファイルをアップロードすることができます。</p>
スナップショット	<p>Number: スナップショットの数、1~5が利用可能です。</p> <p>間隔: Snapshot 2 以上の場合、編集することができます。</p> <p>リング: SDカードやNASにアラーム録画ファイルを保存し、FTPで録画ファイルをアップロードし、アラームメールを送信します。</p>
外部出力	<p>カメラに外部出力が装備されている場合、トリガ期間を設定した後にアクションを有効にすることができます。</p>
音声再生	<p>オート/10秒/30秒/1分/5分/10分が選択可能です。</p> <p>注意: オーディオスピーカを有効にしてください。</p>
SIP フォンにアラーム	<p>SIP機能を有効にした後、SIP電話を呼び出すことをサポートします。</p>
HTTP通知	<p>指定したHTTP URLにアラームニュースをポップアップする機能をサポート。</p> <p>注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じイベントには最大で3つのHTTP通知を追加することができます。 • HTTP NotificationはBasic認証とDigest認証に対応しています。
ホワイトLED	<p>アラームが作動すると、ホワイトLEDが点灯し、検出された物体に警告を発します。</p> <p>注意: PTZバレットのみ。</p>
PTZモーション	<p>モーションアラームが作動すると、PTZ Motion により、カメラはレンズをモーショントリガーされた位置に移動し、ズームインすることができます。</p> <p>注意: PTZバレットのみ。</p>
コールプリセット/コールパトロール/コールパターン (外部入力のみ)	<p>モーションアラームがトリガーされると、指定されたプリセット/パトロール/パターンを呼び出すことができます。</p> <p>注意: PTZバレットのみ。</p>

6.4.2.2 エリア離脱検知

エリア離脱検知とは、監視エリアから人や物が出ないようにすることです。人や物が外に出ると、アラームが鳴ります。



設定手順を以下に示します。

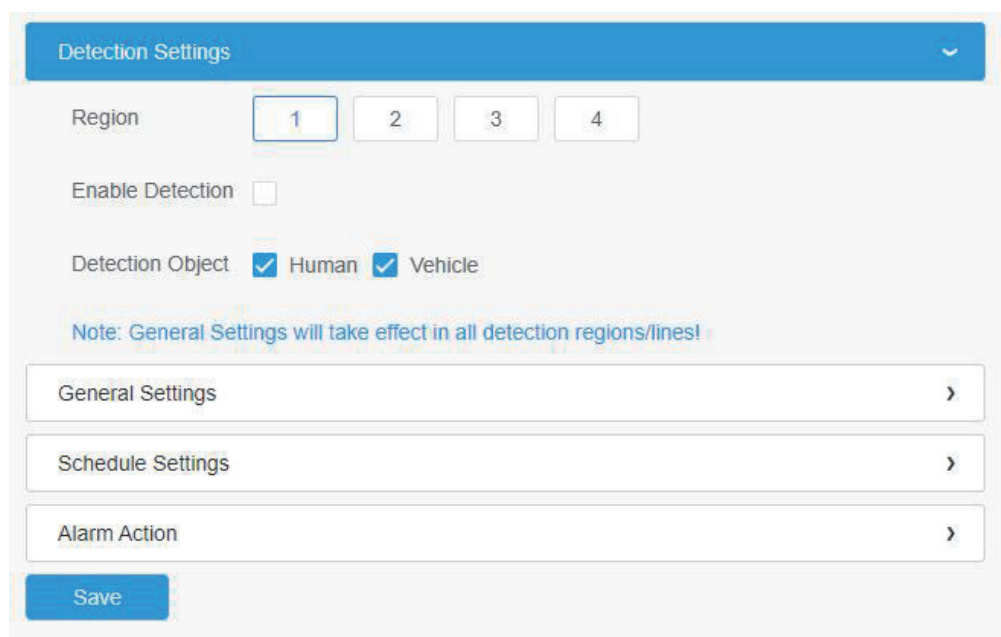
[検出設定]

注意：一般設定は、すべての検出エリア/ラインに適用されます

ステップ1： 検出エリアを選択し、退出検知を有効にする。

注意：通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出エリアを設定することをサポートします。Advanced Mode (PTZシリーズのみ) を選択した場合、異なるPTZプリセット (今のところプリセット1~4のみサポート) の検出エリアの設定をサポートします。そして、オブジェクトのサイズ制限を設定します。

ステップ2： 検出オブジェクトを選択します。人または車両属性をチェックすると、カメラは人または車両を検出するとアラームを発し、関連イベントをトリガーします。



[一般設定]

ステップ3： 検出感度と対象物のサイズ制限を設定します。

Detection Settings

General Settings

Sensitivity 5

Object Size Limits

Edit

Min. Size 3 * 3 Pixels (1*1~320*240)

Max. Size 320 * 240 Pixels (1*1~320*240)

Note: General Settings will take effect in all detection regions/lines!

Schedule Settings

Alarm Action

Save

表 52ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。 数値が高いほど感度が高くなります。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ4：検出スケジュールを設定します。

Detection Settings

General Settings

Schedule Settings

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24

Sun.

Mon.

Tue.

Wed.

Thu.

Fri.

Sat.

Select All Clear All

Alarm Action

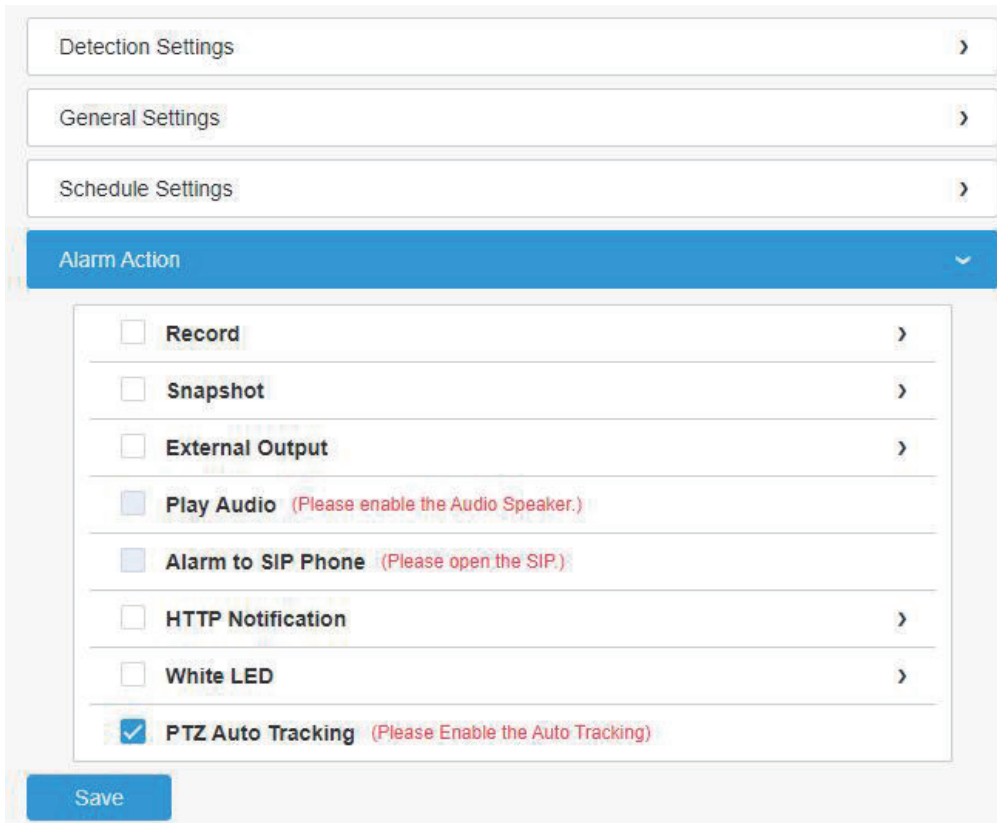
Save

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

ステップ5：アラーム時の動作を設定します。



Detection Settings >

General Settings >

Schedule Settings >

Alarm Action ▾

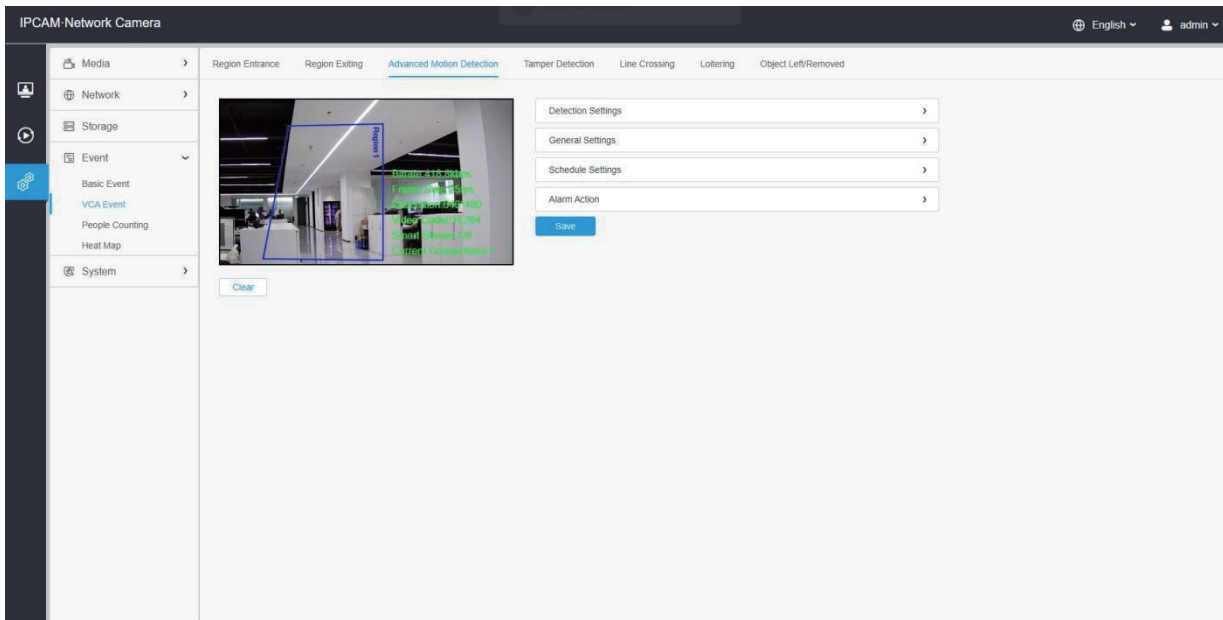
- Record >
- Snapshot >
- External Output >
- Play Audio (Please enable the Audio Speaker.)
- Alarm to SIP Phone (Please open the SIP.)
- HTTP Notification >
- White LED >
- PTZ Auto Tracking (Please Enable the Auto Tracking)

Save

注意：この部分は、通常のアラーム設定と同じです。

6.4.2.3 高度なモーション検知

従来のモーション検知とは異なり、高度なモーション検知では、照明の変化や自然な木の動きなどの「ノイズ」を除去できます。オブジェクトが選択したエリアを移動すると、アラームが発報されます。



設定手順を以下に示します。

ステップ1：検知エリアを選択し、高度なモーション検知を有効にする。

注意：通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出エリアを設定することをサポートします。Advanced Mode (PTZシリーズのみ) を選択した場合、異なるPTZプリセット（今のところプリセット1~4のみサポート）の検出エリアの設定をサポートします。そして、オブジェクトのサイズ制限を設定します。

ステップ2：検出オブジェクトを選択します。人または車両属性をチェックすると、カメラは人または車両を検出するとアラームを発し、関連イベントをトリガーします。

[一般設定]

ステップ3：「短時間モーションを無視する」時間を設定します。この時間を設定すると、物体の移動時間が設定時間内であれば、アラームは作動しません。

ステップ4：検出感度と対象物のサイズ制限を設定します。

表 53. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
短時間モーションを無視する	物体の移動時間が設定時間内であれば、アラームは作動しません。オフ / 1 秒 / 2 秒 / 3 秒 / 4 秒 / 5 秒が選択可能です。 注意： 短時間モーションを無視することは、設定時間内に瞬時に物体が動くことによる誤報を避けるためのものです。
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。数値が大きいほど感度が上がります。 注意： 感度は、さまざまな要件に応じて、さまざまな動きを検出するように設定することができます。感度のレベルが低い場合、わずかな動きではアラームをトリガーしません。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ5：検出スケジュールを設定する。

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

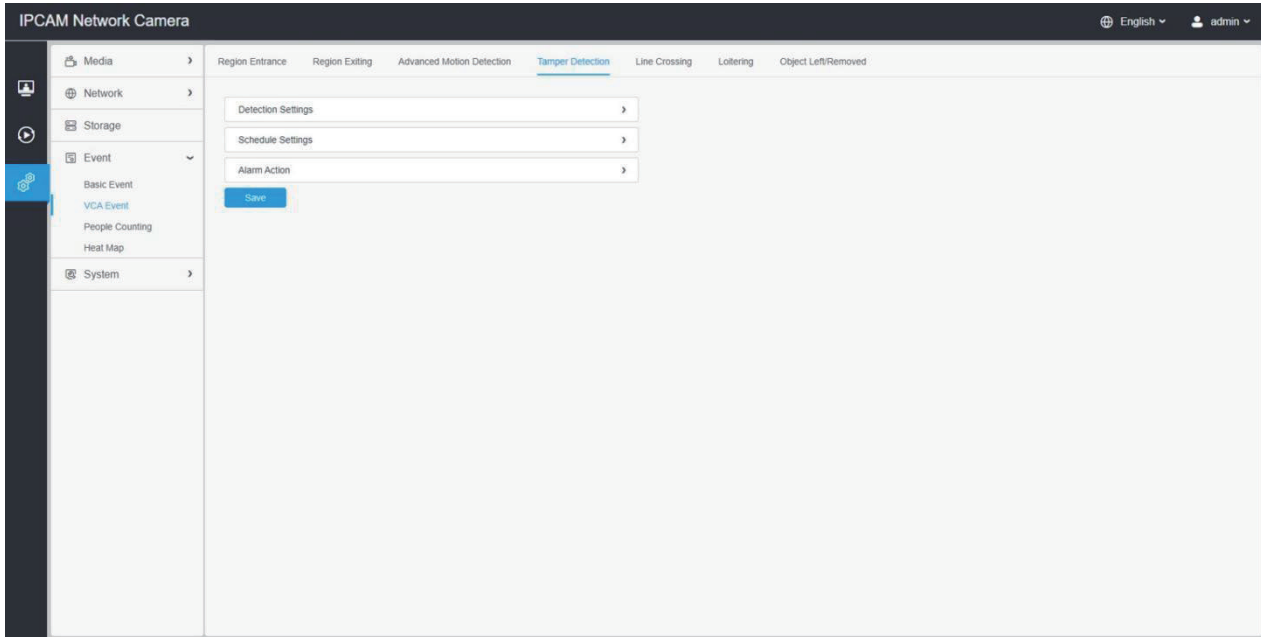
ステップ6：アラーム時の動作を設定します。

注意：この部分は、通常のアラーム設定と同じです。

- 外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択すると、物体の動作時間が選択エリアで設定した短時間モーション無視より長い場合、外部出力動作アラーム時間はアラームが解除されるまで常に一定に保たれます。

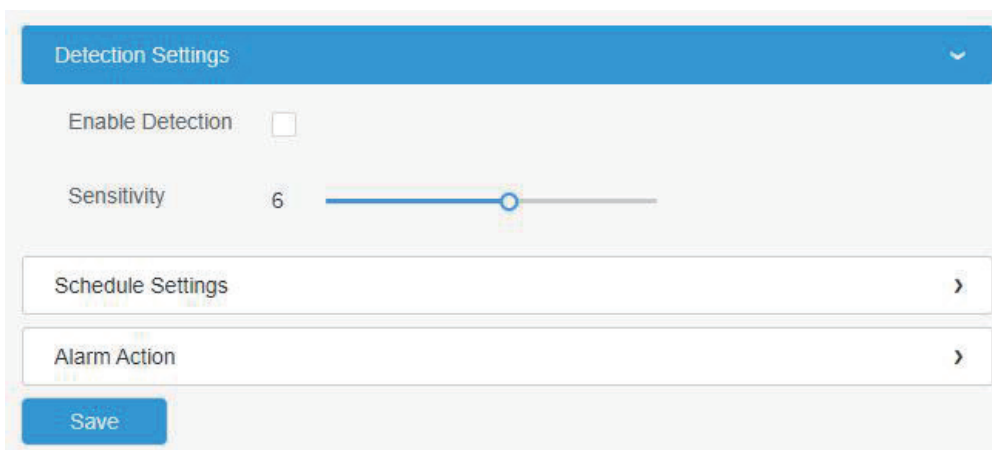
6.4.2.4 妨害検知

妨害検知は、カメラのピントが合っていない、障害物がある、動いているなど、妨害の可能性を検知するために使用されます。この機能は、上記のようなアクションが発生した場合、セキュリティスタッフに即座に警告を発します。



設定手順を以下に示します。

ステップ1：妨害検知を有効にし、検出感度を設定します。



[スケジュール設定]

ステップ2：検出スケジュールを設定します。

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

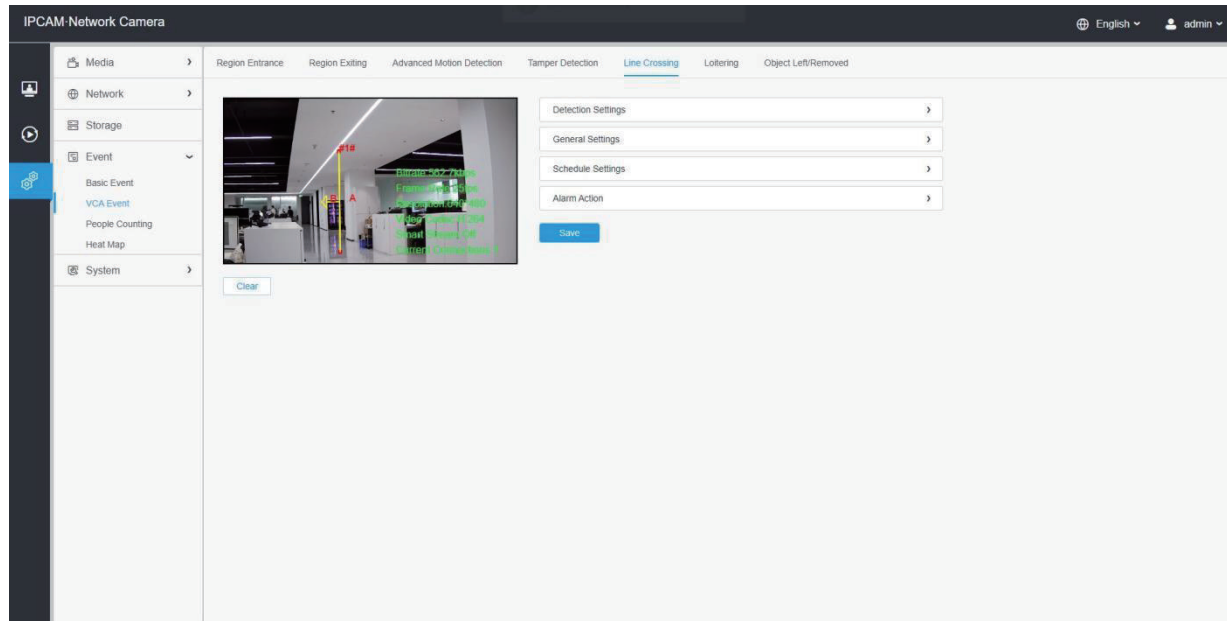
ステップ3：アラーム時の動作を設定します。

注意：

- この部分は、通常のアラーム設定と同じです。
- 外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択すると、妨害がある場合、外部出力動作のアラームはアラームが解除されるまで常に一定になります。
- また、妨害検知機能では、デフォーカス検出をサポートしています。

6.4.2.5 境界線 NO 検出

境界線 NO 検出は、ほとんどの屋内および屋外環境で動作するように設計されています。カメラが定義された仮想線を横切る物体を検出すると、毎回イベントがトリガーされます。



設定手順を以下に示します。

[検出設定]

ステップ1：検出ラインを選択し、ラインクロス検出を有効にし、その方向を定義します。

注意：

- **Normal Mode**を選択した場合、現在のエリアに対する検出エリアの設定をサポートします。アドバンスモード（PTZシリーズのみ）を選択すると、異なるPTZプリセット（今のところプリセット1~4のみサポート）の検出エリアの設定をサポートします。そして、オブジェクトのサイズ制限を設定します。
- 一度に最大4ラインまで設定可能。アラームのトリガーには3つの方向モードがあります。「A→B」は、A側からB側へのラインを横切る物体があると、アラームが作動します。「B→A」はその逆です。「A↔B」は、どちらかの側からオブジェクトがラインを横切ったときにアラームがトリガーされることを意味します。

ステップ2：検出オブジェクトを選択します。人または車両属性をチェックすると、カメラは人または車両を検出するとアラームを発し、関連イベントを発報します。

[一般設定]

ステップ3：検出感度と対象物のサイズ制限を設定します。

表 54. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。 感度が高いほど、少ない動きでも反応しやすくなります。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ4：検出スケジュールを設定する。

Detection Settings >

General Settings >

Schedule Settings v

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24

Sun.

Mon.

Tue.

Wed.

Thu.

Fri.

Sat.

Select All Clear All

Alarm Action >

Save

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

5.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

ステップ5：アラームの動作を設定します。

Detection Settings >

General Settings >

Schedule Settings >

Alarm Action v

Record >

Snapshot >

External Output >

Play Audio (Please enable the Audio Speaker.)

Alarm to SIP Phone (Please open the SIP.)

HTTP Notification >

White LED >

PTZ Auto Tracking (Please Enable the Auto Tracking)

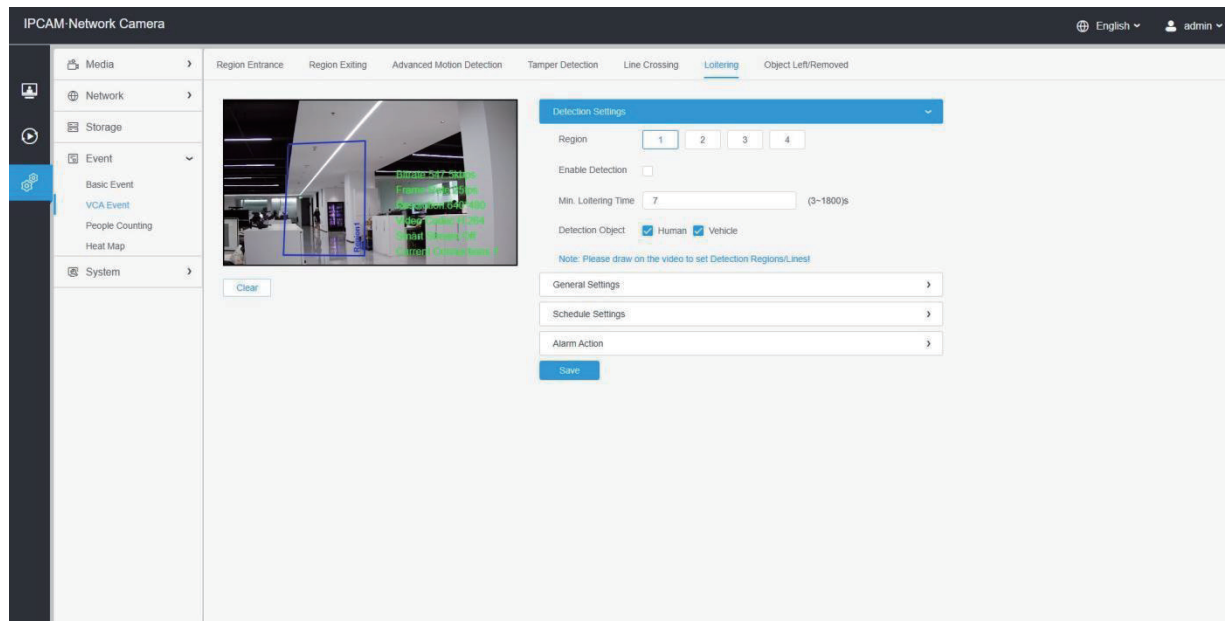
Save

注意：

- この部分は、通常のアラーム設定と同じです。
- PTZ自動追尾を有効にすると、カメラは自動的にオブジェクトを追尾し、定義された仮想線を横切るオブジェクトを検出するとアラームをトリガーします。
- 外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択すると、オブジェクトが定義された仮想線を横切ったとき、外部出力動作アラームはアラームが解除されるまで常に一定となります。

6.4.2.6 滞留検知

決められたエリアに一定時間、被写体がうろつくと、アラーム発報します。



設定手順を以下に示します。

[検出設定]

注意：一般設定は、すべての検出エリア/ラインに適用されます。

ステップ1：検出エリアを選択し、滞留検出を有効にする。

注意：通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出エリアを設定することが可能です。高度なモード **Advanced Mode** (PTZシリーズのみ) 対応しています。

ステップ2：最小滞留時間を設定します。滞留時間を設定します。3秒から1800秒の間で最小滞留時間を設定すると、最小滞留時間を超えて選択したエリアを滞留している物体があれば、アラームが発報します。

ステップ3：検出オブジェクトを選択します。人または車両属性をチェックすると、カメラは人または車両を検出するとアラームを発し、関連イベントをトリガーします。

[一般設定]

ステップ4：オブジェクトのサイズ制限を設定する。

表 55. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ5：検出スケジュールを設定する。

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

ステップ5 : アラームの動作を設定します。

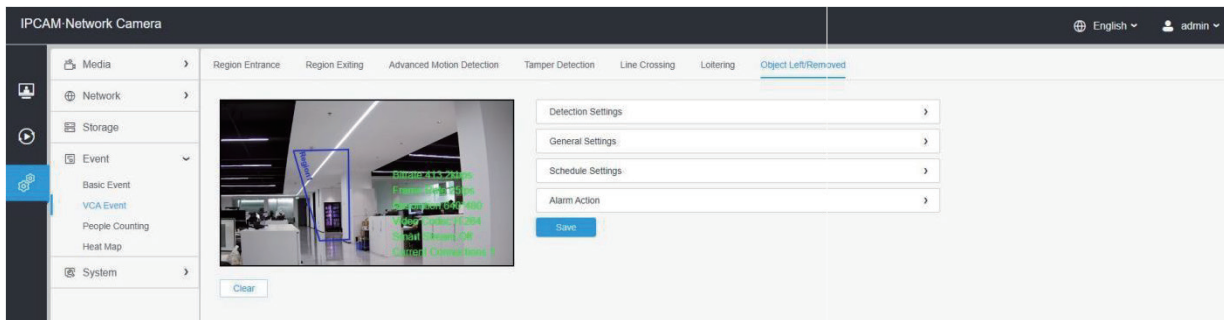
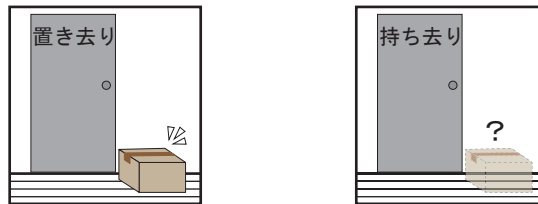
注意 :

ステップ6 : アラームを設定します。外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択すると、選択したエリアに物体が滞留した場合、アラームが解除されるまで外部出力動作のアラーム時間が常に一定になります。

6.4.2.7 置き去り / 持ち去り検知

置き去り検知は、オブジェクトが事前に定義された検索エリアに残された場合に検出され、アラームが発報します。

持ち去り検知は、オブジェクトが事前に定義された検索エリアから削除された場合、検出されアラームが発報します。



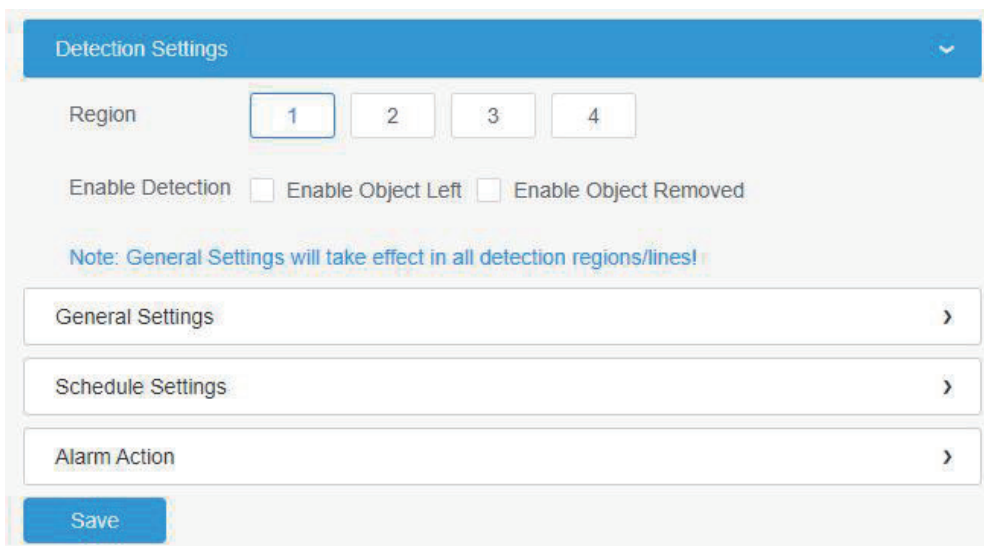
設定手順を以下に示します。

[検出設定]

注意 : 一般設定は、すべての検出エリア/ラインに適用されます

ステップ1 : 検出エリアを選択し、置き去り/持ち去り検知を有効にします。
(または、両方の機能を同時に有効にすることができます)

注意 : 通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出エリアを設定することが可能です。高度なモード Advanced Mode (PTZシリーズのみ) 対応しています。



[一般設定]

ステップ2：最小時間、検出感度、物体サイズの制限を設定します。

Detection Settings >

General Settings ▾

Min. Time (5~1800)s

Sensitivity 5

Object Size Limits

Min. Size * Pixels (1*1~320*240)

Max. Size * Pixels (1*1~320*240)

Note: General Settings will take effect in all detection regions/lines!

Schedule Settings >

Alarm Action >

表56. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
最小時間	最小時間を5秒から1800秒の間で設定した後、最小時間を超えて選択したエリアに物体を置いたり、取り除いたりすると、アラームが作動します。
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。感度が高いほど、動きのある被写体が結果に録画されやすくなります。 注意： 感度は、さまざまな要件に応じて、さまざまな動きを検出するように設定することができます。感度のレベルが低い場合、わずかな動きではアラームを発報しません。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ4：検出スケジュールを設定する。

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

ステップ6: アラーム時の動作を設定します。

注意:

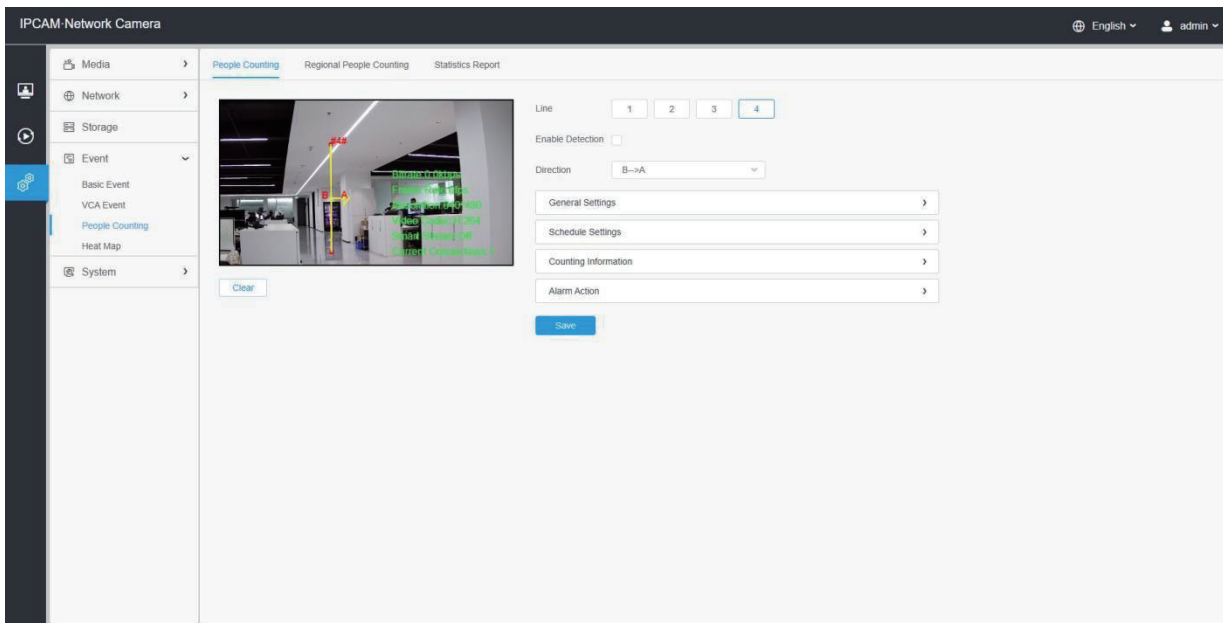
- この部分は、通常のアラーム設定と同じです。
- 外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択すると、選択したエリアからオブジェクトが離脱した場合、外部出力動作アラームはアラームが解除されるまで常に一定となります。

6.4.3 人数カウント

6.4.3.1 人数カウント

人数カウントは、設定した時間内に何人ぐらいが出入りしたかをカウントすることができます。

注意: カメラが人数カウントに対応しているかどうかを確認してください。



設定方法は以下の通りです。

ステップ1: 人数カウントを有効にする。

ステップ2: 検出ラインと方向を設定します。

注意:

- 矢印の方向に沿って交差すると「In」、反対方向は「Out」として録画されます。
- 最大4本の検出ラインに対応します。

[一般設定]

ステップ3: 感度とオブジェクトサイズの制限を設定する。

注意: 通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出エリアを設定することが可能です。高度なモード Advanced Mode (PTZシリーズのみ) 対応しています。

Line: 1, 2, 3, 4

Enable Detection:

Direction: B->A

General Settings

Sensitivity: 5

Object Size Limits

Edit

Min. Size: 3 * 3 Pixels (1*1~320*240)

Max. Size: 320 * 240 Pixels (1*1~320*240)

Note: General Settings will take effect in all detection regions/lines!

Schedule Settings >

Counting Information >

Alarm Action >

Save

表 57. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。 数値が大きくなるほど、感度が高くなります。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ4: 検出スケジュールを設定する。

注意: この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[情報計算中]

ステップ5 : 情報計算中を設定する。

Counting Information

Count Type All

In Out Sum Capacity

Total Counting ⓘ

Show OSD

Font Size

Font Color

Text Position

Single Counting

Show Information

Manual Reset

Reset the statistics report together?

Auto Reset

Day

Time

Alarm Action

表 58. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
カウントの種類	ライブ映像に表示したい情報を選択することができます。
トータルカウント	カウントOSDを設定します。 注意 : トータルカウントOSDの設定は全ての検出ラインでリンクしています。 OSDを表示 : ボタンをクリックしてOSDの表示を有効/無効にします。 フォントサイズ : OSDディスプレイのフォントサイズ フォントカラー : OSDディスプレイのフォントカラー テキスト位置 : OSD表示のテキスト位置
シングルカウント	シングルカウントを設定します。 注意 : トータルカウントOSDの設定は全ての検出ラインでリンクしています。 情報を表示 : クリックすると、情報が表示されます。 マニュアルリセット : 1行ずつのカウントをリセットします。統計レポートも一緒にリセットするか選択できます。 オートリセット : シングルカウント情報を自動的にクリアするために使用されます。 日 : オートリセットの日 時間 : オートリセットの時間

[アラーム時の動作]

ステップ6: アラーム発報とアラーム時の動作を設定します。

Direction: B->A

General Settings >

Schedule Settings >

Counting Information >

Alarm Action >

Alarm Trigger

Total Counting | Single Counting

Thresholds

In 9999 Out 9999

Capacity 9999 Sum 9999

Alarm Action

Record >

Snapshot >

External Output >


Play Audio (Please enable the Audio Speaker.)

Alarm to SIP Phone (Please open the SIP.)

HTTP Notification >

Save

表 59. ボタンの説明

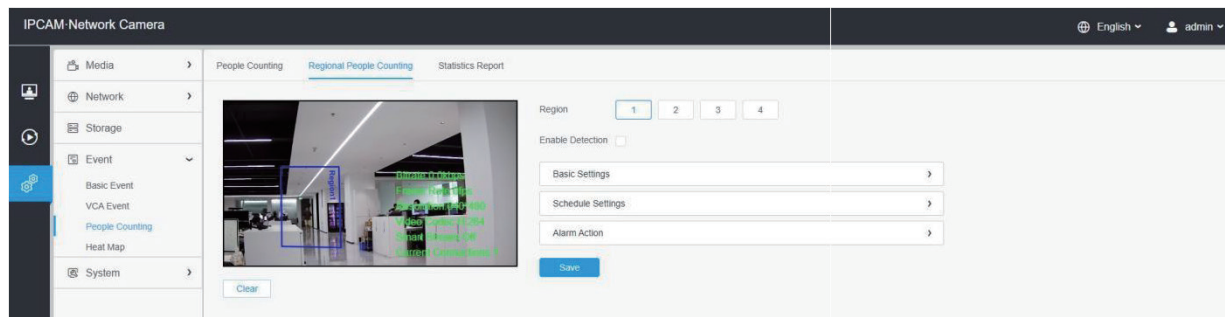
パラメータ	機能紹介
アラームトリガー	<p>1~9999の範囲で指定した閾値に達するとアラームが発報します。トータルカウントとシングルカウントがあります。アラームのしきい値は、In/Out/Capacity/Sumのいずれかに設定可能です。</p> <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> トータルカウントの場合、閾値は4つの検出ラインの総数の合計となります。 シングルカウントの場合、閾値は選択された検出ラインに対するのです。
アラームアクション	<p>この部分は、通常のアラーム設定と同じです。 Table3 (page 114)を参照してください。</p> <p> 注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> アラームアクションは、4つの検出ラインに対して同時に有効です。 外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択した場合、スレッシュホールドが設定した値に達すると、アラームが解除されるまで外部出力動作のアラームが常に一定になります。

6.4.3.2 リージョナル人数カウント

E モーション検知使用を有効にすると、検知エリアのリアルタイム人数と各人の滞在時間を確認することができます。

注意：

- カメラの機種 対応していることを確認してください。
- エリア人数カウントのため、最大4つの検出エリアをサポートします。
- ユーザーは、ライブビューインターフェイスで、検知エリア内の人数と滞在時間をリアルタイムに把握することができます。



設定方法は以下の通りです。

ステップ1：検出エリアを選択し、エリア人数検出を有効にする。

注意：最大4つの検出エリアをサポートします。

[基本設定]

ステップ2：感度とオブジェクトサイズの制限を設定します。

注意：通常モードを選択した場合、現在のエリアの検出ラインを設定することをサポートします。アドバンスモード（PTZシリーズのみ）を選択すると、異なるPTZプリセット（今のところプリセット1~4のみサポート）用の検出ラインの設定をサポートします。

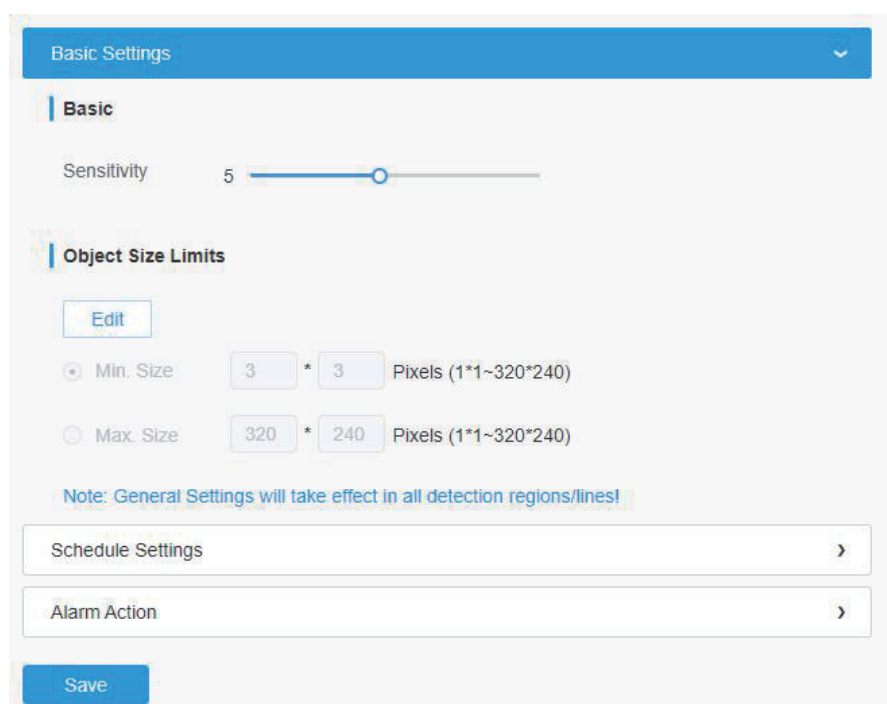


表60. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。 数値が大きくなるほど感度が高くなります。
最小サイズ	検出されるオブジェクトの最小サイズを設定するために、画面を描画するか、ピクセル番号を入力します。オブジェクトがこのサイズより小さい場合、検出されません。デフォルトの最小サイズは3*3です。
最大サイズ	画面描画または入力画素数で、検出される物体の最大サイズを設定します。このサイズより大きいオブジェクトは検出されません。デフォルトの最大サイズは320*240です。

[スケジュール設定]

ステップ4: 検出スケジュールを設定する。

注意: この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

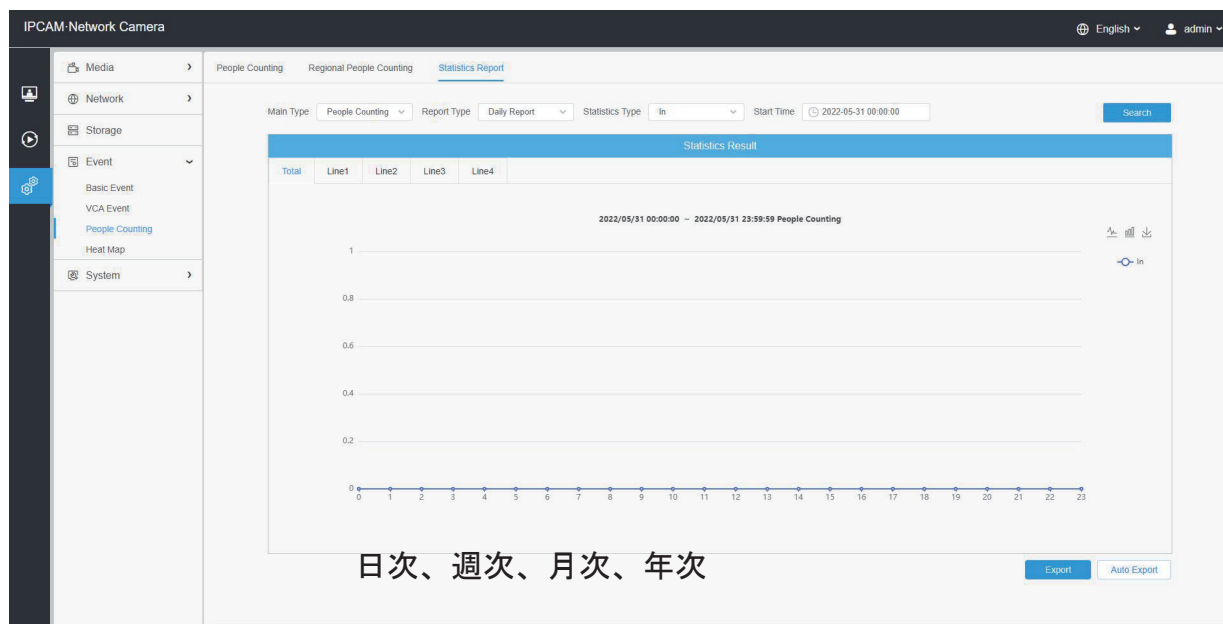
ステップ6: アラーム発報とアラーム時の動作を設定します。

表 61. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
アラームトリガー	最大滞留、最小滞留時間が設定のしきい値に達するとアラームが発生します。 注意: 値は1~60の範囲でなければならない。
アラームアクション	この部分は、通常のアラーム設定と同じです。 Table3 (page 114) を参照してください。 注意: <ul style="list-style-type: none"> アラームアクションは、4つの検出エリアで同時に有効です。 外部出力を有効にし、外部出力動作時間一定を選択した場合、スレッショルドが設定した値に達すると、アラームが解除されるまで外部出力動作のアラームが常に一定になります。

6.4.3.3 統計レポート

有効期間中の結果は、「統計レポート」インターフェイスに表示されます。



ステップ1: メイン項目 を選択します。

ステップ2: 日報、週報、月報、年報など、レポートの種類を選択します。

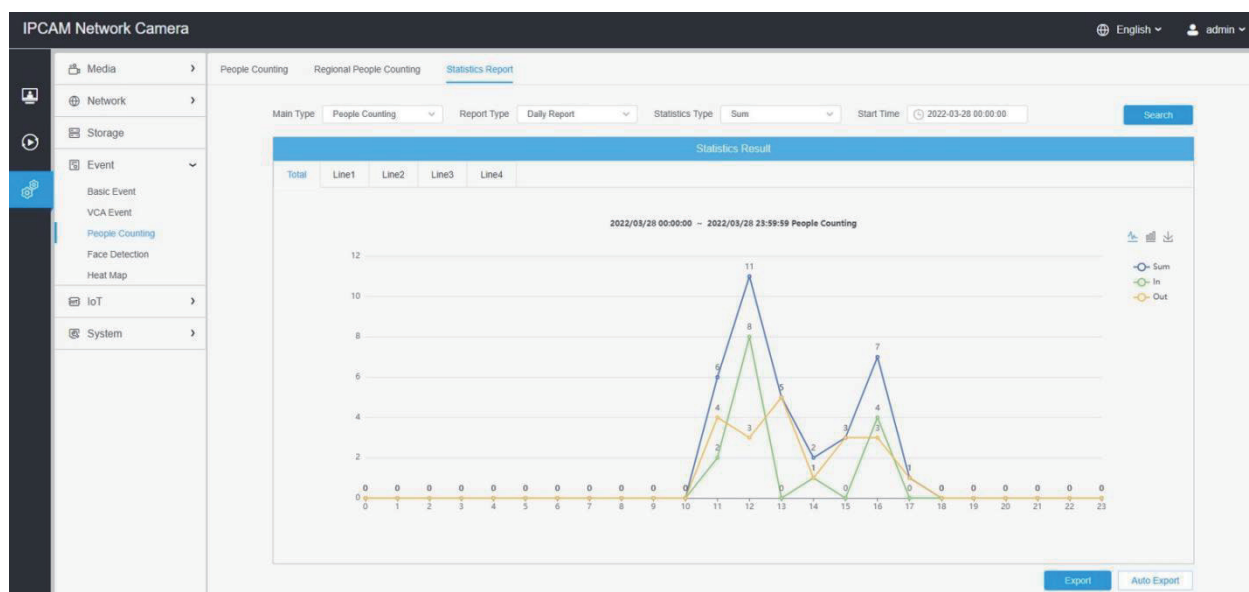
ステップ3: 人数カウントの場合、「入場人数」「退場人数」「合計」などの「統計タイプ」を選択します。エリア別合計では、「滞在時間」を「全て」「それ以上」「それ以下」から選択し、「それ以上」「それ以下」の時間を設定します。

注意: エリア人数カウントの場合、チェックボックスにチェックを入れると、必要に応じて エリア のレポートを検索することができます。

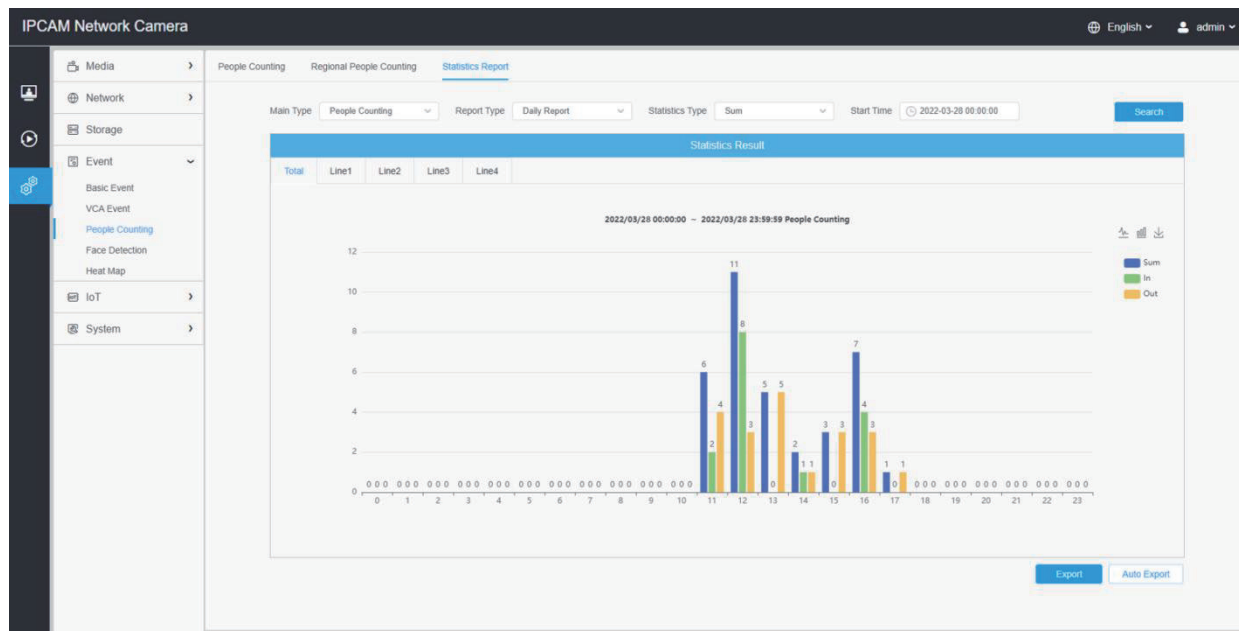
ステップ4: 開始時間を選択し、「検索」ボタンをクリックすると、カメラは自動的に開始時間から日/週/月/年（選択されたレポートタイプに基づく）のデータを数え、対応するレポートを生成します。

ステップ5: さらに、「折れ線グラフ」または「棒グラフ」をボタンをクリックして、統計レポートの表示モードを以下のように切り替えることができます。

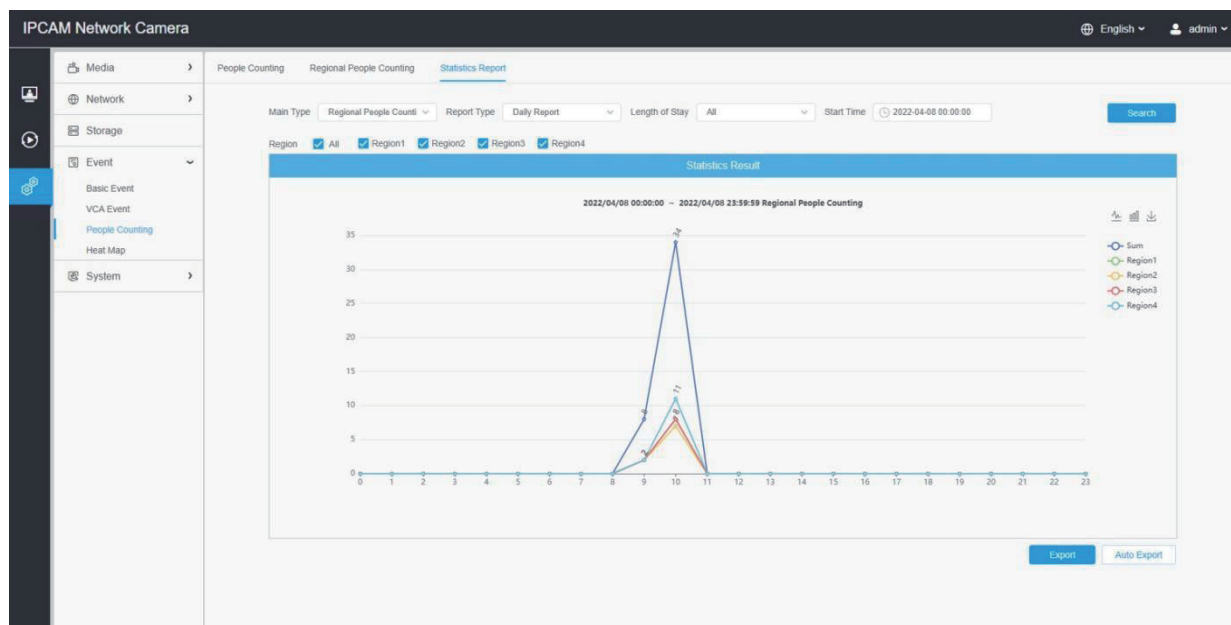
人数カウント-統計レポート（折れ線グラフ）



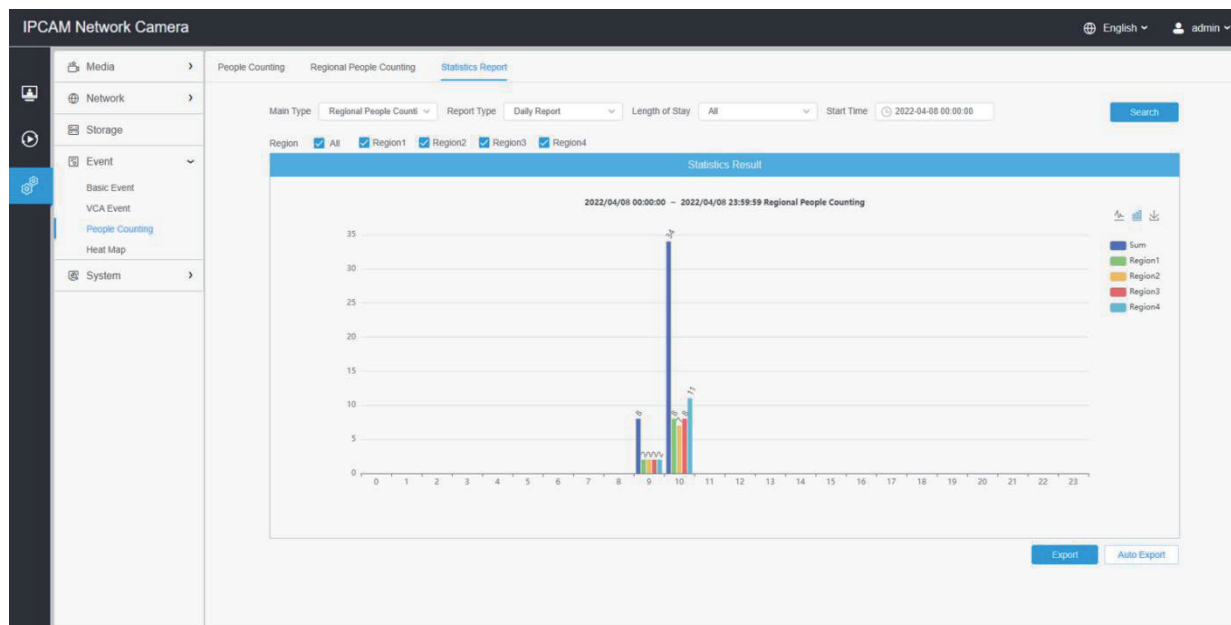
人数カウント-統計レポート (棒グラフ)



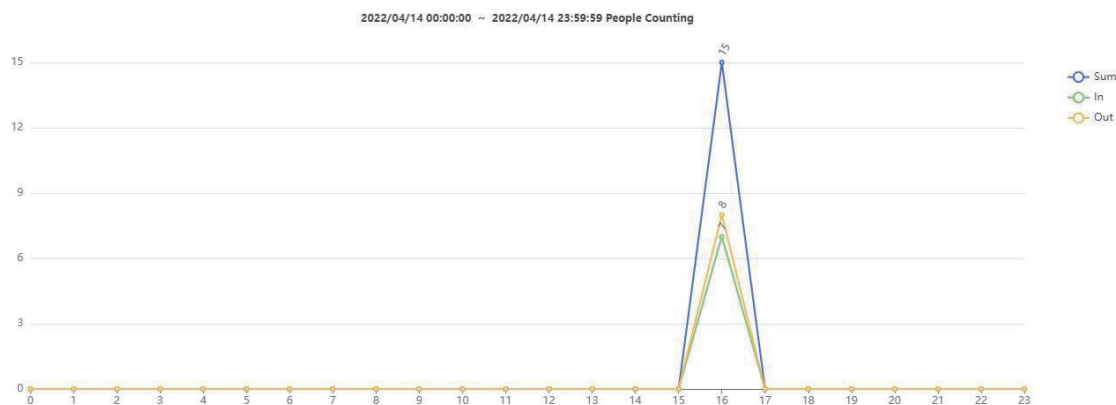
エリア人数統計レポート (折れ線グラフ)



エリア人数統計レポート (棒グラフ)



ステップ6: 「ダウンロード」 ボタンをクリックし、統計レポートのスクリーンショットをダウンロードします。



ステップ7: 「エクスポート」 ボタンをクリックすると、下図のような「エクスポート」ウィンドウがポップアップ表示されます。統計レポートをカウントしている人は、チェックボックスをチェックして、必要に応じて異なる行のレポートをエクスポートすることができます。

人数カウント-エクスポート

Export

File Format CSV

Line

All

Total Line1 Line2

Line3 Line4

Export Cancel

エリア人数カウント-エクスポート

Export

File Format CSV

Export Cancel

ステップ8: 「AUTO エクスポート」 ボタンをクリックすると、下図のような統計レポート設定がポップアップ表示されます。

人数カウント-オートエクスポート

The screenshot shows the 'Auto Export' dialog box with the 'People Counting' tab selected. The 'Regional People Counting' sub-tab is also visible. The 'Enable' checkbox is unchecked. Under the 'Line' section, 'All' is checked, and 'Total', 'Line1', 'Line2', 'Line3', and 'Line4' are also checked. The 'Day' dropdown is set to 'Everyday'. The 'Time' field shows '00:00:00'. The 'Export Time Range' dropdown is set to 'Last 1 day'. The 'Export to' section has 'FTP', 'Email', and 'Storage' checkboxes, all of which are unchecked. At the bottom, there are 'Save' and 'Cancel' buttons.

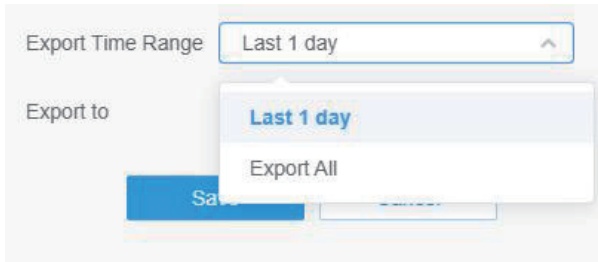
- 人数カウントの自動エクスポートを有効にする場合はチェックボックスをオンにし、必要に応じて行を選択します。
- 曜日を設定します。ユーザーは、毎日を選択して毎日のレポートをエクスポートし、他を選択して特定の曜日にレポートをエクスポートすることができます。

This screenshot shows the 'Day' dropdown menu open. The 'Everyday' option is highlighted in blue. Other options listed are Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, and Friday. The background shows the 'Auto Export' dialog box with the 'Day' field set to 'Everyday'.

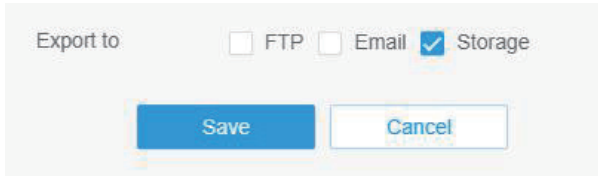
- 時間を設定します。統計レポートを自動的にエクスポートする時間帯を選択できます。カレンダーアイコンをクリックすると、以下のクイックセレクションがポップアップ表示されます。

This screenshot shows the 'Time' quick selection popup. The 'Time' field is set to '03:03:03'. The popup displays a grid of time values: 01, 02, 03, 04, 05 in the first column; 01, 02, 03, 04, 05 in the second column; and 01, 02, 03, 04, 05 in the third column. At the bottom of the popup are 'Cancel' and 'OK' buttons. The background shows the 'Auto Export' dialog box with the 'Time' field set to '03:03:03'.

- エクスポート時間範囲を設定します。

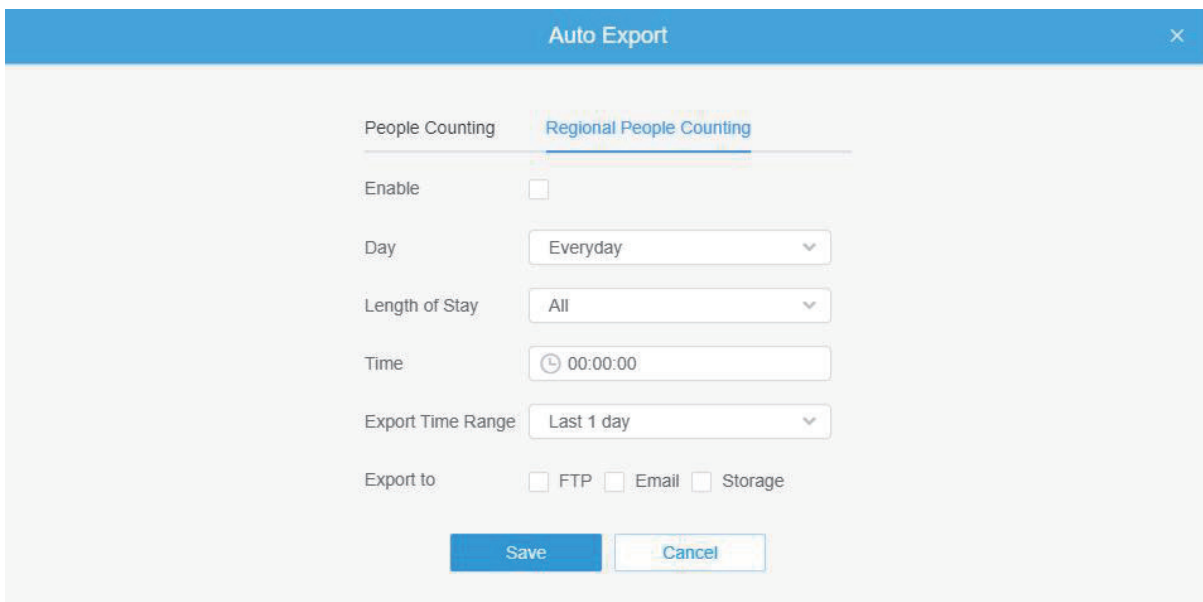


- 自動的にエクスポートされるレポートの保存先パスを設定します。レポートは、設定した曜日、時間、エクスポート時間範囲に従って、Excelスプレッドシートの形式でFTP/Eメール/ストレージに自動的にエクスポートされます。その後、「保存」をクリックします。

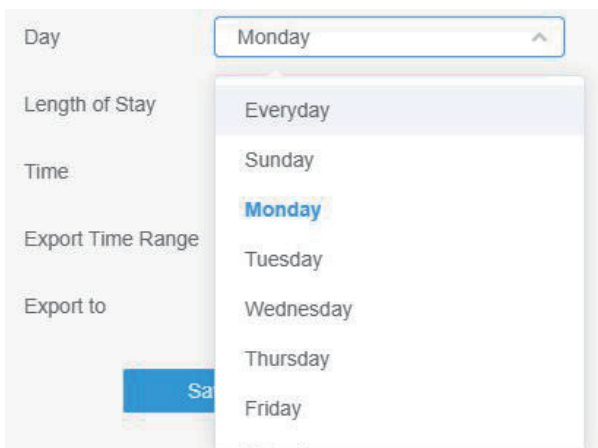


注意：現在の統計レポートを生成した場合、csv形式で保存されます。

エリア人数カウント-オートエクスポート



- エリア人数カウントの自動エクスポートを有効にする場合は、チェックボックスをオンにします。
- 曜日を設定します。ユーザーは、毎日を選択して毎日のレポートをエクスポートし、他を選択して特定の曜日にレポートをエクスポートすることができます。



- 滞在期間を設定します。

The screenshot shows a form with a dropdown menu for 'Length of Stay' set to 'All'. A secondary dropdown menu is open, showing options: 'All', 'More Than', and 'Less Than'. Below it, the 'Export Time Range' and 'Export to' fields are partially visible.

- 時間を設定します。統計レポートを自動的にエクスポートする時間帯を選択できます。カレンダーアイコンをクリックすると、以下のクイックセレクションがポップアップ表示されます。

The screenshot shows a 'Time' field with a clock icon and the value '03:03:03'. A popup menu is open, displaying a grid of time slots from 01 to 05 in increments of one hour. The popup also includes 'Cancel' and 'OK' buttons.

- エクスポート時間範囲を設定します。

The screenshot shows the 'Export Time Range' dropdown menu set to 'Last 1 day'. A popup menu is open, showing options: 'Last 1 day' and 'Export All'.

- 自動的にエクスポートされるレポートの保存先パスを設定します。レポートは、設定した曜日、時間、エクスポート時間範囲に従って、Excelスプレッドシートの形式でFTP/Eメール/ストレージに自動的にエクスポートされます。その後、「保存」をクリックします。

The screenshot shows the 'Export to' section with three radio button options: 'FTP', 'Email', and 'Storage'. The 'Storage' option is selected. Below the options are 'Save' and 'Cancel' buttons.

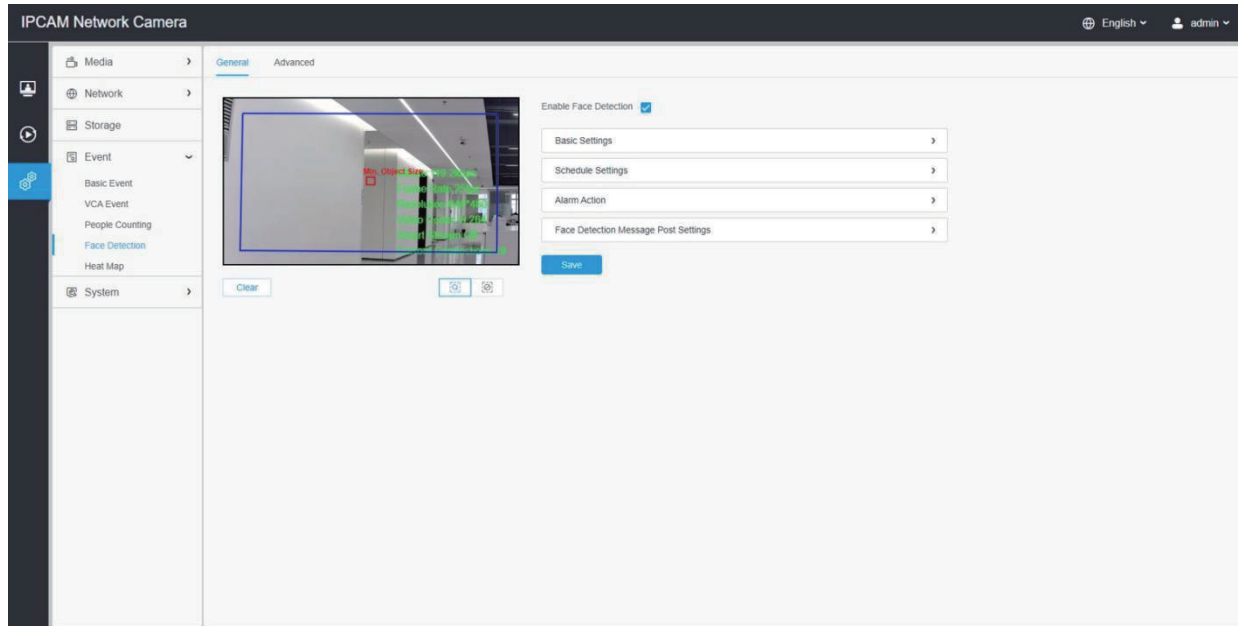
注意：現在の統計レポートを生成した場合、csv形式で保存されます。

6.4.4 顔検出

顔検出機能は、描画エリアに現れた顔を検出し、顔のスナップショットをストレージに保存したり、FTPや電子メールでアップロードしたり、ライブビューで表示したりすることをサポートすることができます。

注意：カメラの機種が対応していることを確認してください。

6.4.4.1 一般



設定方法は以下の通りです。

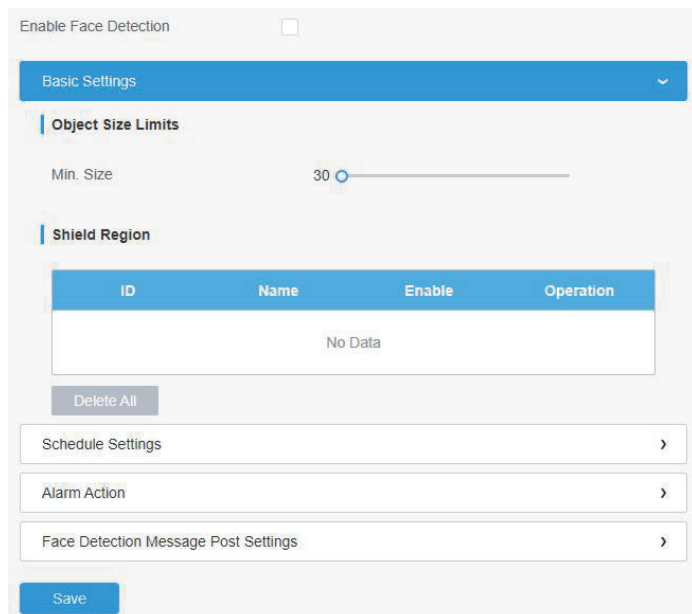
ステップ1：顔検出を有効にする。

[基本設定]

ステップ2：最小オブジェクトサイズを設定します。

ステップ3：検出エリアを設定します。検出エリアをドラッグしてサイズを調整することができます。このエリア内の顔のみが検出されます。

ステップ4：シールドエリアを設定することで、検出エリアの一部で顔を検出しないようにすることができます。まず、プレビュー画面でシールドエリアを描き、「追加」ボタンをクリックします。最大で4つのシールドエリアが描画可能です。



[スケジュール設定]

ステップ5：検出スケジュールを設定する。

注意：この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[アラーム時の動作]

ステップ6：アラーム時の動作を設定します。

Enable Face Detection

Basic Settings >

Schedule Settings >

Alarm Action v

Record >

Snapshot >

Face Detection Message Post Settings >

Save

表62. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
録画	継続時間 ：アラームの継続時間を選択しました。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が選択可能です。 連動 ：アラーム録画ファイルをSDカードやNASに保存したり、FTPで録画ファイルをアップロードすることができます。
スナップショット	数量 ：スナップショットの数、1～5が利用可能です。 間隔 ：Snapshotに1以上の場合、編集することができます。 連動 ：SDカードやNASにアラーム録画ファイルを保存し、FTPで録画ファイルをアップロードし、アラームメールを送信します。

[顔検出メッセージポスト設定]

ステップ6：顔検出メッセージポストを有効にします。

Enable Face Detection

Basic Settings >

Schedule Settings >

Alarm Action >

Face Detection Message Post Settings v

Enable Face Detection Message Post

Post Type TCP HTTP

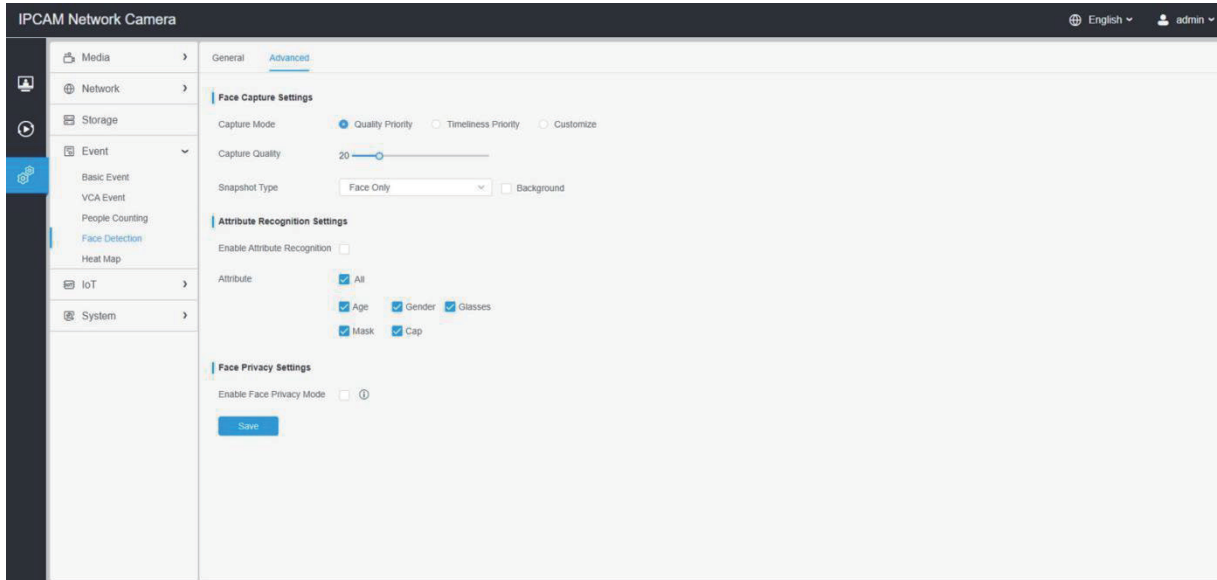
Port 8214

Save

表63. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
顔検出メッセージポストを有効にする	顔検出メッセージ投稿を有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れます。一部のサードパーティ製機器や対応ソフトウェアに情報をプッシュします。情報のプッシュは、TCPまたはHTTPで行います。
ポートタイプ	情報はTCPまたはHTTPでプッシュすることができます。

6.4.4.2 アドバンスト



[フェイスキャプチャーの設定]

ここでは、フェイスキャプチャーショットの設定を行います。

表64ボタンの説明

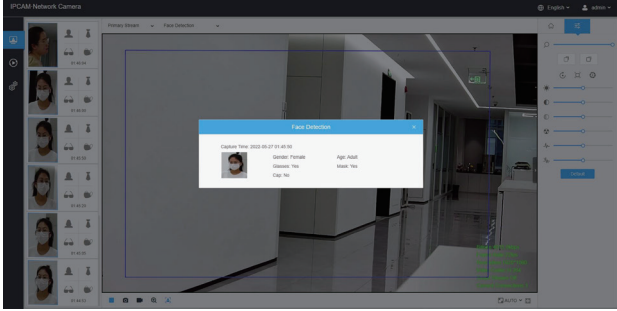

パラメータ	機能紹介
キャプチャーモード	<p>オートモード、画質重視、フレーム重視、カスタマイズが利用可能です。</p> <p>オートモード：顔検出時に、スクリーンショットの画質とプッシュスピードに応じた顔スクリーンショットをプッシュします。</p> <p>画質重視：このモードでは、顔が検出されたときに、最も良い画質の顔スクリーンショットをプッシュします。</p> <p>フレーム重視：顔検出時に最短時間で顔スクリーンショットをプッシュします。</p> <p>カスタマイズ：スナップショット間隔、斜め顔角度制限、ピッチング顔角度制限、横顔角度制限、ぼかし制限など、検出条件をカスタマイズできるモードです。</p>
スナップショット間隔	<p>80ミリ秒、200ミリ秒、500ミリ秒、1秒、2秒、4秒があります。</p> <p>注意：カスタマイズモードではオプションです。</p>
斜めの顔の角度制限	<p>斜めの顔の角度制限を1~180に設定します。値が大きいほど、検出可能な斜めの面の角度が大きくなります。</p> <p>注意：カスタマイズモードではオプションです。</p>
ピッチングフェースアングルリミット	<p>ピッチング顔の角度制限を1~180に設定します。値を大きくすると、検出できるピッチング顔の角度が大きくなります。</p> <p>注意：カスタマイズモードではオプションです。</p>
サイド顔の角度制限	<p>サイド顔の角度制限を1~180に設定します。値を大きくすると、検出できる側面の角度が大きくなります。</p> <p>注意：カスタマイズモードではオプションです。</p>
ブラーリミット	<p>ブラーリミットを1~10に設定します。値を大きくすると、よりぼやけた顔を検出することができます。</p> <p>注意：カスタマイズモードではオプションです。</p>
スナップショットタイプ	<p>Face Only、Upper Body、Whole Bodyがあります。</p> <p>顔だけ：顔のみのスクリーンショットを撮影します。</p> <p>上半身：上半身のスクリーンショットを撮影します。</p> <p>全身：全身のスクリーンショットを撮影します。</p> <p>「背景」にチェックを入れると、画像全体のスクリーンショットをもう一枚撮影します。</p>

カメラは、設定した エリアと条件に従って、ライブビューで顔を検出します。
「軌跡を表示」にチェックを入れると、ライブビューの左側にID付きの顔スクリーンショットを表示します。

[属性認識設定]

ここでは、属性認識を有効にし、検出する属性を設定することができます。

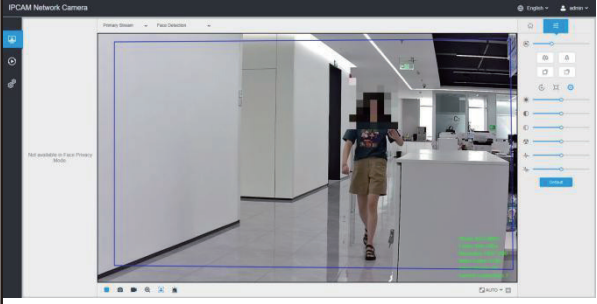
表65. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
属性認識を有効にする	<p>属性認識を有効にすると、検出された顔の属性がライブビューインターフェースの左側に表示されます。属性には、年齢、性別、メガネ、マスク、帽子が含まれます。属性認識は、特殊なシナリオでユーザーのニーズを満たし、ユーザーエクスペリエンスを向上させます。</p>  <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none">• 顔検出機能が有効になっていることをご確認ください。• キャプチャモードオプションが「画質重視」に設定されていることを確認してください。• 属性認識機能は、顔認証機能との併用はできません。
アトリビュート	<p>ユーザーは必要に応じて属性を選択することができます。</p> <p>All： ワンクリックですべての属性を選択または選択解除します。</p> <p>年齢： 顔によって、子供（0～17歳）、大人（18～59歳）、高齢者（59歳以上）などの年齢を認識することができます。</p> <p>性別： 顔から性別を認識し、男性、女性などのタイプを認識します。</p> <p>メガネ： 眼鏡をかけているかどうかを認識します。</p> <p>マスク： マスクの有無を認識します。</p> <p>帽子： 帽子をかぶっているかどうかを認識します。</p> <p> 注意： 認識できない属性や、異常に認識された属性は、「-」で表示されます。</p>

[顔のプライバシー設定]

ここでは、顔検出のプライバシーモードを有効にすることができます。

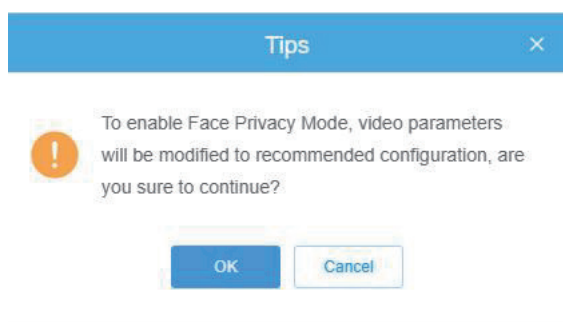
表 66. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
フェイスプライバシーモードを有効にする	<p>Face Privacy Modeを有効にすると、顔検出エリアで検出された顔に自動的にモザイクがかけられます。モザイクの大きさは、検出された顔の大きさに関係し、ユーザーは必要に応じて検出された顔の大きさをカスタマイズすることができます。この機能により、肖像権に配慮した特殊なシーンでの利用が可能になります。</p> 

注意：フェイスプライバシーモードを有効にするには、ビデオパラメータが下記の通りです。

- H. 265ビデオコーデック (全ストリーム)。
- プライマリストリーム：1080P@25fps。
- セカンダリストリーム：704*576@25fps。
- ターシャリストリーム：無効です。
- フェイスプライバシーモードでは、顔キャプチャ／顔検出メッセージポスト／属性認識は使用できません。

ポップアップウィンドウで、ビデオパラメータを推奨設定に変更することができます。



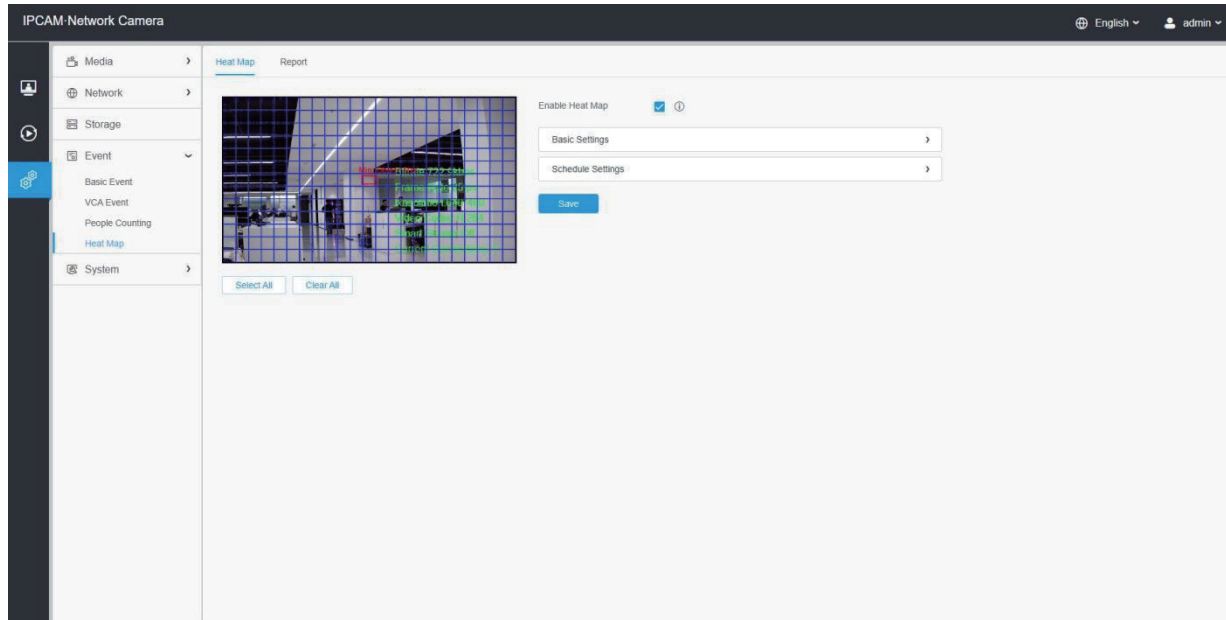
6.4.5 ヒートマップ

ヒートマップ機能は、顧客の動きを分析し、必要に応じて時間または空間パターンで直感的で正確な統計分析結果を使用して、ビジネス管理を改善するための洞察を明らかにできます。

6.4.4.1 ヒートマップ

注意：

- ・カメラの種類が対応していることを確認してください。
- ・SDカードやNASがない場合、7日以内のレポートのみ閲覧可能です。



ステップ1：ヒートマップ機能を有効にする。

[基本設定]

Enable Heat Map

Basic Settings

Basic

Sensitivity 5

Min. Object Size 10

Min. Dwell Time s(1-300)

Scene Change Adaptability 5

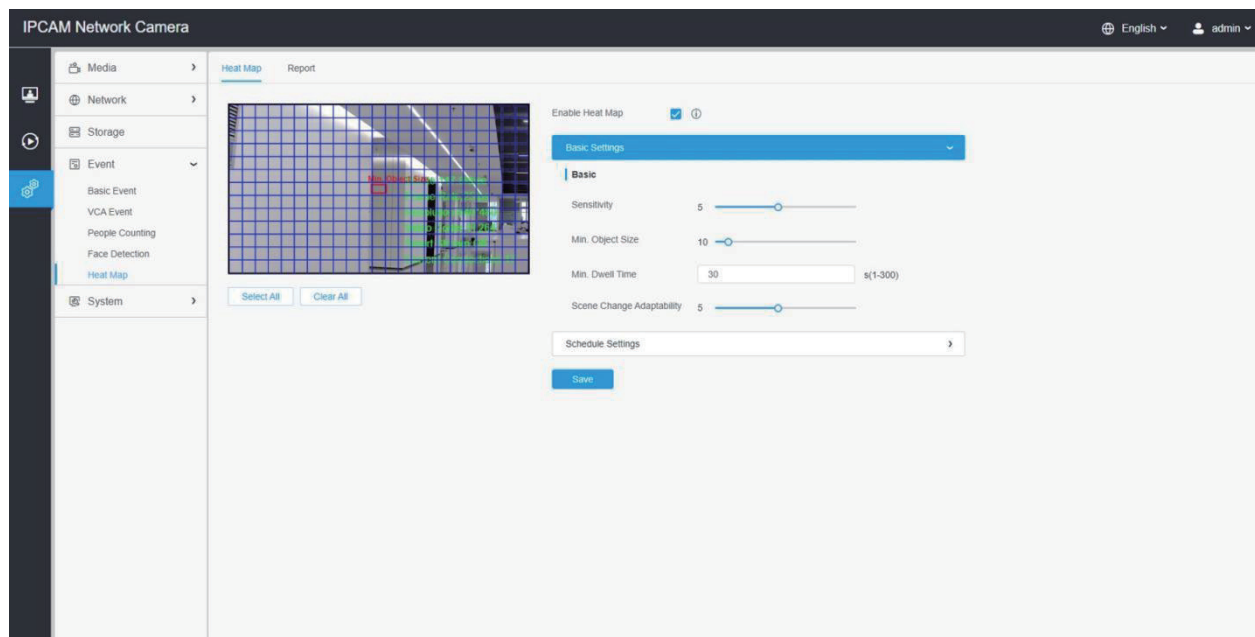
Schedule Settings

Save

表67. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
感度	レベル1~10があり、デフォルトは5です。 数値が高くなるほど感度が高くなります。
最小オブジェクトサイズ	オブジェクトの最小サイズを1~100の間で設定します。デフォルト値は10です。この値より小さいオブジェクトは録画されません。
最小滞留時間	最小滞留時間を1~300の間で設定します。初期値は30です。設定した「最小滞在時間」よりも長くオブジェクトが滞在した場合、は録画されません。
状況変化適応性	レベル1~10 があり、デフォルトのレベルは 5 です。 シーン変化適応性とは、カメラがシーンの変化に適応し、検出の精度を高めることができることを示します。値が高いほど、カメラはより速く変化するシーンに適応します。

ステップ2: ヒートマップエリアを設定する。画面を描画して、検出エリアを設定します。「すべて選択」ボタンで全エリアを選択し、「すべて消去」ボタンで現在描画しているエリアを削除することができます。



[スケジュール設定]

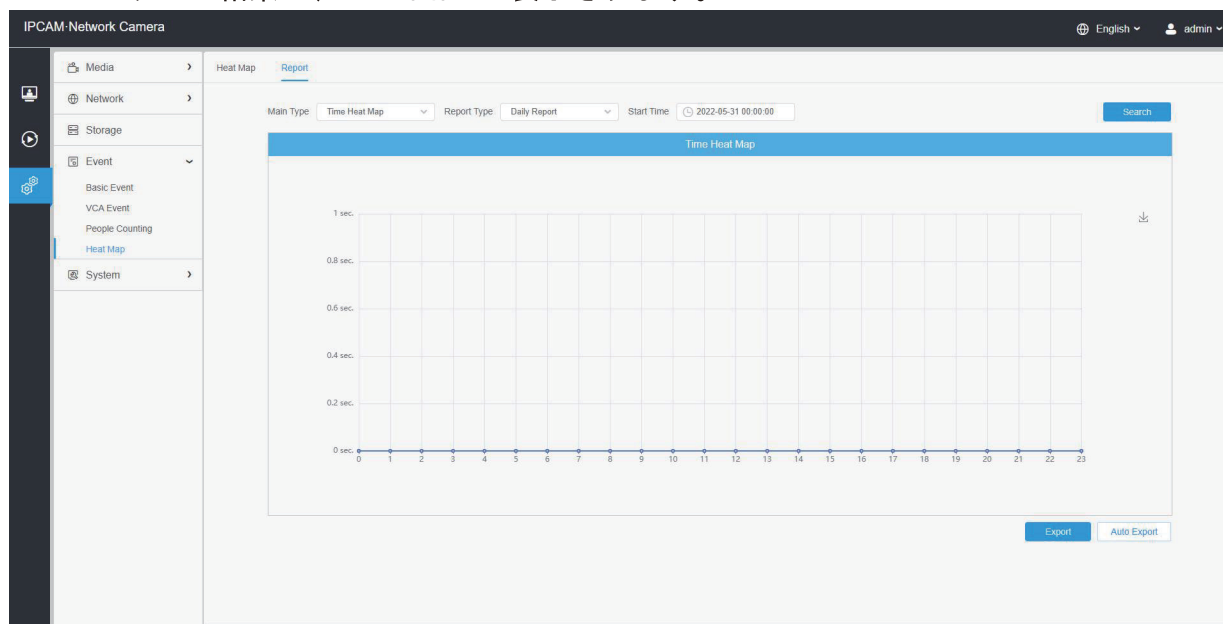
ステップ3: スケジュール設定を行います。

注意: この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

6.4.5.2 レポート

ヒートマップの結果は、この画面に表示されます。



ステップ1：メインヒートマップタイプを選択します。

[スペースヒートマップ]

スペースヒートマップは、異なる色の画像として表示されます。異なる色は異なる熱の値を表します。赤は最も高く、青は最も低いことを表しています。

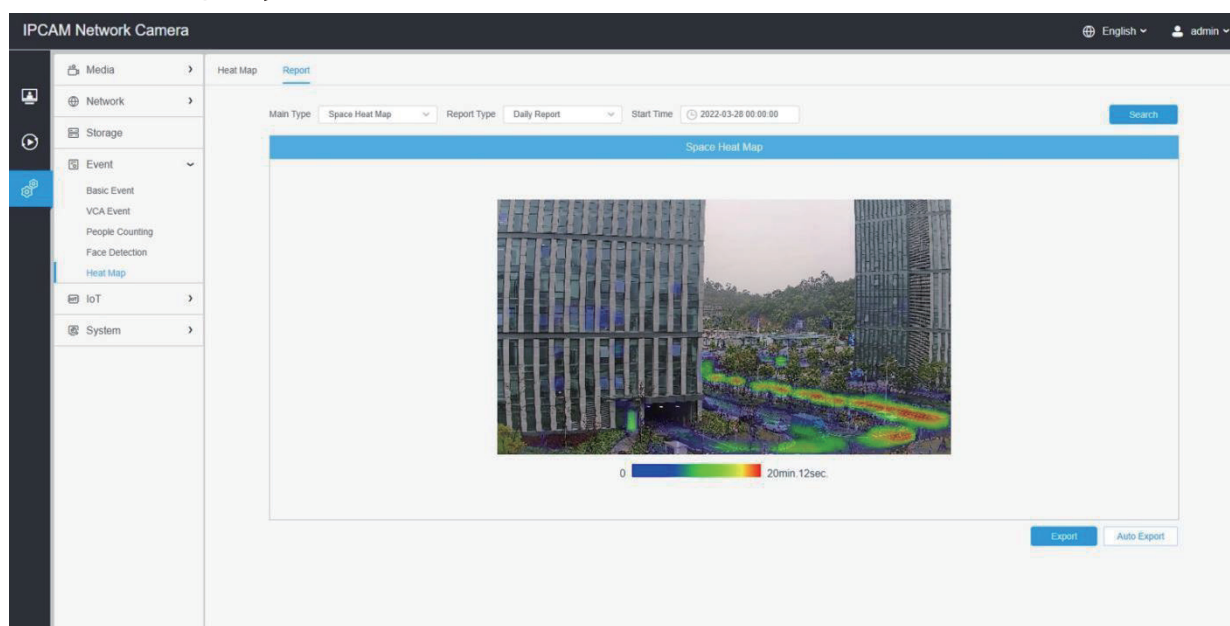
[タイムヒートマップ]

タイムヒートマップは、異なる時間帯の熱量を折れ線グラフで表示します。

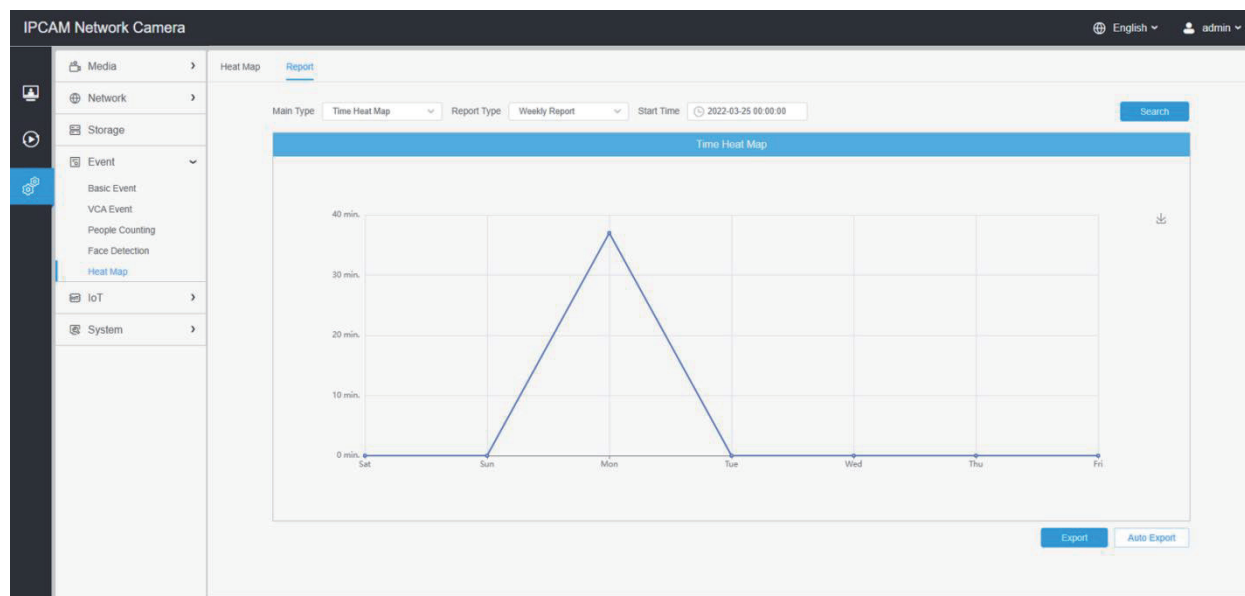
ステップ2：日次レポート、週次レポート、月次レポート、年次レポートからレポートの種類を選択します。

ステップ3：開始時間を選択し、「検索」ボタンをクリックすると、カメラは自動的に開始時間から日/週/月/年（選択されたレポートタイプに基づく）のデータをカウントし、以下のように対応するレポートを生成します。

スペースヒートマップ



時間ヒートマップ



ステップ4: 「エクスポート」ボタンをクリックし、レポートをローカルにエクスポートします。

ステップ5: 「AUTO エクスポート」ボタンをクリックすると、下図のようなヒートマップレポート設定がポップアップ表示されます。

The 'Auto Export' dialog box has a blue header with a close button. It contains the following settings:

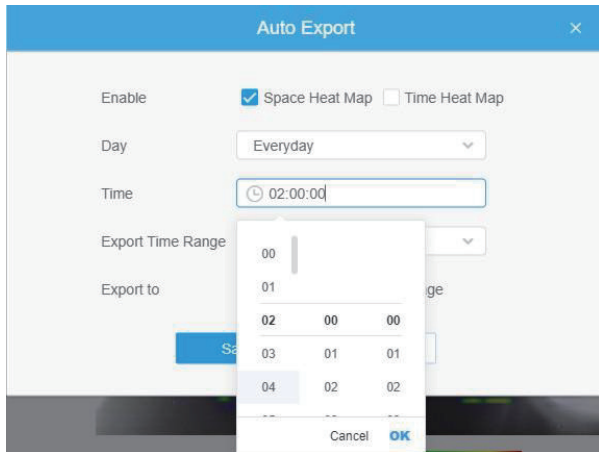
- Enable:** Space Heat Map Time Heat Map
- Day:** Everyday (dropdown)
- Time:** 00:00:00 (time picker)
- Export Time Range:** Last 1 day (dropdown)
- Export to:** FTP Email Storage

At the bottom are 'Save' and 'Cancel' buttons.

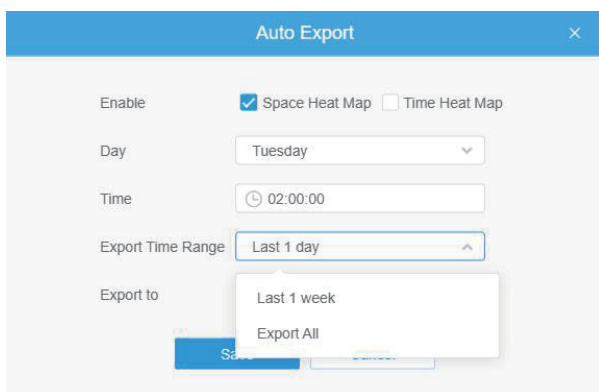
- エクスポートタイプを設定します。スペースヒートマップ、時間ヒートマップのいずれか、または両方にチェックを入れることができます。スペースヒートマップ、時間ヒートマップのいずれかにチェックを入れると、以下のようにグレーの項目が編集可能な状態になります。
- 曜日を設定します。ユーザーは、毎日を選択して毎日のレポートをエクスポートし、他を選択して特定の曜日にレポートをエクスポートすることができます。

This screenshot shows the 'Auto Export' dialog box with the 'Day' dropdown menu open. The menu lists the following options: Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, Sunday, and Everyday (highlighted in blue). The other settings in the dialog are the same as in the previous screenshot.

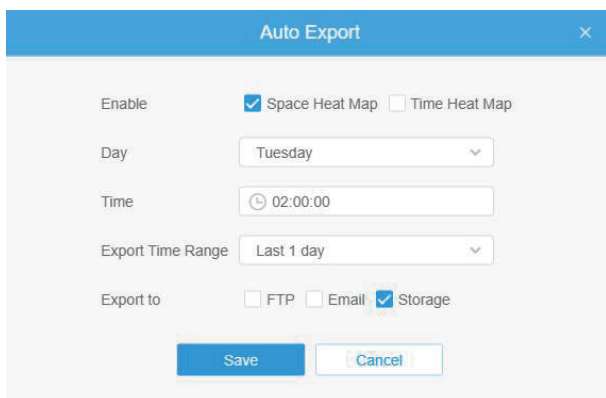
- 時間を設定します。ヒートマップを自動的にエクスポートする時間帯を選択することができます。カレンダーのアイコンをクリックすると、以下のクイックセレクションがポップアップします。



- エクスポート時間範囲を設定します。



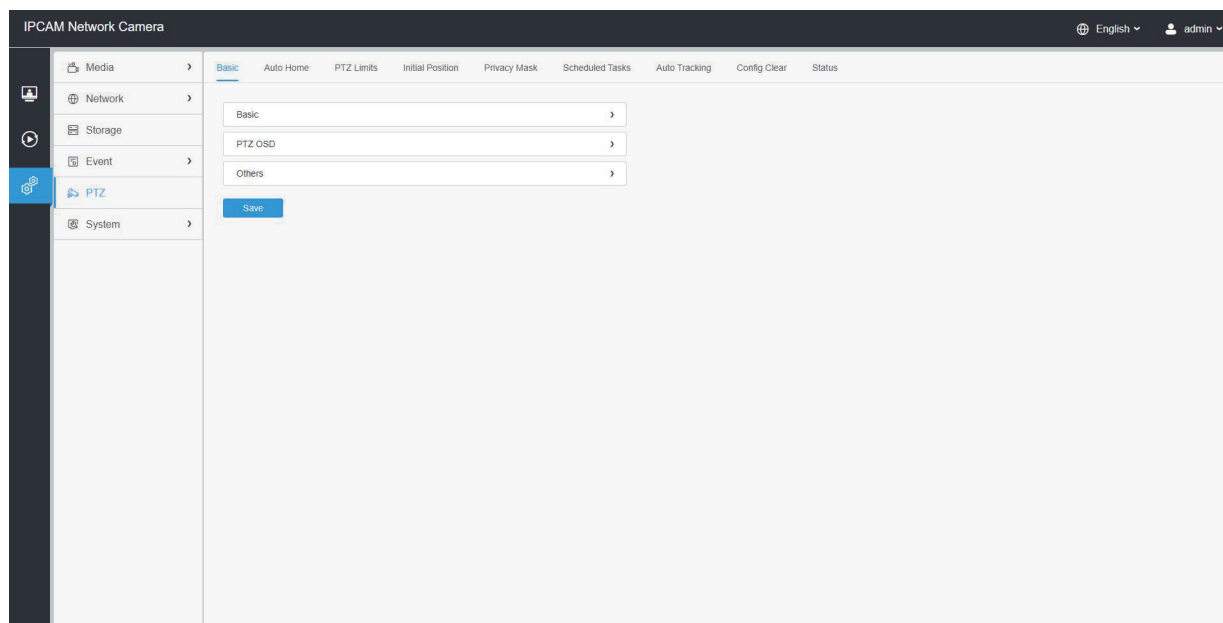
- 自動的にエクスポートされるレポートの保存先パスを設定します。レポートは、設定した日、時間、エクスポート時間範囲に従って、Excelスプレッドシートまたは画像の形式で自動的にFTP/電子メール/ストレージにエクスポートされます。その後、「保存」をクリックします。



スペースヒートマップが生成された場合、png画像として保存されます。
時間ヒートマップが生成された場合、csv形式として保存されます。

6.5 PTZ ※ PTZカメラのみ対応 ※

6.5.1 基本



[基本]

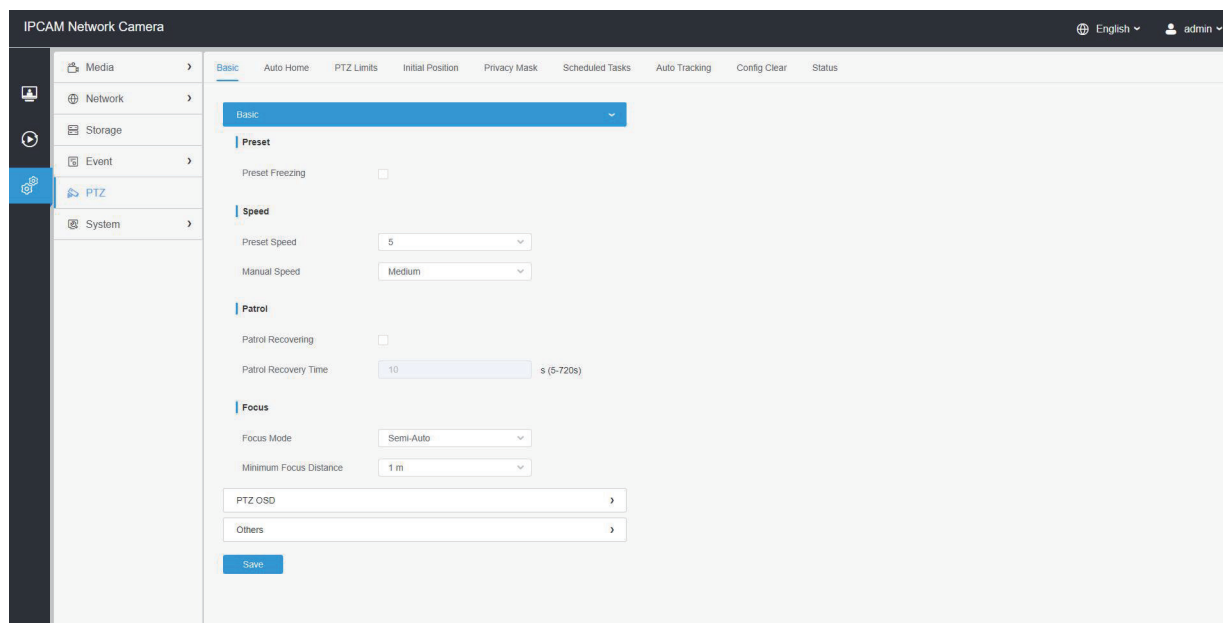


表68. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
プリセット	プリセットフリーズを有効にすると、プリセットポジションへの移動経路とライブビューの両方を表示する代わりに、プリセットポジションのライブビューを直接表示ようになります。また、デジタルネットワークシステムの帯域幅の使用量を削減することができます。
スピード	プリセット速度 ：プリセットを呼び出す速度を設定します。レベル1～10があります。 手動速度 ：PTZの手動制御スピードを設定します。Low/ Medium/ Highが選択可能です。 注意 ：スピードドームのみ。

スピード	<p>スキャン速度：オートスキャンの速度を決定します。レベル1~10があります。</p> <p>注意：スピードドームのみ。</p>
パトロール	<p>パトロールリカバリング：Patrol Recoveringを有効にする場合はクリックします。</p> <p>パトロール回復時間：パトロールが回復するまでの時間を5秒から720秒の間で設定します。</p>
フォーカス	<p>フォーカスモード：3つのフォーカスモードが利用可能です。オート/セミオート/マニュアル</p> <p>最短撮影距離：各フォーカスのステップ長を調整するための最短フォーカス距離を設定します。1m、1.5m、3m、6m、10m、20mが選択可能です。デフォルトの最短フォーカス距離は1メートルです。</p>

[PTZ OSD]

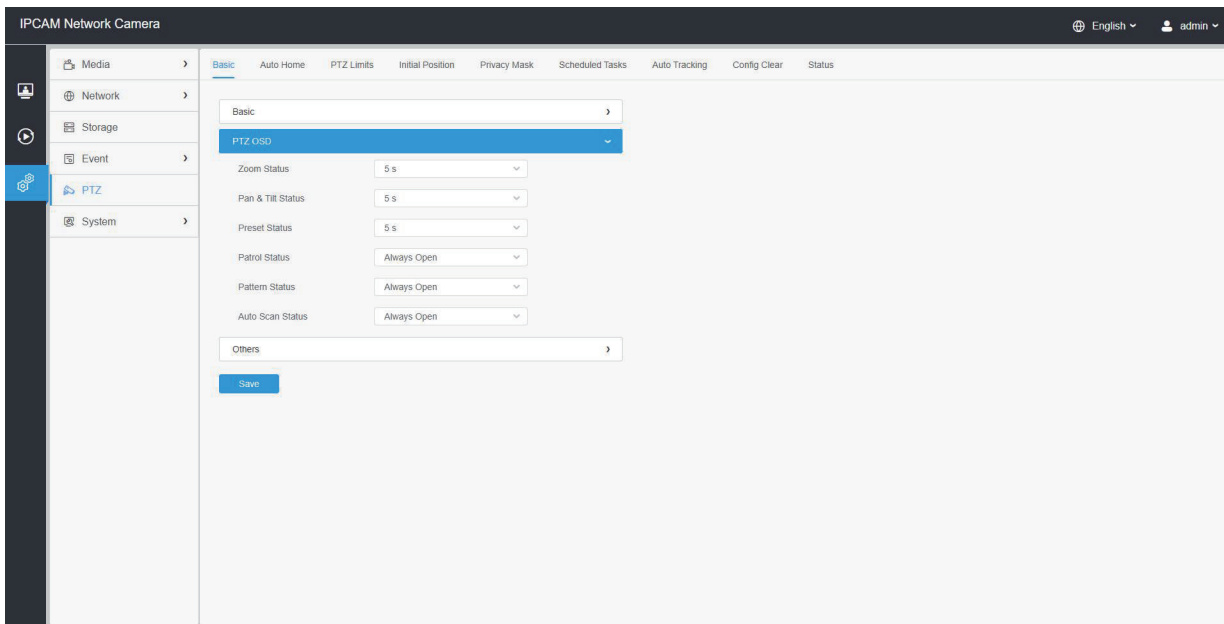


表69. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
ズームステータス	2s/5s/10s/Always Open/Always Closeが使用可能です。
パン&チルトステータス	2s/5s/10s/Always Open/Always Closeが使用可能です。
プリセットステータス	2s/5s/10s/Always Open/Always Closeが使用可能です。
パトロールステータス	常時開/常時閉が可能です。
パターンステータス	常時開/常時閉が可能です。
オートスキャンステータス	常時開/常時閉が可能です。

[その他]

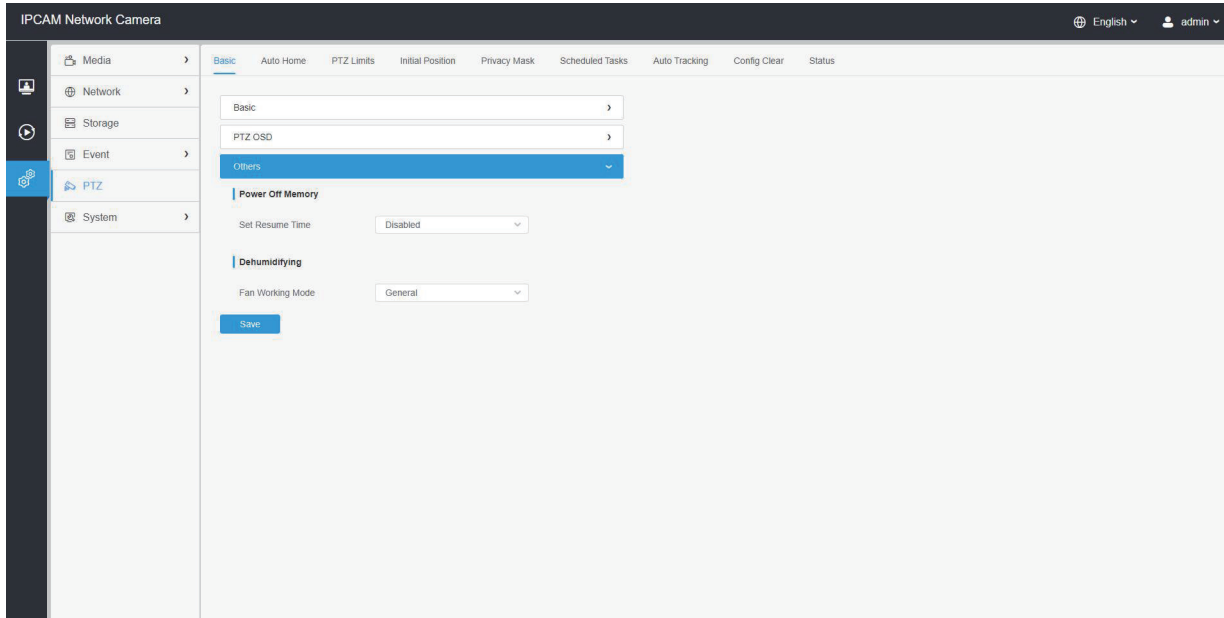
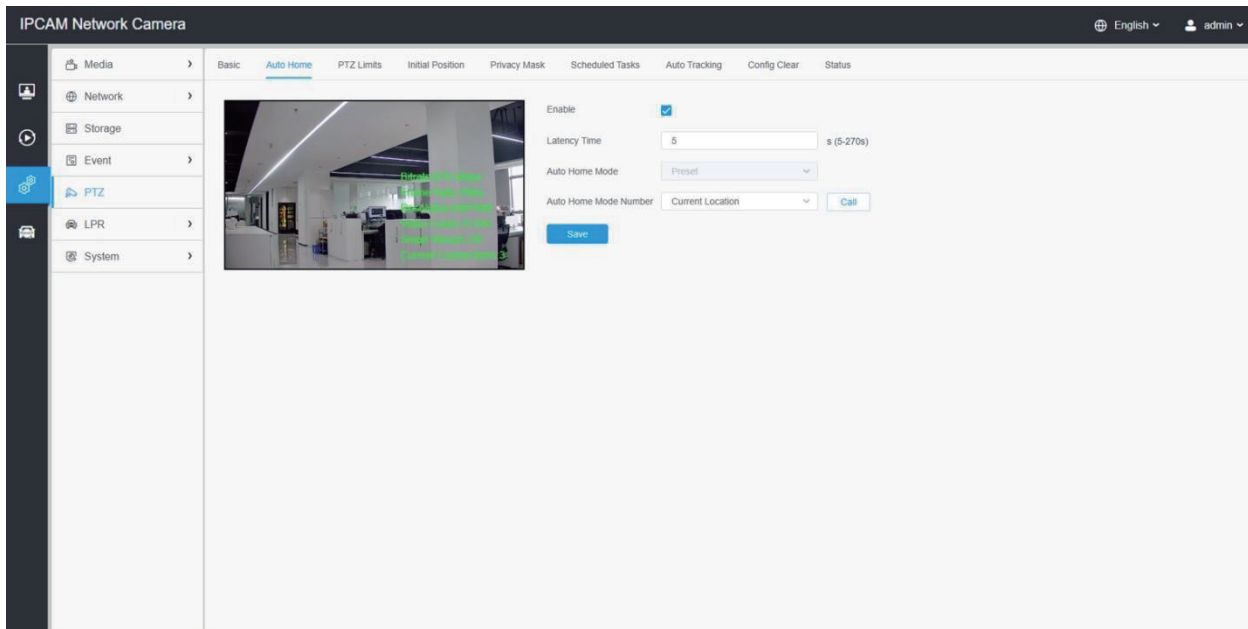


表70. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
パワーオフメモリ	<p>カメラがあらかじめ設定された時間より長い間作業を停止した場合、その位置が録画されます。そしてそれは電源遮断から正常な仕事に戻った後位置に再開します。</p> <p>レジューム時間を30秒、60秒、300秒、600秒に設定して、その位置を録画することができます。</p>
除湿	<p>ファンワーキングモード: 3つのファンワーキングモードが利用可能です。一般/強化/常時。</p> <p>一般: 毎日午前4時から午前7時、午後5時から午後8時まで扇風機を回しています。</p> <p>強化: 毎日午後5時から午前7時まで扇風機を回しています。</p> <p>常時: ファンは24時間稼働しています。</p>

6.5.2 オートホーム ※ PTZカメラのみ対応 ※



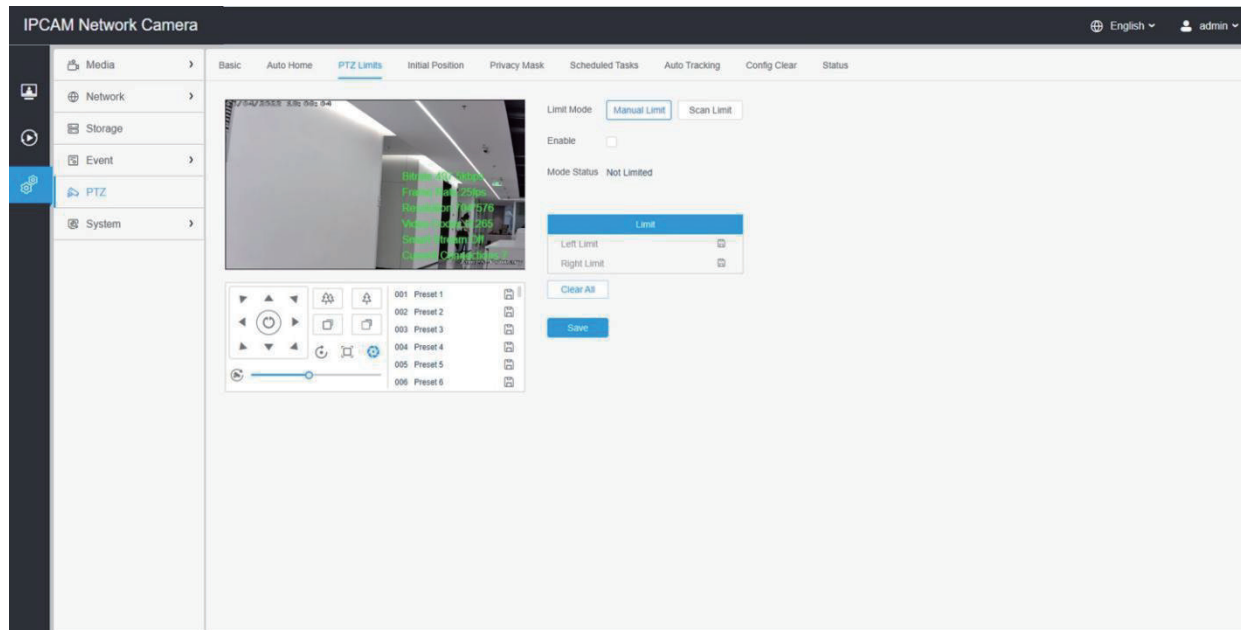
オートホームは、一定時間経過後にPTZカメラが事前に設定したホームポジションに自動的に戻るようにします。チェックボックスをオンにすると、自動原点復帰モードが有効になります。

表71. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Enable	オートホーム機能の有効／無効を設定します。
Latency Time	オートホームモードをトリガーするまでの待ち時間を5～720秒に設定します。
Auto Home Mode	プリセット：オートホームをトリガーしたときにプリセットポイントが有効になります。
Auto Home Mode Number	リストから事前定義済みのプリセットを選択し、「発信」を押して場所を確認します。現在地選択にも対応。

6.5.3 PTZ制御 ※ PTZカメラのみ対応 ※

PTZカメラは、設定可能なPTZ制限（左/右）で移動するようにプログラムできます。



ステップ1：チェックボックスをチェックしてPTZ制限機能を有効にします。

ステップ2：手動モードまたはスキャンモードとして制限モードを選択します。

- 手動制限：

手動制限停止が設定されている場合は、制限付き監視エリア内でのみPTZコントロールパネルを手動で操作できます。

- スキャン制限：

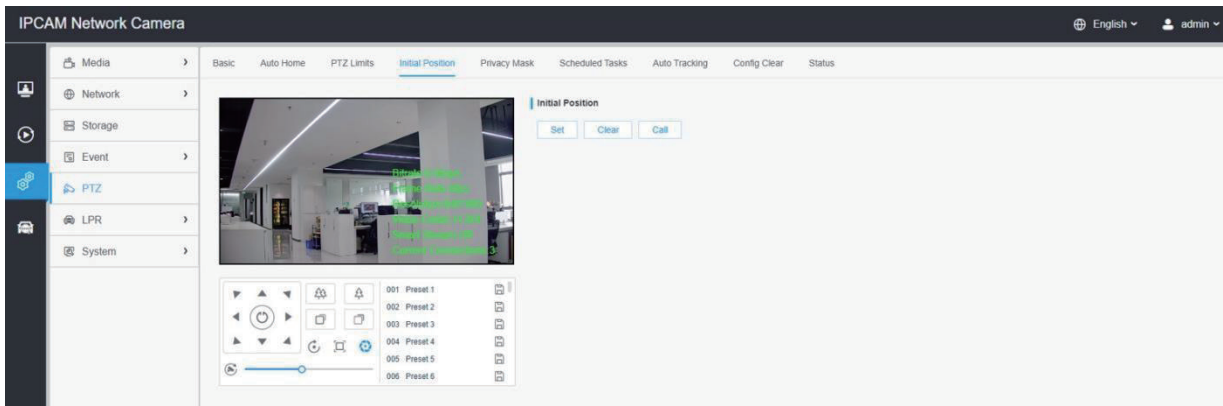
スキャン制限停止が設定されている場合、自動スキャンは制限付き監視エリアでのみ実行されます。

ステップ3：PTZコントローラボタンをクリックして、左右のリミットストップを設定します。

定義済みのプリセットを呼び出して、それらをPTZカメラの制限として設定することもできます。

ステップ4：[設定]をクリックして制限を保存するか、[消去]をクリックして制限を消去します。

6.5.4 初期位置 ※ PTZカメラのみ対応 ※



PTZカメラの初期位置をゼロ点として設定することができます。

ステップ1: PTZバレットカメラの初期位置としてPTZコントロールボタンをクリックし、また定義されたプリセットを呼び出し、初期位置としてそれを設定することができます。

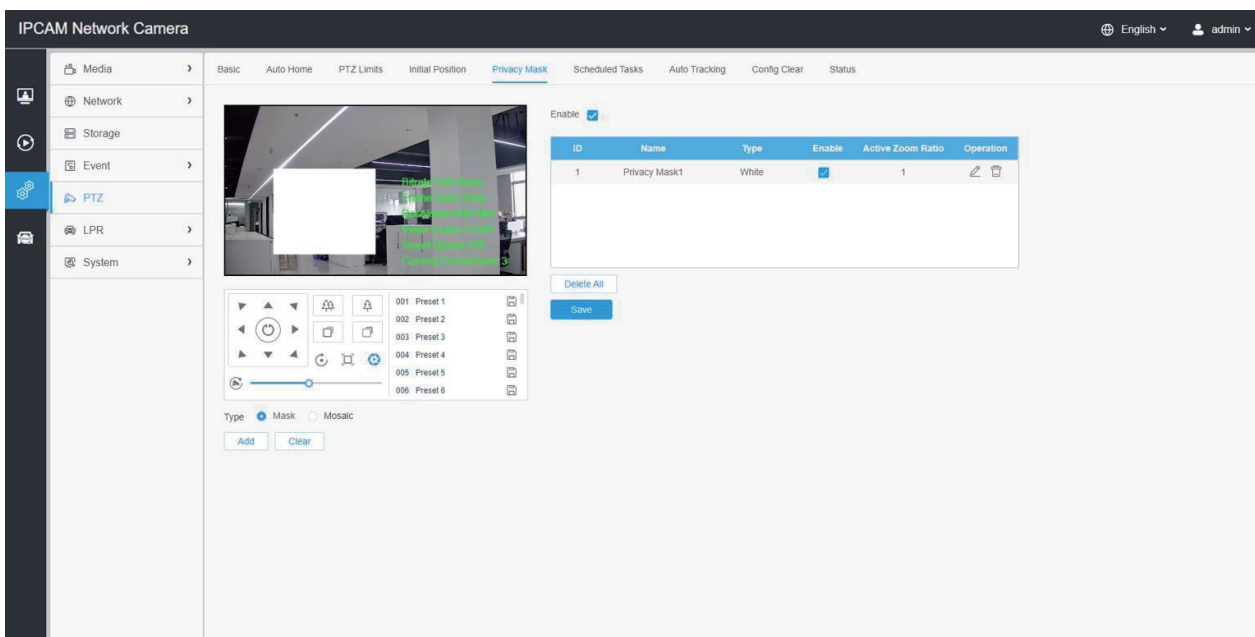
ステップ2: [Set] をクリックすると、その位置が初期位置として保存されます。

表72ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Set	クリックして現在位置を初期位置に設定します。
Clear	初期位置をデフォルト設定にクリアします。
Call	クリックして初期位置を呼び出します。

6.5.5 プライバシーマスク ※ PTZカメラのみ対応 ※

プライバシーマスクは、ライブ映像上の特定のエリアをカバーし、監視エリアの特定の場所を表示および録画されないようにすることができます。マスクエリアは、レンズの移動に伴って移動することはありません。



[プライバシーマスク]

ライブ映像の特定のエリアを覆う色を選択することができます。

表73. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
Enable	ボックスにチェックを入れるとプライバシーマスク機能が有効になります
Add	現在の描かれたエリアをプライバシーマスクとして追加
Clear	現在の描かれたエリアを消去
Clear All	前に描かれた全てのエリアが削除されます
Name	プライバシーマスクの名前をカスタマイズするためのサポート
Type	プライバシーエリアに使用する色を選択してください。8色が利用可能です： 白、黒、青、黄、緑、茶色、赤、紫
Active Zoom Ratio	必要に応じてActive Zoom Ratioの値を設定すると、ズーム率が事前定義された値より大きい場合にのみマスクが表示されます

[プライバシーマスクのモザイクタイプ]

ライブ映像の特定のエリアをカバーするために使用するカラータイプとモザイクタイプを選択することができます。モザイクタイプは、映像の連続性を保ち、視覚効果を高めることができます。マスクエリア24個とモザイクエリア4個の合計28個まで対応可能です。






注意：カメラが対応していることを確認してください。

The screenshot displays the 'Privacy Mask' configuration page in the IPCAM Network Camera interface. The main video feed shows a white rectangular mask covering a portion of the scene. The configuration panel on the right includes an 'Enable' checkbox that is checked. Below it is a table with the following data:

ID	Name	Type	Enable	Active Zoom Ratio	Operation
1	Privacy Mask1	White	<input checked="" type="checkbox"/>	1	

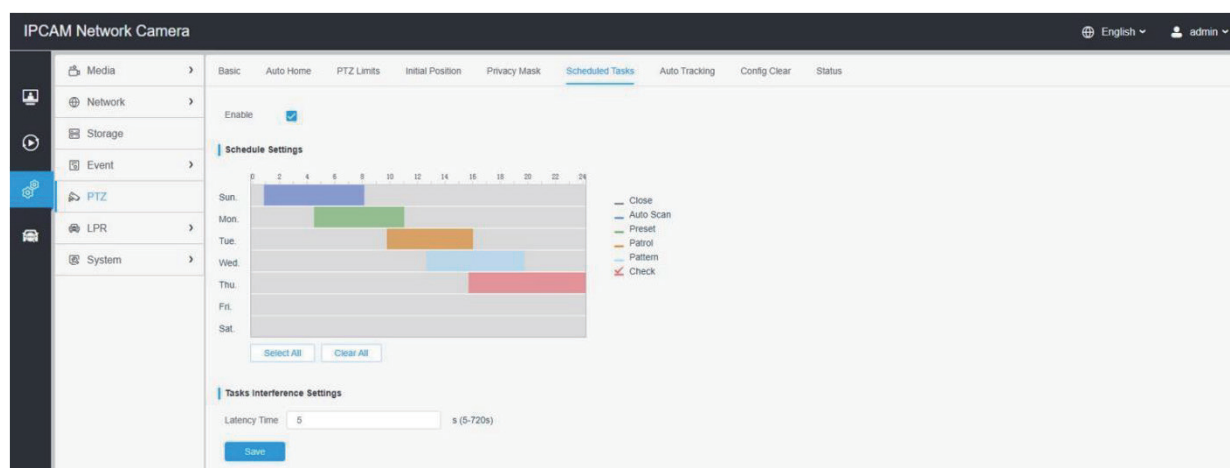
Buttons for 'Delete All' and 'Save' are located below the table. At the bottom of the configuration panel, there are 'Add' and 'Clear' buttons. The video preview area also features a control panel with navigation arrows, a power button, and a list of presets (001 to 006). The 'Type' is set to 'Mask' and 'Mosaic' is unselected.

表74ボタンの説明

パラメータ	機能紹介	
Enable	プライバシーマスク機能を有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れます。	
Type	プライバシーエリアに使用するタイプを選択します。マスクとモザイクの2種類があります。	
	必要に応じて、ライブ映像にプライバシーエリアを描きます。	
	ライブ映像に描いた範囲をクリアする。	
Operation		選択した ROI エリアの有効化／無効化
		Maskエリアの色を変更することができます。白、黒、青、黄、緑、茶、赤、紫の8色です。
		プライバシーマスクのエリアを削除する

6.5.6 スケジュールタスク ※ PTZカメラのみ対応 ※

PTZカメラがユーザー定義の時間帯に自動的に特定の動作を行うように設定することができます。



ステップ1: スケジュールタスクの設定 画面に入る。

ステップ2: 「スケジュールされたタスクを有効にする」のチェックボックスをオンにします。

ステップ3: スケジュールとタスクの詳細を設定します。

ステップ4: タスク回復時間（5秒から720秒まで）を設定します。PTZカメラがスケジュールとタスクの詳細を開始するまでの時間（非アクティブの期間）を設定することができます。

ステップ5:  ボタンをクリックすると、すべての設定が保存されます。

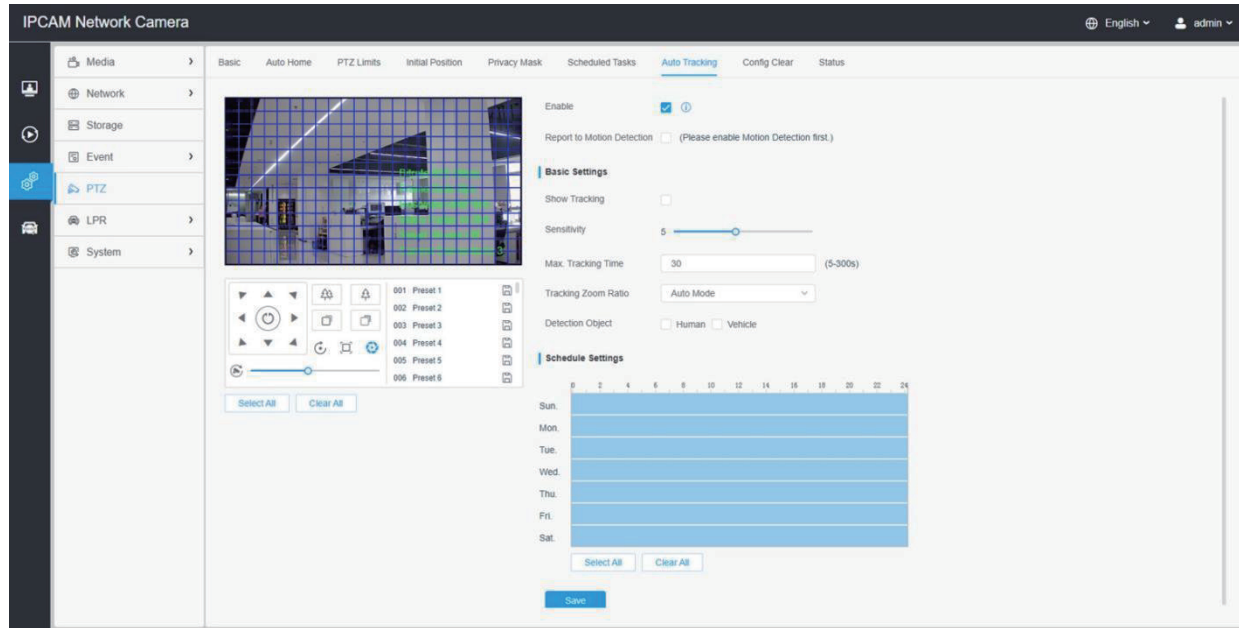
注意:

- 各タスクの時間帯は重複できません。各日に最大10個のタスクが設定できます。
- スケジュールタスク機能は、オートホーム機能より優先されます。これら2つの機能が同時に設定された場合、スケジュールタスク機能のみが有効になります。
- ボタンをクリックすると、異なる種類のタスクのスケジュールをすべて選択したり、閉じたりすることができます。

6.5.7 自動追尾 ※ PTZカメラのみ対応 ※

PTZシリーズのカメラは、この機能を設定すると、移動するオブジェクトを自動的に追尾することができます。

注意：関連性のない場合では、自動追尾の優先順位は、VCAイベント>自動追尾>モーション検出となります。



設定手順を以下に示します。

ステップ1：チェックボックスにチェックを入れ、自動追尾を有効にします。

ステップ2：チェックボックスをオンにして、Report to Motion Detection を有効にします。自動追尾中にモーション検知アラームが作動するようになります。

注意：最初にモーションディテクトを有効にしてください。

[基本設定]

ステップ3：“Show Tracking” を有効にすると、自動追尾機能でトラッキングを表示することができます。

ステップ4：検出感度を設定します。

ステップ5：最大トラッキング時間を設定します。Tracking Timeは5~300sの間で設定してください。カメラはトラッキング時間が切ると、トラッキングを停止します。

ステップ6：オートモードとカスタマイズを含むトラッキングズーム比を設定します。自動モードが選択された場合、カメラはトラッキングズーム比を自動的に調整します。カスタマイズを選択した場合、ユーザーはまずズームボタンを調節してトラッキングズーム比を設定する必要があり、その後カメラは自動的にトラッキングズーム比を調節します。

カスタマイズされたトラッキングのズーム比と、その瞬間の画像内のオブジェクトの割合に応じて、自動的に移動オブジェクトを追尾します。同時に、オブジェクトはトラッキングプロセス中、常に画像内の同じプロポーションを維持します。

ステップ7：検出オブジェクトを選択します。人または車両属性をチェックすると、カメラは人または車両を検出するとアラームを発し、関連イベントをトリガーします。

[スケジュール設定]

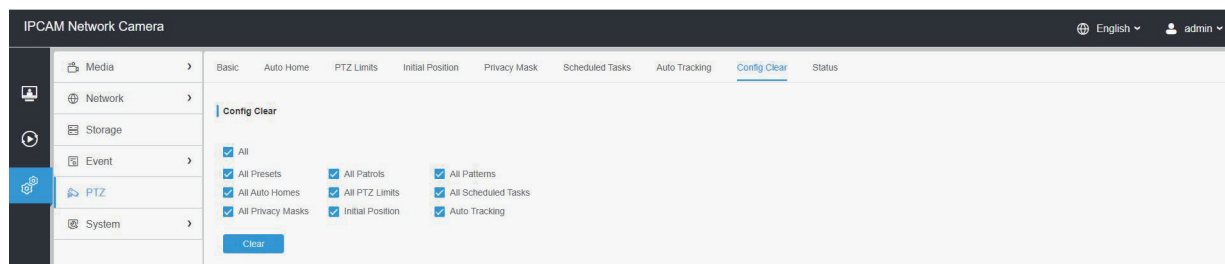
ステップ8: 自動追尾のスケジュールを設定する。

ステップ9: 画面を描画し、検出エリアを設定します。

ステップ10:  をクリックし、設定を保存します。

注意: 自動追尾を使用する前に、自動原点をオフにしてください。

6.5.8 設定クリア ※ PTZカメラのみ対応 ※

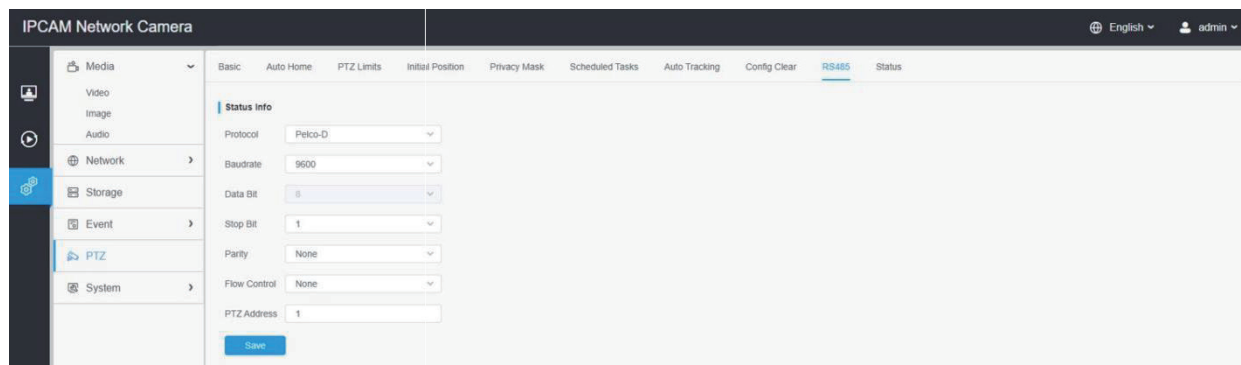


ここでは、すべてのPTZ設定、プリセット、パトロール、パターン、オートホーム、PTZ制限、初期位置（ミニPTZバレット）、プライバシーマスク、およびスケジュールされたタスクを含むPTZ設定を消去できます。

6.5.9 RS485 ※ PTZカメラのみ対応 ※

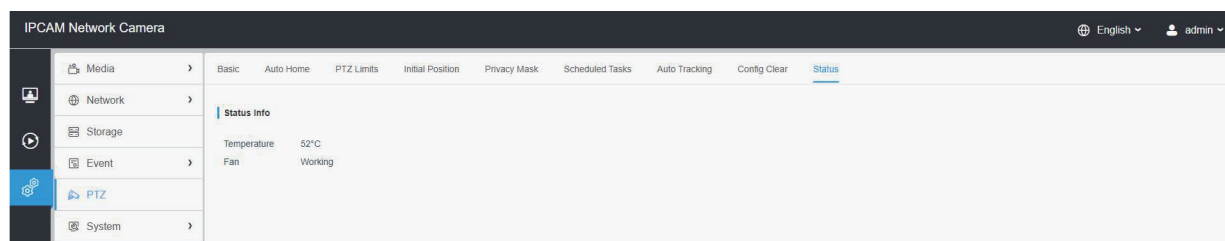
ここでは、スピードドームの PTZ を制御するための RS485 シリアルポートの設定を行います。プロトコル、ボーレート、データビット、ストップビット、パリティ、フロー制御、PTZアドレスは、制御機器と全く同じにする必要があります。

注意: この機能はスピードドームのみです。



6.5.10 ステータス ※ PTZカメラのみ対応 ※

ここでは、温度やファンの状態など、PTZカメラのステータス情報を見ることができます。



6.6 LPR(オプション) ※ LPR車番認識カメラのみ対応 ※

6.6.1 設定

LPR機能は、リアルタイムにナンバープレートを自動検出して捕捉し、事前に設定したリストと比較し、ナンバープレートが事前に設定したブラックリストに載った時点で警告を発するなど、適切な処置を行います。

注意：

- 現在、LPR1, LPR2, LPR3, LPR 4, LPR EU, LPR AP, LPR AM のバージョンがあります。LPR_EU, LPR2 はヨーロッパ向けです。LPR1, LPR_AP は アジア&パシフィック向けです。また、LPR4, LPR_AM は、米国用で、LPR3は韓国向けです。
- LPR カメラのイベントタブには、基本イベントしかありません。

6.6.1.1 一般

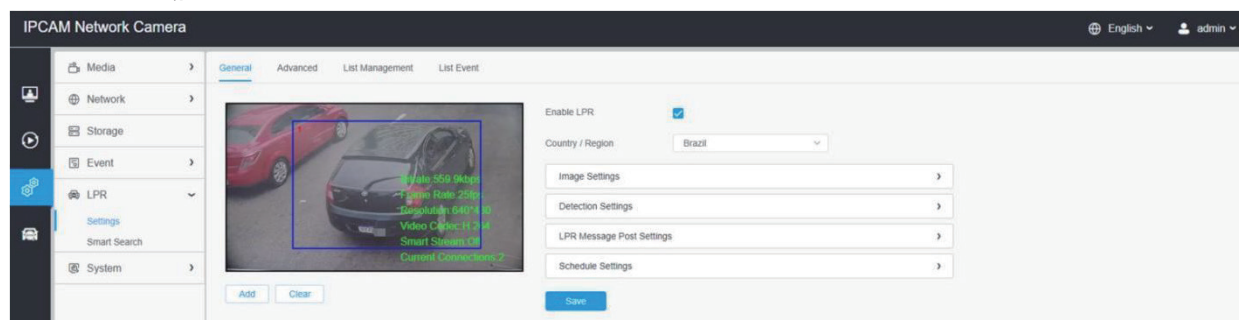


表 75. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
検出を有効にする	LPR検出機能の有効／無効を設定します。
国/リージョナル (LPR1 と LPR EU のみ)	ナンバープレートを検出する国・リージョナルを選択します。
有効エリア (PTZシリーズのみ)	通常 ：現在のエリアのLPR検出エリアを設定します。 Advanced ：異なるPTZプリセットのための異なるLPR検出エリアを設定する（今のところプリセット1~4のみをサポート）。

ステップ1：チェックボックスにチェックを入れ、LPR検出機能を有効にします。ナンバープレートを検出する国・リージョナルを選択します。

注意：LPR2とLPR3の場合、システム情報インターフェイスで LPR 機能を有効にするためにライセンスを入力してください。ライセンスステータスがValidになると、カメラはナンバープレートの検出を開始することができます。

[画像設定]

ステップ2 : LPRナイトモードは、異なるパラメータレベルを調整することで、最適なLPR夜間認識効果をサポートします。手動で有効時間を設定する「カスタマイズ」、または照度に応じて自動的にナイトモードに切り替える「オートモード」を選択することができます。

Enable LPR

Country / Region Australia

Image Settings

Enable LPR Night Mode

Effective Time Auto Mode

Day to Night Value 36 Reset

Night to Day Value 82 Reset

IR Light Sensor Value 100

Level 4 ①

Detection Settings >

LPR Message Post Settings >

Schedule Settings >

Save

カスタマイズモード

Image Settings

Enable LPR Night Mode

Effective Time Customize

Start Time 🕒 18:00

End Time 🕒 06:00

Level 4 ①

オートモード

Image Settings

Enable LPR Night Mode

Effective Time Auto Mode

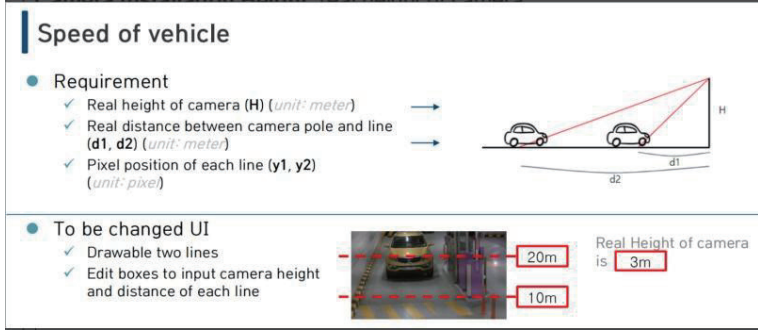
Day to Night Value 36 Reset

Night to Day Value 82 Reset

IR Light Sensor Value 100

Level 4 ①

表 76. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
LPR Night Mode を有効にする (LPR3 と LPR EU のみ)	このオプションを有効にすると、カメラはデイ/ナイトモードに応じて異なる検出モードを有効にします。
車速検出を有効にする (LPR3のみ)	<p>このオプションを有効にすると、カメラは車速を検出し、「ログ」インターフェースに結果を表示します。</p> <p>ライブビューに2本の線 (Line1とLine2) を描画し、カメラの設置高さ、水平距離1および水平距離2を入力する必要があります。カメラは、描画した線と入力されたデータを組み合わせて車両速度を計算します。</p> <p>カメラ設置高さ：カメラの実際の高さ。 水平距離1：カメラのポールとライン1間の実際の距離。 水平距離2：カメラのポールとライン2間の実際の距離。</p> 
有効時間	有効時間を手動で設定する「カスタマイズ」と、照度に応じて自動的にナイトモードに切り替える「オートモード」が選択できます。
レベル	レベル1~10まであります。 各レベルの最小シャッター：1- 1/250, 2- 1/500, 3- 1/750, 4- 1/1000, 5- 1/2000.

[検出設定]

ステップ3: チェックボックス “Enable License Plate Recognition ”にチェックを入れると、興味あるエリアを選択する画面を描画します。

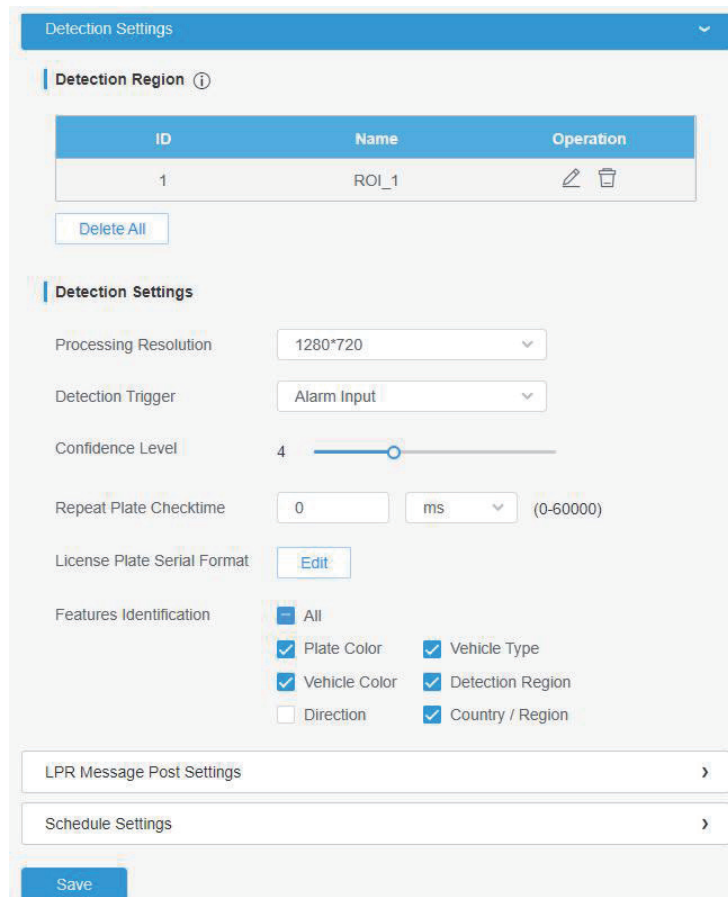














表77. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介									
追加	<p>スクリーンを描画してエリアを選択し、「追加」ボタンをクリックしてエリアを追加すると、4つの認識エリアのみを追加することができます。</p> <p>下のリストで、エリア名の編集やエリアの削除ができます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ID</th> <th>Name</th> <th>Operation</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ROI_1</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ROI_2</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>注意：150ピクセル以上のナンバープレートのみ認識可能です。</p>	ID	Name	Operation	1	ROI_1	 	2	ROI_2	 
ID	Name	Operation								
1	ROI_1	 								
2	ROI_2	 								
クリア	「クリア」ボタンをクリックすると、描画中のエリアがクリアされます。									
すべて削除	「すべて削除」ボタンをクリックすると、追加されたすべてのエリアが削除されます。									

ステップ4： 検出設定をします。

表78. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
処理解像度	LPR解析用ストリームの解像度。1920*1280、1280*720、640*360、320*176
検出トリガー	<p>常に：このモードでは、カメラは常にナンバープレートを検出します。</p> <p>アラーム入力：このモードでは、カメラはアラーム入力が入力されている間のみ、ナンバープレートを検出します。</p>
リピートプレートチェックタイム	<p>ナンバープレートを繰り返し読み取る時間間隔を設定することで、駐車車両の重複認識を効果的に回避することができます。</p> <p>Repeat Plate Checktimeは、0~60分、0~60000msの範囲で設定可能です。</p>
ナンバープレート・シリアル・フォーマット	ナンバープレート・シリアル・フォーマット機能は、識別ルールの設定をサポートし、自動的にさらなる処理、非標準フォーマットのナンバープレートのフィルタリングを行い、よりインテリジェントで正確なナンバープレート認識を実現することができます。
属性識別	国/リージョナル (LPR2、LPR_EUのみ) 、 方位リージョナル 、 方位 、 すべて にチェックを入れて、機能識別を有効にすると、スマートサーチインターフェースに対応する情報が表示されます。

ステップ5： LPRメッセージポストを設定します。

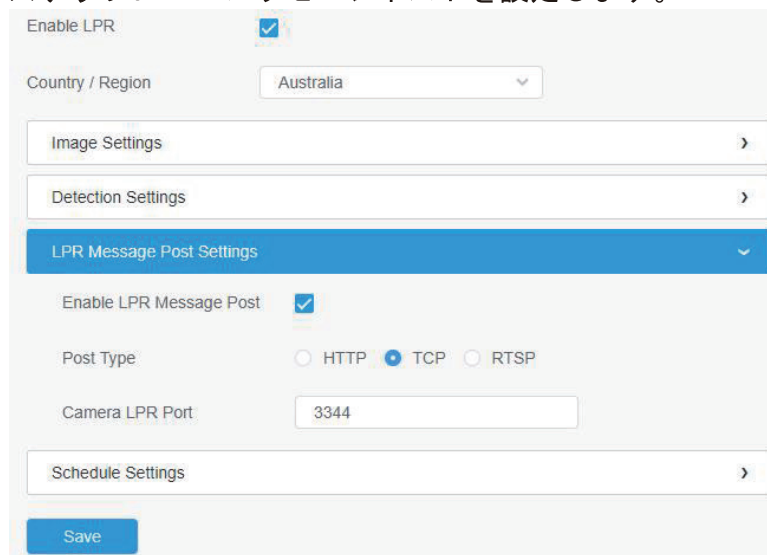


表79. ボタンの説明

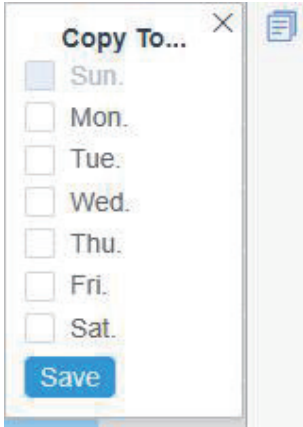

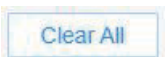
パラメータ	機能紹介
LPRメッセージポストを有効にする	LPR Message Postを有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れます。これは、私たちのものと互換性のあるいくつかのサードパーティのデバイスやソフトウェアに情報をプッシュします。
ポストタイプ	情報は、RTSP、TCP、HTTPでプッシュすることができます。
HTTPメソッド	HTTPのPushメソッドには、PostとGetの2種類があります。
スナップショットタイプ	スナップショットは3種類から選択可能です。All、License Plate、Full Snapshotの3種類を選択できます。Allを選択した場合、License Plate SnapshotとFull Snapshotがプッシュされます。 注意：このオプションは、Post HTTP Methodに対してのみ有効です。
HTTP通知URL	LPR カメラは、API URL を使用して、ナンバープレートを認識した際に LPR 情報をバックエンド機器に送信することができます。API URL の形式は以下の通りです。 http://IP:Port/api/lpr?
ユーザー名	レシーバー名
パスワード	受信機パスワード

[スケジュール設定]

ステップ6： スケジュール設定を行います。

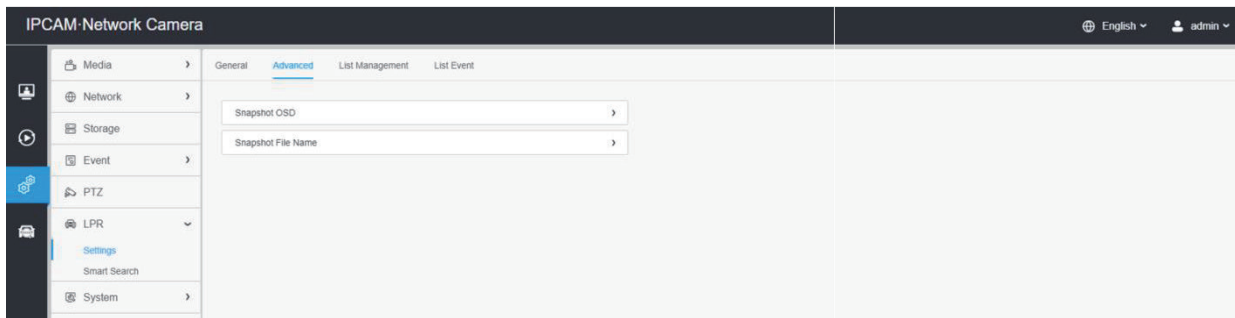
The screenshot displays the 'Schedule Settings' section of a configuration interface. At the top, 'Enable LPR' is checked. Below it, 'Country / Region' is set to 'Australia'. There are four expandable sections: 'Image Settings', 'Detection Settings', 'LPR Message Post Settings', and 'Schedule Settings' (which is currently expanded). The 'Schedule Settings' section features a 24-hour time axis at the top and a grid for the days of the week (Sun. to Sat.). The grid cells are currently empty, indicating no specific time slots are selected. Below the grid are 'Select All' and 'Clear All' buttons. At the bottom of the interface is a 'Save' button.

表80. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
	<p>スケジュールエリアを別の日付にコピーします。</p>
	<p>すべてのスケジュールを選択します。</p>
	<p>すべてのスケジュールを消去します。</p>

6.6.1.2 アドバンス

インターフェイスでは、ナンバープレート認識のスナップショットの表示情報を設定したり、FTPや電子メール経由でアップロードしたり、ローカルのLPR Picture File Path に保存するスナップショットのファイル名をカスタマイズすることができます。



[スナップショットOSD]

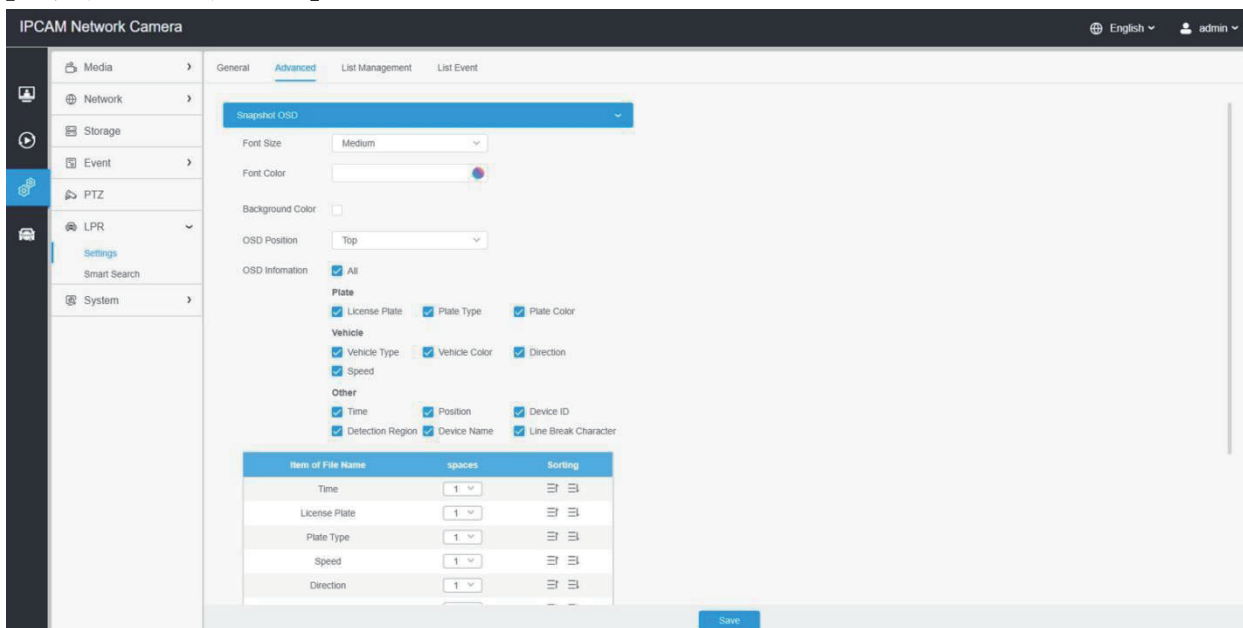




表81. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
文字サイズ	<p>OSD情報には、Small/Medium/Largeが用意されています。</p> <p> 注意：スナップショットOSDのフォントサイズと画像OSDのフォントサイズは対応しています。</p>
文字色	<p>OSD 情報に異なる色を設定することを可能にする。</p> <p>注意：スナップショットOSDのフォントカラーと画像OSDのフォントカラーは対応しています。</p>
背景色	<p>スナップショットOSD情報の背景色を選択する場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。</p> <p>注意：背景色と文字色を同じにすることはできません。</p>
OSDポジション	<p>OSD情報位置を表示する場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
OSD情報	<p>OSDの内容をカスタマイズする。OSD情報を以下のように設定することができます。</p> <div data-bbox="544 976 1246 1301" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p>OSD Information <input type="checkbox"/> All</p> <p>Plate</p> <p><input type="checkbox"/> License Plate <input type="checkbox"/> Plate Type <input type="checkbox"/> Plate Color</p> <p>Vehicle</p> <p><input type="checkbox"/> Vehicle Type <input type="checkbox"/> Vehicle Color <input type="checkbox"/> Direction</p> <p><input type="checkbox"/> Speed</p> <p>Other</p> <p><input type="checkbox"/> Time <input type="checkbox"/> Position <input type="checkbox"/> Device ID</p> <p><input type="checkbox"/> Detection Region <input type="checkbox"/> Device Name <input type="checkbox"/> Line Break Character</p> </div> <p>ナンバープレートが認識され、アラームが作動すると、ナンバープレート認識のスナップショットは以下のように表示されます。</p>  <p>The screenshot shows a black Jaguar car with a yellow license plate 'RT-578-N'. The OSD overlay at the top reads '2020-10-10 20:04:09 RT578N Position'.</p>

[スナップショットファイル名]

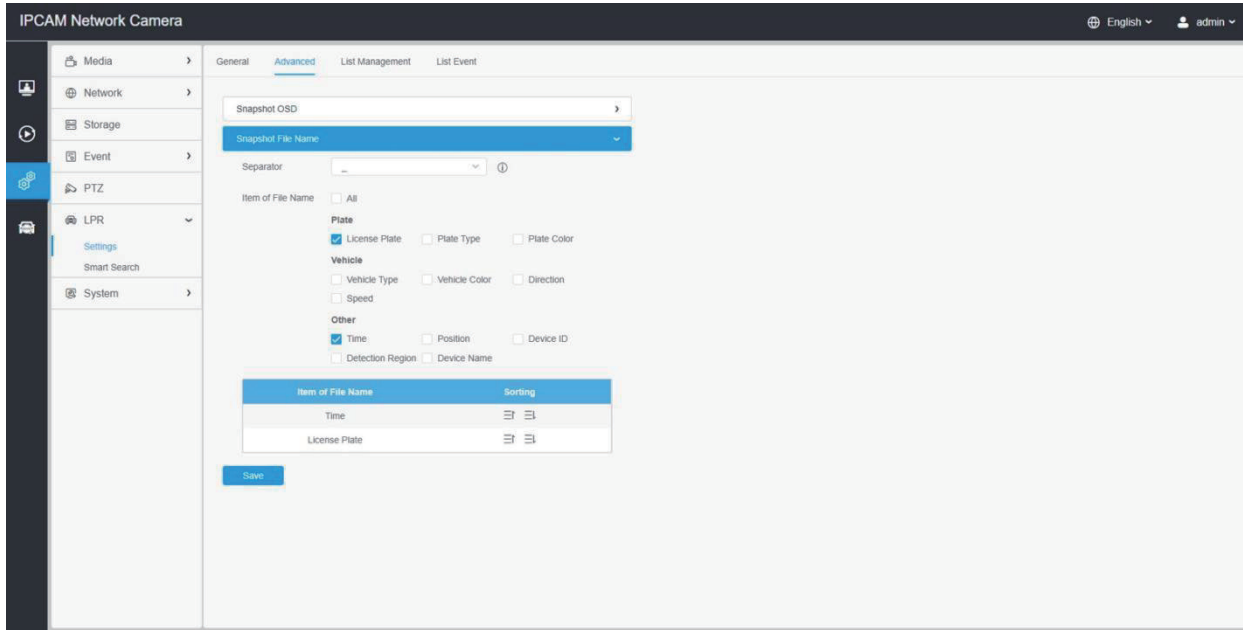




表82ボタンの説明









パラメータ	機能紹介
セパレーター	ファイル名の区切り文字として、“-”、“_”、“スペース”が使用可能です。デフォルトのセパレーターは“-”です。
ファイル名の項目	<p>スナップショットファイル名は、選択した項目に応じてカスタマイズすることができます。</p> <div data-bbox="507 1193 1310 1585" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p>Item of File Name <input type="checkbox"/> All</p> <p>Plate</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> License Plate <input type="checkbox"/> Plate Type <input type="checkbox"/> Plate Color</p> <p>Vehicle</p> <p><input type="checkbox"/> Vehicle Type <input type="checkbox"/> Vehicle Color <input type="checkbox"/> Direction</p> <p><input type="checkbox"/> Speed</p> <p>Other</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Time <input type="checkbox"/> Position <input type="checkbox"/> Device ID</p> <p><input type="checkbox"/> Detection Region <input type="checkbox"/> Device Name</p> </div>

項目がチェックされるたびに、リストには項目行が追加され、項目名と

ソート操作。  と  ボタンをクリックすると、これらの項目がソートされ、セパレータを選択すると、これらの項目の名前が接続されます。また、位置とデバイスIDの項目はカスタマイズすることができます。すべての項目をチェックすると、以下のようなインターフェイスが表示されます。

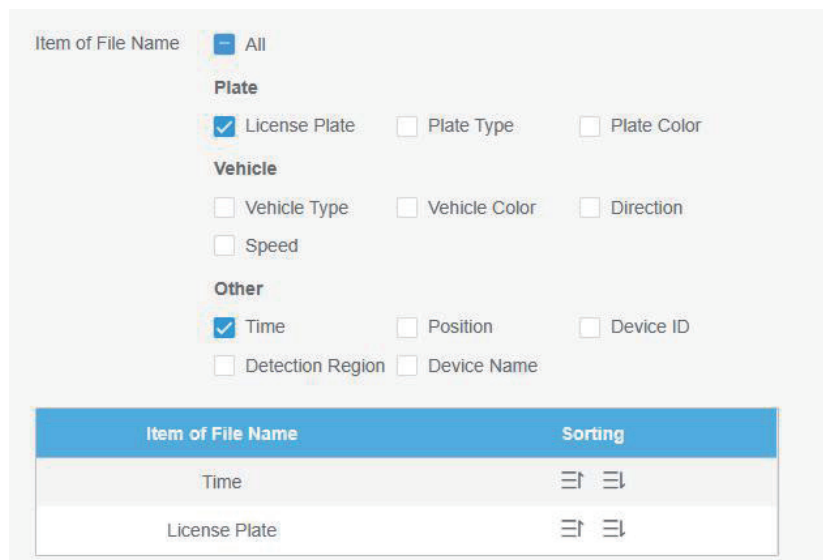


The screenshot shows a configuration panel with a list of items under the heading "Item of File Name". All items are checked. Below the list is a table with two columns: "Item of File Name" and "Sorting".





Item of File Name	Sorting
Time	 
License Plate	 
Plate Type	 
Speed	 
Direction	 
Detection Region	 
Position: <input type="text" value="Position"/>	 
Device Name	 
Device ID: <input type="text" value="Device ID"/>	 
Plate Color	 
Vehicle Type	 
Vehicle Color	 

注意：少なくとも1つの項目にチェックを入れる必要があります。

例えば、以下のように項目、セパレータ、項目の並べ替えを選択することができます。



The screenshot shows the same configuration panel, but only "License Plate" and "Time" are checked. The table below shows only two rows.

Item of File Name	Sorting
Time	 
License Plate	 

ナンバープレートが認識されると、スナップショットは、FTPまたは電子メールを介してアップロードされるか、またはローカルLPR画像ファイルパスに格納されます。その後、あなたは以下のようにカスタマイズされたスナップショットファイル名を見ることができます。

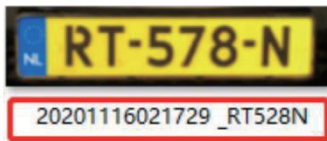
フルスナップショット認識成功



フルスナップショット認識失敗



ナンバープレート・スナップショット認識成功



ナンバープレート・スナップショット認識失敗



注意：

- チェックした項目が正常に認識されない場合は、特定の記号 “#” で表示されます。
- フルスナップショットのファイル名の前には、4の数字が付きます。

6.6.1.3 リスト管理 ※ LPR 車番認識カメラのみ対応 ※

このインターフェースにブラックまたはホワイトタイプ（ブラック/ホワイトリスト）としてナンバープレートを追加し、対応するブラックリストモードまたはホワイトリストでこれらのナンバープレートのアラームアクションを設定することができます。モードのインターフェイスになります。これらのナンバープレートが検出されると、カメラは設定に応じた対応をします。

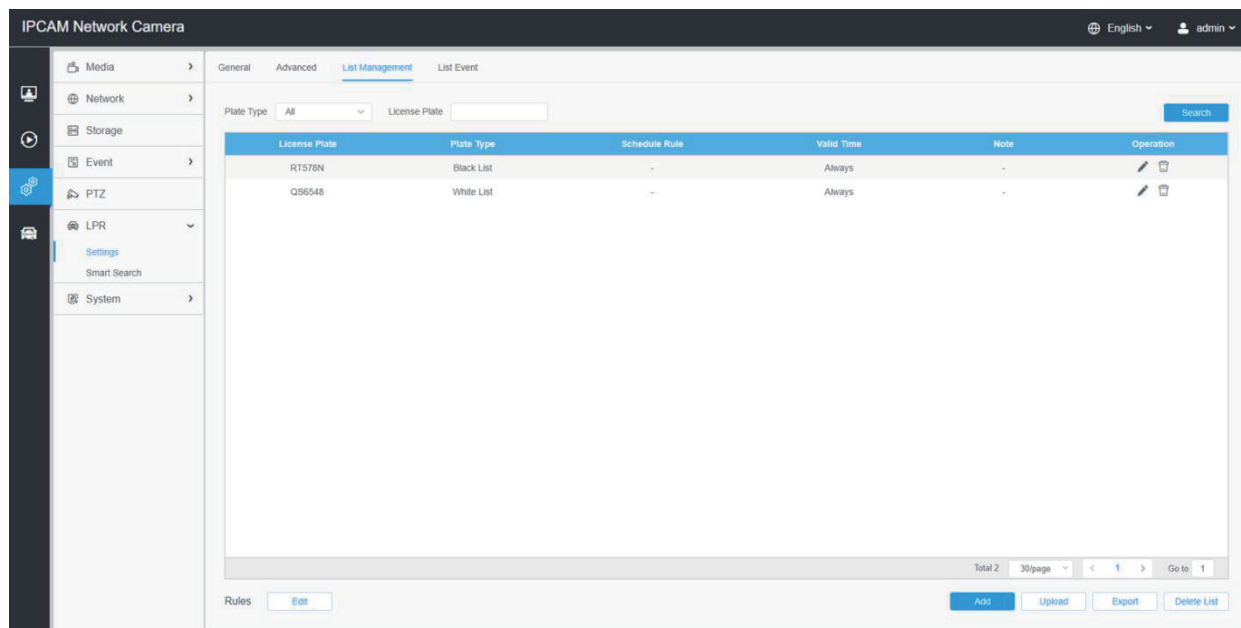


表83ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
<p>ナンバープレート追加</p>	<p>ナンバープレートの種類を黒または白から選択し、ナンバープレートを入力し、「追加」ボタンをクリックすると、ナンバープレートは正常に追加されます。</p> 
<p>一括アップロード</p>	<p>追加したいナンバープレートのcsvフォームを追加し、「参照」ボタンをボタンをクリックして、このインターフェースにフォームをインポートし、「アップロード」ボタンをボタンをクリックして、ナンバープレートは正常に追加されます。</p> <p>注意：このインターフェースでは、まず、参考としてテンプレートをダウンロードすることができます。</p>
<p>リスト検索</p>	<p>プレートタイプを選択するか、直接ナンバープレートを入力し、「検索」ボタンをクリックすると、対応するナンバープレートが下のリストに表示されます。</p>
<p>エクスポートリスト</p>	<p>リストのエクスポート」ボタンをクリックすると、現在のリストのナンバープレートをcsv形式でローカルにエクスポートすることができます。</p>
<p>削除リスト</p>	<p>「リストの削除」ボタンをクリックすると、現在のリストにあるすべてのナンバープレートが削除されます。</p>

ルールをカスタマイズする場合は、「編集」ボタンをクリックします。

Schedule Rule Settings

Rules: 1, 2, 3, 4

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24

Sun. Mon. Tue. Wed. Thu. Fri. Sat.

Black White

Select All Clear All

Save Cancel

そして、ライセンスプレートをスケジュールモードに設定し、異なる時刻にブラックリストまたはホワイトリストとして設定できるカスタムスケジュールルールを選択します。

スケジュールルール

Add

License Plate* DF53EU7

Type Schedule Mode

Schedule Rule Rule 1

Valid Time Always

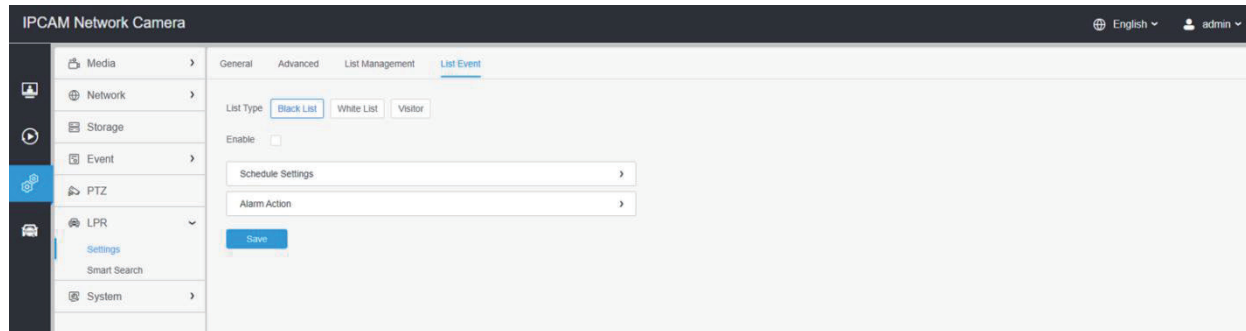
Note

Save Cancel

注意：スケジュールモードでは、最大4つのスケジュールルールの設定をサポートします。

注意：ブラックリスト、ホワイトリスト1000件の追加に対応。

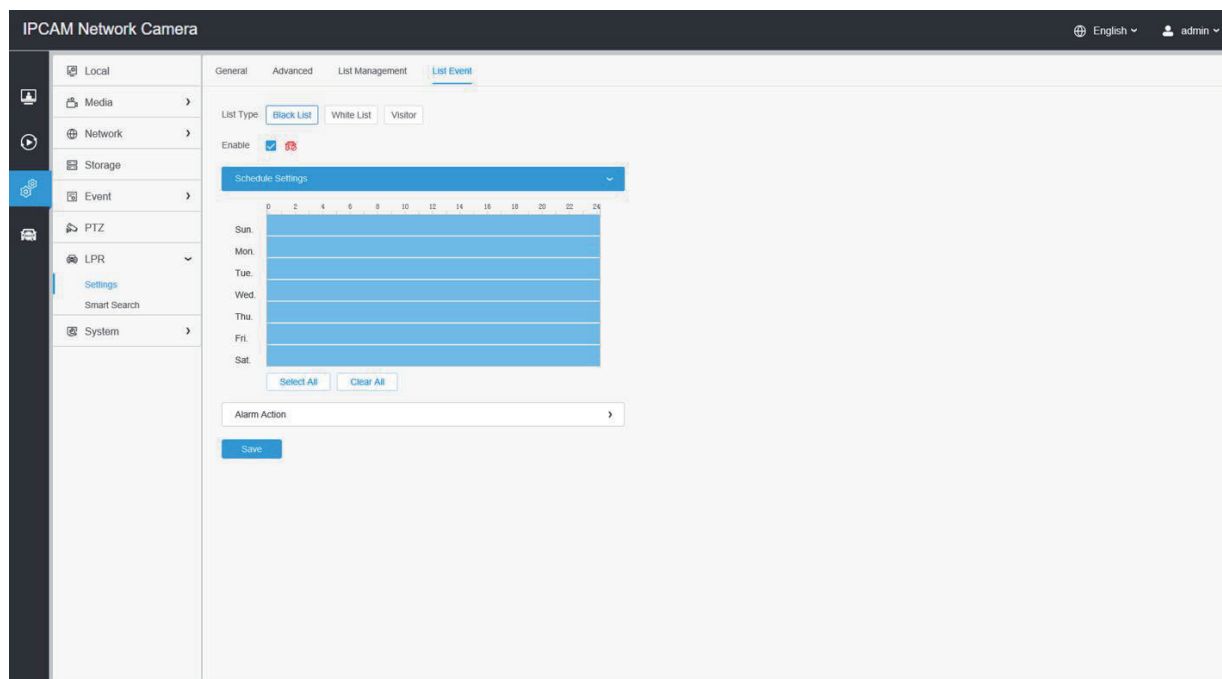
6.6.1.4 リストイベント



ステップ1: リストの種類を選択します。Black List/White List/Visitor モードを有効にするためにチェックボックスをオンにします。

ステップ2: ブラックリスト/ホワイトリスト/ビジター車両が通過する際に、対応するアラームアイコンがトリガーされます。

ブラックリスト



No.	License Plate	Snapshot	Plate Type	Plate Color	Vehicle Type	Vehicle Color	Speed	Direction	Detection Region	Time	Operation
14	DOK69		Black List	White	Car	Black	-	Away	1	2022-04-21 23:25:42	Q
13	BOJV11		Visitor	White	Car	Black	-	Away	1	2022-04-21 23:25:39	Q
12	2BKZ2		Visitor	White	Car	Red	-	Away	2	2022-04-21 23:25:23	Q
11	MGBB2		Visitor	White	Bus	Blue	-	Away	2	2022-04-21 23:25:21	Q
10	DCCG1		Visitor	White	Car	White	-	Away	2	2022-04-21 23:25:19	Q
9	FE301		Visitor	White	Car	Black	-	Away	2	2022-04-21 23:25:17	Q
8	DOJOC		Visitor	White	Car	Gray	-	Away	2	2022-04-21 23:25:14	Q
7	WHVQ2		Visitor	White	Car	Gray	-	Away	2	2022-04-21 23:25:10	Q
6	TKH41		White List	White	MiniVan	Black	-	Away	2	2022-04-21 23:25:09	Q

ビジターリスト

IPCAM Network Camera English admin

Local Media Network Storage Event PTZ LPR Settings Smart Search System

General Advanced List Management **List Event**

List Type: **Black List** White List Visitor

Enable:

Schedule Settings

Sun. Mon. Tue. Wed. Thu. Fri. Sat.

Select All Clear All

Alarm Action

Save

IPCAM Network Camera English admin

Primary Stream HTTP Balanced LPR

Recognition Result

FE30 Plate Type: **Visitor** Plate Color: **White** Vehicle Type: **Car**
 Vehicle Color: **Black** Speed: - Direction: **Away**

No.	License Plate	Snapshot	Plate Type	Plate Color	Vehicle Type	Vehicle Color	Speed	Direction	Detection Region	Time	Operation
18	FE301		Visitor	White	Car	Black	-	Away	2	2022-04-21 23:26:00	
17	DOJO3		Visitor	White	Car	Gray	-	Away	2	2022-04-21 23:25:57	
16	WHVOZ		Visitor	White	Car	Gray	-	Away	2	2022-04-21 23:25:53	
15	DCH10		White List	White	Minibus	Red	-	Away	2	2022-04-21 23:25:45	
14	DOK69		Black List	White	Car	Black	-	Away	1	2022-04-21 23:25:42	
13	BOUV11		Visitor	White	Car	Black	-	Away	1	2022-04-21 23:25:39	
12	2BKZZ		Visitor	White	Car	Red	-	Away	2	2022-04-21 23:25:23	
11	MGBBZ		Visitor	White	Bus	Blue	-	Away	2	2022-04-21 23:25:21	
10	HYVY4		Visitor	White	Car	White	-	Away	2	2022-04-21 23:25:19	

001 Preset 1
002 Preset 2
003 Preset 3
004 Preset 4
005 Preset 5
006 Preset 6
007 Preset 7
008 Preset 8
009 Preset 9
010 Preset 10
011 Preset 11
012 Preset 12
013 Preset 13
014 Preset 14
015 Preset 15
016 Preset 16
017 Preset 17
018 Preset 18
019 Preset 19
020 Preset 20
021 Preset 21

AUTO

IPCAM Network Camera English admin

Media Network Storage Event PTZ LPR Settings Smart Search System

General Advanced List Management **List Event**

List Type: **Black List** White List Visitor

Enable:

Schedule Settings

Sun. Mon. Tue. Wed. Thu. Fri. Sat.

Select All Clear All

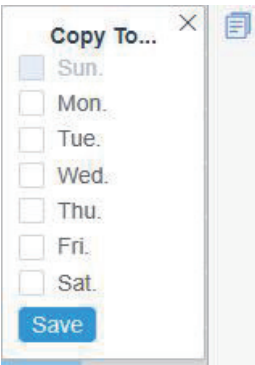


Alarm Action

Save

[スケジュール設定]

ステップ3：スケジュール設定を行います。

表84ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
	スケジュールエリアを別の日付にコピーします。
	すべてのスケジュールを選択します。
	すべてのスケジュールを消去します。

[アラーム時の動作]

ステップ4：アラーム時の動作を設定します。

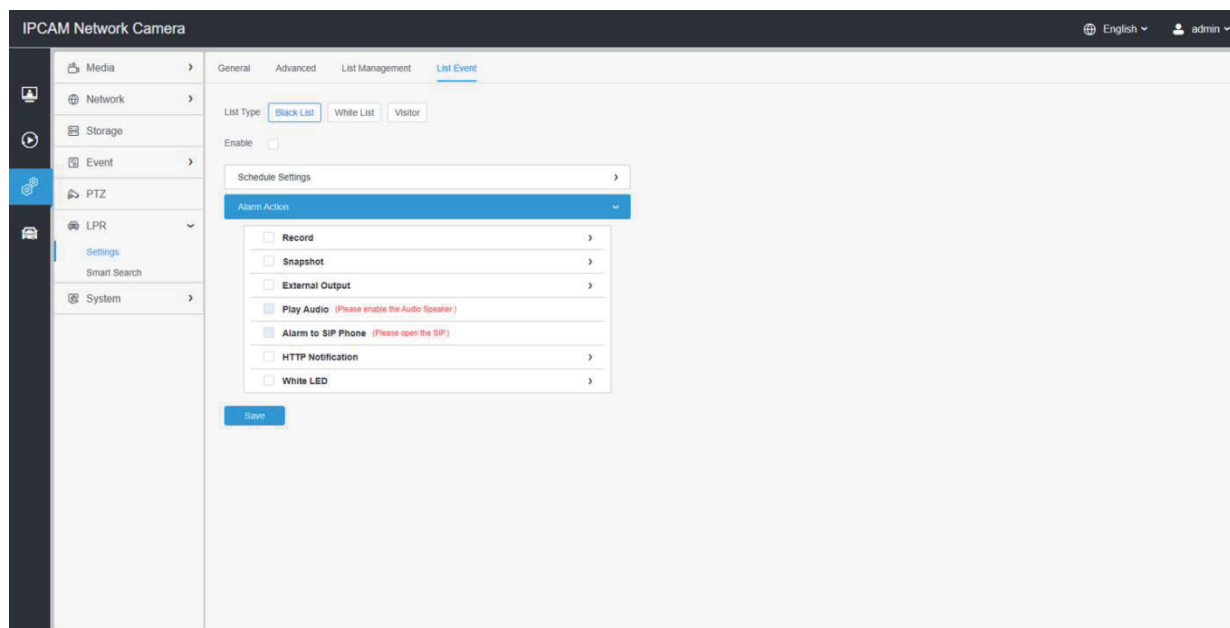


表85ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
録画	<p>継続時間：アラームの継続時間を選択しました。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が選択可能です。</p> <p>連動：アラーム録画ファイルをSDカードやNASに保存したり、FTPで録画ファイルをアップロードすることができます。</p>
スナップショット	<p>数量：スナップショットの数、1～5が利用可能です。</p> <p>間隔：Snapshotに1以上の場合、編集することができます。</p> <p>連動：SDカードやNASにアラーム録画ファイルを保存し、FTPで録画ファイルをアップロードし、アラームメールを送信します。</p>

6.6.1.5 トラフィック検出 ※ LPR 車番認識カメラのみ対応 ※

レーダーAI車番認識カメラは、組み込み型LPRアルゴリズムだけでなく、AIプラットフォームに基づく深層学習アルゴリズムにも対応しており、より高い検出精度と豊富なインテリジェント機能を実現することが可能です。

レーダーAI車番認識カメラは、まさにオールインワンの一体型カメラです。レーダーモジュールがカメラに直接内蔵されているため、設置がより便利になりました。

このページでは、レーダーモデルのトラフィックディテクションを設定します。

注意：

- カメラの機種が「レーダーAI車番認識カメラ」であることを確認してください。

ステップ1：トラフィックの検出を有効にする。

IPCAM Network Camera

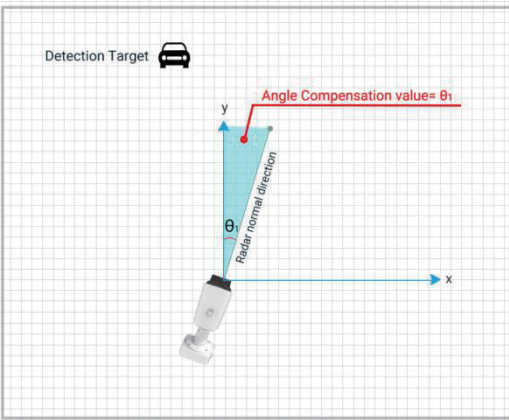
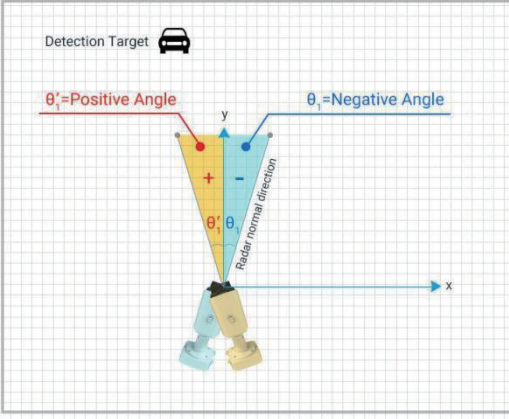
Secondary Stream LPR

Count: 422 @:71km/h 96m Away -1.5°

Recognition Result: GQC1
Plate Type: Visitor, Vehicle Color: White
Plate Color: Blue, Speed: 61Km/h
Vehicle Type: Car, Direction: Away

No.	License Plate	Snapshot	Plate Type	Plate Color	Vehicle Type	Vehicle Color	Speed	Direction	Detection Region	Time	Operation
8	GQC12	GQC12	Visitor	Blue	Car	White	61Km/h	Away	1	2022-04-02 02:03:38	Q
7	D9927	D9927	Visitor	Blue	Car	White	-	-	1	2022-04-02 02:03:08	Q
6	F7R9S	F7R9S	Visitor	Blue	Car	White	51Km/h	Away	2	2022-04-02 02:03:03	Q
5	DF0701	DF0701	Visitor	White	Car	Gray	84Km/h	Away	1	2022-04-02 02:03:01	Q
4	E355V	E355V	Visitor	Blue	Car	Gray	48Km/h	Away	1	2022-04-02 02:02:51	Q
3	DD318C	DD318C	Visitor	White	Car	White	61Km/h	Away	1	2022-04-02 02:00:27	Q
2	DW6Q	DW6Q	Visitor	Blue	Car	Gray	53Km/h	Away	1	2022-04-02 02:00:12	Q
1	IDZ077	IDZ077	Visitor	Blue	Car	Gray	53Km/h	Away	1	2022-04-02 01:59:59	Q

表86. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
設置高さ	カメラの実際の設置高さに合わせて、設置高さを記入してください。
取り付け角度	カメラの視野と水平との実際の設置角度に応じて、設置高さを記入してください。
角度補正	<p>サポート角度補償範囲：-30度~30度、デフォルト0度。角度補正は主に水平方向の角度補正として使用され、レーダーが道路の中央に設置できない場合など、データをより正確に検出するために、設置位置と道路の間の角度を補正し修正することができます。</p> <p>角度補正值= θ_1</p> <p>θ_1はレーダー法線方向とY軸方向のなす角度（通常Y軸は道路方向と平行になる）</p>  <p>θ_1=The angle between the radar normal direction and the y-axis direction</p> <p>Angle Compensation</p> <p>注意：補正角度値は正負の確認が必要で、カメラの左回転とY軸の間の角度を正とし、それ以外は負として定義されます。</p>  <p>θ_1=The angle between the radar normal direction and the y-axis direction</p> <p>Angle Compensation</p>

[検出設定]

ステップ2：検知エリアを設定する。LPR検出エリア設定の保存に成功したことを基に、レーダー検出エリアを設定する。

Detection Settings

Set Detection Region ⓘ

Coordinate X1 m

Coordinate Y1 m

Coordinate X2 m

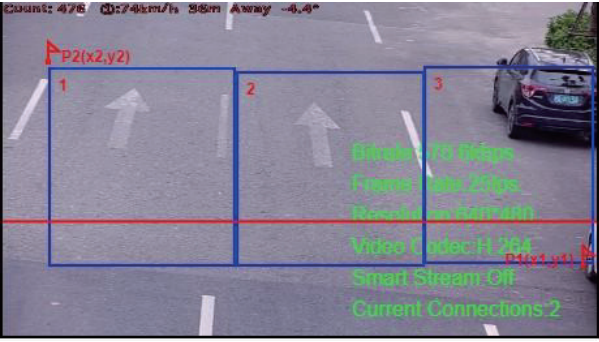
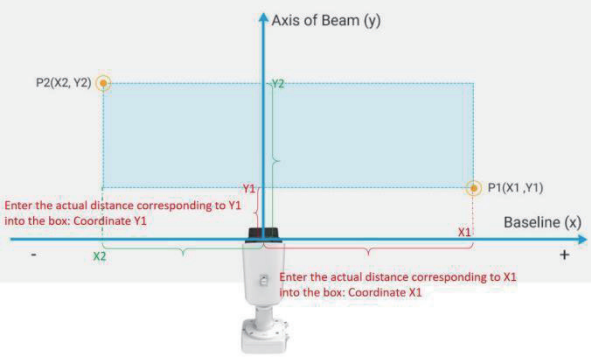

Coordinate Y2 m

Trigger Distance* m

LPR Detection Region Calibration ⓘ

Region1-X m

表87. ボタンの説明

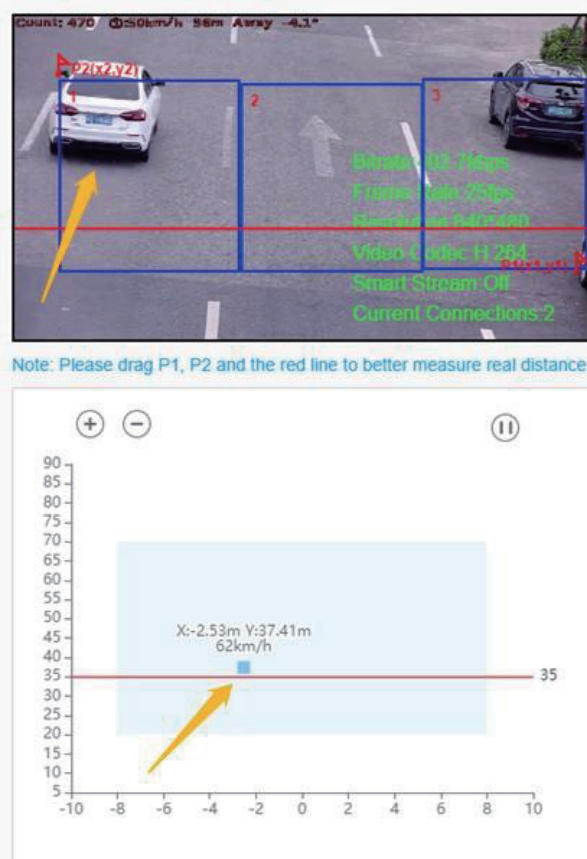
パラメータ	機能紹介
<p>検出エリアの設定</p>	<p>下図に示すように、2つの座標点が存在する。点P1と点P2は、ユーザーの空間的な位置決めを容易にするために使用される。</p>  <p>レーダー探知エリアは、2つの座標点に対角線がある長方形です。</p>  <p>レーダーの位置をゼロ位置 (0, 0) として、2つの頂点の平面座標の実位置を測定してください。そして、以下の2つの頂点のパラメータ入力欄に記入してください。</p> <p>座標X1/Y1 : P1座標のX/Y軸パラメータです。</p> <p>座標X2/Y2 : P2座標のX/Y軸パラメータです。</p> <p>トリガー距離です。 下図のレーダー設定ページにあるように、設定ページのプレビューボックスには赤い線が表示されます。赤い線は上下に調整可能な位置で、トリガー距離は赤い線からレーダーまでの水平距離です。相対的な精度を確保するために、ユーザーは実際の測定後に記入する必要があります。LPR 検出はこの距離を通じて認識開始のトリガーとなり、LPR データとレーダーデータのより良い一致を促進します。</p> 

LPR検出エリア校正

LPR データと一致させるためには、レーダー検出後に LPR 検出エリア校正の設定を行ってください。

LPR 検出エリアのキャリブレーションは、主に空間座標の一致を目的とする。この設定項目の番号は、LPR 検出エリアの番号に応じた対応番号を示している。記入されるデータは、ターゲット車両がエリア内に進入した際に、右側の対応する軌跡マップを元にターゲットを見つけ、上図のX値を記入するものです。LPR データと一致させるためには、レーダー探知後に LPR 検出エリア校正の設定を行ってください。

例えば、3つの探知エリアを描いた後、レーダー座標から探知エリア内のターゲットに対応する座標情報を求めることができます。この座標情報を記入するだけでよいのです。



[スケジュール設定]

ステップ4: スケジュール設定。トラフィック検出の有効時間を設定します。

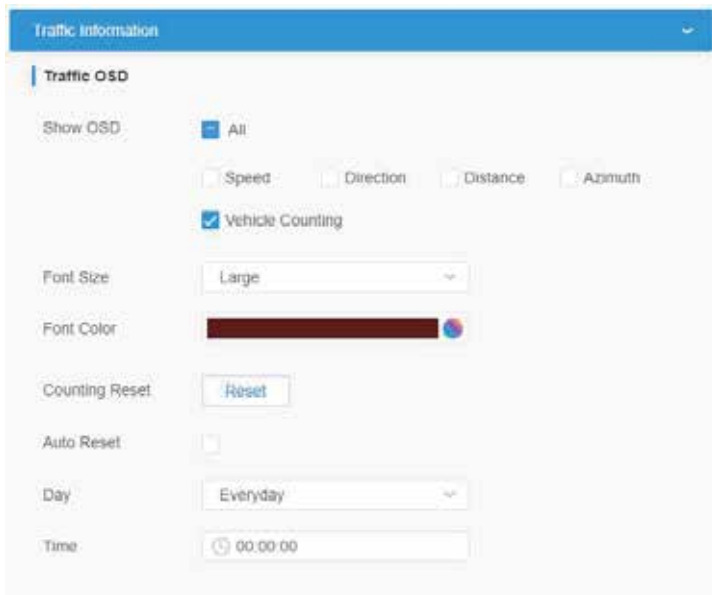


注意: この部分は通常のスケジュール設定と同じです。

6.4.2.1 エリア侵入検知を参照してください。

[トラフィック情報]

ステップ5: トラフィックOSDの設定。ライブビューに表示する必要がある情報と、色やサイズなどの表示形式を選択することができます。

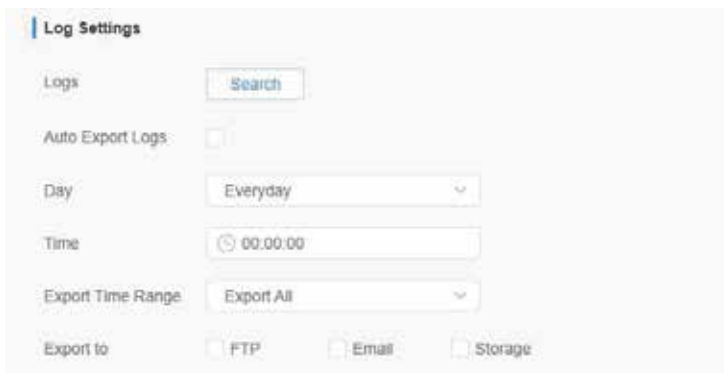


The screenshot shows the 'Traffic Information' settings page. Under the 'Traffic OSD' section, there are several options: 'Show OSD' is set to 'All' (checked); 'Speed', 'Direction', 'Distance', and 'Azimuth' are unchecked; 'Vehicle Counting' is checked. Below these are 'Font Size' (set to 'Large'), 'Font Color' (set to a dark red color), and a 'Counting Reset' button labeled 'Reset'. There are also 'Auto Reset' (unchecked), 'Day' (set to 'Everyday'), and 'Time' (set to '00:00:00') options.

表88ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
OSDを表示する	ライブビューに表示したい情報を選択することができます。
文字サイズ	OSD表示のフォントサイズ、デフォルトは中サイズです。
文字色	OSDディスプレイのフォントカラー。
カウント・リセット	「リセット」ボタンをクリックすると、手動で車両数をリセットすることができます。
オートリセット	一定時間ごとに車両カウントを自動的にクリアするために使用します（ライブビューの場合のみ、OSDカウントをリセットすることができます）。
日	オートリセットの日
時間	オートリセットの時間

ステップ6: ログ設定。各種ログの検索や、ログのエクスポート機能をサポートします。



The screenshot shows the 'Log Settings' page. It includes a 'Logs' search bar with a 'Search' button. There are checkboxes for 'Auto Export Logs' (unchecked), 'Export to' (with options for FTP, Email, and Storage, all unchecked), 'Day' (set to 'Everyday'), 'Time' (set to '00:00:00'), and 'Export Time Range' (set to 'Export All').

[アラーム時の動作]

ステップ7: トラフィックアラーム閾値。最大・最小速度制限、走行方向制限などのトラフィックアラームの閾値を設定するのに使用します。

ステップ8: アラームアクションを設定します。ここでOSD BlinkはOSD機能の後にオンにする必要があります。アラームが発生すると、OSD情報が点滅しアラームが発生します。また、1~10秒をサポートするOSD Blink Timeの持続時間を設定することができます。

注意: この部分は、通常のアラーム設定と同じです。

The screenshot shows the 'Alarm Action' configuration page. Under 'Traffic Alarm Threshold', 'Min. Speed Limit' is checked and set to 999 km/h, 'Max. Speed Limit' is unchecked and set to 100 km/h, and 'Driving Direction' is set to 'Away'. Under 'Alarm Action', 'Record', 'Snapshot', 'External Output', and 'Play Audio' are unchecked, while 'OSD Blink' is checked. A note next to 'OSD Blink' says '(Please check the Show OSD)'. There are right-pointing arrows next to each action item.

6.6.2 スマート検索 ※ LPR車番認識カメラのみ対応 ※

スマート検索ページの右側に、検出された時間、ライブスクリーンショット、ナンバープレートなど、リアルタイムの検出結果が表示されます。

The screenshot shows the 'Smart Search' interface. On the left is a navigation menu with 'LPR' selected. The main area has a 'Smart Search' header with filters for 'Plate Type' (None) and 'License Plate' (None), and search time range (2023-04-18 00:00 to 2023-04-18 23:59). A live video feed shows a red car. Below it is a search results grid with 15 license plate images, each with a timestamp. A detailed information panel for the selected car shows: Time: 2023-04-18 09:11:04, License Plate: QJ03, Plate Type: Vehicle, Plate Color: White, Vehicle Type: Car, Vehicle Color: Red, Speed: -, Direction: away, Direction Region: Y, County: Region: D610.

ステップ1: プレートタイプを選択、または直接ナンバープレートを入力し、開始時刻と終了時刻を選択します。検索ボタンをクリックすると、関連するナンバープレート情報が以下のように表示されます。

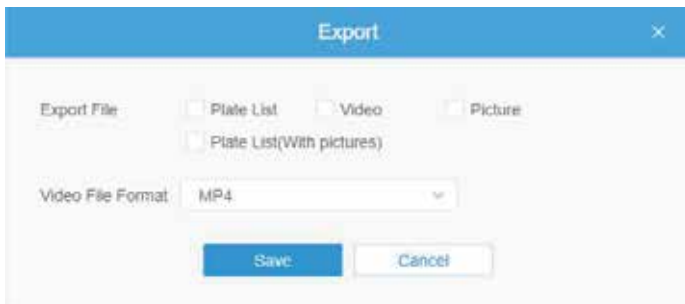
注意：

- 4,000個のログを表示することが可能です。
- ストレージ管理にSDカードやNASが設定されている場合のみ、ログを保存し、スマートサーチページに表示することができます。
- プレートカラー/車両カラー認識および車両タイプ分類を行う場合は、お使いのモデルが対応していることを確認してください。

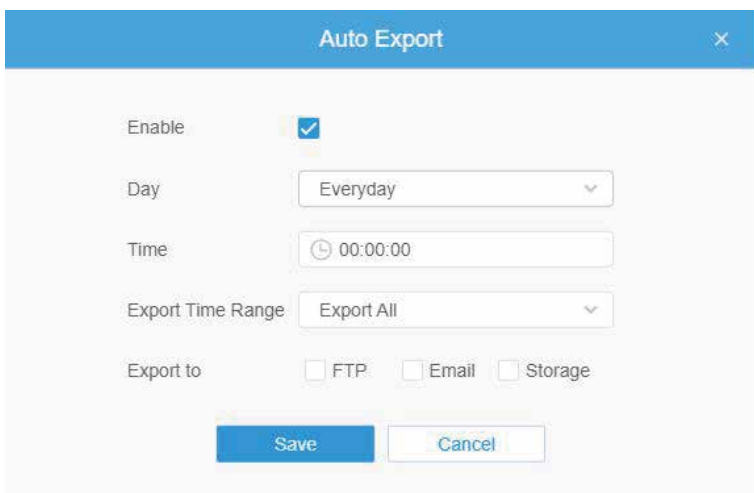
ステップ2: LPRログの下にあるサムネイル写真をクリックすると、ナンバープレートの詳細が以下のように表示されます。



ステップ3: 「エクスポート」または「すべてエクスポート」ボタンをクリックして、現在のリストにある希望のファイルをローカルフォルダにエクスポートします。



ステップ4: "Auto Export" ボタンをクリックすると、ログが自動的にFTP、メール、ストレージにエクスポートされます。



6.7 IoT(オプション)

組み込みのIoTモジュールは、低消費電力で長距離を無言で通信するLPWAN技術に対応しています。IoTカメラ使用時のエンドデバイスの管理、アラーム設定などをここで行うことができます。

6.7.1 設定

6.7.1.1 無線設定

例えば、ここでは周波数帯が915MのIoTカメラやLoRaWANの参考資料リージョナルパラメータを選択すると、ページ上に現在のチャンネルプランがUS915であることが表示されます。

注意：通常、無線設定を設定することなく、デフォルト設定を直接使用することができます。いくつかのラジオ設定をカスタマイズする必要がある場合は、以下のようにさらに設定することができます。

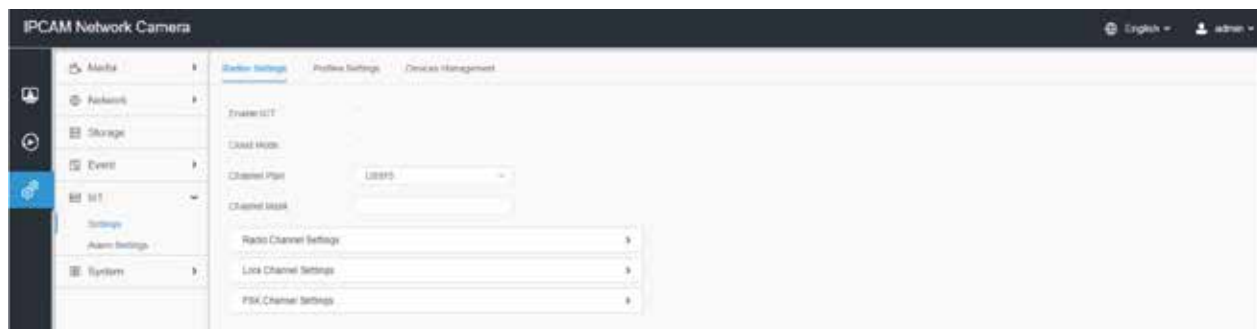


表89. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
IoTを有効	IoT機能の有効/無効を設定します。
クラウドモード	IoTクラウド管理の有効・無効を設定します。
チャンネルプラン	IoT カメラの対応するチャンネルプランを表示します。
チャンネルマスク	有効な周波数は、チャンネルマスクで制御されます。空白のままでは、LoRaWAN®リージョナルパラメータ文書で指定されたデフォルトの標準使用可能チャンネルをすべて使用することを意味します。Channel Maskフィールドのビットが1に設定されている場合、そのチャンネルがエンドデバイスで現在使用されているデータレートを許容する場合、アップリンク送信のために対応するチャンネルを使用できることを意味します。このオプションは、CN470、US915、AU915ではオプションです。

[ラジオチャンネルの設定]

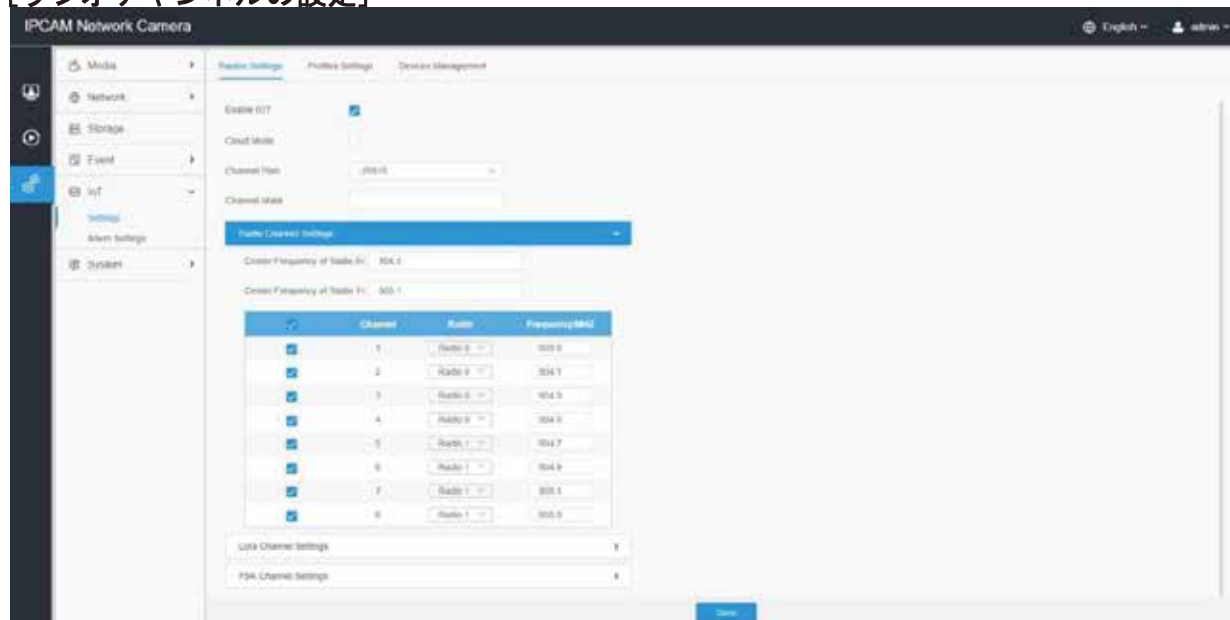



表90ボタンの説明

パラメータ	機能紹介																											
無線機の中心周波数 0	パケットの送受信をサポートします。																											
ラジオ1の中心周波数	ノードからのパケット受信のみサポート。																											
多チャンネルリスト	<p>全チャンネルに対応する無線機と周波数がここに表示されます。デフォルトでは、すべてのチャンネルが有効になっています。また、該当するチャンネルにチェックを入れると、そのチャンネルを有効にすることができます。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Channel</th> <th>Radio</th> <th>Frequency(MHz)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Radio 0</td><td>903.9</td></tr> <tr><td>2</td><td>Radio 0</td><td>904.1</td></tr> <tr><td>3</td><td>Radio 0</td><td>904.3</td></tr> <tr><td>4</td><td>Radio 0</td><td>904.5</td></tr> <tr><td>5</td><td>Radio 1</td><td>904.7</td></tr> <tr><td>6</td><td>Radio 1</td><td>904.9</td></tr> <tr><td>7</td><td>Radio 1</td><td>905.1</td></tr> <tr><td>8</td><td>Radio 1</td><td>905.3</td></tr> </tbody> </table>	Channel	Radio	Frequency(MHz)	1	Radio 0	903.9	2	Radio 0	904.1	3	Radio 0	904.3	4	Radio 0	904.5	5	Radio 1	904.7	6	Radio 1	904.9	7	Radio 1	905.1	8	Radio 1	905.3
Channel	Radio	Frequency(MHz)																										
1	Radio 0	903.9																										
2	Radio 0	904.1																										
3	Radio 0	904.3																										
4	Radio 0	904.5																										
5	Radio 1	904.7																										
6	Radio 1	904.9																										
7	Radio 1	905.1																										
8	Radio 1	905.3																										

[LoRa チャンネル設定]

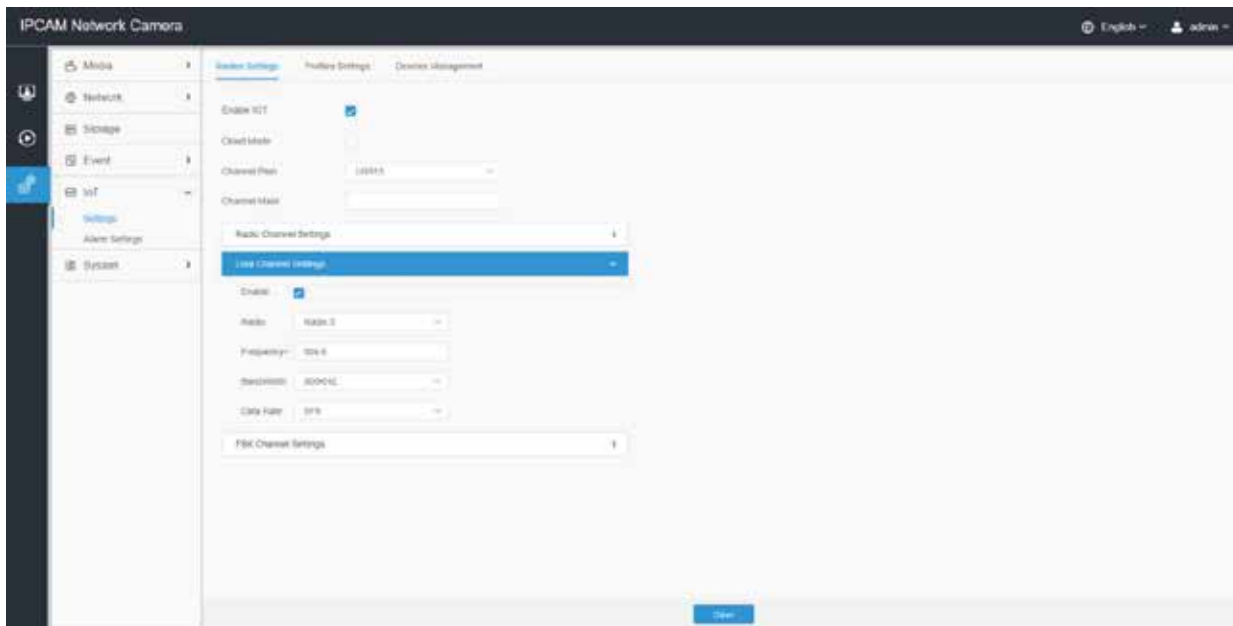


表91. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	LoRaチャンネルの有効／無効を設定します。
ラジオ	ラジオ0またはラジオ1を中心周波数として選択します。
周波数	<p>このチャンネルの周波数を入力します。</p> <p>例えば：</p> <ul style="list-style-type: none"> US915、AU915の周波数帯の計算式。中心周波数±0.55； 他リージョナル（US915、AU915を除く）の周波数範囲式です。中心周波数±0.4625。 <p>例えば、中心周波数を867.5で設定した場合、各チャンネルに対応する周波数帯域は。867.5-0.4625~867.5+0.4625。</p>
バンド幅	<p>このチャンネルの帯域幅を入力します。125KHz、250KHz、500KHzが選択可能です。デフォルトは250KHzです。</p> <p>注意： AU915、US915の場合、デフォルトでは500KHzが選択されています。</p>
データレート	<p>SF7からSF12までは、伝送速度が低下し、伝送距離が長くなります。一般的にData Rateの範囲はSF7～SF12で、デフォルト値はSF7となります。Channel Plan AU915とUS915のデフォルト値のみSF8です。</p>

[FSKチャンネル設定]

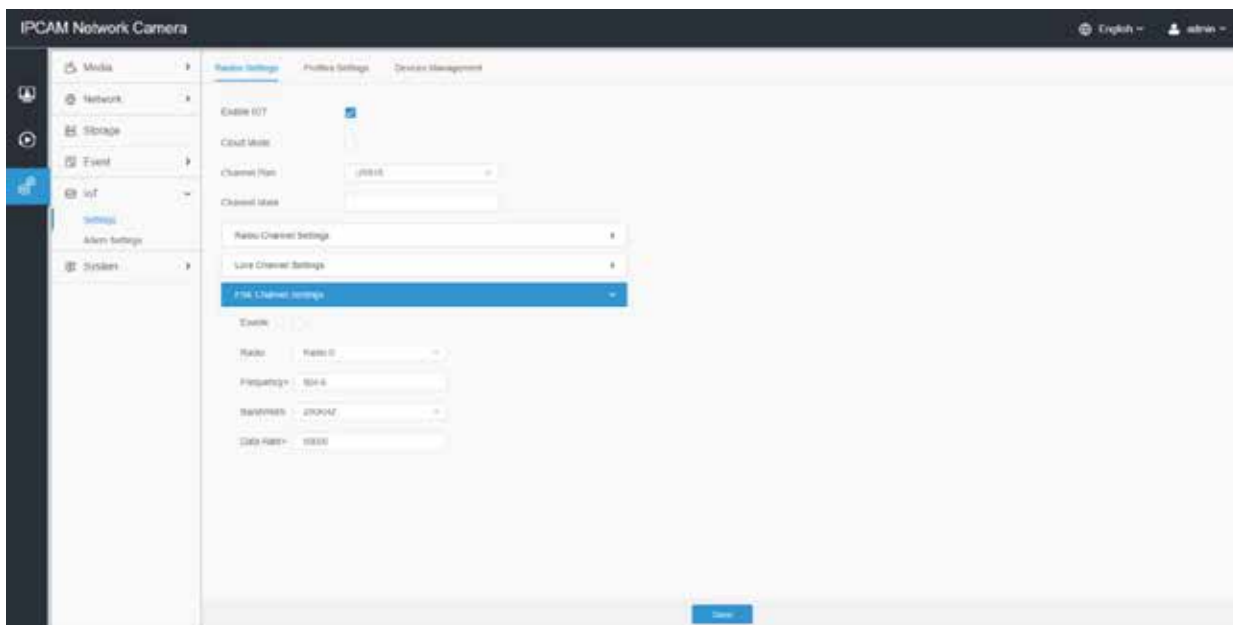



表92. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
有効	FSKチャンネルの有効／無効を設定します。
ラジオ	ラジオ0またはラジオ1を中心周波数として選択します。
周波数	このチャンネルの周波数を入力します。
バンド幅	このチャンネルの帯域幅を入力します。125KHz、250KHz、500KHzが選択できます。デフォルトは125KHzです。  注意 ：AU915、US915の場合、デフォルトでは250KHzが選択されています。
データレート	データレートを入力します。Data Rateは500~250000の間でなければなりません。

注意：ここでの設定は、「End Device」の設定と同じにする必要があります。

6.7.1.2 プロファイルの設定（オプション）

通常、プロファイルの設定を行わずに、デフォルトの設定を使用することができます。もし、プロファイルの設定をカスタマイズする必要がある場合は、プロファイル設定ボタンをクリックしてさらに設定を行い、適用ボタンをクリックすると、作成したデバイスプロファイルの一覧が表示されます。

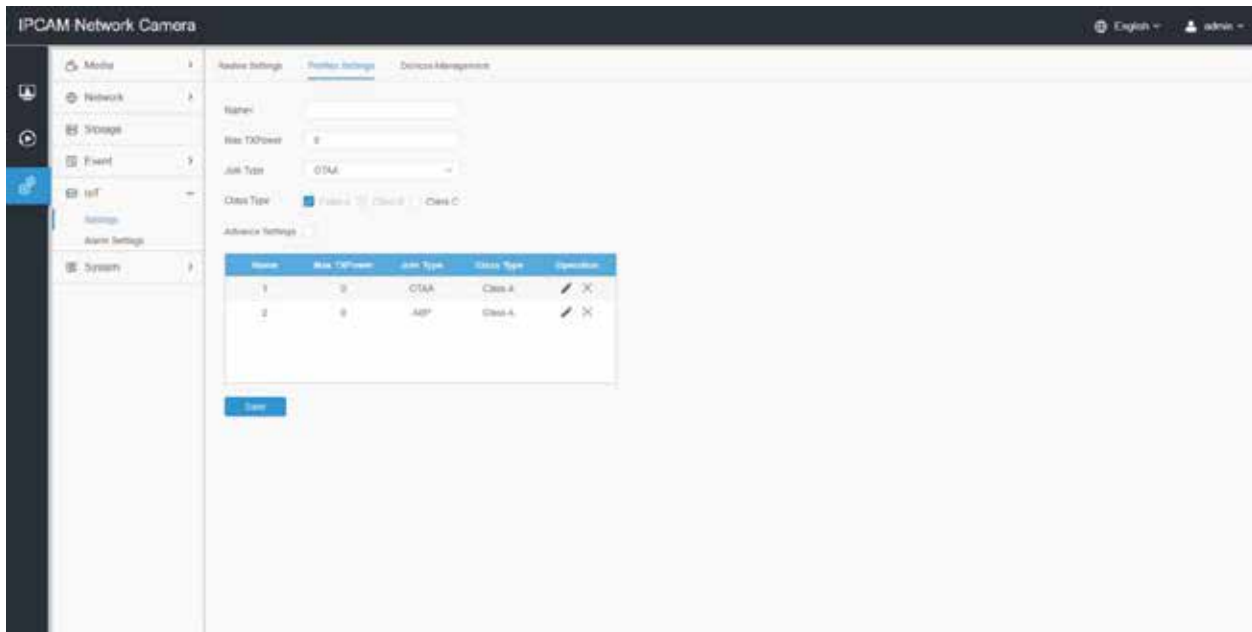


表93. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介	
名称	プロファイル名をカスタマイズする。	
最大TXPower	最大送信電力を入力します。TXPowerは、エンドデバイスのMax EIRPレベルに対するパワーレベルを示します。0は、最大EIRPを使用することを意味します。EIRPとは、等価等方放射電力 (Equivalent Isotropically Radiated Power) のことです。Max TXPowerは0~16の間でなければならない。	
参加タイプ	<p>OTAAとABPはオプションで、デフォルトのオプションはOTAAです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • OTAA : 無線によるアクティベーション。 <p>無線によるアクティベーションの場合、エンドデバイスは、ネットワークサーバーとのデータ交換に参加する前に、参加手順に従う必要があります。エンドデバイスは、セッションコンテキスト情報を失うため、毎回新しい参加手順を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ABP : パーソナライズによるアクティベーション。 <p>特定の状況下では、エンドデバイスはパーソナライゼーションによって活性化されることがあります。パーソナライゼーションによる起動は、参加要求-参加承諾の手順を渡すことにより、エンドデバイスを特定のネットワークに直接結びつけます。</p>	
クラスタイプ	デバイスの種類は、デフォルトではクラスAです。ユーザーは、クラスBまたはクラスCのボックスにチェックを入れて、クラスタイプを追加することができます。	
アドバンス設定	MACバージョン	エンドデバイスがサポートするLoRaWAN®のバージョンを選択します。1.0.0/1.0.1/1.0.2/1.1.0はオプションで、デフォルトは1.0.2です。
	リージョナルパラメータ改訂版	A と B はオプションで、デフォルトのオプションは B である。
	RX1 データレート・オフセット	RX1データレートの算出に使用するオフセットは、アップリンクデータレートを基準とする。
	RX2 データレート	RX2 の受信ウィンドウで使用する RX2 datarate を入力します。
	RX2チャンネル周波数	RX2 Frequencyの受信ウィンドウには、RX2チャンネルの周波数が使用されます。
アドバンス設定	周波数リスト	工場出荷時にプリセットされている周波数の一覧です。範囲はLoRaWAN®リージョナル別パラメータドキュメントで指定されているものに基づいています。

6.7.1.3 デバイス管理（オプション）

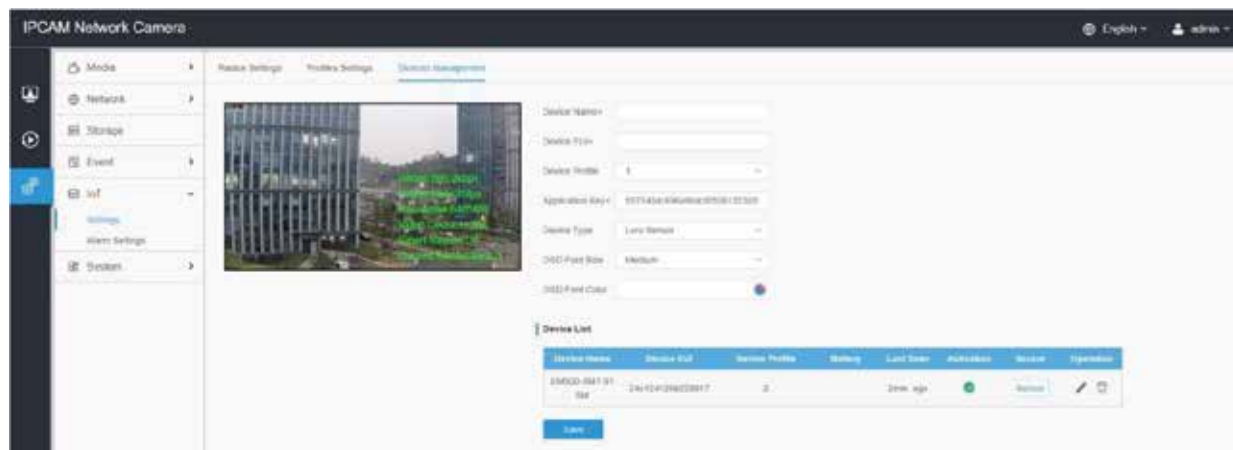


表94. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
デバイス名	デバイス名をカスタマイズする。
デバイスEUI	デバイスのラベルから取得できるデバイス EUI を記入します。Lora Sensorを使用している場合は、Tool BoxからデバイスEUIを取得することも可能です。
デバイスプロファイル	OTAAとABPはオプションで、デフォルトのオプションはOTAAです。
アプリケーションキー	<p>エンドデバイスが無線アクティベーションでネットワークに参加するときはいつでも、アプリケーションキーはアプリケーションセッションキーの導出に使用されます。主に、対応するデバイス・アドレス、ネットワーク・セッション・キー、アプリケーション・セッション・キーの生成に使用されます。</p> <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトキーはエンドデバイスから取得することができる。 センサーのデフォルトキーは 5572404c696e6b4c6f52613230313823 です。
デバイスアドレス /ネットワークセッションキー /アプリケーションセッションキー	<p>ネットワークにアクセスするために必要な情報です。ABPネットワークアクセスモードを選択した場合、これらの項目を入力する必要があります。そして、End Deviceから取得することができます。例えば、Lora Sensor を使用する場合、Tool Box からこれらの情報を取得することができます。</p> <p>デバイスアドレス。 デバイス・アドレスは、現在のネットワーク内のエンドデバイスを識別します。</p> <p>ネットワーク・セッション・キー。 ネットワーク・セッション・キーは、エンドデバイスに固有のもので、これは、データの完全性を確保するために、エンドデバイスがすべてのアップリンクデータメッセージのMICまたはMICの一部（メッセージ完全性コード）を計算するために使用されます。</p> <p>Sensorのデフォルトキーは5572404c696e6b4c6f52613230313823です。</p> <p>アプリケーション・セッション・キー。 AppSKeyは、エンドデバイスに固有のアプリケーション・セッション・キーです。アプリケーションサーバーとエンドデバイスの両方が、アプリケーション固有のデータメッセージのペイロードフィールドを暗号化および復号化するために使用されます。</p> <p>Sensorのデフォルトキーは5572404c696e6b4c6f52613230313823です。</p>

<p>デバイスの種類</p>	<p>実際の状況に応じて、デバイスタイプを選択します。ローラセンサとローラセンサノードはオプションです。ローラセンサは LoraWAN プロトコルに対応したセンサであり、ローラセンサノードは RS485, AI, GPIO のインターフェースからデータを受信するデバイスの一種です。</p>
<p>OSDフォントサイズ</p>	<p>OSDのフォントカラーを設定します。</p>
<p>OSDフォントの色</p>	<p>OSDのフォントサイズを設定します。</p>
<p>デバイス一覧</p>	<p>ステップ 1:  をクリックすると、センサーの設定ページに入ることができます。設定が終了したら、 をボタンをクリックして設定を保存するか、 をボタンをクリックして設定をキャンセルすることができます。</p>   <p>ステップ2:  をクリックすると、End Device Managementの設定を変更することができます。</p> <p>ステップ3:  をクリックすると、追加したデバイスを削除することができます。</p> 

センサー設定

[センサーID] 設定したいセンサーIDを選択します。センサーIDの数は、そのセンサーが何種類のデータを持っているかによって決まり、IDとデータは1対1の関係になっています。

[センサータイプ] センサータイプの設定。よく使われるセンサーの種類は以下の通りです。



また、カスタマイズも可能です。

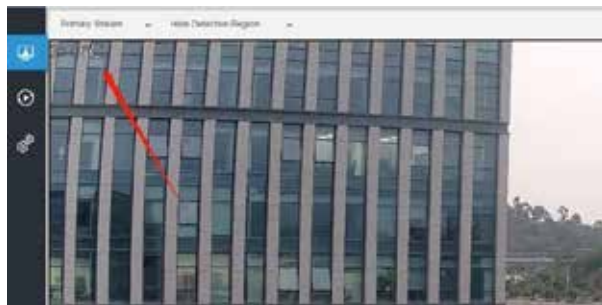


[符号] 目盛りは、値がプラスまたはマイナスの符号を持つことを示す。

[Decimal Place] 小数点の設定。例えば、1を記入すると、小数点以下が1つ左に移動し、小数になります。

[単位] データ単位の設定です。ここでは一般的な単位をいくつか用意していますが、ユーザーがカスタマイズすることも可能です。

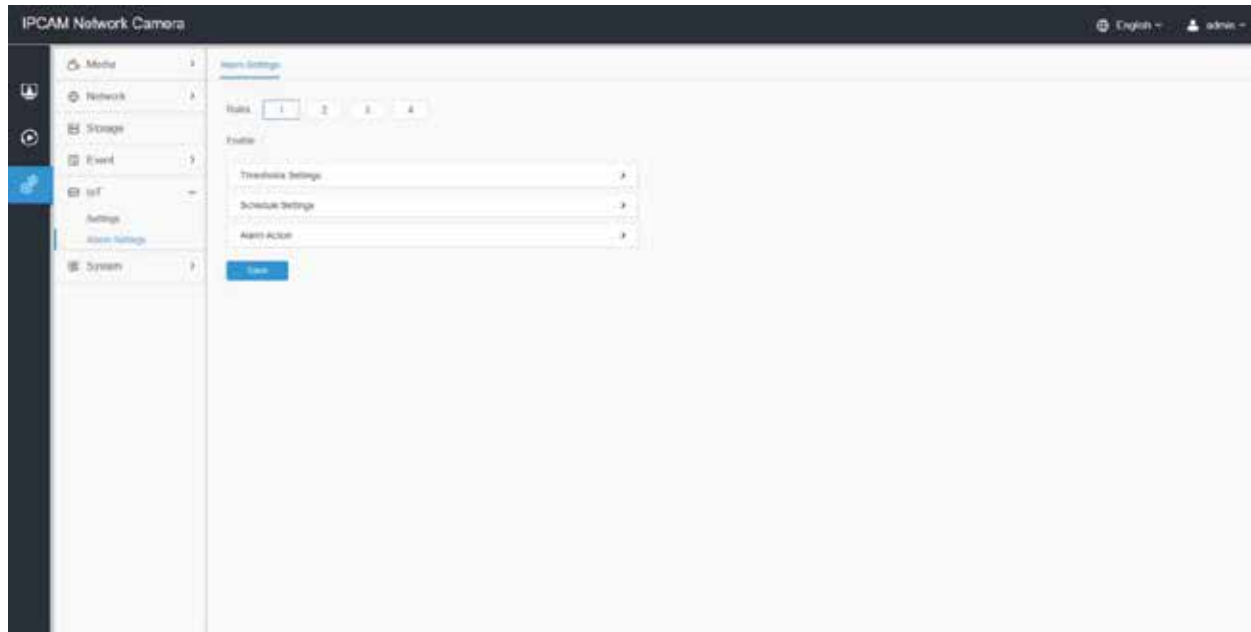
[Show OSD] 下図のように、この機能を有効にすると、検出されたデータを画面上で確認することができます。



注意：

- チャンネルID、SignはEnd Deviceのものと一致させる必要があります。
- Decimal Place（小数点以下）は、センサーの特性に合わせて設定します。例えば、温度センサーを使用する場合、正しい温度を得るにはこの値を1に設定する必要があります。

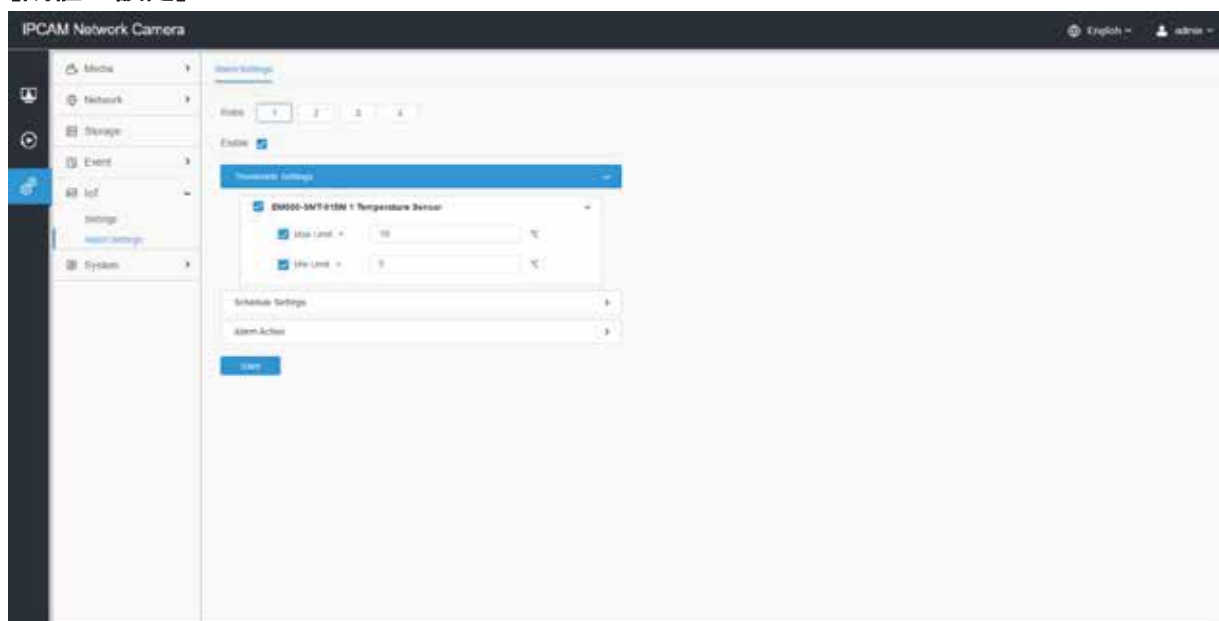
6.7.2 アラーム設定(オプション)



ステップ1：設定したいアラームルールを選択すると、4種類のルールが設定できます。

ステップ2：アラームルールを有効にするチェックボックスをオンにします。

[閾値の設定]



ステップ3：ボタンをクリックして、アラームを鳴らすセンサーを選択します。

ステップ 4: 選択したセンサーに閾値を設定します。データが臨界値に達すると、アラームが作動します。上限と下限の両方のしきい値を設定することができます。また、上側または下側のしきい値のみを設定することも可能です。

[スケジュール設定]

ステップ5: IoTのアラームスケジュールを設定します。

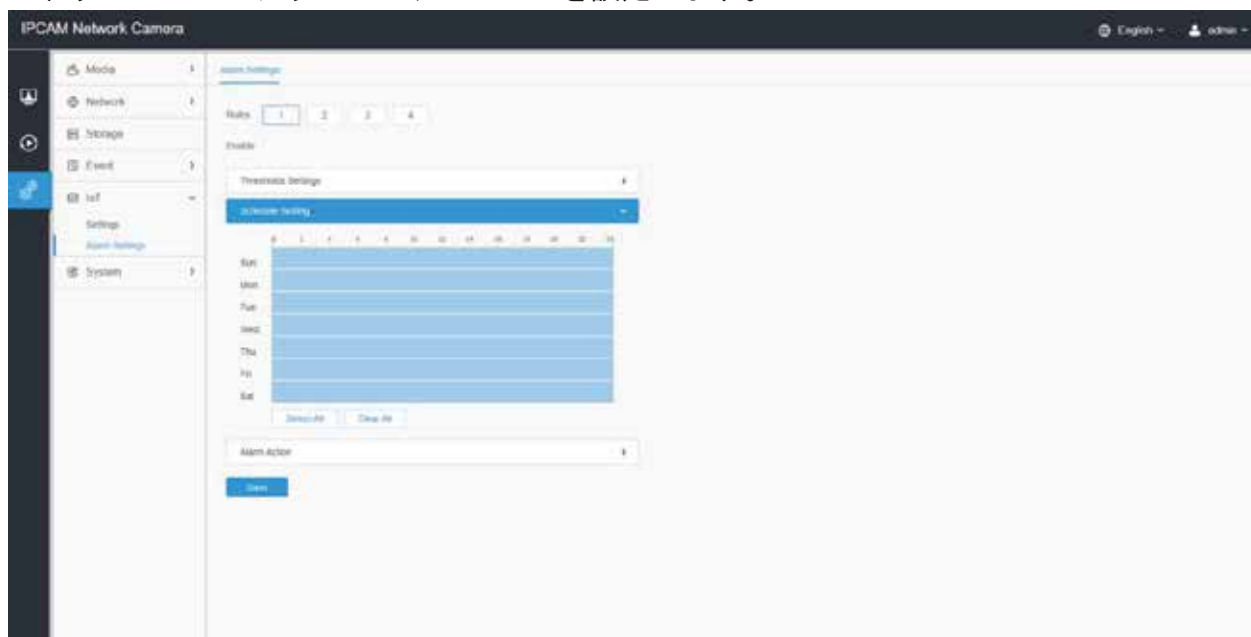
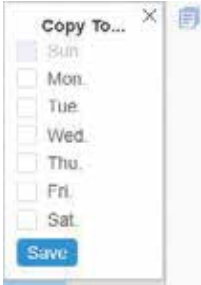




表 95. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
	スケジュールエリアを別の日付にコピーします。
	すべてのスケジュールを選択します。
	すべてのスケジュールを消去します。

[アラームアクション]

ステップ6: アラームアクションを設定します。

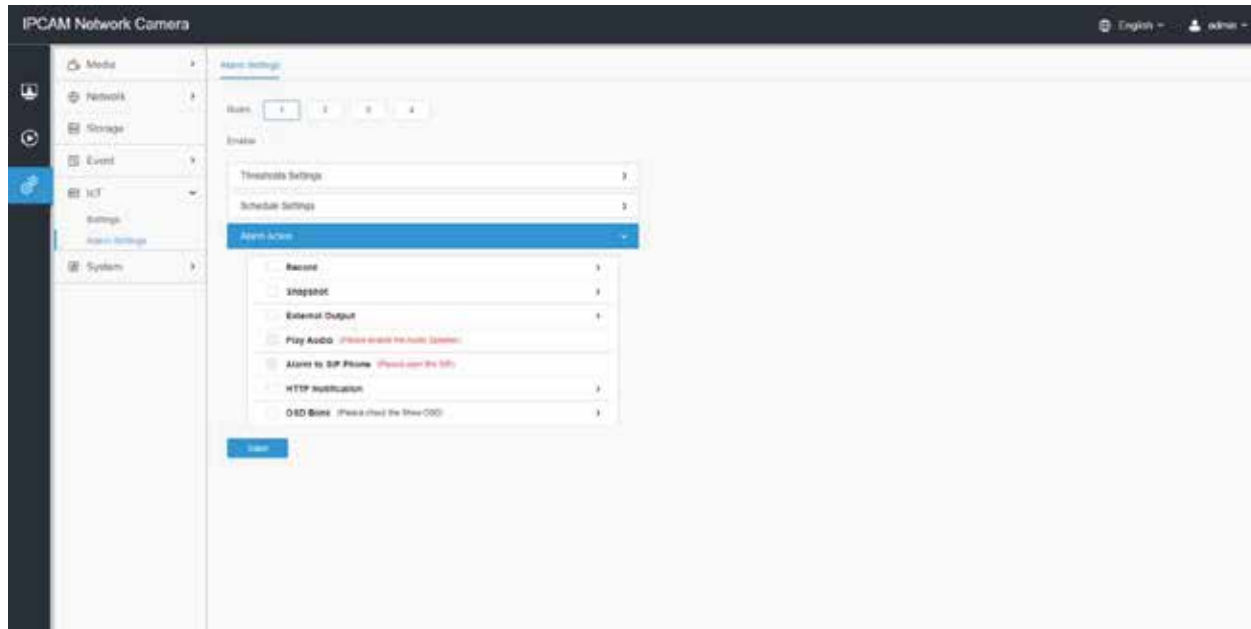



表 96. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
録画	<p>継続時間: アラームの継続時間を選択しました。5秒/10秒/15秒/20秒/25秒/30秒が選択可能です。</p> <p>連動: アラーム録画ファイルをSDカードやNASに保存したり、FTPで録画ファイルをアップロードすることができます。</p>
スナップショット	<p>数量: スナップショットの数、1~5が利用可能です。</p> <p>間隔: Snapshotに1以上の場合、編集することができます。</p> <p>連動: SDカードやNASにアラーム録画ファイルを保存し、FTPで録画ファイルをアップロードし、アラームメールを送信します。</p>
外部出力	<p>カメラに外部出力が装備されている場合、トリガ期間を設定した後にアクションを有効にすることができます。</p>
オーディオを再生する	<p>オート/10秒/30秒/1分/5分/10分が選択可能です。</p> <p>注意: オーディオスピーカを有効にしてください。</p>
SIPフォンへのアラーム	<p>SIP機能を有効にした後、SIP電話を呼び出すことをサポートします。</p>
HTTP通知	<p>指定したHTTP URLにアラームニュースをポップアップする機能をサポート。</p>
OSDブリンク	<p>センサー設定のページで Show OSD をチェックすると、アラームが発生したときに OSD が点滅します。</p> <p>OSD 点滅時間: OSD の点滅時間を設定するサポート、1~10 が利用可能です。</p> <p>例えば、アラーム作用は 3 秒の間隔で OSD の点滅に設定され、データが臨界値に達すると、アラームはトリガーされ、ライブビューインターフェースの OSD が点滅します。</p> 

6.8 システム

ここでは、[システム設定]、[セキュリティ]、[ログ]、[メンテナンス]を設定することができます。

6.8.1 システム設定

ここでは、システム情報と日時を確認することができます。

6.8.1.1 システム情報

カメラのハードウェア、ソフトウェアに関するすべての情報は、このページで確認することができます。

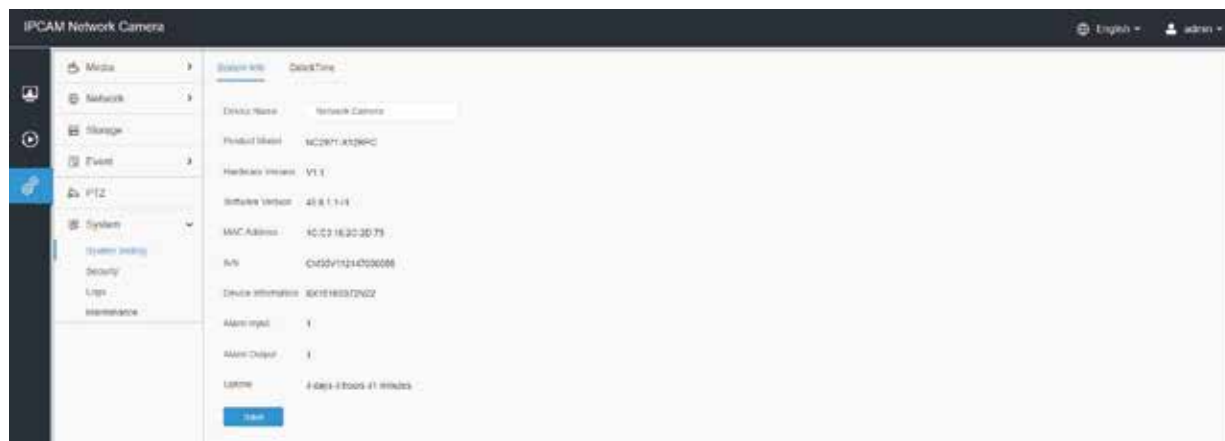


表 97. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
デバイス名	デバイス名をカスタマイズすることができます。ビデオファイルのファイル名に表示されます。
製品モデル名	カメラの製品モデルです。
ハードウェアのバージョン	カメラのハードウェアバージョンです。
ソフトウェアバージョン	カメラのソフトウェアのバージョンアップが可能です。
LPRライセンス (LPR2、LPR3、LPR4、LPR EU、LPRAPおよびLPR AMのみ)	カメラの情報により生成されます。 注意： LPR車番認識カメラのみ対応
ライセンス状態 (LPR2、LPR3、LPR4、LPR EU、LPRAPおよびLPR AMのみ)	Valid と Invalid を含む現在のライセンスステータスを表示 注意： LPR車番認識カメラのみ対応
MACアドレス	MACアドレスが表示されます。
S/N	シリアルナンバー
デバイス情報	アラームI/Oやクリップパーチップの情報を含むデバイス情報です。
アラーム入力	アラーム入力インターフェースの数です。 注意： アラーム入力は、カメラにアラーム入力/出カインターフェースがある場合にのみ表示されます。
アラーム出力	アラーム出カインターフェースの数です。 注意： アラーム出力は、カメラにアラーム入出カインターフェイスがある場合にのみ表示されます。

システム稼働時間	端末の最終再起動からの経過時間
保存	設定を保存します。

6.8.1.2 日付と時刻



表98. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
現在のシステム時刻	システムの現在の日付と時刻。
システム時刻を設定する	タイムゾーン ：現在地のタイムゾーンを選択してください。
	デイライト・セービング・タイム ：Daylight Saving Timeを有効にします。
	同期モード ：NTPサーバー、マニュアル、コンピュータ時刻との同期を選択可能です。
	NTPサーバー ：NTPサーバーのアドレスを入力します。
	NTP同期 ：インターバルタイムに従って、定期的に時刻を更新します。
	手動 ：システム時刻を手動で設定します。
	コンピューターの時刻と同期させる ：時間をコンピュータと同期させます。
保存	設定を保存します。

6.8.2 セキュリティ

ここでは、ユーザー、アクセスリスト、セキュリティサービス、ウォーターマークなどを設定することができます。

6.8.2.1 ユーザー



表99. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
権限管理	<p>匿名での閲覧を許可する：チェックボックスをオンにすると、端末のアカウントを持っていない人からの訪問を可能にします。</p>
セキュリティに関する質問	<p>「編集」ボタンをクリックすると、カメラに3つのセキュリティ質問を設定することができます。パスワードを忘れた場合は、ログイン画面で「パスワードを忘れた場合」ボタンをクリックし、3つのセキュリティ質問に正しく答えることでパスワードを再設定することができます。</p>  <p>デフォルトの質問は以下の12種類ですが、カスタマイズすることも可能です。</p> 
アカウント管理	<p>追加ボタンをクリックすると、アカウント管理画面が表示されます。管理者パスワード、ユーザーレベル、ユーザー名、新規パスワード、確認、ユーザー権限の編集を入力し、追加ボタンをクリックするとカメラにアカウントを追加することができます。追加されたアカウントはアカウントリストに表示されます。</p> <p>管理者パスワード：正しい管理者パスワードを入力してから、アカウントを追加することができます。</p> <p>ユーザーレベル：アカウントの権限を設定します。</p> <p>ユーザー名：アカウントを作成するためのユーザー名を入力します。</p> <p>新しいパスワード：アカウントのパスワードを入力します。</p> <p>確認：パスワードを確認します。</p> <p>管理者アカウントの下にあるアカウントリストで、編集と削除ができます。デフォルトの管理者アカウントについては、パスワードの変更のみ可能で、削除はできません。</p> <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトユーザーとカスタムで追加した19人のユーザーを含む、最大20人のユーザーをサポートします。 オペレーター権限は、デフォルトで全てチェックされています。

6.8.2.2 オンラインユーザー

ここでは、カメラにログインしているユーザーの状態をリアルタイムで表示します。

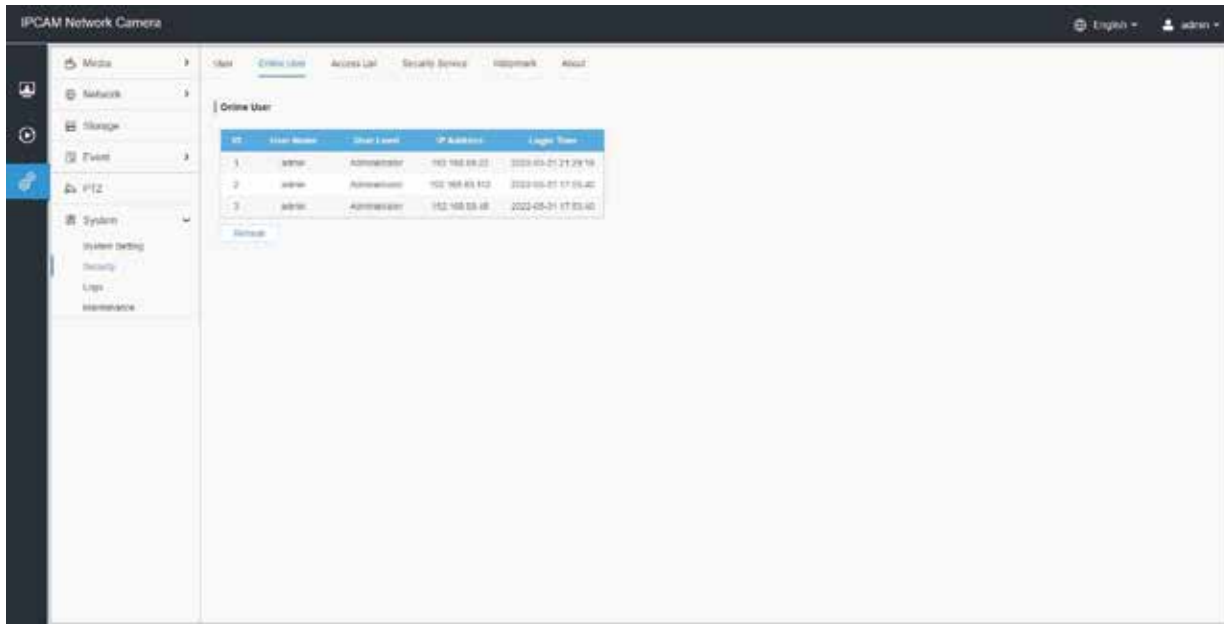
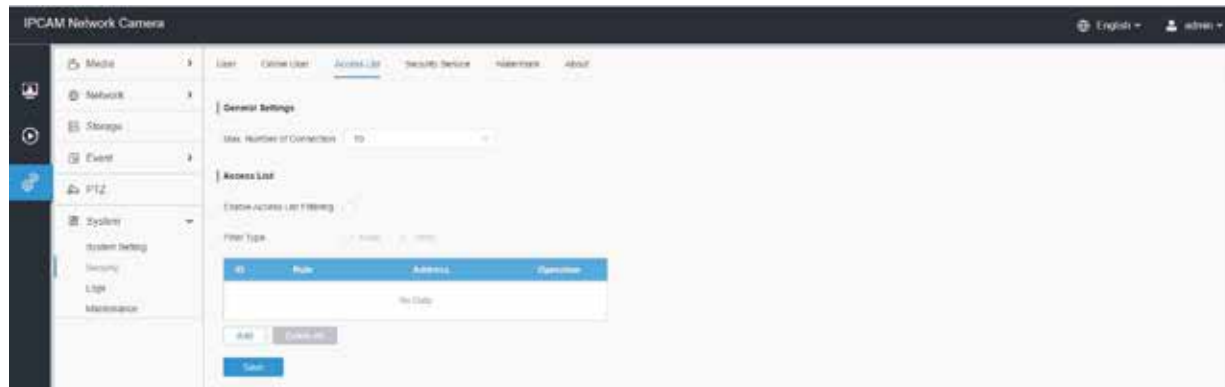


表100ボタンの説明



パラメータ	機能紹介
更新	クリックすると、カメラにアクセスしているユーザーの最新ステータスが表示されます。
ID	カメラにログインしているユーザーのシリアルナンバーを録画します。 注意： <ul style="list-style-type: none">一覧で表示されるレコードは最大30件です。同じユーザーが同じIPアドレスでカメラにログオンした場合、録画は1つだけです。
ユーザー名	カメラにログインしているユーザー名
ユーザーレベル	カメラにログインしているユーザーのレベル
IPアドレス	カメラにログインしているユーザーがいる端末のIPアドレス
ログイン時間	ユーザーがカメラにログインしたときのカメラシステム時刻

6.8.2.3 アクセスリスト



同期ストリーミング数：

表 101. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介	
一般設定	最大同期ストリーミング数： 同時ストリーミングの最大数を選択します。オプションは、無制限、1~10です。	
アクセスリスト	アクセスフィルター (ACL)： あるアドレスに対してのアクセス、またはアクセス制限を可能にします。	
	フィルターの種類：アクセスを許可または拒否します。	
	追加	IP アドレス、ネットワークアドレス、IP 範囲、MAC アドレスを選択します。
	すべて削除	アクセスリストをすべて削除します。
		アクセスリストで選択したIPを編集します。
	アクセスリストで選択したIPを削除します。	
保存	設定を保存します。	

6.8.2.4 セキュリティサービス

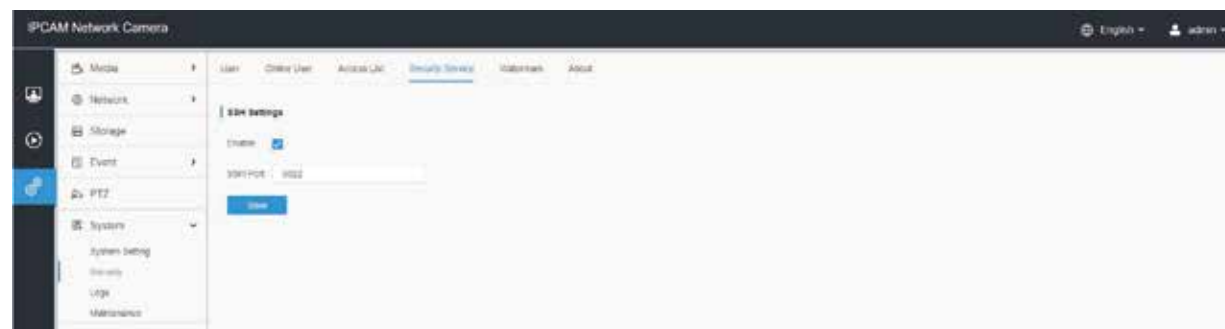
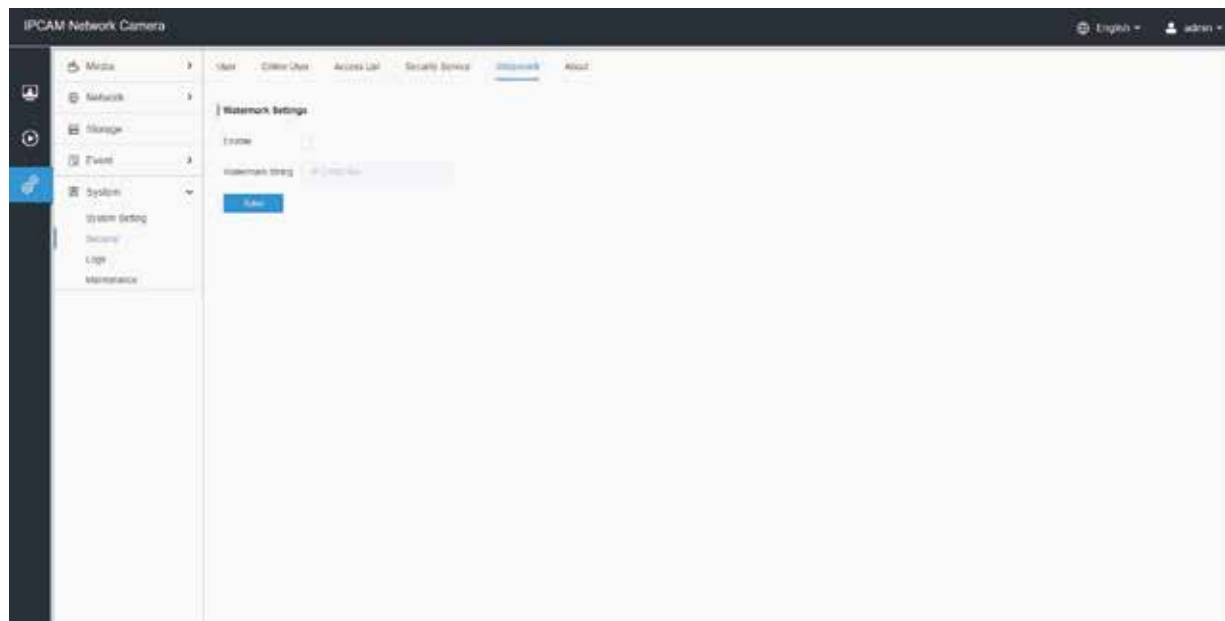


表 102. ボタンの説明

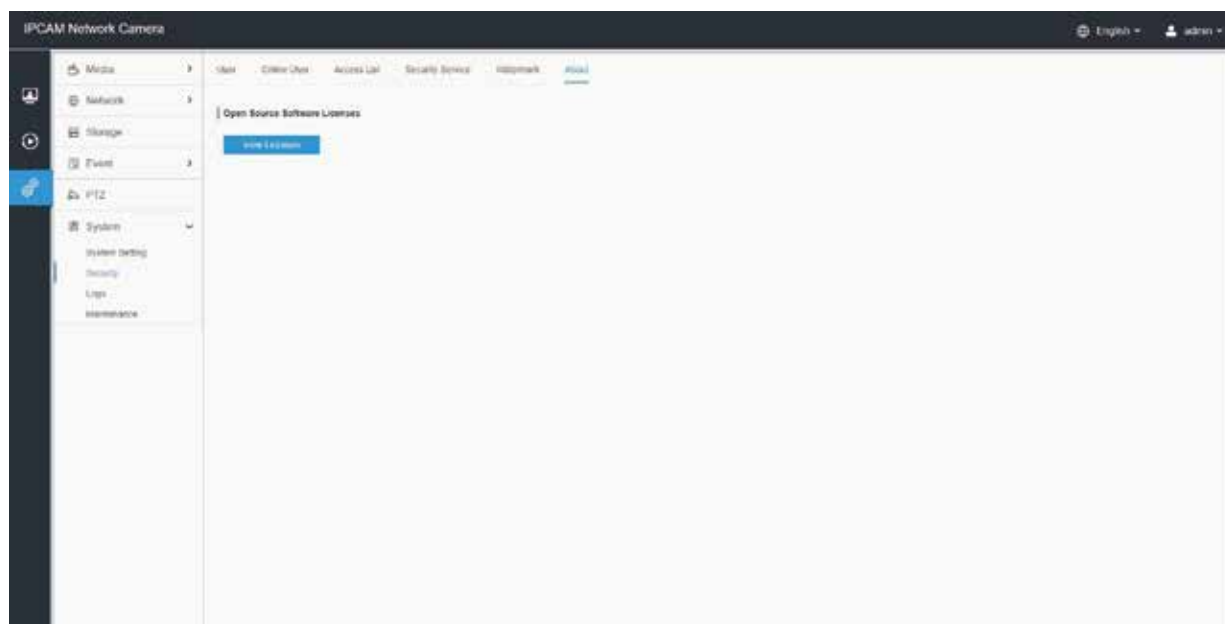
パラメータ	機能紹介
SSHの設定	Secure Shell (SSH)は多くの機能を持っています。Telnetを置き換えることができ、またFTPやPOP、さらにはPPPのための安全なチャンネルを提供します。

6.8.2.5 ウォーターマーク



ウォーターマークは、情報セキュリティの保護に有効な手法で、偽造防止や著作権保護のトレーサビリティを実現します。ネットワークカメラは、情報セキュリティを確保するために電子透かし機能をサポートしています。

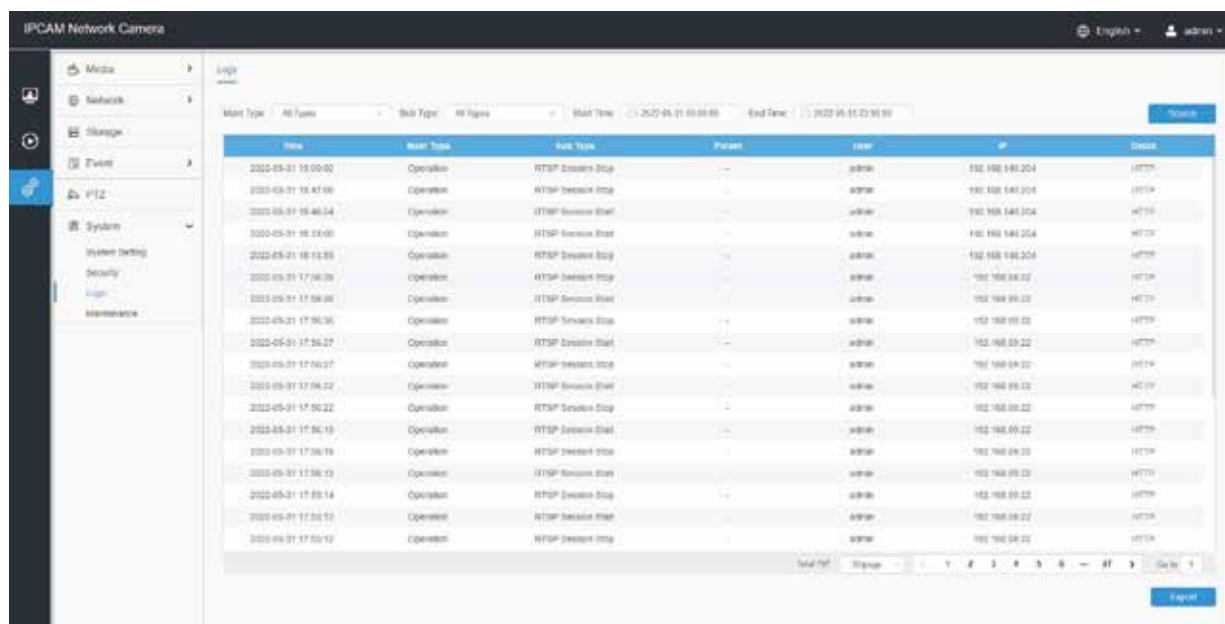
6.8.2.6 概要



ライセンス表示ボタンをクリックすると、カメラに関するいくつかのオープンソースソフトウェアのライセンスが表示されます。

6.8.3 ログ

ログには、Web経由でカメラにアクセスした時間やIPの情報が含まれています。



Time	Main Type	Sub Type	Task Type	Param	User	IP	Status
2022-05-31 15:00:00	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.204	HTTP
2022-05-31 15:47:00	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.204	HTTP
2022-05-31 15:48:54	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.204	HTTP
2022-05-31 16:22:00	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.204	HTTP
2022-05-31 16:22:00	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.204	HTTP
2022-05-31 17:28:28	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:28	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:27	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:27	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:22	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:22	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:19	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:19	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:19	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:19	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:17	Operation	HTTP Session Start	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:17	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP
2022-05-31 17:28:12	Operation	HTTP Session Stop	--	--	admin	192.168.1.10.22	HTTP

表 103. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
メイン項目	ログの種類は大きく分けて5つあります。 All Type、Event、Operation、Information、Exception、Smart の5種類です。
サブ項目	メインタイプを選択したことを前提に、サブタイプを選択してログの範囲を絞り込みます。
開始時間	タイムログが開始されます。
終了時刻	タイムログが終了します。
検索	ログを検索します。
エクスポート	ログをエクスポートします。
次のページへ	ログのページ数を入力します。

6.8.4 メンテナンス

ここでは、システムメンテナンスと自動再起動を設定することができます。

6.8.4.1 システムメンテナンス

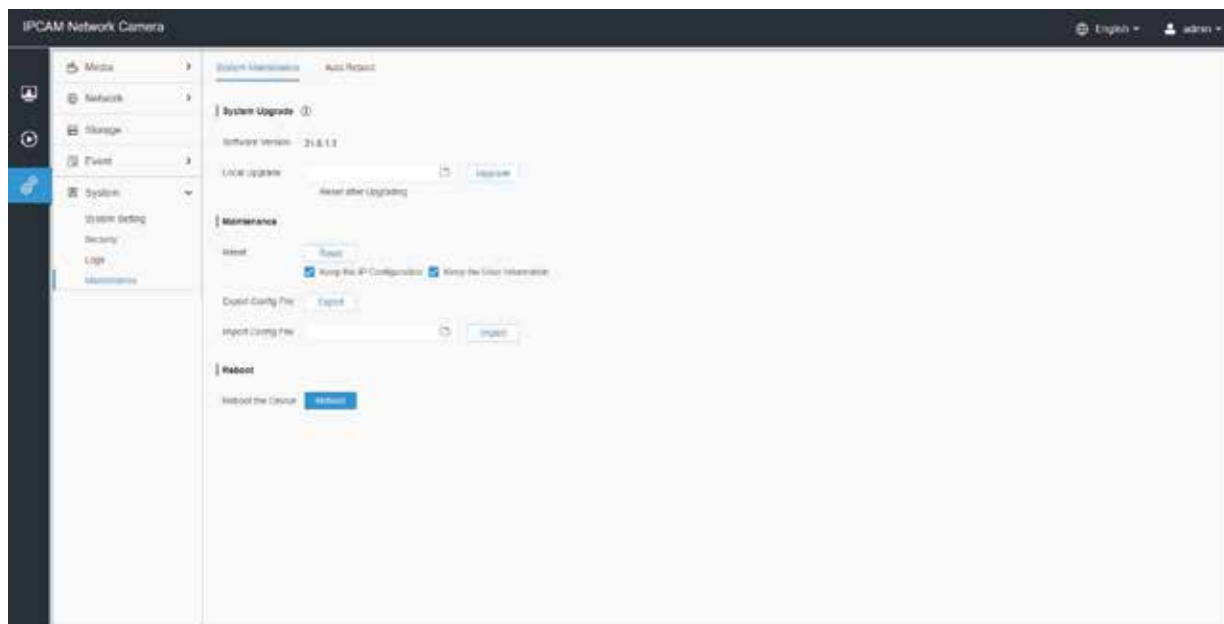


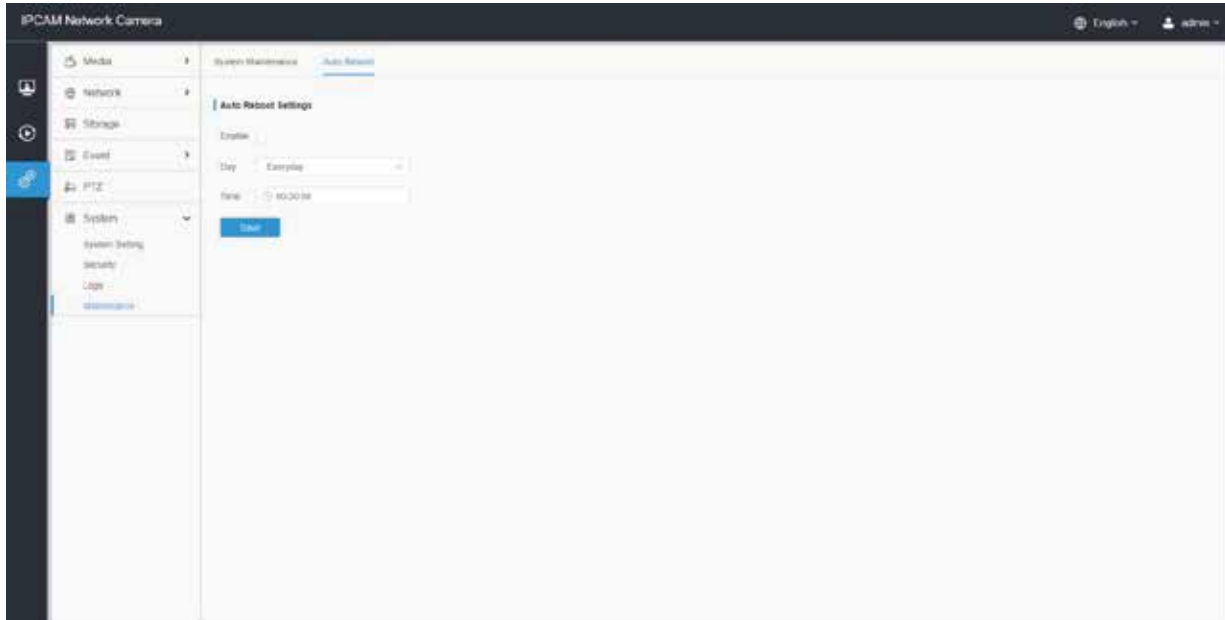


表 104. ボタンの説明

パラメータ	機能紹介
システムのアップグレード	<p>ソフトウェアのバージョン：カメラのソフトウェアのバージョンです。</p> <p>ローカルアップグレード：「参照」ボタンをクリックして、アップグレードファイルを選択し、「アップグレード」ボタンをクリックして、アップグレードします。システムが正常に再起動した後、アップデートは完了です。</p> <p>アップグレード後にリセット：チェックを入れると、アップグレード後にカメラをリセットすることができます。</p> <p>オンラインアップグレード：ボタンをクリックし、弊社Webサイトで現在の最新ファームウェアのバージョンを確認し、「OK」をクリックすると、このバージョンにアップグレードされます。</p> <p>すでに最新版である場合は、「現在のバージョンは最新版です」と表示されます。</p> <div data-bbox="475 1675 1072 1975"><p style="text-align: center;">Tips ×</p><p style="text-align: center;"> The current version is the latest version.</p><p style="text-align: center;"><input type="button" value="OK"/></p></div> <p>注意：アップデート中は、機器の電源を切らないでください。バージョンアップを完了するために、デバイスが再起動されます。</p>

<p>メンテナンス</p>	<p>リセット：ボタンをクリックすると、カメラが工場出荷時の設定にリセットされます。</p> <p>IP設定を保持：このオプションをオンにすると、カメラをリセットするときにIP設定が保持されます。</p> <p>ユーザー情報を保持：このオプションをチェックすると、カメラをリセットするときにユーザー情報が保持されます。</p> <p>診断情報をエクスポート：このボタンをクリックすると、デバイスの動作状態のログとシステム情報がエクスポートされます。</p> <p>注意：ファイル形式は“.txt”です。</p> <p>設定ファイルをエクスポート：このボタンをクリックすると、下図のようなウィンドウが表示されます。</p>  <p>再度パスワードを入力・確認し、保存ボタンをクリックすると、設定ファイルがエクスポートされます。</p> <p>設定ファイルをインポート：このボタンをクリックすると、ウィンドウが表示され、「OK」をクリックすると設定が更新されます。</p> <p>「設定ファイルのパスワードを入力してください」というウィンドウが表示されますので、パスワードを入力して保存ボタンをクリックすると、設定ファイルがインポートされます。</p>  <p>注意：</p> <p>同じ設定ファイルをエクスポート、インポートする。パスワードは同じにする必要があります。</p>
<p>再起動</p>	<p>「再起動」ボタンをクリックすると、すぐに端末が再起動します。</p>

8.8.4.2 自動再起動



自動再起動機能を有効にするには、日付と時刻を設定します。カメラは、長時間実行した後、カメラがオーバーロードした場合に、カスタマイズされた時間に従って自動的に再起動します。